

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV001
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆の計画を立てる。

Specify research topic and methodologies, learn how to write academic articles and obtain some basic knowledge and skills to plan master's theses.

授業の内容 / Course Contents

関心を有するテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと高めていく。また、研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆計画の立案に関する具体的な指導をしていく。

Overviewing existing research on one's topic of interest, students examine appropriate methodologies and identify some problems. Based on a presentation on one's research outcome, some guidance for planning master's theses will be provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入、授業の概要

- 2回：論文執筆計画指導（1）
 3回：論文執筆計画指導（2）
 4回：論文執筆計画指導（3）
 5回：論文執筆計画指導（4）
 6回：論文執筆計画指導（5）
 7回：論文執筆計画指導（6）
 8回：論文執筆計画指導（7）
 9回：論文執筆計画指導（8）
 10回：論文執筆計画指導（9）
 11回：論文執筆計画指導（10）
 12回：論文執筆計画指導（11）
 13回：論文執筆計画指導（12）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

指導の中で適宜指示します。

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション研究科
科目コード等：	VV002
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC6513
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につける。

In preparation for writing a master's thesis, along with clarifying their research theme and methodology, students will acquire basic knowledge and skills needed for writing and structuring an academic paper. They will also learn the methods to read and analyze research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

文化接触、混淆の具体的現象を研究対象に、理論的枠組、分析、考察する方法、研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究および研究方法の動向を理解したうえで、研究テーマ、方法を具体化する。受講者は研究テーマに関連する先行研究のレビュー、研究対象についての調査成果を発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

The aim of the course is to precisely determine a research topic and method. To achieve this goal, we read texts on theoretical foundations, research methods, and scientific discussions relating to cultural contacts and cultural hybridity. Students will review relevant research and present their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマの設定1
- 3回：研究テーマの設定2
- 4回：先行研究について1
- 5回：先行研究について2
- 6回：先行研究について3
- 7回：研究方法1
- 8回：研究方法2
- 9回：研究方法3
- 10回：論文の構成1
- 11回：論文の構成2
- 12回：論文の構成3
- 13回：学術的記述の方法について
- 14回：振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度 (討論, 質疑応答など) :50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で, 担当教員が適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自ら文献調査などを通して考察を深めたうえで, 批判的に議論をする力

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV003
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につける。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

論文の初稿となり得る文章を用意し、それを叩き台としつつ、議論を行う。

Students will be required to produce a document worthy of the first draft of a thesis. This text will serve as the starting point for discussions on their theses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：スケジュールの吟味

2 回：研究の対象の吟味

- 3回：研究の方法の吟味
- 4回：研究の目的の吟味
- 5回：文献の吟味
- 6回：資料の吟味
- 7回：先行研究批判
- 8回：章立ての吟味
- 9回：独自性の吟味
- 10回：論理性の吟味
- 11回：実証性の吟味
- 12回：有効性の吟味
- 13回：テーゼの吟味
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指導の中で適宜指示する。加えて、図書館所蔵の音楽雑誌・音楽事典類、AVコーナーの資料等を活用された。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と参加:50% 課題と成果物:50%

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

指導の中で指示する。

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

池田 伸子 (IKEDA NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV004
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn how to search for data, specific methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and perform academic writing.

授業の内容 / Course Contents

日本語教育関連科目ならびにその研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえながら、関心を有するテーマについて内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと集約させていく。さらに、受講者に研究テーマに即した論文に基づく研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。参加者各自が、自らの研究テーマに関連する文献を積極的に探し、それをどのように論文に位置づけていくのかを考えていくとともに、研究の基礎には、先行研究や適切な理論やモデルが必要であることを理解していくための活動を行う。

Based on the expert knowledge gained from taking courses about Japanese language education and the fields of

research related to it, students will gain a full understanding of the present state, issues and methodologies of previous research conducted inside and outside Japan on themes of their interest, and work toward narrowing down their research themes. In addition, the instructor will give detailed instruction on thesis writing as students present their research based on academic papers written on their research themes. Each student will proactively search for literature relating to their chosen research theme, consider how to use that literature in the theses they will write, and engage in activities to understand that previous research and appropriate methodologies and models are foundational components of research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：研究テーマの設定 1
- 3 回：研究テーマの設定 2
- 4 回：先行研究について 1
- 5 回：先行研究について 2
- 6 回：先行研究について 3
- 7 回：研究方法 1
- 8 回：研究方法 2
- 9 回：研究方法 3
- 10 回：論文の構成 1
- 11 回：論文の構成 2
- 12 回：論文の構成 3
- 13 回：学術的記述の方法について
- 14 回：振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

1) 授業は各受講者が主体となるディスカッションを通して行われるため、受講者は各自が自分のテーマについて自発的に調べ、発表することが求められる。

- 2) 各参加者のプレゼンテーションについては、次の回の授業でフィードバックを行う。
- 3) 連絡事項、資料の配付などは Canvas LMS を通して実施する。

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

石井 正子 (ISHII MASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV005
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

国際協力に関する修士論文を執筆するための専門知識、アカデミックスキルを身につける。

The course offers academic skills needed for writing M.A. thesis.

授業の内容 / Course Contents

国際協力に関する修士論文のテーマに関連する先行研究を講読する。

The course introduces approaches and methods of writing M.A. thesis with introduction of related literatures.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：基礎文献講読
- 3 回：基礎文献講読
- 4 回：基礎文献講読
- 5 回：基礎文献講読
- 6 回：基礎文献講読

- 7回：基礎文献講読
 8回：基礎文献講読
 9回：基礎文献講読
 10回：基礎文献講読
 11回：基礎文献講読
 12回：基礎文献講読
 13回：基礎文献講読
 14回：振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 指定された文献を読む。
 指定された課題を行う。
 自分の研究テーマに関連する先行研究を読む。
 ディスカッションに積極的に参加する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合：100% レポート:40% 出席、課題発表:60%

テキスト / Textbooks

授業時において適宜指示する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業時において適宜指示する。

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV006
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

This course aims to clarify research themes and research methods and help students acquire the basic knowledge and skills necessary for writing a master's thesis, such as thesis writing methods, and practice thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

談話分析関連科目ならびにその研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえながら、関心を有するテーマについて先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと集約させていく。さらに、受講者に研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

In consideration of the specialized knowledge gained from courses and subjects related to discourse analysis or the research area, this seminar will make students understand the current issues and research methods utilized by previous studies that dealt with the themes of their interest. Further, the module will help students to develop their selected themes. Students will be advised on the methods of writing academic papers and will be invited to

deliver presentations on their research themes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：修士論文の制度上の位置づけ
- 3回：修士論文の学術上の位置づけ
- 4回：修士執筆準備：テーマの決定
- 5回：修士執筆準備：論文のタイトルとサブ・タイトルの決定
- 6回：修士論文の執筆準備：「もくじ」(概要)の作成
- 7回：修士論文の執筆準備：「はじめに」(概要)の作成
- 8回：修士論文の執筆準備：文献表の作成
- 9回：修士論文の執筆準備：付録の作成
- 10回：修士論文の執筆：個別指導
- 11回：修士論文の執筆：添削
- 12回：修士論文の執筆：添削内容の反映
- 13回：修士論文の執筆：推敲
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワー等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度(討論・質疑応答など)：50% 報告およびレポートなどの提出物・各種テスト：50%

テキスト/ Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

その他/ Others

*上記の「授業計画」は、履修者数や指導の進捗状況にあわせて調整する可能性がある。

*学生の報告あるいは提出物について、口頭あるいは筆記によってコメントする。

*やむを得ず休講となった場合、内容を繰り下げて補講日に補講をおこなうか、それに代わる課題を出す。

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

河合 優子 (KAWAI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV008
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

研究を行う方法と修士論文を執筆するプロセス、そして論文のルールや形式を学ぶことを目標とする。
Students will learn a process and basic rules of conducting a research project and writing a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、まず研究とは何かについて考え、研究課題の設定、適切な理論・概念的枠組みの設定、先行研究文献調査の方法、文献の読み方、研究方法の設定、データ収集・分析の方法、研究発表の仕方など修士論文執筆の具体的なプロセスと方法およびルールや形式について学び、それを各自の研究で活用できるようにしていく。

In this course, students will learn what it means to do a research and an overview of the master's thesis writing process. The following issues will be addressed: making research questions, doing a literature review, choosing an appropriate theoretical framework and research method, collecting and analyzing data, writing up a thesis, and presenting a research paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：研究とは

- 2回：論文とは
- 3回：研究課題の設定
- 4回：理論・概念的枠組みの設定
- 5回：先行研究文献調査
- 6回：文献収集
- 7回：文献の読み方
- 8回：引用スタイルと文献リスト
- 9回：研究方法の設定
- 10回：データ収集
- 11回：分析
- 12回：論文を書くこと
- 13回：研究発表とは
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献を必ず読んで授業に参加すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業参加貢献度:50% 報告・提出物:50%

テキスト / Textbooks

初回の授業で指示する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

提出物にはフィードバックを行う。

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV009
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究作成に向けて、研究と論述の基本的な手法を習得することを目的とする。This course aims to help students to clarify their research themes and methodologies, learn methods of writing academic papers, acquire other basic expertise and skills required to write master's theses, and practice academic writing.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション関連科目、その他、各自の研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識の習得・蓄積を前提としつつ、自らが特に関心を抱く具体的な研究テーマを設定し、それについての先行研究、課題、理論、研究方法などを十分に把握することなどを通して、研究テーマを継続的に再検討、練磨する。随時、自らの研究テーマについての報告・発表を行い、論文執筆に向けて具体的な知識を習得していく。

In this course, students will acquire further knowledge and enhance their understanding of the current state of their research on their chosen topics. They will closely examine their research themes and methodologies and justify their relevance to their research interests. Additionally, students will be required to deliver a presentation on their selected research topics and develop the skills of writing an academic paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講義の概要
- 2回：学術論文の構成・リサーチについて (1)
- 3回：学術論文の構成・リサーチについて (2)
- 4回：学術論文の構成・リサーチについて (3)
- 5回：研究テーマについて (1)
- 6回：研究テーマについて (2)
- 7回：研究テーマについて (3)
- 8回：調査法について (1)
- 9回：調査法について (2)
- 10回：調査法について (3)
- 11回：理論的枠組・分析方法について (1)
- 12回：理論的枠組・分析方法について (2)
- 13回：理論的枠組・分析方法について (3)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:50% 報告・提出物など:50%

テキスト / Textbooks

教室にて配付

参考文献 / Readings

教室にて指示

その他 / Others

なし

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV010
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

美術、アートを中心とする視覚的な表現（物）および視覚文化に関する研究動向を理解し、種々の資料を批判的に読み、研究方法を自らの研究に応用することができる。

In this seminar, students will learn how to read critically literature on art history and visual culture studies. They will learn different methodologies in the field and will be able to apply them in their study.

授業の内容 / Course Contents

受講生の研究トピックをを踏まえ、一次資料や二次資料にかかわる研究書等を使用し、研究動向、研究方法、資料の取り扱いなどについて実践的に学び、演習時の討論や研究発表を通じて応用していく。

We will read different types of primary and secondary literature on art history and visual culture to grasp states of research, methods and approaches, and rules on how to use primary documents. Students will actively apply the knowledge they acquired to their argument during each seminar and their presentation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

2 回：講読ほか：研究方法について①

- 3回：講読ほか：研究方法について②
 4回：講読ほか：研究動向①
 5回：講読ほか：研究動向②
 6回：発表：履修生の関心あるトピックにおける研究方法・動向
 7回：講読ほか：研究の題材①
 8回：講読ほか：研究の題材②
 9回：講読ほか：一次資料と二次資料①
 10回：講読ほか：一次資料と二次資料②
 11回：発表：履修生の研究題材・一次資料と二次資料
 12回：講読ほか：新しい方法の模索①
 13回：講読ほか：新しい方法の模索②
 14回：期末報告（最終レポート含む）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自判断して、必要な準備、復習など遂行すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間報告:30% 各回での参加度:40% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

随時参考文献等は紹介する。

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV011

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面（一部オンライン）

全授業回のうち2回はオンラインで実施する（5・7回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6513

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像文化研究における主なトピック、理論的枠組みと分析の方法、最近の研究動向を考察し、自らの研究に結びつけることができる。

Students should be able to consider major topics in research of film and screen culture, theoretical frameworks, methods of analysis, and recent research trends, and link these areas to their own research.

授業の内容 / Course Contents

多文化社会の批評としての映像文化を理解し、戦争や植民地支配の文化的記憶、移住とグローバリゼーション、ナショナリズムとエスニシティなどの社会的テーマを扱っている作品を代表的先行研究に基づいてジェンダースタディの観点から概観する。

We will work to understand film and screen culture as a review of multicultural society, and based on key examples of existing research, provide an overview from a gender studies perspective, of works that deal with social themes, such as the cultural memory of war and colonial occupation, immigration and globalization,

nationalism and ethnicity, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：映像文化論、グローバルとローカル
- 2回：映像文化研究におけるトピック1：ジェンダーとセクシュアリティ
- 3回：映像文化研究における理論的枠組み1：ジェンダーとセクシュアリティ
- 4回：映像文化研究における研究方法論1：ジェンダーとセクシュアリティ
- 5回：映像文化研究におけるトピック2：ナショナリズムと文化的記憶、移動の政治学
- 6回：映像文化研究における理論的枠組み2：ナショナリズムと文化的記憶、移動の政治学
- 7回：映像文化研究における研究方法論2：ナショナリズムと文化的記憶、移動の政治学
- 8回：映像文化研究におけるトピック3：エスニシティと多文化主義、トランスナショナリティ
- 9回：映像文化研究における理論的枠組み3：エスニシティと多文化主義、トランスナショナリティ
- 10回：映像文化研究における研究方法論3：エスニシティと多文化主義、トランスナショナリティ
- 11回：学生による研究発表1
- 12回：学生による研究発表2
- 13回：学生による研究発表3
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱う個々のテーマと自分の研究テーマを関連付け、自ら関係する文献を探し、報告書を作成すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への参加度（報告書、討論、質疑応答など）：50% 学期内に3回のミニレポート提出：30% 最終テスト割合：20%

テキスト / Textbooks

イ・ハンジン 『コリアン・シネマ：北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018
4622086646 ○

参考文献 / Readings

受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV012
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） Face-to-face
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course gives students the necessary knowledge and tools in order to complete a graduate thesis. Students will develop a research topic, learn research methods, acquire the writing skills required for a thesis, become critical readers of academic literature, and put all such skills into practice.

授業の内容 / Course Contents

The course will cover the broad field of language education with specific reference to the teaching of language, the learning of language, and the role of motivation in teaching and learning. Students will find their own areas of interests to explore, while gaining knowledge and experience in research methods. Students will be encouraged to attend lectures outside of class as well as present their understanding of material in class. By the end of the course, students will submit a thesis proposal.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Thesis writing: Setting goals
- 2 回：Academic literature: How to find it
- 3 回：Academic literature: How to read it

- 4回：Developing a research question 1
 5回：Developing a research question 2
 6回：Developing a research topic 1
 7回：Developing a research topic 2
 8回：Developing a research topic 3
 9回：Research methods 1
 10回：Research methods 2
 11回：Research proposal 1
 12回：Research proposal 2
 13回：Research proposal 3
 14回：Research proposal 4

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Study required outside of class will be determined in consultation with the instructor throughout the semester.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and participation:50% Homework, reports, tests:50%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

Readings will be given in class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas and/or Google drive.

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV013
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn how to search for data, specific methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and perform academic writing.

授業の内容 / Course Contents

日本語教育関連科目および関連研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえながら、研究課題として関心のあるテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究課題の絞り込みを行う。さらに、研究課題に即した論文に基づく研究発表を行うとともに、論文執筆に関する具体的な指導を受ける。参加者各自が、自らの研究課題に関連する文献を積極的に探し、修士論文での位置づけを考える。

Building on specialist knowledge students can gain by taking subjects related to Japanese Language Education and its area of research, we will develop understanding of the current state of existing domestic and international

research on a topic of interest that could become a research project. We will look specifically at issues covered and methodology used and apply knowledge acquired to refining each student's research project. Also, students will give a research presentation based on a thesis in line with their chosen research topic and receive advice tailored to writing an academic paper. Each student should proactively look for literature related to their own research project and consider its place in their master's thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：研究テーマの設定 1
- 3 回：研究テーマの設定 2
- 4 回：先行研究について 1
- 5 回：先行研究について 2
- 6 回：先行研究について 3
- 7 回：研究方法 1
- 8 回：研究方法 2
- 9 回：研究方法 3
- 10 回：論文の構成 1
- 11 回：論文の構成 2
- 12 回：論文の構成 3
- 13 回：学術的記述の方法について
- 14 回：振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への参加度 (討論, 質疑応答など) :50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で, 担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

スケジュールや内容は調整する場合がある。

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV017
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、異文化コミュニケーション研究の理論的・方法的枠組みを概観しつつ、研究テーマを明確化し、研究を遂行し、論文を執筆するうえで必要な知識を身につけることを目的とする。

The aim of this seminar is to learn basic knowledge and skills to conduct research and write a master's thesis, as the seminar students go over theoretical and methodological frameworks on intercultural communication studies and clarify their research themes and methods.

授業の内容 / Course Contents

異文化コミュニケーション関連科目ならびにその研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえ、個々の研究関心に応じて国内外の先行研究の動向を把握し、各自の研究テーマと方法を明確化していく。さらに、受講生に個々の研究テーマと関連する研究や自身の研究の進捗について発表をしてもらいながら、研究指導を行う。

As students review previous studies related to their research themes on the basis of their expertise on intercultural communication studies and other related fields, they will clarify their themes and research methods. In class, the students will give presentations not only on previous studies related to their topics but also their

research progress. They will be provided with specific guidance for analyzing data and writing an academic paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：授業の目標、内容、進め方等
- 2回：学術研究の進め方：理論的・方法論的枠組みについて
- 3回：テキストの輪読1、研究テーマの設定について
- 4回：テキストの輪読2、先行研究の収集・検討について
- 5回：テキストの輪読3、先行研究の整理の仕方について
- 6回：テキストの輪読4、文献の引用の仕方、参考文献の書き方について
- 7回：テキストの輪読5、先行研究の発表（1）
- 8回：テキストの輪読6、先行研究の発表（2）
- 9回：テキストの輪読7、研究方法の検討（1）
- 10回：テキストの輪読8、研究方法の検討（2）
- 11回：テキストの輪読9、研究方法の検討（3）
- 12回：テキストの輪読10
- 13回：研究計画書の発表
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業外では、指定テキストを読み、授業でディスカッションできるように備えてください。また、発表を担当する場合は、発表資料を作成し、事前に教員にメール添付で送付してください。自身の研究テーマに関連する論文、書籍を読んで、その内容を要約し、批判的に検討してください。また各自の研究テーマの文献や自身で行った調査の内容について発表する場合も、資料を作成し、事前に教員に送付してください。レポートは、修士論文の引用方法や参考文献の記載方法に沿って、すべて「The Rikkyo Style」に従ってください。そのため、

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加・貢献度:30% 発表:30% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

履修者の研究関心・研究計画を踏まえ、必要に応じて初回の授業で相談し、指定します。加えて、プリント資料も配布します。

参考文献 / Readings

桜井厚 『インタビューの社会学 ライフストーリーの聞き方』 せりか書房 2002 9784796702379

桜井厚 小林多寿子 『ライフストーリー・インタビュー—質的研究入門』 せりか書房 2005

9784796702683

木下康仁 『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践—質的研究への誘い』 弘文堂 2003

9784335550898

木下康仁 『ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて』 弘文堂 2007 9784335551109

清宮徹 『組織のディスコースとコミュニケーション -組織と経営の新しいアジェンダを求めて』 同文館出版 2019 9784495390242

桜井厚 石川良子 『ライフストーリー研究に何ができるか』 新曜社 2015 9784788513983

桜井厚 『ライフストーリーとジェンダー』 せりか書房 2003 9784796702508

その他、適宜指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

インタビューを含めたディスコース（テキスト+コンテキスト）を分析したり、フィールドワークを行ったりする「質的研究」というジャンルの研究方法を用いて調査を進めるため、高度な統計的処理を伴うアンケート調査を行う研究を志向する院生には適していないことに留意してください。Please note that since the research will be conducted using research methods of the "qualitative research" genre, which inv

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

インタビュー調査においては、記録のための IC レコーダー等を必要とする場合があります。

その他/ Others

ゼミホームページ：<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/icss/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV019
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を進める。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and make progress on writing theses.

授業の内容 / Course Contents

文化人類学関連科目の履修によって得られる専門知識を踏まえて、関心を有するテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと高めていく。また、研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

Based on the expert knowledge gained from taking courses about cultural anthropology, students will gain a full understanding of the present state, issues and methodologies of previous research conducted inside and outside Japan on themes of their interest, and work toward enhancing their research themes. In addition, the instructor will give detailed instruction on thesis writing as students present their research in line with their research themes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入、授業の概要
- 2回：論文執筆指導（1）
- 3回：論文執筆指導（2）
- 4回：論文執筆指導（3）
- 5回：論文執筆指導（4）
- 6回：論文執筆指導（5）
- 7回：論文執筆指導（6）
- 8回：論文執筆指導（7）
- 9回：論文執筆指導（8）
- 10回：論文執筆指導（9）
- 11回：論文執筆指導（10）
- 12回：論文執筆指導（11）
- 13回：論文執筆指導（12）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加態度：60%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

指導の中で適宜指示します。

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV021
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生各自が修士論文に向けて研究テーマを明確にし、必要な知識・情報を収集したり、調査研究や論考をどのように進めていくか考えることができるように、基礎的な知識と能力を身につけ、論文執筆に取り組む。

In preparation for their master's thesis, each student will clearly set out their research theme, gather necessary information and material, and acquire the basic knowledge and skills required to cultivate the ability to consider how best to proceed with investigative research and academic discussion. Students will then commence writing.

授業の内容 / Course Contents

言語学、特に言語の構造面や意味に関連した分野の基礎知識を踏まえて、取り組むべき課題と必要な研究方法の理解を深めながら、各自の研究テーマに取り込んでいく。また、学生各自の研究テーマに即した報告・発表や学生間の議論も行ってもらいながら、それぞれの論文執筆に必要な具体的な指導をしていく。

Building on basic knowledge of the field of linguistics (specifically language structure and meaning), students will work on their own research topic while developing deeper understanding of issues to address and necessary research methodology. Also, each student will deliver reports and presentations on their research theme, student debates will be carried out, and necessary specific instruction geared toward each individual's thesis writing will

be provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：関心領域の確認と具体的テーマの検討・1
- 3回：関心領域の確認と具体的テーマの検討・2
- 4回：先行研究の探索・1
- 5回：先行研究の探索・2
- 6回：先行研究の探索・3
- 7回：資料の収集と研究方法について・1
- 8回：資料の収集と研究方法について・2
- 9回：中間発表に基づく指導
- 10回：理論的枠組みについて
- 11回：他の関連分野について
- 12回：論文の構成について・1
- 13回：論文の構成について・2
- 14回：最終報告とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への参加度（討論，質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物：50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に指示する。

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

武田 珂代子 (TAKEDA KAYOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV024
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

翻訳通訳研究の基本的な理論や研究方法について幅広い知識を得ることによって修士論文・課題研究に取り組む準備を行う。

Students will be prepared to work on their MA thesis projects by acquiring a broad knowledge of basic theories and research methodologies in Translation and Interpreting Studies.

授業の内容 / Course Contents

翻訳通訳研究における基本的な理論と研究方法論について学び、履修生の論文・課題研究に関連するトピックの主な先行研究のレビューを行う。翻訳プロジェクトに取り組む履修生がいる場合は、素材の選択、翻訳ストラテジー、理論的振り返りの方法について初期的な議論を行う。また、翻訳・通訳の実践と理論との関係について議論する。

Students will learn basic theories and research methods in Translation and Interpreting Studies and review major prior works on topics relevant to student thesis projects. For translation theses, students will engage in preliminary discussions on the selection of materials, translation strategies, and methods of theoretical reflections. Also discussed is the relations between the theory and practice of translation and interpreting.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション（レポート・論文の構成、スタイルガイド）
- 2回：翻訳通訳関連の修士論文・課題研究の事例
- 3回：翻訳通訳理論の概要 1
- 4回：翻訳通訳理論の概要 2
- 5回：翻訳通訳研究の方法論 1
- 6回：翻訳通訳研究の方法論 2
- 7回：翻訳実践と研究 1
- 8回：翻訳実践と研究 2
- 9回：通訳実践と研究 1
- 10回：通訳実践と研究 2
- 11回：文献の検索方法
- 12回：学生による研究・課題計画発表 1
- 13回：学生による研究・課題計画発表 2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 論文・課題研究の計画書または先行文献レビュー:40% ディスカッション参加度:30%
授業内発表:30%

テキスト / Textbooks

武田珂代子編著 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135 ○

その他、適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

Booth, W. C. et al. The Craft of Research The University of Chicago Press 2008 0226065669

Williams, J. and Chesterman, A The Map: A beginner's guide to doing research in translation studies St.

Jerome 2002 1900650541

ピム・A 『翻訳理論の探求』 みすず書房 2010 4622075180

Saldanha, G. & O'Brien, S. Research Methodologies in Translation Studies St. Jerome 2013

9781909485006

その他、受講者の研究テーマに応じて助言する。

その他 / Others

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Kayoko Takeda's publications https://researchmap.jp/kayoko_takeda

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV025
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

受講者は研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究を理解したうえで、研究テーマを具体化する。研究テーマに関連する先行研究のレビューなどを発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

Students will read and review relevant texts to prepare for their thesis and will present their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（1）
 3回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（2）
 4回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（3）
 5回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（4）
 6回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（5）
 7回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（6）
 8回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（7）
 9回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（8）
 10回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（9）
 11回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（10）
 12回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（11）
 13回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（12）
 14回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

論理学を学んだことがない場合、例えば野矢茂樹著（2006）『新装 論理トレーニング』（産業図書）や同著者（2020）『まったくゼロからの論理学』（岩波書店）などを用いた独習を勧める（質問も歓迎する）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で担当教員が適宜指示する。また、上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内で情報機器は不要。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

中田 達也 (NAKATA TATSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV026
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

講義・演習および個別指導を通して、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、データを収集、研究成果を論文として発表する能力を養う。また、受講生各自の研究の進捗状況に関する発表や討議も行う。

Through lectures and tutorials, students will learn to (a) critically evaluate previous literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish findings in the form of academic papers. Students will also be required to present and discuss their ongoing research projects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：研究テーマの設定
- 3回：先行研究の探し方
- 4回：文献管理
- 5回：先行研究のレビュー
- 6回：研究成果の公表方法
- 7回：研究課題の設定
- 8回：プロポーザルの作成 1
- 9回：プロポーザルの作成 2
- 10回：プロポーザルの作成 3
- 11回：プロポーザルの作成 4
- 12回：プロポーザルの作成 5
- 13回：プロポーザルの作成 6
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド* (パワポ* 等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度 (討論, 質疑応答など) :50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

研究指導演習 A

Master's Thesis Seminar A

日下部 尚徳 (KUSAKABE NAONORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV027
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究作成に向けて、研究と論述の基本的な手法を習得することを目的とする。This course aims to help students to clarify their research themes and methodologies, learn methods of writing academic papers, acquire other basic expertise and skills required to write master's theses, and practice academic writing.

授業の内容 / Course Contents

国際協力、途上国の開発に関する具体的現象を研究対象に、理論的枠組、分析、考察する方法、研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究および研究方法の動向を理解したうえで、研究テーマ、方法を具体化する。受講者は研究テーマに関連する先行研究のレビュー、研究対象についての調査成果を発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

This course aims to help students precisely determine a research topic and method for their thesis. To achieve this goal, students will have to engage with texts on theoretical foundations, research methods, and scientific discussions relating to international cooperation and development. Students will review relevant research and will present their own ideas for research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマの設定1
- 3回：研究テーマの設定2
- 4回：先行研究について1
- 5回：先行研究について2
- 6回：先行研究について3
- 7回：研究方法1
- 8回：研究方法2
- 9回：研究方法3
- 10回：論文の構成1
- 11回：論文の構成2
- 12回：論文の構成3
- 13回：学術的記述の方法について
- 14回：振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV031
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を始める。

Specify research topic and methodologies, learn how to write academic articles and obtain some basic knowledge and skills to complete master's theses.

授業の内容 / Course Contents

関心を有するテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと高めていく。また、研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆開始に関する具体的な指導をしていく。

Overviewing existing research on one's topic of interest, students examine appropriate methodologies and identify some problems. Based on a presentation on one's research outcome, some guidance for completing master's theses will be provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入、授業の概要

- 2回：論文草稿執筆指導（1）
 3回：論文草稿執筆指導（2）
 4回：論文草稿執筆指導（3）
 5回：論文草稿執筆指導（4）
 6回：論文草稿執筆指導（5）
 7回：論文草稿執筆指導（6）
 8回：論文草稿執筆指導（7）
 9回：論文草稿執筆指導（8）
 10回：論文草稿執筆指導（9）
 11回：論文草稿執筆指導（10）
 12回：論文草稿執筆指導（11）
 13回：論文草稿執筆指導（12）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

指導の中で適宜指示します。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV032
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につける。

In preparation for writing a master's thesis, along with clarifying their research theme and methodology, students will acquire basic knowledge and skills needed for writing and structuring an academic paper. They will also learn the methods to read and analyze research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

文化接触、混淆の具体的現象を研究対象に、理論的枠組、分析、考察する方法、研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究および研究方法の動向を理解したうえで、研究テーマ、方法を具体化する。受講者は研究テーマに関連する先行研究のレビュー、研究対象についての調査成果を発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

The aim of the course is to precisely determine a research topic and method. To achieve this goal, we read texts on theoretical foundations, research methods, and scientific discussions relating to cultural contacts and cultural hybridity. Students will review relevant research and present their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマの設定1
- 3回：研究テーマの設定2
- 4回：先行研究について1
- 5回：先行研究について2
- 6回：先行研究について3
- 7回：研究方法1
- 8回：研究方法2
- 9回：研究方法3
- 10回：論文の構成1
- 11回：論文の構成2
- 12回：論文の構成3
- 13回：学術的記述の方法について
- 14回：振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度 (討論, 質疑応答など) :50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で, 担当教員が適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自ら文献調査などを通して考察を深めたうえで, 批判的に議論をする力。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV033
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につける。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

論文の初稿となり得る文章を用意し、それを叩き台としつつ、議論を行う。

Students will be required to produce a document worthy of the first draft of a thesis. This text will serve as the starting point for discussions on their theses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：スケジュールの吟味

2 回：研究の対象の吟味

- 3回：研究の方法の吟味
- 4回：研究の目的の吟味
- 5回：文献の吟味
- 6回：資料の吟味
- 7回：先行研究批判
- 8回：章立ての吟味
- 9回：独自性の吟味
- 10回：論理性の吟味
- 11回：実証性の吟味
- 12回：有効性の吟味
- 13回：テーゼの吟味
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指導の中で適宜指示する。加えて、図書館所蔵の音楽雑誌・音楽事典類、AVコーナーの資料等を活用された。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と参加:50% 課題と成果物:50%

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

指導の中で指示する。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

池田 伸子 (IKEDA NOBUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション研究科
科目コード等：	VV034
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC6513
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の具体的方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、自分の論文の構成を固めることを目的とする。各自が自分の論文の基礎となる理論やモデルを適切に論文の中に位置づけることを目的とする。

The goal of this seminar is for students to solidify the structures of their theses by striving to clarify research themes and methodologies, and learning specific methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses. Each student will learn how to properly position in their thesis the theories and models that form the basis of their thesis.

授業の内容 / Course Contents

各自が集めた自分の研究テーマに関連する先行研究をどのように自分の研究に位置づけるのか、また、どの理論やモデルを自分の研究の基礎とするのかを発表していくことで授業を進める。毎回、参加者が自分の研究についてレジュメをもとに報告し、それについて他の参加者がコメントを出すという形で授業を進めるため、各自が自分の研究をしっかりと進め、毎回、進捗状況が報告できるようにしていく必要がある。

Classes revolve around students' presentations of how the previous research they have gathered on their research

themes relates to their research, and which theories and models form the basis of their research. In each class, students will create summaries to report on their research, and their classmates will offer comments on the reports. Thus, students are required to work diligently on their research and make enough progress to be able to give reports at each class meeting.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマの設定1
- 3回：研究テーマの設定2
- 4回：先行研究について1
- 5回：先行研究について2
- 6回：先行研究について3
- 7回：研究方法1
- 8回：研究方法2
- 9回：研究方法3
- 10回：論文の構成1
- 11回：論文の構成2
- 12回：論文の構成3
- 13回：学術的記述の方法について
- 14回：振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論，質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物，各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で，担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

- 1) 授業は各受講者が主体となるディスカッションを通して行われるため，受講者は各自が自分のテーマについて自発的に調べ，発表することが求められる。
- 2) 各参加者のプレゼンテーションについては，次の回の授業でフィードバックを行う。
- 3) 連絡事項，資料の配付などは Canvas LMS を通して実施する。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

石井 正子 (ISHII MASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV035
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

国際協力に関する修士論文を執筆するための専門知識、アカデミックスキルを身につける。

The course offers academic skills needed for writing M.A. thesis on the themes of International Cooperation.

授業の内容 / Course Contents

国際協力に関する修士論文のテーマに関連する先行研究を講読する。

The course introduces approaches, methods as well as related literatures of writing M.A. thesis on the themes of International Cooperation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：基礎文献講読
- 3 回：基礎文献講読
- 4 回：基礎文献講読
- 5 回：基礎文献講読
- 6 回：基礎文献講読

- 7回：基礎文献講読
 8回：基礎文献講読
 9回：基礎文献講読
 10回：基礎文献講読
 11回：基礎文献講読
 12回：基礎文献講読
 13回：基礎文献講読
 14回：振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 指定された文献を読む。
 指定された課題を行う。
 ディスカッションに積極的に参加する。
 自分の研究テーマに関連する先行研究を読む。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合：100% レポート:40% 出席、課題発表:60%

テキスト / Textbooks

授業時に適宜示す。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

授業時に適宜紹介する。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV036
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

This course aims to clarify research themes and research methods and help students acquire the basic knowledge and skills necessary for writing a master's thesis, such as thesis writing methods, and practice thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

談話分析関連科目ならびにその研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえながら、関心を有するテーマについて先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと集約させていく。さらに、受講者に研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

In consideration of the specialized knowledge gained from courses and subjects related to discourse analysis or the research area, this seminar will make students understand the current issues and research methods utilized by previous studies that dealt with the themes of their interest. Further, the module will help students to develop their selected themes. Students will be advised on the methods of writing academic papers and will be invited to

deliver presentations on their research themes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：修士論文の制度上の位置づけ
- 3回：修士論文の学術上の位置づけ
- 4回：修士執筆準備：テーマの決定
- 5回：修士執筆準備：論文のタイトルとサブ・タイトルの決定
- 6回：修士論文の執筆準備：「もくじ」(概要)の作成
- 7回：修士論文の執筆準備：「はじめに」(概要)の作成
- 8回：修士論文の執筆準備：文献表の作成
- 9回：修士論文の執筆準備：付録の作成
- 10回：修士論文の執筆：個別指導
- 11回：修士論文の執筆：添削
- 12回：修士論文の執筆：添削内容の反映
- 13回：修士論文の執筆：推敲
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワー等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度(討論・質疑応答など)：50% 報告およびレポートなどの提出物・各種テスト：50%

テキスト/ Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

その他/ Others

*上記の「授業計画」は、履修者数や指導の進捗状況にあわせて調整する可能性がある。

*学生の報告あるいは提出物について、口頭あるいは筆記によってコメントする。

*やむを得ず休講となった場合、内容を繰り下げて補講日に補講をおこなうか、それに代わる課題を出す。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

河合 優子 (KAWAI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV038
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究課題を設定し、研究方法を明確化するとともに、先行研究文献調査を進めることを目標とする。

Students will find a research topic, start a literature review, and choose an appropriate research method for a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

関心を有するテーマについて先行研究の現状、課題および研究方法を把握していく。各自の研究テーマの先行研究文献調査を進めてもらい、それを報告してもらいながら論文執筆のための具体的な指導をしていく。

Students will learn ways to find a research topic and questions as well as an appropriate research method for a master's thesis. Students will review studies about their thesis topic and receive feedback for the progress from the instructor.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：論文指導 (1)

2 回：論文指導 (2)

- 3回：論文指導 (3)
 4回：論文指導 (4)
 5回：論文指導 (5)
 6回：論文指導 (6)
 7回：論文指導 (7)
 8回：論文指導 (8)
 9回：論文指導 (9)
 10回：論文指導 (10)
 11回：論文指導 (11)
 12回：論文指導 (12)
 13回：論文指導 (13)
 14回：論文指導 (14)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献がある場合はそれを読んだ上で授業に参加すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業参加貢献度:50% 報告・提出物:50%

テキスト / Textbooks

初回の授業で指示する。

参考文献 / Readings

授業で紹介する。

その他 / Others

提出物にはフィードバックを行う。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV039
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究作成に向けて、研究と論述の基本的な手法を習得することを目的とする。This course aims to help students to clarify their research themes and methodologies, learn methods of writing academic papers, acquire other basic expertise and skills required to write master's theses, and practice academic writing.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション関連科目、その他、各自の研究領域に関連する科目の履修によって得られる専門知識の習得・蓄積を前提としつつ、自らが特に関心を抱く具体的な研究テーマを設定し、それについての先行研究、課題、理論、研究方法などを十分に把握することなどを通して、研究テーマを継続的に再検討、練磨する。随時、自らの研究テーマについての報告・発表を行い、論文執筆に向けて具体的な知識を習得していく。

In this course, students will acquire further knowledge and enhance their understanding of the current state of their research on their chosen topics. They will closely examine their research themes and methodologies and justify their relevance to their research interests. Additionally, students will be required to deliver a presentation on their selected research topics and develop the skills of writing an academic paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義の概要
- 2 回：学術論文の構成・リサーチについて (1)
- 3 回：学術論文の構成・リサーチについて (2)
- 4 回：学術論文の構成・リサーチについて (3)
- 5 回：研究テーマについて (1)
- 6 回：研究テーマについて (2)
- 7 回：研究テーマについて (3)
- 8 回：調査法について (1)
- 9 回：調査法について (2)
- 10 回：調査法について (3)
- 11 回：理論的枠組・分析方法について (1)
- 12 回：理論的枠組・分析方法について (2)
- 13 回：理論的枠組・分析方法について (3)
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:50% 報告・提出物など:50%

テキスト / Textbooks

教室にて配付

参考文献 / Readings

教室にて指示

その他 / Others

なし

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV040
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

美術、アートを中心とする視覚的な表現（物）および視覚文化に関する研究動向を理解し、種々の資料を批判的に読み、研究方法を自らの研究に応用することができる。研究対象たる美術・アート作品、多様な視覚表現について、応用的な分析と考察ができ、自ら新たな研究方法を提示できる。

In this seminar, students will learn how to read critically literature on art history and visual culture studies. They will learn different methodologies in the field and will be able to apply them in their study. They will be able to analyze visual artifacts and ultimately propose a new study approach.

授業の内容 / Course Contents

受講生の研究トピックをを踏まえ、一次資料や二次資料にかかわる研究書等を使用し、研究動向、研究方法、資料の取り扱いなどについて実践的に学び、演習時の討論や研究発表を通じて応用していく。

We will read different types of primary and secondary literature on art history and visual culture to grasp states of research, methods and approaches, and rules on how to use primary documents. Students will actively apply the knowledge they acquired to their argument during each seminar and their presentation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
 2回：作品の分析と検討：視覚表現としての特質
 3回：作品の分析と検討：視覚表現としての特質
 4回：作品の分析と検討：視覚表現としての特質
 5回：作品の分析と検討：視覚表現としての特質
 6回：発表：履修生選択の作品の分析と検討
 7回：作品の分析と検討：方法論とのかかわり
 8回：作品の分析と検討：方法論とのかかわり
 9回：作品の分析と検討：方法論とのかかわり
 10回：作品の分析と検討：方法論とのかかわり
 11回：発表：履修生選択の作品と研究方法
 12回：作品の分析と検討：多視点の統合
 13回：作品の分析と検討：多視点の統合
 14回：期末報告（最終レポート含む）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自判断して、必要な準備、復習など遂行するだけでなく、応用的に広げていくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間報告:30% 各回での参加度:40% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

随時参考文献等は紹介する。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV041

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面（一部オンライン）

全授業回のうち2回はオンラインで実施する（5・7回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6513

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像文化研究における主なトピック、理論的枠組みと分析の方法、最近の研究動向を考察し、自らの研究に結びつけることができる。

Students should be able to consider major topics in research of film and screen culture, theoretical frameworks, methods of analysis, and recent research trends, and link these areas to their own research.

授業の内容 / Course Contents

多文化社会の批評としての映像文化を理解し、戦争や植民地支配の文化的記憶、移住とグローバリゼーション、ナショナリズムとエスニシティなどの社会的テーマを扱っている作品を代表的先行研究に基づいてジェンダースタディの観点から概観する。

We will work to understand film and screen culture as a review of multicultural society, and based on key examples of existing research, provide an overview from a gender studies perspective, of works that deal with social themes, such as the cultural memory of war and colonial occupation, immigration and globalization,

nationalism and ethnicity, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：映像文化論、グローバルとローカル
- 2回：映像文化研究におけるトピック1：ジェンダーとセクシュアリティ
- 3回：映像文化研究における理論的枠組み1：ジェンダーとセクシュアリティ
- 4回：映像文化研究における研究方法論1：ジェンダーとセクシュアリティ
- 5回：映像文化研究におけるトピック2：ナショナリズムと文化的記憶、移動の政治学
- 6回：映像文化研究における理論的枠組み2：ナショナリズムと文化的記憶、移動の政治学
- 7回：映像文化研究における研究方法論2：ナショナリズムと文化的記憶、移動の政治学
- 8回：映像文化研究におけるトピック3：エスニシティと多文化主義、トランスナショナリティ
- 9回：映像文化研究における理論的枠組み3：エスニシティと多文化主義、トランスナショナリティ
- 10回：映像文化研究における研究方法論3：エスニシティと多文化主義、トランスナショナリティ
- 11回：学生による研究発表1
- 12回：学生による研究発表2
- 13回：学生による研究発表3
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱う個々のテーマと自分の研究テーマを関連付け、自ら関係する文献を探し、報告書を作成すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への参加度（報告書、討論、質疑応答など）：50% 学期内に3回のミニレポート提出：30% 最終テスト割合：20%

テキスト / Textbooks

イ・ハンジン 『コリアン・シネマ：北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018
4622086646 ○

参考文献 / Readings

受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV042
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） Face-to-face
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course gives students the necessary knowledge and tools in order to complete a graduate thesis. Students will develop a research topic, learn research methods, acquire the writing skills required for a thesis, become critical readers of academic literature, and put all such skills into practice.

授業の内容 / Course Contents

The course will cover the broad field of language education with specific reference to the teaching of language, the learning of language, and the role of motivation in teaching and learning. Students will develop their own areas of interests to explore, while gaining knowledge and experience in research methods. Students will be encouraged to attend lectures outside of class as well as present their understanding of material in class as they work on writing their thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Thesis writing: Setting goals
- 2 回：Thesis guidance 1
- 3 回：Thesis guidance 2

- 4回：Thesis guidance 3
 5回：Thesis guidance 4
 6回：Thesis guidance 5
 7回：Thesis guidance 6
 8回：Thesis guidance 7
 9回：Thesis guidance 8
 10回：Thesis guidance 9
 11回：Thesis guidance 10
 12回：Thesis guidance 11
 13回：Thesis guidance 12
 14回：Thesis writing: In review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Study required outside of class will be determined in consultation with the instructor throughout the semester.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and participation:50% Homework, reports, APA assignments:50%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

Readings will be given in class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション研究科
科目コード等：	VV043
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC6513
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の具体的方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、自分の論文の構成を固めることを目的とする。各自が自分の論文の基礎となる理論やモデルを適切に論文の中に位置づけることを目的とする。

The goal of this seminar is for students to solidify the structures of their theses by striving to clarify research themes and methodologies, and learning specific methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses. Each student will learn how to properly position in their thesis the theories and models that form the basis of their thesis.

授業の内容 / Course Contents

各自が集めた自分の研究テーマに関連する先行研究をどのように自分の研究に位置づけるのか、また、どの理論やモデルを自分の研究の基礎とするのかを発表していくことで授業を進める。毎回、参加者が自分の研究についてレジュメをもとに報告し、それについて他の参加者がコメントを出すという形で授業を進めるため、各自が自分の研究をしっかりと進め、毎回、進捗状況が報告できるようにしていく必要がある。

Classes revolve around students' presentations of how the previous research they have gathered on their research

themes relates to their research, and which theories and models form the basis of their research. In each class, students will create summaries to report on their research, and their classmates will offer comments on the reports. Thus, students are required to work diligently on their research and make enough progress to be able to give reports at each class meeting.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：研究テーマの設定1
- 3回：研究テーマの設定2
- 4回：先行研究について1
- 5回：先行研究について2
- 6回：先行研究について3
- 7回：研究方法1
- 8回：研究方法2
- 9回：研究方法3
- 10回：論文の構成1
- 11回：論文の構成2
- 12回：論文の構成3
- 13回：学術的記述の方法について
- 14回：振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への参加度 (討論, 質疑応答など) :50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で, 担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

スケジュールや内容は調整する場合がある。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

松下 佳世 (MATSUSHITA KAYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV044
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 必要に応じて、ゲスト講義などの際にオンライン授業に切り替える可能性があります（1 - 3回程度）。
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これまでに学んだことを土台に、2年次以降の修士論文の執筆あるいは課題研究の実施に向け、研究テーマを絞り込み、完成に向けた研究計画を作成する。

Building on the knowledge and experience acquired, students are expected to come up with a possible research topic and create a detailed research plan in order to successfully complete the master's thesis or research project in the second year.

授業の内容 / Course Contents

通訳翻訳分野に関連する修士論文あるいは課題研究に取り組む。共通の課題に基づいたディカッションのほか、各自の研究・課題計画ならびに進捗状況に応じて、個別に指導を受ける。成果を発表し、報告書にまとめる。

Students will continue to work on a master's thesis or research project in the field of Translation and Interpreting Studies (TIS). In addition to discussing common issues, students will receive personalized guidance tailored to their research plan and rate of progress. At the end of the semester, students will present the outcomes and

summarize them in a report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：進捗状況の確認
- 2 回：先行研究の分析 1
- 3 回：先行研究の分析 2
- 4 回：先行研究の分析 3
- 5 回：テーマとリサーチクエスションの設定
- 6 回：集めたデータの分析 1
- 7 回：集めたデータの分析 2
- 8 回：集めたデータの分析 3
- 9 回：分析結果の考察とディスカッション 1
- 10 回：分析結果の考察とディスカッション 2
- 11 回：分析結果の考察とディスカッション 3
- 12 回：学生による研究発表とフィードバック 1
- 13 回：学生による研究発表とフィードバック 2
- 14 回：まとめと研究報告書の提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:		:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読、調査、実験、フィールドスタディ、結果の分析・考察などを自らのペースで進めること。また、進捗状況について、面談時またはメール等で適宜報告すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席とディスカッションへの貢献:30% 授業内発表:30% 研究報告書:40%

テキスト / Textbooks

Claudia V. Angelelli & Brian James Baer Researching Translation and Interpreting Routledge 2016
9780415732543 ○

参考文献 / Readings

受講者の研究テーマに応じて適宜指示する。

その他 / Others

各週ごとの学習内容や課題は、受講者の特性や人数、研究テーマによって適宜変更される。不明点は直接教員まで連絡のこと。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV047
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

最終的な目標である修士論文作成に向け、異文化コミュニケーションに関する諸研究の中から、履修生たちが焦点を当てた研究トピックに焦点を当てて、その研究トピックに関する論文、書籍を読み、その内容を整理し、発表し、議論をしながら批判的に考察する。その際、個別研究で用いられている概念、理論的・方法的枠組み、データ分析の仕方、調査結果の書き方、考察の枠組み、研究の限界の示し方等を理解し、履修生自身が研究を遂行するうえで必要な知識・スキルを身につけ、2年次に調査を実施できるよう、準備を整えることを目標とする。

In preparation for the final goal of writing a master's thesis, students will focus on a research topic from among various studies on intercultural communication, read articles and books on the research topic, organize the contents, present them, and critically examine them through discussions. In doing so, the goal is to understand the concepts used in individual research, theoretical and methodological frameworks, methods of data analysis, methods of writing research results, frameworks for discussion, and methods of presenting the limitations of research, so as to acquire the knowledge and skills necessary for conducting their own research in the second year. The goal of this course is to prepare students to conduct a survey in the second year of the program.

授業の内容 / Course Contents

異文化コミュニケーション関連科目ならびに研究方法に関連する科目の履修によって得られる専門知識を踏まえ、個々の研究関心に応じて国内外の先行研究の動向を把握し、各自の研究テーマについて知見を蓄積すると同時に、必要な研究方法の理論的・方法論的枠組みならびに具体的な研究事例を理解する。さらに、受講生に個々の研究テーマと関連する研究や自身の研究の進捗について発表をしてもらいながら、研究指導を行う。

Based on the specialized knowledge acquired through intercultural communication-related courses and courses related to research methods, students will grasp the trends of previous domestic and international research according to their individual research interests, accumulate knowledge on their own research topics, and understand the theoretical and methodological frameworks of necessary research methods and specific research cases. Students will also gain an understanding of the theoretical and methodological framework of necessary research methods as well as specific research cases. In addition, research guidance will be provided by having students present a summary of research related to their themes and the progress of their literature reviews.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：研究の内容と枠組みを理解するために、個別研究を詳しく検討するアプローチ
- 2回：研究計画の発表
- 3回：先行文献調査の発表・討議 1
- 4回：先行文献調査の発表・討議 2
- 5回：先行文献調査の発表・討議 3
- 6回：先行文献調査の発表・討議 4
- 7回：先行文献調査の発表・討議 5
- 8回：先行文献調査の発表・討議 6
- 9回：先行文献調査の発表・討議 7 & 修士論文の例 1
- 10回：先行文献調査の発表・討議 8 & 修士論文の例 2
- 11回：先行文献調査の発表・討議 9 & 修士論文の例 3
- 12回：先行文献調査の発表・討議 10 & 修士論文の例 4
- 13回：先行文献調査の発表・討議 11
- 14回：総括&最終レポート（先行研究の批判的検討をまとめたもの）の提出

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自身の研究テーマに関連する論文、書籍を読んで、その内容を要約し、批判的に検討してください。また各自の研究テーマの文献や自身で行った調査の内容について発表する場合も、資料を作成し、事前に教員に送付してください。論文を読む際は、先行研究のまとめ方に注意を払い、とくに、さまざまなパターンを知り、ご自身が先行研究をまとめるときに、適切と思われるパターンを探してみましょう。最終レポートは、先行研究を整理した文章を作成します。その際、修士論文の引用方法や参考文献の記載方法に沿って、すべて「The Rikkyo Sty

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度・貢献度:30% 発表:30% 最終レポート:40%

テキスト/ Textbooks

なし。履修生の研究テーマの沿った論文、書籍を読む形をとります。

参考文献 / Readings

新堀聡 『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』 同文館出版 2002 9784495865115

澤田昭夫 『論文の書き方 (講談社学術文庫)』 講談社 1977

木下是雄 『レポートの組み立て方』 筑摩書房 1994

河野哲也 『レポート・論文の書き方入門 第4版』 慶應義塾大学出版会 2018

適宜指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

パラグラフ・ライティングの能力や論文全体の構造を把握する能力が必要となるため、その能力を伸ばすために、【参考文献】にあるような論文の書き方に関する書籍を読むことを強く推奨する。図書館のホームページの R E A D という検索システムを使えるように準備しておく。また、ネット上の Google Scholar、J-Stage、CiNii などの検索サイトも活用できるようにしておいてください。

その他/ Others

ゼミホームページ : <https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/icss/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV049
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を進める。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and make progress on writing theses.

授業の内容 / Course Contents

文化人類学関連科目の履修によって得られる専門知識を踏まえて、関心を有するテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと高めていく。また、研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

Based on the expert knowledge gained from taking courses about cultural anthropology, students will gain a full understanding of the present state, issues and methodologies of previous research conducted inside and outside Japan on themes of their interest, and work toward enhancing their research themes. In addition, the instructor will give detailed instruction on thesis writing as students present their research in line with their research themes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入、授業の概要
- 2回：論文執筆指導（1）
- 3回：論文執筆指導（2）
- 4回：論文執筆指導（3）
- 5回：論文執筆指導（4）
- 6回：論文執筆指導（5）
- 7回：論文執筆指導（6）
- 8回：論文執筆指導（7）
- 9回：論文執筆指導（8）
- 10回：論文執筆指導（9）
- 11回：論文執筆指導（10）
- 12回：論文執筆指導（11）
- 13回：論文執筆指導（12）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加態度：60%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

指導の中で適宜指示します。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV051
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生各自が研究に必要な知識・理論等の理解をさらに深め、具体的な分析・考察等をさらに進めていき、修士論文執筆に向けて具体化していけるよう、指導を行う。

Teaching will further consolidate each student's understanding of the knowledge and theories needed to conduct research and cover more thoroughly specific analysis and study toward the realization of writing a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

先行研究の成果や意義、問題点をどのように捉え、学生自身のテーマとどう関連づけていくべきかについて理解と考察を深め、論文執筆に向けてさらに何が必要かを考えるために、学生の報告・討論を中心に進めながら指導を行う。

We will cultivate deeper understanding and consideration of how to view the findings, meanings and issues in existing research and how to link these areas to the individual student's topic. Also, to allow us to think about what else is necessary in preparation for writing a thesis, teaching will be centered around student reports and debates.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：テーマの再検討・1
- 3回：テーマの再検討・2
- 4回：先行研究に関する考察・1
- 5回：先行研究に関する考察・2
- 6回：先行研究に関する考察・3
- 7回：資料の収集と研究方法について・1
- 8回：資料の収集と研究方法について・2
- 9回：中間発表に基づく指導
- 10回：理論的枠組みについて
- 11回：研究テーマの理論上の意義づけについて
- 12回：論文の構成について・1
- 13回：論文の構成について・2
- 14回：最終報告とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への参加度（討論，質疑応答など）:50% 報告およびレポートなどの提出物:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に指示する。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

武田 珂代子 (TAKEDA KAYOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV054
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

翻訳・通訳に関連する修士論文・課題研究に取り組む上での初期作業を行う。特に、先行研究の選定、リサーチクエスチョンの設定、研究方法や理論的枠組みの見極めに焦点を当てる。

To work on initial tasks for working on master's thesis and graduate research projects related to translation and interpreting. Focus is placed in selecting relevant prior research, setting up research questions, identifying research methods and theoretical frameworks.

授業の内容 / Course Contents

翻訳・通訳に関連する修士論文・課題研究における必須項目について学ぶ。修士論文に取り組む学生は、関連する先行研究の見つけ方、リサーチクエスチョンとリサーチデザインの立て方、理論的枠組みやデータ収集・分析方法の見極めについて助言を受ける。課題研究に取り組む学生は、翻訳実作に取り組み、理論的分析の準備を行う。いずれも、パイロットプロジェクトに取り組み、成果に関するレポートを提出する。

Students learn essential elements in their master's thesis and graduate research projects related to translation and interpreting. For master's theses, students receive advice on how to find relevant literature, establish research questions and research approach, and identify theoretical frameworks and methods of gathering and analyzing

data. For graduate research projects, students work on actual translations and prepare for theoretical analysis. All students are required to conduct a pilot project and submit a report on the findings.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：翻訳通訳関連の修士論文・課題研究のテーマ
- 2回：先行研究の調査
- 3回：リサーチクエスションの設定方法
- 4回：研究方法の選び方
- 5回：データ収集・分析方法
- 6回：パイロット研究のデザイン
- 7回：パイロット研究の実施法
- 8回：論文の構成とスタイルガイド
- 9回：課題研究のパイロット実施1
- 10回：課題研究のパイロット実施2
- 11回：課題研究のパイロット評価
- 12回：学生によるパイロット研究・課題発表1
- 13回：学生によるパイロット研究・課題発表2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% パイロット研究・課題の報告:40% ディスカッション参加度:30% 授業内発表:30%

テキスト / Textbooks

武田珂代子編著 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135 ○

その他、適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

Booth, W. C. et al. The Craft of Research The University of Chicago Press 2008 0226065669

Williams, J. and Chesterman, A The Map: A beginner's guide to doing research in translation studies St. Jerome 2002 1900650541

ピム・A 『翻訳理論の探求』 みすず書房 2010 4622075180

Saldanha, G. & O'Brien, S. Research Methodologies in Translation Studies St. Jerome 2013 9781909485006

その他、受講者の研究テーマに応じて助言する。

その他 / Others

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Kayoko Takeda's works https://researchmap.jp/kayoko_takeda

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV055
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

受講者は研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究を理解したうえで、研究テーマを具体化する。研究テーマに関連する先行研究のレビューなどを発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

Students will read and review relevant works to prepare for their thesis and will present their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（1）
 3回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（2）
 4回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（3）
 5回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（4）
 6回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（5）
 7回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（6）
 8回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（7）
 9回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（8）
 10回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（9）
 11回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（10）
 12回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（11）
 13回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（12）
 14回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

論理学を学んだことがない場合、例えば野矢茂樹著（2006）『新装 論理トレーニング』（産業図書）や同著者（2020）『まったくゼロからの論理学』（岩波書店）などを用いた独習を勧める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

指導の中で担当教員が適宜指示する。

また、上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内で情報機器は不要。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

中田 達也 (NAKATA TATSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV056
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

講義・演習および個別指導を通して、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、データを収集、研究成果を論文として発表する能力を養う。また、受講生各自の研究の進捗状況に関する発表や討議も行う。

Through lectures and tutorials, students will learn to (a) critically evaluate previous literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish findings in the form of academic papers. Students will also be required to present and to discuss their ongoing research projects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：研究計画の決定 1
- 3回：研究計画の決定 2
- 4回：研究計画の決定 3
- 5回：研究計画の決定 4
- 6回：研究計画の決定 5
- 7回：研究計画の決定 6
- 8回：プロポーザルの作成 1
- 9回：プロポーザルの作成 2
- 10回：プロポーザルの作成 3
- 11回：プロポーザルの作成 4
- 12回：プロポーザルの作成 5
- 13回：プロポーザルの作成 6
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

研究指導演習 B

Master's Thesis Seminar B

日下部 尚徳 (KUSAKABE NAONORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV057
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究作成に向けて、研究と論述の基本的な手法を習得することを目的とする。This course aims to help students to clarify their research themes and methodologies, learn methods of writing academic papers, acquire other basic expertise and skills required to write master's theses, and practice academic writing.

授業の内容 / Course Contents

国際協力、途上国の開発に関する具体的現象を研究対象に、理論的枠組、分析、考察する方法、研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究および研究方法の動向を理解したうえで、研究テーマ、方法を具体化する。受講者は、自らの研究テーマについての報告・発表を随時おこない、論文執筆に向けて具体的な知識を習得していく。

This course aims to help students precisely determine a research topic and method for their thesis. To achieve this goal, students will have to engage with texts on theoretical foundations, research methods, and scientific discussions relating to international cooperation and development. Additionally, students will be required to deliver a presentation on their selected research topics and develop the skills of writing an academic paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義の概要
- 2 回：学術論文の構成・リサーチについて (1)
- 3 回：学術論文の構成・リサーチについて (2)
- 4 回：学術論文の構成・リサーチについて (3)
- 5 回：研究テーマについて (1)
- 6 回：研究テーマについて (2)
- 7 回：研究テーマについて (3)
- 8 回：調査法について (1)
- 9 回：調査法について (2)
- 10 回：調査法について (3)
- 11 回：理論的枠組・分析方法について (1)
- 12 回：理論的枠組・分析方法について (2)
- 13 回：理論的枠組・分析方法について (3)
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論，質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物，各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

指導の中で，担当教員が適宜指示する。

参考文献 / Readings

指導の中で，担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV061
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を進める。

Specify one's research topic and methodologies, learn how to write academic articles and obtain some basic knowledge and skills to complete master's theses.

授業の内容 / Course Contents

関心を有するテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと高めていく。また、研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

Overviewing existing research on their topics of interest, students examine appropriate methodologies and identify some problems. Based on a presentation on one's research outcome, some guidance for completing master's theses will be provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入、授業の概要

- 2回：論文執筆指導（1）
- 3回：論文執筆指導（2）
- 4回：論文執筆指導（3）
- 5回：論文執筆指導（4）
- 6回：論文執筆指導（5）
- 7回：論文執筆指導（6）
- 8回：論文執筆指導（7）
- 9回：論文執筆指導（8）
- 10回：論文執筆指導（9）
- 11回：論文執筆指導（10）
- 12回：論文執筆指導（11）
- 13回：論文執筆指導（12）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

指導の中で適宜指示します。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV062
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法に関する文献精読、調査を行い、批判的に考察、分析する手法を身につける。

In preparation for their Master's thesis, students will develop their scholarly and analytical skills through a critical and reflective reading of the relevant research.

授業の内容 / Course Contents

受講者の前学期までの研究を、さらなる関連文献などの調査、議論を通して、より具体的にすすめ、修士論文の草稿執筆を開始する。

The research project for the Master's thesis will be re-examined through further research into the student's own topic and into relevant research. Students will begin work on the draft of their Master's thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：研究テーマ報告 1
- 3 回：研究テーマ報告 2

- 4回：先行研究について1
 5回：先行研究について2
 6回：先行研究について3
 7回：研究方法1
 8回：研究方法2
 9回：研究方法3
 10回：論文の構成1
 11回：論文の構成2
 12回：論文の構成3
 13回：学術的記述の方法について
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での議論参加度 (討論, 質疑応答など) :50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で, 担当教員が適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自ら文献調査などを通して考察を深めたうえで, 批判的に議論をする力。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV063

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6513

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

音楽学の歴史的資料を解釈し、研究対象に関する考察を深め、修士論文をまとめていく。

To prepare for the writing of a master's thesis of musicology, students will learn how to interpret and evaluate historical sources. Students will then begin writing their thesis.

授業の内容 / Course Contents

論文の初稿となり得る文章を用意し、それを叩き台としつつ、議論を行う。

Students will be required to produce a document worthy of the first draft of a thesis. This text will serve as the starting point for discussions on their theses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：スケジュールの吟味

2 回：研究の対象の吟味

3 回：研究の方法の吟味

4 回：研究の目的の吟味

5 回：文献の吟味

- 6回：資料の吟味
- 7回：先行研究批判
- 8回：章立ての吟味
- 9回：独自性の吟味
- 10回：論理性の吟味
- 11回：実証性の吟味
- 12回：有効性の吟味
- 13回：テーゼの吟味
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指導の中で適宜指示する。加えて、図書館所蔵の音楽雑誌・音楽事典類、AVコーナーの資料等を活用された
い。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と参加:50% 課題と成果物:50%

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

指導の中で指示する。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

池田 伸子 (IKEDA NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV064
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講者が各自の修士論文を完成させるために必要な知識やスキルを身につけることである。具体的には、受講者が各自設定したテーマについて理解を深め、研究デザイン、研究方法についての知見を深めることができる。

The objective of these lessons is for students to learn the necessary knowledge and skills to complete their master's dissertations. Specifically, students will be able to deepen their understanding of the topics they have selected while improving their knowledge of research design and methods.

授業の内容 / Course Contents

受講者が設定した研究テーマを遂行するために必要な文献講読、研究を進めるための調査や実験のデザインに対する指導を中心に行う。毎回の授業は、受講者がそれまで進めた研究報告を軸として行う。また、言語教育研究、言語研究に利用される調査や実験方法について具体例を示しながら説明するとともに、統計を使った分析方法の基礎も概観する。

The content will focus on teaching students about the required literature for pursuing their research topics and the survey or experiment designs needed to conduct their research. Each lesson will focus on having students

report their current research progress. The lessons will also explain the survey and experiment methods used in language and language-teaching research through concrete examples and by outlining the fundamentals of statistical analyses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、修士論文とは何か
- 2回：学術論文の構成
- 3回：理論および先行研究の重要性
- 4回：研究をデザインする
- 5回：調査①
- 6回：調査②
- 7回：実験①
- 8回：実験②
- 9回：統計分析①
- 10回：統計分析②
- 11回：結果の書き方
- 12回：分析、考察の書き方
- 13回：最終報告会①
- 14回：最終報告会②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各自、設定した研究テーマに沿って、文献調査を主体的に進め、毎回の授業には進捗状況を報告できるようにしておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の進捗報告:40% 最終報告書:40% 進捗報告プレゼン:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業で適宜紹介する。

その他 / Others

- 1) 授業は各受講者が主体となるディスカッションを通して行われるため、受講者は各自が自分のテーマについて自発的に調べ、発表することが求められる。
- 2) 各参加者のプレゼンテーションについては、次の回の授業でフィードバックを行う。
- 3) 連絡事項、資料の配付などは Canvas LMS を通して実施する。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

石井 正子 (ISHII MASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV065
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

国際協力に関するテーマの修士論文執筆の指導を行う。

The course serves to help students write a M.A. thesis on the themes of International Cooperation.

授業の内容 / Course Contents

修士論文の研究テーマと目的、問い、方法論の設定、内容の分析、考察の導き方などを指導する。

The course offers guidance on M.A. thesis research topics, objectives, and questions, along with methodology and analysis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：修士論文執筆指導 1
- 2 回：修士論文執筆指導 2
- 3 回：修士論文執筆指導 3
- 4 回：修士論文執筆指導 4
- 5 回：修士論文執筆指導 5
- 6 回：修士論文執筆指導 6

- 7回：修士論文執筆指導 7
 8回：修士論文執筆指導 8
 9回：修士論文執筆指導 9
 10回：修士論文執筆指導 10
 11回：修士論文執筆指導 11
 12回：修士論文執筆指導 12
 13回：修士論文執筆指導 13
 14回：修士論文執筆指導 14

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜示す。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レポート:40% 出席、課題発表:60%

テキスト / Textbooks

授業時に適宜紹介する。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV066
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法論等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

教員の指導を受けながら、修士論文の作成作業を進めていく。

Students will continue to work on their master's theses with guidance from their respective supervising professors.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：修士論文の執筆と指導（1）

- 3回：修士論文の執筆と指導（2）
 4回：修士論文の執筆と指導（3）
 5回：修士論文の執筆と指導（4）
 6回：修士論文の執筆と指導（5）
 7回：修士論文の執筆と指導（6）
 8回：演習内における中間報告（1）
 9回：演習内における中間報告（2）
 10回：修士論文の執筆と指導（7）
 11回：修士論文の執筆と指導（8）
 12回：修士論文の執筆と指導（9）
 13回：修士論文の執筆と指導（10）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論・質疑応答など）：50% 修士論文の進捗状況：50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

河合 優子 (KAWAI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV068
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の先行研究文献調査を完成させ、データ収集・分析の方法など論文執筆に必要な知識と能力を身につける。

Students will complete a literature review and learn data collection and analysis skills.

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマの先行研究文献調査を完成させ、データ収集・分析を進めてもらい、それを報告してもらいながら修士論文完成のための具体的な指導をしていく。

Students will complete a literature review and start collecting data for a master's thesis. Students will present the progress and receive feedback from the instructor.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：論文指導（1）
- 2 回：論文指導（2）
- 3 回：論文指導（3）
- 4 回：論文指導（4）

- 5回：論文指導（5）
 6回：論文指導（6）
 7回：論文指導（7）
 8回：論文指導（8）
 9回：論文指導（9）
 10回：論文指導（10）
 11回：論文指導（11）
 12回：論文指導（12）
 13回：論文指導（13）
 14回：論文指導（14）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業参加貢献度:50% 報告・提出物:50%

テキスト / Textbooks

初回の授業で指示する。

参考文献 / Readings

授業内で紹介する。

その他 / Others

提出物にはフィードバックを行う。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV069
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究に関する調査・作成を行い、その手法を習得することを目的とする。
To prepare for the writing of a master's thesis related to language, culture, and communication, students will learn how to interpret and evaluate research methods and findings through an advanced reading of literature. Students will then begin writing their thesis.

授業の内容 / Course Contents

修士課程一年次に行った研究の成果（テーマ・方法論・研究デザインの設定、文献調査、データ収集とその分析など）を報告・検討した上で、主に個別指導を通して、データ収集や文献調査を継続しつつ、修士論文・課題研究の草稿の執筆を開始する。

While re-examining their research themes, methodologies, research designs, data, and analyses, students will proceed with their own research by delivering several progress reports on data collection, description, and analysis in accordance with their research designs. Guidance will also be provided through discussions on ways of analyzing the data as well as on the possible implications of the study.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：概要
- 2 回：学術論文の構成・リサーチについて (1)
- 3 回：学術論文の構成・リサーチについて (2)
- 4 回：学術論文の構成・リサーチについて (3)
- 5 回：研究テーマについて (1)
- 6 回：研究テーマについて (2)
- 7 回：研究テーマについて (3)
- 8 回：調査法について (1)
- 9 回：調査法について (2)
- 10 回：調査法について (3)
- 11 回：理論的枠組・分析方法について (1)
- 12 回：理論的枠組・分析方法について (2)
- 13 回：理論的枠組・分析方法について (3)
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:50% 報告・提出物など:50%

テキスト / Textbooks

教室にて配付

参考文献 / Readings

教室にて指示

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV070
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

美術、アートを中心とする視覚的な表現（物）に関する研究動向を理解し、種々の資料を批判的に読み、適切に修士論文に使用する方法を学び、論文の完成をめざす。

In this seminar students will come to grasp current state of research on the fields of art and visual studies, learn how to read critically and use effectively findings and data when writing their master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

受講生の研究計画に沿って、研究動向の把握、資料の収集と批判、適切な研究手法の援用、論文の執筆法などを指導する。

Guidance and advices will be given on the following: the assessment of the state of research, ways in which necessary sources and documents should be collected and evaluated, methods to be employed or writing skills of theses, based on the research plan of each student.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：履修生の研究計画の確認
- 2 回：修士論文指導①

- 3回：修士論文指導②
- 4回：修士論文指導③
- 5回：修士論文指導④
- 6回：修士論文指導⑤
- 7回：修士論文指導⑥
- 8回：中間報告
- 9回：修士論文指導⑦
- 10回：修士論文指導⑧
- 11回：修士論文指導⑨
- 12回：修士論文指導⑩
- 13回：修士論文指導⑪
- 14回：最終発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各自判断して、必要な準備、復習など遂行すること。

初回に研究計画を発表すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間報告:30% 各回での参加度:40% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

随時参考文献等は紹介する。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV071

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面（一部オンライン）

全授業回のうち2回はオンラインで実施する（5・7回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6513

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

映画研究分野に関連する修士論文あるいは課題研究の研究計画に基づき、調査、データ収集と分析、論文執筆を進める。

Based on the research plan for cinema studies related master's thesis or research project, students will proceed with the survey, data collection/analysis and writing stages.

授業の内容 / Course Contents

映画研究分野に関連する修士論文あるいは課題研究に取り組むための指導を行う。特に、文献検索、リサーチクエスチョン設定、研究方法、理論的枠組み、データ収集・分析方法などについて、各受講者の研究テーマに応じて議論し、助言する。全受講者対象の指導と個別指導を併用する。

Provide instruction on how to undertake a master's thesis or research project related to the field of cinema studies. Specifically, in relation to the individual student's research theme we will discuss, and advice will be provided on, searching for literature, setting a research question, research methodology, theoretical frameworks,

methods of data collection and analysis, etc. A mixture of whole-class and personalized instruction will be provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：研究の背景、目的、意義の確認
- 3回：リサーチクエスション（仮説）と研究方法の確認
- 4回：文献検索と先行研究レビューの確認
- 5回：データ収集と分析法の確認
- 6回：論文構成とスタイルガイドの確認
- 7回：中間報告の準備
- 8回：中間報告の準備
- 9回：中間報告の振り返り
- 10回：個別指導
- 11回：個別指導
- 12回：個別指導
- 13回：個別指導
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッション参加度:25% 授業内発表:25% 論文・課題研究の中間報告:50%

テキスト / Textbooks

イ・ハンジン著 『コリアン・シネマ：北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018
4622086646 ○

その他、適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

その他、受講者の研究テーマに応じて助言する。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV072
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） Face-to-face
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Each student selects and develops a research theme related to English language education and carries out individual research under the guidance of the instructor in order to fulfill the research requirements of a Master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

Guidance is given throughout the research process. As students develop and produce work toward their final goal, the instructor provides advice and comments to support the further development of the research. This guidance focuses on the research process, research paper writing, research methods, research design and instrumentation, and where appropriate, research analysis through the use of published research materials and academic texts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course Introduction
- 2 回： Discussion & Thesis Writing Guidance 1
- 3 回： Discussion & Thesis Writing Guidance 2

- 4回：Discussion & Thesis Writing Guidance 3
 5回：Discussion & Thesis Writing Guidance 4
 6回：Discussion & Thesis Writing Guidance 5
 7回：Discussion & Thesis Writing Guidance 6
 8回：Discussion & Thesis Writing Guidance 7
 9回：Discussion & Thesis Writing Guidance 8
 10回：Discussion & Thesis Writing Guidance 9
 11回：Discussion & Thesis Writing Guidance 10
 12回：Discussion & Thesis Writing Guidance 11
 13回：Presentation Preparation
 14回：Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are to find and review published academic material that is related to their research topic, to discuss their work with peers, and to consult with the instructor about presenting their work at an academic conference or symposium.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reports (written):35% Reports (oral):35% Presentation:30%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

To be given by the instructor.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV073
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自が設定した研究テーマについて、教員の指導の下に個別研究を実施し、修士論文につながる成果をまとめられるようにすること。

The aim of this course is to conduct individual research on students' research topic under the guidance of teaching staff and ensure they can summarize findings in a way that is conducive to writing a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

これまでの進捗状況を踏まえ、理論および研究方法の妥当性を検討しつつ、データの収集、分析について個別に指導する。計画的かつ発展的に研究を遂行できるよう、適宜助言を与える。

Depending on the students' progress, guidance on data collection and analysis will be provided on a personal basis so that they can conduct research in a well-planned and constructive manner. Special attention will be paid to the appropriateness of theories and research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：これまでの成果の報告
- 2 回：研究テーマの設定

- 3回：理論的枠組みの検討と設定
 4回：研究方法の検討と設定
 5回：先行研究のまとめ（1）
 6回：先行研究のまとめ（2）
 7回：先行研究のまとめ（3）
 8回：データ収集と検討（1）
 9回：データ収集と検討（2）
 10回：データ収集と検討（3）
 11回：問題点の検討（1）
 12回：問題点の検討（2）
 13回：中間報告
 14回：ふり返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テーマに関連する文献の収集,論文の執筆

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:50% 報告・提出物など:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜関連する文献を紹介する。

その他 / Others

スケジュールや内容は調整する場合がある。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

森 聡美 (MORI SATOMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV075
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

バイリンガリズム・言語習得に関する修士論文の作成に向けて、文献をさらに読み進めながら、研究方法や結果の解釈、考察の導き方等を身につけ、論文執筆を実践する。

In preparation for writing a master's thesis related to bilingualism and language acquisition, students will learn how to interpret and consider research methods and findings through reading more literature. Students will then commence writing their thesis.

授業の内容 / Course Contents

受講者の研究計画に基づき、研究テーマに関する最新の文献を読み進めるのと同時に、研究方法の確認、データ収集ならびにデータ分析についての進捗報告を繰り返すことで研究を進めていく。結果の解釈や考察の方法についても議論をしながら指導をしていく。

While reading the most recent literature from their research area, students will proceed with their own research by making a number of progress reports on data collection and analysis, thereby confirming the research design. Guidance will also be provided through discussing ways of interpreting the data as well as the possible implications of the study.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
 2回：研究調査・論文執筆の指導 1
 3回：研究調査・論文執筆の指導 2
 4回：研究調査・論文執筆の指導 3
 5回：研究調査・論文執筆の指導 4
 6回：研究調査・論文執筆の指導 5
 7回：研究調査・論文執筆の指導 6
 8回：研究調査・論文執筆の指導 7
 9回：研究調査・論文執筆の指導 8
 10回：研究調査・論文執筆の指導 9
 11回：研究調査・論文執筆の指導 10
 12回：研究調査・論文執筆の指導 11
 13回：研究調査・論文執筆の指導 12
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度 (討論、質疑応答など) :50% 報告およびレポートなどの提出物:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV077
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自が設定した研究テーマについて、教員の指導の下に個別研究を実施し、修士論文につながる成果をまとめられるようにすること。

To conduct individual research on a topic of your choice and consolidate findings in a way that is conducive to writing a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

これまでの進捗状況を踏まえ、理論および研究方法の妥当性を検討しつつ、データの収集、分析について個別に指導する。計画的かつ発展的に研究を遂行できるよう、適宜助言を与える。

Depending on the students' progress, guidance on data collection and analysis will be provided on a personal basis so that they can conduct research in a well-planned and constructive manner. Special attention will be paid to the appropriateness of theories and research methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：これまでの研究成果の報告
- 2 回：研究テーマ、理論的枠組み、研究方法の妥当性に関する検討

- 3回：研究倫理ガイドラインおよび調査協力者の検討（研究倫理申請書の書き方を含む）
 4回：調査の準備：質問項目、機材の準備、データ収集のポイント（インタビューの練習等）
 5回：データ分析例の検討（1）：データ分析の妥当性について具体的な論文を基に検討する
 6回：データ分析例の検討（2）
 7回：データ分析例の検討（3）
 8回：データ分析例の検討（4）
 9回：データ分析例の検討（5）
 10回：収集したデータの分析と分析の検討（1）
 11回：収集したデータの分析と分析の検討（2）
 12回：収集したデータの分析と分析の検討（3）
 13回：調査結果の書き方について：具体例を参照しながら、各履修生の調査結果のまとめ方について検討する
 14回：まとめ：研究方法セクションとデータ分析結果のセクションをレポートにまとめて提出する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

調査協力者を探してください（スノーボール・サンプリングなど）。また、授業でカバーする研究倫理申請書を作成し、教員と確認したうえで、研究科の提出先（サイト）へ提出してください。自分の研究に似通った研究をよく読んで、データ収集、データ分析の枠組み、調査結果の示し方などについて検討してください。データ収集ができれば、データの書き起こしを進めてください。書き起こしたデータを自身が設定した分析枠組みで分析をしてみてください。分析結果はゼミで検討します。さらに、先行研究では、どのような論点で分析結果が考察されているの

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:30% 発表:30% 最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

なし。オンライン授業運営プラットフォームでファイルを共有する。場合によっては、プリントを配布する。

参考文献 / Readings

適宜関連する文献を紹介する。1年次の研究指導演習Aで紹介した質的研究法の書籍を参照してください。ゼミのホームページにも、質的研究関連書籍が紹介されています。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自身の研究に協力して下さる調査協力者を探すため、調査協力者となる可能性がある人びととコミュニケーションをとる能力が必要とされます。調査協力者を探すことを常に考えておいてください。データ分析を多角的、多層的に行うために、ゼミにおいて他のメンバーと一緒に自身のデータ分析結果を共有し、その内容を検討するオープンさが必要です。データ分析セッションでは、自身とは異なる視点から発せられる考えを理解し、冷静に思考できる能力が必要です。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

データ収集のために必要な録音機材（ICレコーダー）やデータの書き起こしに必要なソフト（たとえば、

Rimo) などがあると良いです。

その他/ Others

ゼミのホームページ：<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/icss/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV079
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を進める。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and make progress on writing theses.

授業の内容 / Course Contents

関心を有するテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと高めていく。また、研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

We will develop understanding of the current state of existing domestic and international research on one's topic of interest. We will look specifically at issues covered and methodology used and apply knowledge acquired to developing each student's research area. Also, students will give a research presentation on their chosen research topic and specific guidance for writing an academic paper will be provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入、授業の概要
- 2回：論文執筆指導（1）
- 3回：論文執筆指導（2）
- 4回：論文執筆指導（3）
- 5回：論文執筆指導（4）
- 6回：論文執筆指導（5）
- 7回：論文執筆指導（6）
- 8回：論文執筆指導（7）
- 9回：論文執筆指導（8）
- 10回：論文執筆指導（9）
- 11回：論文執筆指導（10）
- 12回：論文執筆指導（11）
- 13回：論文執筆指導（12）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

指導の中で適宜指示します。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

佐竹 晶子 (SATAKE AKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV080
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The purpose of this course is to continue to research on the chosen topic, organize the thesis, modify the outline and argument as needed, as students start writing the thesis.

授業の内容 / Course Contents

Students will report on the progress they made and receive feedback each week. In the second half of the term, students will start writing the first draft of each chapter and receive comments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：report of the research conducted during the spring holiday
- 2 回：research guidance 1
- 3 回：research guidance 2
- 4 回：research guidance 3
- 5 回：research guidance 4
- 6 回：research guidance 5
- 7 回：research guidance 6

- 8回：research guidance 7
 9回：research and writing guidance 1
 10回：research and writing guidance 2
 11回：research and writing guidance 3
 12回：research and writing guidance 4
 13回：research and writing guidance 5
 14回：research and writing guidance 6

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

to be instructed in class

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% class participation and oral reports:60% written reports:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV081
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の執筆に必要な調査・分析・考察を行い、修士論文を執筆する。

In this course students carry out the investigation, analysis and study stages needed in order to write a master's thesis, and then begin writing.

授業の内容 / Course Contents

言語学（特に意味論やその関連領域、またはスペイン語学）の研究テーマでの修士論文の作成に向けて、研究方法の検討、先行研究のレビュー、調査・考察等を行うための指導を行う。個別指導を中心としつつ、適宜学生間の討論なども行う。

Instruction on how to consider research methodology, review existing research, and carry out an investigation or study will be provided in preparation for writing a master's thesis on a research topic within Linguistics (specifically, semantics and related areas, or Spanish linguistics). While concentrating on personalized instruction, we will also carry out activities such as student debates where appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：学生によるテーマと研究計画の発表

- 2回：テーマの絞込み
 3回：先行研究のレビュー（1）
 4回：先行研究のレビュー（2）
 5回：調査方法の検討
 6回：調査実施の指導（1）
 7回：調査実施の指導（2）
 8回：中間報告に基づく指導
 9回：調査結果の分析・考察（1）
 10回：調査結果の分析・考察（2）
 11回：調査結果の分析・考察（3）
 12回：追加調査と理論的肉付けに関する指導（1）
 13回：追加調査と理論的肉付けに関する指導（2）
 14回：これまでの研究成果の発表，最終レポートの指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は，必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論，質疑応答など）：40% 中間報告：30% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

高橋 里美 (TAKAHASHI SATOMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション研究科
科目コード等：	VV083
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC6513
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の研究テーマおよび研究方法に基づいて本調査を実施し、データ分析を行い、修士論文を執筆する。In this seminar, students will conduct their thesis research and write parts of their theses. They will address their research questions by following pertinent research designs.

授業の内容 / Course Contents

第二言語習得およびその関連領域の研究テーマに関する修士論文の作成に向けて、具体的な指導をしていく。研究テーマおよび研究方法に基づいて本調査を実施し、データを分析する。今学期末までに、修士論文の先行研究レビューのアップデートとともに、調査結果の一部について執筆を終了させることを目指す。当演習は、基本的に各自の研究テーマに沿った個別指導とするが、随時、受講者間の討議も入れていく。

Students will receive constructive guidance from the instructor in the course of their thesis research in second language acquisition (SLA) or related academic areas. Students should address their research questions by adopting research designs that have pertinent data analysis techniques. By the end of the semester, students should aim to complete writing a part of the results section of the thesis as well as updating the literature review. This seminar is primarily a tutorial for individual students, providing them with opportunities for occasional

discussions with each other.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：研究調査等の個別指導（1）
- 3 回：研究調査等の個別指導（2）
- 4 回：研究調査等の個別指導（3）
- 5 回：研究調査等の個別指導（4）
- 6 回：研究調査等の個別指導（5）
- 7 回：研究調査等の個別指導（6）
- 8 回：論文執筆の個別指導（1）
- 9 回：論文執筆の個別指導（2）
- 10 回：論文執筆の個別指導（3）
- 11 回：論文執筆の個別指導（4）
- 12 回：論文執筆の個別指導（5）
- 13 回：論文執筆の個別指導（6）
- 14 回：論文執筆の個別指導（7）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）:50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業支援システムとして「Canvas LMS」を使用する。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

武田 珂代子 (TAKEDA KAYOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV084
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

個々の学生が翻訳・通訳に関連する修士論文や課題研究に取り組む上で関連する理論や研究方法についての幅広い知識を身につける。関連する先行研究の批判的レビューを行い、自らの研究の独自性を見極める。修士論文や課題研究の書式面での要件を確認する。

Students will acquire a broad knowledge of the theories and research methods pertaining to their master's thesis and graduate research projects. Students will critically review relevant prior studies and identify the originality of their own projects. Students will fully understand the style guides designated for their master's theses and graduate research.

授業の内容 / Course Contents

個々の学生の修士論文や課題研究のプロジェクトに関連する翻訳通訳理論や研究方法について学び、関連する先行研究のレビューを行い、議論する。課題研究に取り組む学生は、翻訳の素材選択、翻訳方略、理論的振り返りの方法について初期的な議論を展開する。また、翻訳・通訳の実践と理論との関係について議論する。立教スタイルまたは APA スタイルの要件の確認も行う。

Students will learn the translation and interpreting theories and research methods relevant to their master's thesis

and graduate research projects. Students will engage in critical reviews of major prior works relevant to their projects. Students working on graduate research projects will engage in preliminary discussions on their projects, including the selection of materials, translation strategies, and methods of theoretical reflections. Further, students will discuss the relations between the theory and practice of translation and interpreting. Students are reminded of the importance of fully understanding and following the Rikkyo Style and the APA Style.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：通訳翻訳関連の修士論文・課題研究の事例
- 3 回：翻訳通訳理論 1
- 4 回：翻訳通訳理論 2
- 5 回：翻訳通訳研究の方法論 1
- 6 回：翻訳通訳研究の方法論 2
- 7 回：先行研究のレビュー1
- 8 回：先行研究のレビュー2
- 9 回：通訳実践と研究 1
- 10 回：通訳実践と研究 2
- 11 回：立教スタイル・APA スタイルの確認
- 12 回：学生による研究・課題計画発表 1
- 13 回：学生による研究・課題計画発表 2
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 論文・課題研究の計画書または先行文献レビュー:40% ディスカッション参加度:30%
授業内発表:30%

テキスト / Textbooks

武田珂代子編著 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135 ○

その他、適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

Booth, W. C. et al. The Craft of Research The University of Chicago Press 2008 0226065669

Williams, J. and Chesterman, A The Map: A beginner's guide to doing research in translation studies St. Jerome 2002 1900650541

ピム・A 『翻訳理論の探求』 みすず書房 2010 4622075180

Saldanha, G. & O'Brien, S. Research Methodologies in Translation Studies St. Jerome 2013

9784623067275

その他，受講者の研究テーマに応じて助言する。

その他/ Others

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Kayoko Takeda's works http://works.bepress.com/kayoko_takeda/

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV085
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

受講者は研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究を理解したうえで、研究テーマを具体化する。研究テーマに関連する先行研究のレビューなどを発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

Students will read and review relevant works to prepare for their thesis and will present their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（1）
 3回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（2）
 4回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（3）
 5回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（4）
 6回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（5）
 7回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（6）
 8回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（7）
 9回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（8）
 10回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（9）
 11回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（10）
 12回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（11）
 13回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（12）
 14回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

論理学を学んだことがない場合、例えば野矢茂樹著（2006）『新装 論理トレーニング』（産業図書）や同著者（2020）『まったくゼロからの論理学』（岩波書店）などを用いた独習を勧める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

指導の中で担当教員が適宜指示する。

また、上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内で情報機器は不要。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

中田 達也 (NAKATA TATSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV086
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

講義・演習および個別指導を通して、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、データを収集、研究成果を論文として発表する能力を養う。また、受講生各自の研究の進捗状況に関する発表や討議も行う。

Through lectures and tutorials, students will learn to (a) critically evaluate previous literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish findings in the form of academic papers. Students will also be required to present and discuss their ongoing research projects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：データ収集の計画 1
- 3回：データ収集の計画 2
- 4回：データ収集の計画 3
- 5回：データ収集の計画 4
- 6回：データ収集の計画 5
- 7回：データ収集の計画 6
- 8回：データ収集および分析 1
- 9回：データ収集および分析 2
- 10回：データ収集および分析 3
- 11回：データ収集および分析 4
- 12回：データ収集および分析 5
- 13回：データ収集および分析 6
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

修士論文指導演習 A

Master's Thesis Supervision A

日下部 尚徳 (KUSAKABE NAONORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV087
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究に関する調査・作成を行い、その手法を習得することを目的とする。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

国際協力、途上国の開発に関する具体的現象を研究対象に、理論的枠組、分析、考察する方法、研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究および研究方法の動向を理解したうえで、研究テーマ、方法を具体化する。受講者は修士課程一年次に行った研究の成果（テーマ・方法論・研究デザインの設定、文献調査、データ収集とその分析など）を報告・検討した上で、主に個別指導を通して、データ収集や文献調査を継続しつつ、修士論文・課題研究の草稿の執筆を開始する。

This course aims to help students precisely determine a research topic and method for their thesis. To achieve this goal, students will have to engage with texts on theoretical foundations, research methods, and scientific

discussions relating to international cooperation and development. Students will proceed with their own research by delivering several progress reports on data collection, description, and analysis in accordance with their research designs. Guidance will also be provided through discussions on ways of analyzing the data as well as on the possible implications of the study.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：学術論文の構成・リサーチについて (1)
- 3回：学術論文の構成・リサーチについて (2)
- 4回：学術論文の構成・リサーチについて (3)
- 5回：研究テーマについて (1)
- 6回：研究テーマについて (2)
- 7回：研究テーマについて (3)
- 8回：調査法について (1)
- 9回：調査法について (2)
- 10回：調査法について (3)
- 11回：理論的枠組・分析方法について (1)
- 12回：理論的枠組・分析方法について (2)
- 13回：理論的枠組・分析方法について (3)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度(討論, 質疑応答など):50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト/ Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で, 担当教員が適宜指示する。

その他/ Others

フィードバックは随時授業内で行う。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV091
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文を完成させる。

Specify one's research topic and methodologies, learn how to write academic articles and obtain some basic knowledge and skills to complete master's theses.

授業の内容 / Course Contents

関心を有するテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと高めていく。また、研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文完成に向けた具体的な指導をしていく。

Overviewing existing research on their topics of interest, students examine appropriate methodologies and identify some problems. Based on a presentation on one's research outcome, some guidance for completing master's theses will be provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入、授業の概要

- 2回：論文指導（1）
- 3回：論文指導（2）
- 4回：論文指導（3）
- 5回：論文指導（4）
- 6回：論文指導（5）
- 7回：論文指導（6）
- 8回：論文指導（7）
- 9回：論文指導（8）
- 10回：論文指導（9）
- 11回：論文指導（10）
- 12回：論文指導（11）
- 13回：論文指導（12）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

指導の中で適宜指示します。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV092
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマに関する調査をさらにすすめ、論文を論理的に構成・執筆する手法を身につける。

In preparation for a Master's thesis, students will carry out further research on the topic of their thesis. Students will acquire the competence to write a academic paper with a logical structure.

授業の内容 / Course Contents

これまでの研究成果、また、関連する先行研究を参照しながら修士論文を書きすすめ、各章ごとに議論と助言を通して推敲を重ねて完成させる。

Students will write their Master's thesis based on their previous research and relevant literature. Appropriate guidance will be provided for each chapter so students can acquire the competence to write a academic paper with a logical structure.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：修士論文の作成指導

- 3回：修士論文の作成指導
- 4回：修士論文の作成指導
- 5回：修士論文の作成指導
- 6回：修士論文の作成指導
- 7回：修士論文の作成指導
- 8回：修士論文の作成指導
- 9回：修士論文の作成指導
- 10回：修士論文の作成指導
- 11回：修士論文の作成指導
- 12回：修士論文の作成指導
- 13回：修士論文の作成指導
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での議論参加度（討論、質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自ら文献調査などを通して考察を深めたうえで、批判的に議論をする力。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV093
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

履修者の進捗状況に応じて、研究テーマに関する最新成果を読み進め、独自性を吟味し、修士論文を完成させていく。

Students will write sections and chapters of their master's thesis while continuing to scrutinize the recent relevant literature and examine their originality closely.

授業の内容 / Course Contents

論文の一部となり得る文章を用意し、それを叩き台としつつ、議論を行う。

Students will be required to produce a draft of a thesis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究成果の検討
- 2 回：研究成果の検討
- 3 回：研究成果の検討
- 4 回：研究成果の検討
- 5 回：研究成果の検討

- 6回：研究成果の検討
- 7回：研究成果の検討
- 8回：研究成果の検討
- 9回：研究成果の検討
- 10回：研究成果の検討
- 11回：研究成果の検討
- 12回：研究成果の検討
- 13回：研究成果の検討
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指導の中で適宜指示する。加えて、図書館所蔵の音楽雑誌・音楽事典類、AVコーナーの資料等を活用された
い。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と参加:50% 課題と成果物:50%

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

指導の中で指示する。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

池田 伸子 (IKEDA NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV094
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

受講者が修士論文を完成させるために必要な知識やスキルを身につける。さらに、得られたデータをどのように分析し、どのように考察を深めていくかについて、具体例を通して習得し、最終的に修士論文を完成させる。

In these lessons, students will gain the necessary knowledge and skills to complete their master's dissertations. They will also be given concrete examples on how to analyze gathered data and deepen related discussions. This will ultimately aid them in completing their dissertations.

授業の内容 / Course Contents

受講者が、各自の研究で立てた仮説やリサーチクエスチョンを明らかにするために実施した調査や実験の結果をどのように分析し、さらに考察を深めていくかについて、具体例を用いながら指導する。毎回の授業は、各受講者の得た調査結果や実験結果を軸として進め、各受講者が完成度の高い修士論文を作成できるように導く。

In these lessons, students will be provided with concrete examples on how to analyze the results of the surveys and experiments they have conducted in order to test their hypotheses or answer their research questions. They

will also be taught how to deepen their discussion of these results. Each lesson will focus on the survey or experiment results obtained by each student. This will enable them to produce high-quality dissertations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：夏休みの進捗報告、今後のスケジュール
- 2回：進捗報告①
- 3回：進捗報告②
- 4回：進捗報告③
- 5回：調査や実験結果の記載
- 6回：調査、実験結果の分析①
- 7回：調査、実験結果の分析②
- 8回：考察
- 9回：進捗報告④
- 10回：進捗報告⑤
- 11回：進捗報告⑥
- 12回：進捗報告⑦
- 13回：最終プレゼン①
- 14回：最終プレゼン②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は各自、毎回の授業でそれぞれの研究結果について報告できるよう、しっかりと準備をして授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 進捗報告 (15% 4回) :60% 最終プレゼン:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業で適宜紹介する

その他 / Others

- 1) 授業は各受講者が主体となるディスカッションを通して行われるため、受講者は各自が自分のテーマについて自発的に調べ、発表することが求められる。
- 2) 各参加者のプレゼンテーションについては、次の回の授業でフィードバックを行う。
- 3) 連絡事項、資料の配付などは Canvas LMS を通して実施する。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

石井 正子 (ISHII MASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV095
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

国際協力に関する修士論文を執筆するための専門知識、アカデミックスキルを身につける。

The course offers academic skills in writing M.A. thesis on the themes of International Cooperation.

授業の内容 / Course Contents

国際協力に関する修士論文のテーマに関連する先行研究を講読する。

研究計画を発表する。

The course introduces approaches and methods of writing M.A. thesis on the themes of International Cooperation.

Students will make progress on their research through presentations of their own research and discussion with their classmates.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入

2 回：修士論文執筆指導 1

3 回：修士論文執筆指導 2

- 4回：修士論文執筆指導 3
 5回：修士論文執筆指導 4
 6回：修士論文執筆指導 5
 7回：修士論文執筆指導 6
 8回：修士論文執筆指導 7
 9回：修士論文執筆指導 8
 10回：修士論文執筆指導 9
 11回：修士論文執筆指導 10
 12回：修士論文執筆指導 11
 13回：修士論文執筆指導 12
 14回：振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜示す。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レポート:40% 出席、課題発表:60%

テキスト / Textbooks

授業時に適宜示す。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

その他 / Others

授業時に適宜紹介する。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV096
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法論等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

教員の指導を受けながら、修士論文の作成作業を進めていく。

Students will continue to work on their master's theses with guidance from their respective supervising professors.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：修士論文の執筆と指導（1）

- 3回：修士論文の執筆と指導（2）
 4回：修士論文の執筆と指導（3）
 5回：修士論文の執筆と指導（4）
 6回：修士論文の執筆と指導（5）
 7回：修士論文の執筆と指導（6）
 8回：演習内における中間報告（1）
 9回：演習内における中間報告（2）
 10回：修士論文の執筆と指導（7）
 11回：修士論文の執筆と指導（8）
 12回：修士論文の執筆と指導（9）
 13回：修士論文の執筆と指導（10）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論・質疑応答など）：50% 修士論文の進捗状況：50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

河合 優子 (KAWAI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV098
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文を完成させる。

Students will complete a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

修士論文の進捗状況を報告してもらい、修士論文を完成させるための具体的な指導をしていく。

Students will present the progress of their master's thesis and receive feedback from the instructor.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：論文指導（1）
- 2 回：論文指導（2）
- 3 回：論文指導（3）
- 4 回：論文指導（4）
- 5 回：論文指導（5）
- 6 回：論文指導（6）
- 7 回：論文指導（7）

- 8回：論文指導（8）
 9回：論文指導（9）
 10回：論文指導（10）
 11回：論文指導（11）
 12回：論文指導（12）
 13回：論文指導（13）
 14回：論文指導（14）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席・授業参加貢献度:50% 報告・提出物:50%

テキスト / Textbooks

初回の授業で指示する。

参考文献 / Readings

授業内で紹介する。

その他 / Others

提出物にはフィードバックを行う。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション研究科
科目コード等：	VV099
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC6513
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、修士論文・課題研究に関する調査・作成を行い、その手法を習得することを目的とする。

While writing a master's thesis related to language, culture, and communication, students will continue to read additional literature and to develop their analytical and writing skills.

授業の内容 / Course Contents

受講者の進捗状況に合わせて、研究テーマに関する最新の文献を読み進めるのと同時に、論文の各章を書き進め、適宜助言、指導をしながら論文を完成させていく。

Students will write sections and chapters of their MA thesis while continuing to read the most recent literature pertaining to their research areas. Appropriate guidance and instruction tailored to each student's rate of progress will be provided so students can write academic papers with requisite scholarly sophistication.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究成果報告・検討
- 2 回：個別指導（修士論文・課題研究作成指導）
- 3 回：個別指導（修士論文・課題研究作成指導）

- 4回：個別指導（修士論文・課題研究作成指導）
 5回：個別指導（修士論文・課題研究作成指導）
 6回：個別指導（修士論文・課題研究作成指導）
 7回：個別指導（修士論文・課題研究作成指導）
 8回：個別指導（修士論文・課題研究作成指導）
 9回：個別指導（修士論文・課題研究作成指導）
 10回：個別指導（修士論文・課題研究作成指導）
 11回：個別指導（修士論文・課題研究作成指導）
 12回：個別指導（修士論文・課題研究作成指導）
 13回：個別指導（修士論文・課題研究作成指導）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:50% 報告・提出物など:50%

テキスト / Textbooks

教室にて配付

参考文献 / Readings

教室にて指示

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV100
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

美術、アートを中心とする視覚的な表現（物）に関する研究動向を理解し、種々の資料を批判的に読み、適切に修士論文に使用する方法を学び、論文の完成をめざす。

In this seminar students will come to grasp current state of research on the fields of art and visual studies, learn how to read critically and use effectively findings and data when writing their master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

受講生の研究計画に沿って、研究動向の把握、資料の収集と批判、適切な研究手法の援用、論文の執筆法などを指導する。

Guidance and advices will be given on the following: the assessment of the state of research, ways in which necessary sources and documents should be collected and evaluated, methods to be employed or writing skills of theses, based on the research plan of each student.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：履修生の研究計画の確認・論文執筆経過報告の小プレゼンテーション
- 2 回：修士論文指導①

- 3回：修士論文指導②
 4回：修士論文指導③
 5回：修士論文指導④
 6回：修士論文指導⑤
 7回：修士論文指導⑥
 8回：中間報告
 9回：修士論文指導⑦
 10回：修士論文指導⑧
 11回：修士論文指導⑨
 12回：修士論文指導⑩
 13回：修士論文指導⑪
 14回：論文発表会と総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自判断して、必要な準備、復習など遂行すること。

初回に研究計画を発表すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間報告:30% 各回での参加度:40% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

随時参考文献等は紹介する。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV101

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面（一部オンライン）

全授業回のうち2回はオンラインで実施する（5・7回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6513

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

映画研究分野に関連する修士論文あるいは課題研究を完了させる。

To complete a master's thesis or research project related to the field of cinema studies.

授業の内容 / Course Contents

春学期における成果をもとに、映画研究分野に関連する修士論文あるいは課題研究の完成に向けた指導を演習および個別形式で行う。

Building on the outcomes of the spring semester, provide seminars and personalized instruction on how to complete a master's thesis or research project related to the field of cinema studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：研究の進捗状況報告

2 回：研究の進捗状況報告

3 回：文献リストの確認

- 4回：論文の構成および形式の確認
 5回：予備審査論文の確認
 6回：予備審査論文の確認
 7回：個別指導
 8回：個別指導
 9回：個別指導
 10回：個別指導
 11回：個別指導
 12回：個別指導
 13回：口頭試問準備
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッション参加度:25% 授業内発表:25% 最終報告:50%

テキスト / Textbooks

イ・ヒャンジン著 『コリアン・シネマ：北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018
 4622086646 ○

その他、適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

その他、受講者の研究テーマに応じて助言する。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV102
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） Face-to-face
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Collect and analyze data by, for example, using surveys or doing interviews, or create, present, and explain education material in order to complete the Master's thesis under the guidance of the instructor in order to fulfill the research requirements of a Master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

Guidance is given throughout the research process. As students develop and produce work toward their final goal, the instructor provides advice and comments to support the further development of the research. This guidance focuses on the research process, research paper writing, research methods, research design and instrumentation, and where appropriate, research analysis through the use of published research materials and academic texts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course Introduction
- 2 回： Discussion & Thesis Writing Guidance 1
- 3 回： Discussion & Thesis Writing Guidance 2

- 4回：Discussion & Thesis Writing Guidance 3
 5回：Discussion & Thesis Writing Guidance 4
 6回：Discussion & Thesis Writing Guidance 5
 7回：Discussion & Thesis Writing Guidance 6
 8回：Discussion & Thesis Writing Guidance 7
 9回：Discussion & Thesis Writing Guidance 8
 10回：Discussion & Thesis Writing Guidance 9
 11回：Discussion & Thesis Writing Guidance 10
 12回：Discussion & Thesis Writing Guidance 11
 13回：Presentation Preparation
 14回：Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are to find and review published academic material that is related to their research topic, to discuss their work with peers, and to consult with the instructor about presenting their work at an academic conference or symposium.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reports (written):35% Reports (oral):35% Presentation:30%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

To be given by the instructor.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV103
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自が設定した研究テーマについて、教員の指導の下に個別研究を実施し、修士論文につながる成果をまとめられるようにすること。

The aim of this course is to conduct individual research on students' research topic under the guidance of teaching staff and ensure they can summarize findings in a way that is conducive to writing a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

受講学生は自身の進捗状況に合わせて、研究テーマに関する文献を読み進めると同時に、論文の各章を書き進め、適宜、助言、指導を得ながら論文を完成させていく。

Students will read literature related to their research topic, write chapters of their MA thesis on their progress, and complete their thesis with advice and guidance as appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：これまでの成果の報告
- 2 回：修士論文・課題研究作成指導
- 3 回：修士論文・課題研究作成指導

- 4回：修士論文・課題研究作成指導
 5回：修士論文・課題研究作成指導
 6回：修士論文・課題研究作成指導
 7回：修士論文・課題研究作成指導
 8回：修士論文・課題研究作成指導
 9回：修士論文・課題研究作成指導
 10回：修士論文・課題研究作成指導
 11回：修士論文・課題研究作成指導
 12回：修士論文・課題研究作成指導
 13回：修士論文・課題研究作成指導
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テーマに関連する文献の収集,論文の執筆

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:50% 報告・提出物など:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

適宜関連する文献を紹介する。

その他 / Others

スケジュールや内容は調整する場合がある。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

松下 佳世 (MATSUSHITA KAYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV104
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 必要に応じて、ゲスト講師を招く際などにオンライン授業に切り替えることがある（1 - 3 回程度）。
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これまでに行った調査・研究や学んだ理論・方法論を用いて、通訳翻訳分野に関連する修士論文ないし課題研究を完成させる。

Building on theories and methods learned and research carried out in the previous semester, students will complete a master's thesis or a research project in the field of Translation and Interpreting Studies (TIS).

授業の内容 / Course Contents

これまでの成果を踏まえ、通訳翻訳分野に関連する修士論文あるいは課題研究を完成させるために必要な指導を受ける。週ごとの指導は、人数に応じて、ディスカッションと個別指導を組み合わせた形で実施される。修士論文・課題研究の提出ならびに口頭試問の前には、集中的な指導が行われる。

Based on the outcomes of the previous semesters, students will receive the necessary instruction on how to complete a master's thesis or a research project in TIS. Weekly sessions will be carried out either in the form of group discussions or individual consultations, depending on the number of students. Specific guidance and intensive support will be provided before submitting the master's thesis/research project and taking the oral

exam.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究の進捗報告
- 2 回：研究の進捗報告
- 3 回：構成と形式の確認
- 4 回：文献リストの確認
- 5 回：予備審査論文の確認
- 6 回：予備審査論文の確認
- 7 回：中間発表（通訳翻訳領域内で実施）
- 8 回：中間発表の振り返り
- 9 回：課題点の整理と修正 1
- 10 回：課題点の整理と修正 2
- 11 回：修士論文・研究課題の提出に向けた最終作業 1
- 12 回：修士論文・研究課題の提出に向けた最終作業 2
- 13 回：口頭試問準備
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

修士論文または研究課題の提出に向け、文献講読、予備的調査、本調査、実験、フィールドスタディ、結果の分析・考察、執筆などを自らのペースで進めること。また、進捗状況について、面談時またはメール等で適宜報告すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究の進捗と成果:30% 中間発表:30% 最終報告:40%

テキスト / Textbooks

テキストは指定せず、受講生の理解度や言語の習熟度にあわせて、授業内で適宜指示または配布する。

参考文献 / Readings

Claudia V. Angelelli & Brian James Baer Researching Translation and Interpreting Routledge 2016
9780415732543

その他、研究内容に応じて別途指示する。

その他 / Others

各週ごとの学習内容や課題は、受講者の特性や人数、研究テーマによって臨機応変に変更される。不明点は直接教員まで連絡のこと。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

森 聡美 (MORI SATOMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV105
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

バイリンガリズム・言語習得に関する修士論文の完成に向けて、文献をさらに読み進めながら、研究方法や結果の解釈、考察の導き方等を身につけ、論文執筆を実践する。

In preparation for completing a master's thesis related to bilingualism and language acquisition, students will learn how to interpret and consider research methods and findings through reading more literature. Students will then commence writing their thesis.

授業の内容 / Course Contents

受講者の進捗状況に合わせて、研究テーマに関する最新の文献を読み進めるのと同時に、論文の各章を書き進め、適宜助言、指導をしながら論文を完成させていく。

While continuing to read the most recent literature from their research area, students will proceed with writing the chapters of their thesis. Appropriate guidance and instruction, tailored to each student's rate of progress, will be provided in order to bring their academic papers to completion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- 2回：研究調査・論文執筆の指導 1
 3回：研究調査・論文執筆の指導 2
 4回：研究調査・論文執筆の指導 3
 5回：研究調査・論文執筆の指導 4
 6回：研究調査・論文執筆の指導 5
 7回：研究調査・論文執筆の指導 6
 8回：研究調査・論文執筆の指導 7
 9回：研究調査・論文執筆の指導 8
 10回：研究調査・論文執筆の指導 9
 11回：研究調査・論文執筆の指導 10
 12回：研究調査・論文執筆の指導 11
 13回：研究調査・論文執筆の指導 12
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度 (討論、質疑応答など) :50% 報告およびレポートなどの提出物:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で、担当教員が適宜指示する。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV107
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

各自が設定したテーマについて、教員の指導の下に個別研究を実施し、修士論文を完成させること。

To conduct individual research on a topic of your choice with guidance and complete writing a mater's thesis.

授業の内容 / Course Contents

これまでの成果を踏まえながら、課題となる点について検討し、改善を重ねる。修士論文の各セクションを改善しつつ、データ分析と考察を通して得られた知見を論文としてまとめることができるように指導する。

Based on the students' progress, we will consider what can be improved in each individual's research project, and make improvements as needed in their research and master's theses. Appropriate guidance will be provided to enable the students to improve each section (e.g., literature review) of their theses and to organize data and develop insights for their theses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：進捗状況の報告
- 2 回：序章の提出・検討
- 3 回：先行研究に関する章の提出・検討（1）

- 4回：先行研究に関する章の提出・検討（2）
 5回：研究方法に関する章の提出・検討（1）
 6回：研究方法に関する章の提出・検討（2）
 7回：データ分析に関する章の提出・検討（1）
 8回：データ分析に関する章の提出・検討（2）
 9回：考察・結論に関する章の提出・検討（1）
 10回：考察・結論に関する章の提出・検討（2）
 11回：改善にむけて（1）
 12回：改善に向けて（2）
 13回：口頭試問に向けて
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業でカバーされる修士論文の各セクションに関する学びを活かしつつ、目次の執筆可能なところから、修士論文を執筆してください。The Rikkyo Style を手元に置いて、引用の仕方、参考文献の表記法が適切か常に確認してください。学部事務から連絡がある、修士論文の提出法に関する文章は必ずよく読んで、提出期間と提出方法を確認してください。慌てずに、提出期間の早い段階で提出できるよう、しっかりと準備を進めてください。公開されている修士論文も参考にして、執筆と改善を進めてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:30% 発表:30% 課題レポート:40%

テキスト / Textbooks

なし。履修生のニーズに応じて、資料を準備します。

参考文献 / Readings

適宜関連する文献を紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

修士論文を完成させ、口頭試問で合格するために、論理的思考力、批判的思考力、情報収集力、情報（データ）分析力、情報構成力、文章校正力、口頭での発信力、質疑応答での対応力などが求められます。

その他 / Others

ゼミホームページ：<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/icss/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV109
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、論文執筆の方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を進める。

Strive to clarify research themes and methodologies, learn methods for writing academic papers and other basic knowledge and skills required to write master's theses, and make progress on writing theses.

授業の内容 / Course Contents

文化人類学関連科目の履修によって得られる専門知識を踏まえて、関心を有するテーマについて国内外の先行研究の現状、課題および研究方法を把握し、各自の研究テーマへと高めていく。また、研究テーマに即した研究発表をしてもらいながら、論文執筆に関する具体的な指導をしていく。

Based on the expert knowledge gained from taking courses about cultural anthropology, students will gain a full understanding of the present state, issues and methodologies of previous research conducted inside and outside Japan on themes of their interest, and work toward enhancing their research themes. In addition, the instructor will give detailed instruction on thesis writing as students present their research in line with their research themes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入、授業の概要
- 2回：論文執筆指導（1）
- 3回：論文執筆指導（2）
- 4回：論文執筆指導（3）
- 5回：論文執筆指導（4）
- 6回：論文執筆指導（5）
- 7回：論文執筆指導（6）
- 8回：論文執筆指導（7）
- 9回：論文執筆指導（8）
- 10回：論文執筆指導（9）
- 11回：論文執筆指導（10）
- 12回：論文執筆指導（11）
- 13回：論文執筆指導（12）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加態度：60%

最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

指導の中で適宜指示します。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

佐竹 晶子 (SATAKE AKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV110
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The aim of this course is to complete the master's thesis and to successfully defend it.

授業の内容 / Course Contents

Students will continue to read references and texts as needed and report on adjustments made in their argument as they write and edit chapter by chapter.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Report of the progress made during the summer holiday
- 2 回：Research and writing guidance 1
- 3 回：Research and writing guidance 2
- 4 回：Research and writing guidance 3
- 5 回：Research and writing guidance 4
- 6 回：Research and writing guidance 5
- 7 回：Research and writing guidance 6
- 8 回：Research and writing guidance 7

- 9回：Writing guidance 1
10回：Writing guidance 2
11回：Writing guidance 3
12回：Writing guidance 4
13回：Preparation for the oral examination
14回：Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

To be instructed in class

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation and oral reports:50% Submitted writings:50%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション研究科
科目コード等：	VV111
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC6513
使用言語：	その他
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

これまでの調査や考察の結果をまとめ、修士論文を完成する。

In this course students will summarize the results of surveys and studies conducted, and complete writing a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

言語学（特に意味論やその関連領域、またはスペイン語学）の研究テーマでの修士論文の作成に向けて、これまでの調査や考察の結果をまとめるための指導を行う。論文の構成や、必要に応じて更なる考察についての指導を行う。基本的に個別指導とするが、適宜学生間の討論なども行う。

Instruction on how to summarize the results of surveys and studies will be provided in preparation for writing a master's thesis on a research topic within Linguistics (specifically, semantics and related areas, or Spanish linguistics). Provide guidance on thesis structure and any other areas requiring further consideration. Generally personalized instruction will be used, but activities such as student debates will also be carried out where appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：これまでの進捗状況の発表
- 2回：考察内容の検討（1）
- 3回：考察内容の検討（2）
- 4回：修士論文作成の指導（1）
- 5回：修士論文作成の指導（2）
- 6回：修士論文作成の指導（3）
- 7回：修士論文作成の指導（4）
- 8回：修士論文仕上げに向けての中間報告
- 9回：修士論文作成の指導（5）
- 10回：修士論文作成の指導（6）
- 11回：修士論文作成の指導（7）
- 12回：修士論文作成の指導（8）
- 13回：修士論文作成の指導（9）
- 14回：最終報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）：40% 中間報告：30% 最終報告：30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

高橋 里美 (TAKAHASHI SATOMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV113
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の本調査の結果をまとめ、考察を加え、期限までに論文を完成させる。

In this seminar, students will write up the results and discussion sections and complete their theses on time.

授業の内容 / Course Contents

第二言語習得およびその関連領域の研究テーマに関する修士論文の完成に向けて、具体的な指導をしていく。

修士論文の研究テーマについて本調査結果をまとめ、考察を加え、修士論文を完成させる。なお、予備審査（仮提出）までに、論文全体の執筆を終了させることを目指す。当演習は、基本的に各自の研究テーマに沿った個別指導とするが、随時、受講者間の討議も入れていく。

Students will receive constructive guidance from the instructor in their efforts to complete their theses in second language acquisition (SLA) or related academic areas. Students should aim to write up their theses with full length results and discussion sections. It would be advisable for students to complete everything at the time of the preliminary examination. This seminar is primarily a tutorial for individual students, providing them with opportunities for occasional discussions with each other.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
 2回：論文執筆の個別指導（1）
 3回：論文執筆の個別指導（2）
 4回：論文執筆の個別指導（3）
 5回：論文執筆の個別指導（4）
 6回：論文執筆の個別指導（5）
 7回：論文執筆の個別指導（6）
 8回：論文執筆の個別指導（7）
 9回：論文執筆の個別指導（8）
 10回：論文執筆の個別指導（9）
 11回：論文執筆の個別指導（10）
 12回：論文執筆の個別指導（11）
 13回：論文執筆の個別指導（12）
 14回：論文執筆の個別指導（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）:50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業支援システムとして「Canvas LMS」を使用する。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

武田 珂代子 (TAKEDA KAYOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV114
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

翻訳・通訳に関連する修士論文・課題研究を完成させる。

To complete a master's thesis or a graduate research project related to translation and interpreting.

授業の内容 / Course Contents

翻訳・通訳に関連する修士論文・課題研究についてクラスまたは個人面談で助言を受けながら執筆を進め、完成される。

Seminars and individual advising for students to continue research from the previous semester and complete a master's thesis or a graduate research project related to translation and interpreting.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究の進捗状況報告
- 2 回：研究の進捗状況報告
- 3 回：文献リストの確認
- 4 回：論文の構成および形式の確認
- 5 回：予備審査論文の確認

- 6回：予備審査論文の確認
 7回：個別指導
 8回：個別指導
 9回：個別指導
 10回：個別指導
 11回：個別指導
 12回：個別指導
 13回：口頭試問準備
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終報告:50% ディスカッション参加度:25% 授業内発表:25%

テキスト / Textbooks

武田珂代子編著 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135 ○

その他、適宜資料を配付する。

参考文献 / Readings

Saldanha, G. & O'Brien, S. Research Methodologies in Translation Studies St. Jerome 2013
 9781909485006

Williams, J. and Chesterman, A The Map: A beginner's guide to doing research in translation studies St.
 Jerome 2002 1900650541

ピム・A 『翻訳理論の探求』 みすず書房 2010 4622075180

その他、受講者の研究テーマに応じて助言する。

その他 / Others

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Kayoko Takeda's works http://works.bepress.com/kayoko_takeda/

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV115
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

受講者は研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究を理解したうえで、研究テーマを具体化する。研究テーマに関連する先行研究のレビューなどを発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

Students will read and review scholarly studies relevant to their thesis and will present their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（1）
 3回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（2）
 4回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（3）
 5回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（4）
 6回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（5）
 7回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（6）
 8回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（7）
 9回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（8）
 10回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（9）
 11回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（10）
 12回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（11）
 13回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（12）
 14回：研究テーマの設定・先行研究・論文の構成について（13）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

論理学を学んだことがない場合、例えば野矢茂樹著（2006）『新装 論理トレーニング』（産業図書）や同著者（2020）『まったくゼロからの論理学』（岩波書店）などを用いた独習を勧める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で担当教員が適宜指示する。

また、上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内では情報機器は不要。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

中田 達也 (NAKATA TATSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV116
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士論文作成に向けて、研究テーマ、研究方法の明確化を図るとともに、資料の探し方、解釈の仕方、論文執筆の具体的な方法等、論文作成に必要な基礎知識と能力を身につけ、論文執筆を実践する。

To help students prepare for the writing of their master's thesis, this course aims to provide them with the requisite foundational knowledge and the skills needed to write and structure an academic paper. In addition, this course will aid the clarification of their research themes and methodologies. Further, students will also learn the methods of reading and analyzing research materials and relevant literature.

授業の内容 / Course Contents

講義・演習および個別指導を通して、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、データを収集、研究成果を論文として発表する能力を養う。また、受講生各自の研究の進捗状況に関する発表や討議も行う。

Through lectures and tutorials, students will learn to (a) critically evaluate previous literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish findings in the form of academic papers. Students will also be required to present and to discuss their ongoing research projects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：論文執筆指導 1
- 3回：論文執筆指導 2
- 4回：論文執筆指導 3
- 5回：論文執筆指導 4
- 6回：論文執筆指導 5
- 7回：論文執筆指導 6
- 8回：論文執筆指導 7
- 9回：論文執筆指導 8
- 10回：論文執筆指導 9
- 11回：論文執筆指導 10
- 12回：論文執筆指導 11
- 13回：論文執筆指導 12
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

修士論文指導演習 B

Master's Thesis Supervision B

日下部 尚徳 (KUSAKABE NAONORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV117
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6513
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 自動登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 国際協力分野の先行研究に、自身の調査・分析結果を位置づけられるようにする。
 - 各自が設定した研究テーマについて教員の指導の下に個別研究を実施し、修士論文につながる成果をまとめられるようにする。
- To position individual research/analysis in the previous researches on international cooperation.
 - To conduct individual research on a topic of your choice and consolidate findings in a way that is conducive to writing a master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

国際協力、途上国の開発に関する具体的現象を研究対象に、理論的枠組、分析、考察する方法、研究対象についての専門知識を踏まえながら、先行研究および研究方法の動向を理解したうえで、研究テーマ、方法を具体化する。受講者は研究テーマに関連する先行研究のレビュー、研究対象についての調査成果を発表し、議論をしながら論文執筆に関する具体的な指導を行う。

This course aims to help students precisely determine a research topic and method for their thesis. To achieve this goal, students will have to engage with texts on theoretical foundations, research methods, and scientific

discussions relating to international cooperation and development. Students will review relevant research and will present their own ideas for research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Orientation
- 2回：Education and Academic Writing
- 3回：Education and Academic Writing
- 4回：Education and Academic Writing
- 5回：Preparation for Presentation
- 6回：Preparation for Presentation
- 7回：Presentation
- 8回：Reflection and Wrap-up
- 9回：Presentation
- 10回：Reflection and Wrap-up
- 11回：Presentation
- 12回：Reflection and Wrap-up
- 13回：Academic Writing (final check)
- 14回：Final Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論，質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物，各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

指導の中で，担当教員が適宜指示する。

その他 / Others

フィードバックは随時授業内で行う。

言語教育研究基礎論

Introduction to Language Education Research

細田 雅也 (HOSODA MASAYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV151

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC5130

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- テキスト理解の理論と実証的証拠を理解している。
- テキスト理解の理論と実証的証拠に基づき効果的な読解指導や学習を考察できる。
- Students understand theories and empirical findings of text comprehension.
- Students can devise effective second-language learning and instruction based on theoretical and empirical findings of text comprehension.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、外国語による文章理解に関する理論と実証的知見を学び、効果的な英文読解指導について考える。

具体的には、受講生はテキスト理解や第二言語読解の研究論文を読み込み、その内容を授業でプレゼンテーションする。そして研究の手法、結果、考察、理論的、教育的意義についてディスカッションを行う。

これらの活動を通して、外国語における読解を効果的に指導したり、学習したりできる方法について考察する。

In this course, students will learn theories and empirical findings of text comprehension and consider effective

reading instruction in a foreign language.

Students will read research papers on text comprehension and second language (L2) reading, and make presentation in class. They will then discuss the methods, results, and its theoretical and educational implications.

Through these activities, students will explore methods for effectively instructing and learning reading in a foreign language.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：テキスト理解とは
- 3回：テキスト理解の理論モデル 1
- 4回：テキスト理解の理論モデル 2
- 5回：外国語と母語でのテキスト理解の違い 1
- 6回：外国語と母語でのテキスト理解の違い 2
- 7回：Standards of coherence 1
- 8回：Standards of coherence 2
- 9回：母語話者を対象とした読解教示 1
- 10回：母語話者を対象とした読解教示 2
- 11回：外国語学習者を対象とした読解教示 1
- 12回：外国語学習者を対象とした読解教示 2
- 13回：理論と実証的知見に基づく読解指導のあり方の検討 1 & フィードバック
- 14回：理論と実証的知見に基づく読解指導のあり方の検討 2 & フィードバック

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自担当する文献をしっかりと読み込み、そのプレゼンテーションを準備を確実に行うことが求められる。また、毎回の授業の後に授業で扱われた文献を自分で読み直し、自分のことばでまとめ直すことが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% プレゼンテーション:30% ディスカッション:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

授業で関連論文、書籍を紹介する。

参考文献 / Readings

授業で関連論文、書籍を紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語リーディングや文章理解に興味があること。

20～40 ページの英語の関連文献を数日で読み込み、その内容を理解できること（英検準1級程度の英語力が望

ましい)。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCを毎回持参すること。

通訳翻訳研究基礎論

Introduction to Translation and Interpreting Research

通訳翻訳研究へのアプローチ

(Approaches to translation and interpreting research)

武田 珂代子／未定 (TAKEDA KAYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV152

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC5233

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

通訳通訳研究の起源と展開について基本的な理解を得るとともに、通訳通訳研究におけるさまざまなアプローチや研究方法を学ぶ。特に、履修生の修士論文研究に関連するものに焦点を当てる。

To gain basic understanding of the origins and evolution of Translation and Interpreting Studies and to learn about different approaches to and methods in translation and interpreting research, with focus on those relevant to students' MA research.

授業の内容 / Course Contents

翻訳とは何か、通訳とは何かについての議論から始まり、通訳通訳研究の起源と展開、鍵となる概念や理論を含む通訳通訳研究の概要について学ぶ。次に、通訳通訳研究におけるさまざまなアプローチや研究方法に焦点を当てる。履修者は研究方法に関するプレゼンテーションを行い、最終レポートを提出する。

Starting with discussion on what translation is and what interpreting is, this course provides an overview of Translation and Interpreting Studies, including its origins and evolution, and key concepts and theories. Then it

focuses on different approaches to and methods in translation and interpreting research. Students are required to give a presentation on research methods and submit a final report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Key concepts and theories in Translation and Interpreting Studies
- 2 回：Product-oriented research
- 3 回：Process-oriented research
- 4 回：Sociocultural approaches
- 5 回：Historical research
- 6 回：Research questions and hypotheses
- 7 回：New trends in Translation Studies
- 8 回：Quantitative and qualitative analysis
- 9 回：Data-driven research (1)
- 10 回：Data-driven research (2)
- 11 回：Fallibility and science
- 12 回：Designing a research
- 13 回：Student presentations
- 14 回：Student presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to complete a reading assignment every week. At the end of the course, students are required to give a presentation on research methods and submit a final report.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation in class:30% In-class presentation:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Saldanha, G., & O'Brien, S. Research Methodologies in Translation Studies Routledge 2014
9781909485006 ○

参考文献 / Readings

Williams, J., & Chesterman, A. The Map: A Beginner's Guide to Doing Research in Translation Studies St. Jerome 2002 9781900650540

鳥飼玖美子 (編著) 『よくわかる翻訳通訳学』 ミネルヴァ書房 2013 9784623067275

武田珂代子 (編著) 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135

その他、随時必要に応じて、授業時に提示する。

その他 / Others

TI@Rikkyo <https://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/index.html>

コミュニケーション研究基礎論

Introduction to Communication Studies

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV153
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC5330
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、コミュニケーション研究に関する様々な知見に触れながら、コミュニケーションを研究する上で必要となる基礎的な知識を身につけることを目的とする。

The aim is to acquire the basic knowledge and perspectives required for conducting communication research by reading a wide range of literature in Communication Studies and related fields.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション学とその他の関連分野におけるコミュニケーション研究を取り上げながら、コミュニケーションを学術的に分析する際に求められる視点、概念ならびに理論・モデルを学んでいく。併せて、コミュニケーション研究の歴史や最近の研究動向についても取り上げる。

By focusing primarily on communication research in the areas of Communication Studies and some related fields, students will learn major perspectives, concepts, and theories/models needed to conduct communication research. We will also learn the historical development of Communication Studies as a field of research and familiarize ourselves with recent trends in the field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業概要、コミュニケーション研究のテーマとアプローチ
- 2 回：コミュニケーション研究の歴史と系譜
- 3 回：コミュニケーションとは何か？
- 4 回：記号としての言語：意味生成のプロセス
- 5 回：コミュニケーションの非言語的要素
- 6 回：アイデンティティと対人コミュニケーション
- 7 回：集団・組織とコミュニケーション
- 8 回：コミュニケーション教育（communication education）：コミュニケーション能力を再考する
- 9 回：パワーとコミュニケーション
- 10 回：メディアとコミュニケーション
- 11 回：異文化コミュニケーション
- 12 回：日本における異文化コミュニケーション教育の今日的課題
- 13 回：環境とコミュニケーション
- 14 回：期末レポート発表会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

大学院科目ということもあり、授業外での受講者の積極的かつ自発的な取り組みが求められる。まず、発表を担当する論文を読み込み、その内容を整理するだけでなく、批判的に検討して自分の意見を述べられるようにしておいてください。発表資料（パワーポイント）は、事前に担当教員にメール添付で送付してください。自分の研究と授業で扱う論文で提示される視点、概念、理論的・方法論的枠組み、結果等がいかに関連しているかを考え、比較のうえで自分の研究を明確化し、発展させるように努めてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加・貢献度（レポートを除く各種提出物を含む）:30% 口頭発表:20% 小レポート:20% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

なし。適宜資料を配布もしくは紹介する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

コミュニケーション研究を学際的な観点から考察するため、授業で読むさまざまな研究領域の論文に積極的に取り組む姿勢が求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業の資料を事前に CanvasLMS で共有しますので、必要に応じて印刷するか、パソコン等で読めるようにしておいてください。

異文化コミュニケーション研究基礎論

Introduction to Intercultural Communication Research

灘光 洋子 (NADAMITSU YOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV154
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC5330
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーション領域の研究における視座や理論への理解を深める。

To develop deeper understanding of perspectives and theories in the field of Intercultural Communication.

授業の内容 / Course Contents

異文化コミュニケーション領域の研究における理論入門コース。異文化コミュニケーション領域における概念や理論に関する主要文献を精読し、「彼ら」と「我々」の間に生じる相互作用について考察する。「異文化」を感じるコミュニケーションの場で、何が起きているのか、それがどのように現れているのか、背後にはどのような要素が絡んでいるのかについて考えていきたい。事前に配付資料（テーマに関連した文献）を読んてくること。クラスは、講義、発表、質疑応答を中心に進める。

This is an introductory course to the theories of Intercultural Communication. We will read the key literature and articles associated with central concepts and issues in the field of Intercultural Communication. The main objective is to deepen our understanding of aspects and mechanisms of interactions between and among people from different cultures and explore the realities behind the scene.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：コミュニケーションについて
- 3回：異文化コミュニケーションについて
- 4回：言語メッセージの力(1)
- 5回：言語メッセージの力(2)
- 6回：非言語メッセージの力 (1)
- 7回：非言語メッセージの力 (2)
- 8回：コミュニケーション、シンボル、解釈について
- 9回：コミュニケーションとアイデンティティ (1)
- 10回：コミュニケーションとアイデンティティ (2)
- 11回：カルチャー・ショックと異文化適応
- 12回：多文化共生と多文化主義
- 13回：日常生活に見られる異文化コミュニケーション
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習範囲や課題は、授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表および討議への貢献度:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

毎回、関連文献を Canvas に掲載する。

参考文献 / Readings

Chen, L. Intercultural communication Walter de Gruyter

Griffin, E., Ledbetter, A., & Sparks, G. A first look at communication theory Mcgraw Hill

Gudykunst, W. B. Theorizing about intercultural communication Sage

池田理知子 『よくわかる異文化コミュニケーション』 ミネルヴァ書房

八島智子・久保田真弓 『異文化コミュニケーション論』 松柏社

その他 / Others

履修者の積極的な討議参加を求める。各自、十分に文献を読み込んでくることを前提に授業を進める。

授業内容のテーマや順番は進捗状況に応じて変更する可能性がある。

グローバル文化研究基礎論

Introduction to Global Cultural Studies

Introduction to Film Theories

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV155

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面（一部オンライン）

全授業回のうち2回はオンラインで実施する（5・7回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC5430

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化に伴う文化や言語の接触、混淆の現象、また異文化表象について、映像研究の立場から論じるために重要な理論の抜粋を読み考察する。各理論の背景などに留意しながら批判的に理論を考察する力をつけ、各自の研究テーマに応用する可能性を検討する。

In this course, students will read and reflect on excerpts from important theories and will subsequently utilize the viewpoint of film studies to discuss the interactions between cultures and languages, the phenomenon of intermixing, and intercultural expression brought about by globalization. Additionally, the module will help students develop the ability to critically consider film theories while accounting for their backgrounds and other factors, and to investigate the possibilities of applying this skill to individual research themes.

授業の内容 / Course Contents

人や資本の境界を越えた移動に伴う文化の変容や文化接触、異文化表象について、オリエンタリズム、ネイン

ョン、植民地主義、帝国主義、ジェンダー、エスニシティなどの問題点に着目した映像研究論文を読み、議論を行う。

This course aims to help students to read and discuss academic papers informed by film studies that focus on orientalism, nations, colonialism, imperialism, gender and sexuality, ethnicity, and other issues in the cultural transformation, interaction, and intercultural expression brought about by movements that exceed the limits of human beings and capital.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：グローバル化と映像文化について
- 2回：理論とケーススタディ1：作家主義とジャンル論
- 3回：理論とケーススタディ2：形式主義、構造主義とポスト構造主義
- 4回：理論とケーススタディ3：マルクス主義とリアリズム
- 5回：理論とケーススタディ4：ポストモダニズムとサイコアナリシス
- 6回：理論とケーススタディ5：フェミニズムと男性らしさ
- 7回：理論とケーススタディ6：クィア理論
- 8回：映像文化分析の実践1：オリエンタリズム
- 9回：映像文化分析の実践2：ネイション
- 10回：映像文化分析の実践3：エスニシティ
- 11回：映像文化分析の実践4：ジェンダーとセクシュアリティ
- 12回：映像文化分析の実践5：植民地主義・帝国主義
- 13回：映像文化分析の実践6：ポストコロニアルとトランスナショナル映画
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参加者の発表と議論を中心に授業をすすめる。フィードバックは随時授業内で行う。

基本的に対面授業だが必要に応じて、履修者と相談する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および議論への積極的な参加:30% 授業内での口頭発表:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

Ruth Doughty and Christine Etherington-Wright Understanding Film Theory Bloomsbury 2022
9781137587947 -

D・ボードウェル・K・トンプソン Film Art - Introduction to Movie Art 名古屋大学出版会 2007
9784622086642 -

参考文献 / Readings

本橋哲也 『カルチュラル・スタディーズへの招待』 大修館書店 2002 9784255556345

国際協力・人類学基礎論

Foundations of International Cooperation and Anthropology

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV156
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 対面（一部オンライン）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC5330
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ラテンアメリカにおけるキリスト教宣教を主題とし、メキシコを舞台に言語と文化の翻訳の問題を扱った Nancy Fariss のモノグラフ *Lenguas de fuego en la evangelización de México (Siglos XVI-XVIII)* を全編読む。スペイン語を読める学生がない場合は英語版の *Tongues of Fire: Language and Evangelization in Colonial Mexico (2018)* を利用する。

Read the entire monograph *Lenguas de fuego en la evangelización de México (Siglos XVI-XVIII)* by Nancy Fariss on the subject of Christian evangelization in Latin America and issues of linguistic/cultural translation of Christian doctrines in Mexico. If no students can read Spanish, we use the English version *Tongues of Fire: Language and Evangelization in Colonial Mexico (2018)*.

授業の内容 / Course Contents

- ・スペイン領アメリカ植民地のキリスト教布教をめぐる諸問題の構造を理解する。
 - ・キリスト教布教に伴う言語と翻訳についての論争史を把握する。
- To understand the structure of the issues surrounding Christian evangelization in the colonial Spanish Americas.

- To understand the history of the controversy over the linguistic/cultural translation of Christian concepts and doctrines.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（オンライン）
- 2回：講義
- 3回：講読：Chap. 1
- 4回：講読：Chap. 2（オンライン）
- 5回：講読：Chap. 3
- 6回：講読：Chap. 4（オンライン）
- 7回：講読：Chap. 5
- 8回：講読：Chap. 6（オンライン）
- 9回：講読：Chap. 7
- 10回：講読：Chap. 8（オンライン）
- 11回：講読：Chap. 9
- 12回：講読：Chap. 10（オンライン）
- 13回：講読：Chap. 11
- 14回：まとめ（オンライン）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読箇所のレジюмеとコメント作成

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レジюме作成と毎回のコメント:60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Nancy Fariss Tongues of Fire: Language and Evangelization in Colonial Mexico Oxford University Press
2018 9780190884109

Nancy Fariss Lenguas de fuego en la evangelización de México (Siglos XVI-XVIII) El Colegio de Michoacán,
El Colegio de México y University of Pennsylvania 2020 9786075441023

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

スペイン語か英語で難解な文献を講読できること。関連分野に関する背景知識がないのであれば予習に時間と労力を割けること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし

調査研究方法論A

Research Methods A

質的研究法

Qualitative research method

時津 倫子 (TOKITSU TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV157

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 講義した内容に関わる課題がほぼ毎回あります。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC5530

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

質的研究の研究計画から論文執筆に至るプロセスに必要な知識と技術を習得すること。

To acquire the knowledge and skills needed during the process of planning and writing an academic report for a qualitative research project.

授業の内容 / Course Contents

質的研究を適用するにふさわしいリサーチクエスション，研究対象の選定と倫理的問題，質的研究のためのデータの集め方，質的研究の種類，質的データの分析法，質的研究のための論文作法についての講義と演習。

Students will learn about how to conduct qualitative research. This course will consider topics such as types of qualitative research, suitable research questions, data collection and analysis, ethical issues, and report writing for qualitative research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：質的研究とは。質的研究と量的研究の比較。質的研究に合うテーマ，合わないテーマ（講義）

2回：質的研究を始める前に考えておくこと。

あなたは質的研究に向いている？向いていない？

倫理的問題について。あなたの研究は、人を傷つけていませんか？

3回：質的研究の始め方

先行研究を読んでまとめてみる。誰を対象に、どんな方法でデータを集めている？

あなたの研究は、誰を対象に、どんな方法でデータを集めますか？

4回：質的研究の計画

考えておくべき8つのポイント

5回：フィールドに入る前に：コンタクトの取り方・「参加」しながら「研究」すること

あなたのフィールドとあなたの立ち位置

6回：データの取り方

データとは？データをとる方法（インタビュー、観察、文書資料や動画、自己省察）

7回：記録のとり方

何を記録するのか。フィールドメモ。メモからフィールドノート。録画。

8回：データの整理：分析のための準備

データ分析の進め方。集めて、整理して、バラバラにして、また集める。

データのコーディング。

9回：データの分析：データを解釈する

記述、説明、解釈、結論

10回：データの見せ方 並べ方

ナラティブデータの配置

図表の示し方

写真、イラストなどの使い方

プレゼンテーションのためのスライドの作り方

11回：質的研究論文を書く

誰に向けて書く？ 何のために書く？誰の声を書く？

12回：質的研究論文の評価基準：APAスタンダードでの評価の観点

13回：社会科学としての質的研究 アートとしての質的研究

14回：あなたはどんな研究がしたいですか？ 何を知りたいですか？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：授業中に指示された教科書の箇所や、配付された資料を読む。（資料はCanvasからPDF配布）

復習：授業中に指示された課題を遂行する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の課題提出:60%

最終レポート割合 :40%

テキスト/ Textbooks

プリント配布

参考文献 / Readings

Yin,R Qualitative research from start to finish Guilford 2016 1462517978

佐藤郁哉 『フィールドワークの技法：問いを育てる仮説をきたえる』 新曜社 2002 4788507889

Corbin,J,Strauss,A/ 操華子・森岡崇訳 『質的研究の基礎：グラウンデッドセオリーの技法と手順（第3版）』 医学書院 2012 4260012010

箕浦康子 『フィールドワークの技法と実際II』 ミネルヴァ書房 2009 9784623053551

プラサド／箕浦監訳 『質的研究のための理論入門』 ナカニシヤ出版 2018 9784779512230

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

あなたのリサーチクエスションは何ですか？ 何を知りたいですか？ 誰のことを知りたいですか？それにふさわしい方法は何ですか？

講義を受けながら、課題をこなしながら、上記のような質問についてくりかえし自問自答することになります。考え続けることは苦しいですが、それに耐えられるだけの研究関心を持ち続けていただきたいと思っています。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料配布，課題提出には Canvas を利用します。レポートは原則として PDF ファイルで提出してください。

その他/ Others

研究は知への旅です。苦しいことも楽しいこともたくさんあります。一緒に旅を楽しみましょう。

調査研究方法論B

Research Methods B

統計学・量的研究

萱 忠義 (KAYA TADAYOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV158

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）全授業回のうち7回はオンラインで実施する（2・4・6・8・10・12・14回目の授業）。

オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC5530

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

調査や実験で得られたデータの処理方法や分析方法について学び、統計学的な知識と実践的調査技能を身につける。

To learn how to process and analyze data obtained from surveys and experiments, and acquire statistical knowledge and practical research skills.

授業の内容 / Course Contents

リサーチデザインおよび量的データを扱う上で必要となる基本的な統計知識を学ぶ。また、統計分析結果を解釈し、結論を導く手法を学習する。毎回の授業では、前半を講義形式または発表形式で行い、後半を討論形式で行う。教室内活動や討論では、学生は積極的に自分の意見を述べるのが求められる。なお、授業や文献講読では英語および日本語を使用する。また、統計に関するビデオの閲覧も行う。

Students will learn research design and basic statistical knowledge necessary for quantitative data analyses, so that they can interpret the results of their projects and draw their conclusions. In each class, the first half will be

conducted in a lecture or presentation format, and the second half in a discussion format. Students are required to be proactive in order to express their opinions, and the instructor will act as a facilitator for classroom activities and discussions. The lectures will be conducted both in English and in Japanese.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：研究デザイン：どう研究計画を立てるのか？
- 3回：妥当性と信頼性：テストはどう作るのか？
- 4回：比率尺度，間隔尺度，順序尺度，名義尺度：テストのデータには何種類あるのか？
- 5回：平均値，中央値，最頻値：データはどう解釈するのか？
- 6回：分散，標準偏差，標準得点，偏差値：データはどう解釈するのか？
- 7回：t検定：2つのグループの差はどう示すのか？
- 8回：有意差と効果量：検定結果をどう解釈するのか？
- 9回：分散分析：多数のグループ間の差はどう示すのか？
- 10回：ノンパラメトリック検定：データ量が少ないときどうするのか？
- 11回：相関分析：データの関係性ってどう示すのか？
- 12回：回帰分析：欠損データはどう扱うのか？
- 13回：カイ二乗検定：アンケートはどう処理するのか？
- 14回：総括および学習度合いの確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ガイダンス時に配る詳細シラバスを参照のこと

Refer to the detailed syllabus provided in the guidance session.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度：10% デジタルノート提出：20% 授業内小テスト：30% 最終テスト
割合：40%

テキスト / Textbooks

竹内理・水本篤 『外国語教育研究ハンドブック【増補版】— 研究手法のより良い理解のために』 大修館書店 2023 9784775402948 ○

参考文献 / Readings

Paul Richardson・Allen Goodwin・Emma Vine Research Methods and Design in Psychology (Critical Thinking in Psychology Series) Learning Matters 2011 9780857254696

Mark Saunders Dealing With Statistics: What You Need To Know: What you need to know Open University Press 2007 9780335227242

三浦省五・前田啓朗・山森光陽・磯田貴道・廣森友人 『英語教師のための教育データ分析入門—授業が変わるテスト・評価・研究』 大修館書店 2004 9784469244939

浦野研・亙理陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹 『はじめての英語教育研究 ― 押さえておきたいコツとポイント』 研究社 2016 9784327421977

平井 明代【編著】 『教育・心理系研究のためのデータ分析入門 ― 理論と実践から学ぶSPSS活用法 (第2版)』 東京図書 2017 9784489022623

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

高等学校の学習する基本的な数学 (数学 I、数学 A、数学 B) の知識が必要。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Windows 10 または Windows 11 搭載のノートパソコン。Canvas LMS を利用。

言語コミュニケーション研究基礎論

Introduction to Language and Communication Research

濱田 彰 (HAMADA AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV159
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC5130
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

修士課程レベルの言語コミュニケーション研究を行う上で必要な知識を習得し、自立した研究者としての基盤を確立することを目指す。具体的には、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、データを収集、研究成果を論文として発表する能力を養う。

The purpose of this course is to prepare MA students to conduct independent research in language and communication studies. Specifically, students will learn to (a) critically evaluate extant literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish their findings in the form of academic papers.

授業の内容 / Course Contents

修士課程レベルの言語コミュニケーション研究を行う上で必要な知識を、講義および演習を通して学ぶ。具体的には、研究計画の立て方、妥当性と信頼性、様々な尺度（比例尺度・間隔尺度・順序尺度・名義尺度）、記述統計（平均、分散、標準偏差、歪度、尖度）、正規分布、偏差値、推測統計、効果量、文献管理と引用等について扱う。

授業は受講生による発表およびディスカッションを中心に進める。発表担当者は担当箇所（各回 20 ページ程度）の要点をまとめ、発表することが求められる。

Through lectures and hands-on sessions, students will learn basic knowledge and skills required for conducting MA research in the field of language and communication studies. Topics covered will include validity and reliability, different kinds of scales (ratio, interval, ordinal, and nominal), descriptive statistics (means, variances, standard deviations, kurtosis, and skewness), normal distribution, deviation values, inferential statistics, effect sizes, and reference management and citations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

-Coursework assignment

2 回：研究計画の立て方

-Choosing a topic

3 回：妥当性と信頼性

-Research design

-Data collection methods

4 回：記述統計

5 回：推測統計

6 回：Reviewing the literature

7 回：Methodological approach

-Types of research design

-Sampling

-Ethics

8 回：The dissertation proposal

-Purpose of the study

-Research questions

9 回：Data collection

-Modes of data collection

10 回：General writing guidelines

-Organization of a dissertation

-General requirements of a dissertation

11 回：Writing the literature review

-The purpose of the literature review

-Organization of the literature review

12 回：Writing the literature review

-Sources to include in the review

-Critical reading and writing

-Referring to the gap in knowledge

13 回：Writing the methodology chapter

-The purpose of the methodology chapter

-Organization of the methodology chapter

14 回：Summary and conclusions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション (Presentation) :40% ディスカッション (Discussion) :20%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Lindy Woodrow Doing a Master's Dissertation in TESOL and Applied Linguistics Routledge 2019
9781138587298 -

参考文献 / Readings**その他 / Others**

毎週 20 ページ程度の英語で書かれた専門的な文献を読むことが求められるため、参加者には一定の英語力が必要となる。

Intercultural Communication in Language Teaching

Intercultural Communication in Language Teaching

三浦 愛香 (MIURA AIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV184
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC5131
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The main aim of the course is to provide students with opportunities to enhance their understanding of how culture and thought patterns influence the performance and behaviours of second language learners, with a specific focus on Japanese learners of English. Various concepts and issues unique to the Japanese language and communication are introduced through empirical studies, and the course facilitates the exchange and proposal of ideas for effectively instructing Japanese learners of English to improve their intercultural competence.

授業の内容 / Course Contents

In this course, various topics related to intercultural communication, such as Japanese politeness, Uchi and Soto, rhetorical structure, and interactional features, are covered. Students are required to read provided materials and orally summarize them in class, followed by discussions. Additionally, students have opportunities to apply their acquired knowledge to the development and/or revision of English Language Teaching materials. They are also tasked with completing a mini-project based on their observations, experiences, and experiments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course orientation & Introduction: High-context cultures and low-context cultures

In-Class Project for Language Teaching

2回：Relationality: Amai, Uchi/Soto and Omote/Ura

In-Class Project for Language Teaching

3回：Empirical studies on the concepts of Uchi and Soto in relation to Brown & Levinson's politeness theory

In-Class Project for Language Teaching

4回：Politeness: Wakimae

In-Class Project for Language Teaching

5回：Topic-comment structure: Topic-marker wa

In-Class Project for Language Teaching

6回：Topic prominence & Rhetorical structure Ki-Shoo-Ten-Ketsu

In-Class Project for Language Teaching

7回：Backchanneling: Aizuchi and cross-cultural interactions

In-Class Project for Language Teaching

8回：Backchanneling: Silence and intercultural communication

In-Class Project for Language Teaching

9回：Interactional features and competence

In-Class Project for Language Teaching

10回：Rhetorical structure: Thought patterns in US and Japan

In-Class Project for Language Teaching

11回：Rhetorical structure: Coherence in L1 and L2 writings

Agent vs. Patient

In-Class Project for Language Teaching

12回：Do-language vs. Become-language

Requests made by Japanese learners of English

In-Class Project for Language Teaching

13回：Presenting a final mini-project

14回：Presenting a final mini-project

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read given materials and make oral reports in class. Contribution to discussion in class is very much welcomed. Students are also required to be prepared for a presentation on final mini-project based on their research at the end

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Oral report of chapter summary:40% Participation: Contribution to discussion in class:20% Final mini project: Essay and oral presentation:40%

テキスト / Textbooks

Senko K. Maynard Japanese Communication: Language and Thought in Context University of Hawai'i Press
1997 9780824818784 ○

参考文献 / Readings

Supplementary readings will be given in class.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Having a basic knowledge of Japanese is preferable.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Applied Linguistics A

Seminar in Applied Linguistics A

細田 雅也 (HOSODA MASAYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV185
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC5131
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

1. Students have a good understanding of theories of text comprehension.
2. Students have a comprehensive understanding of empirical findings in text comprehension research.
3. Students can devise effective reading instruction based on the theories and empirical findings of text comprehension.

授業の内容 / Course Contents

Students learn theories and empirical findings related to second/foreign language reading through presentations and discussions.

Specifically, students will make presentations on assigned chapters from "Reading in a Second Language: Moving from Theory to Practice (Grabe and Yamashita, 2022)". Following these presentations, there will be discussions focusing on the theoretical and pedagogical significance of the presented research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Guidance & Assigning presentation chapters and dates
- 2 回：Ch. 1 The nature of reading: Defining reading

- 3回：Ch. 3 How reading works: Comprehension Processes
 Ch. 4 Cognitive issues in reading
 4回：Ch. 6 Explaining reading comprehension: Models of reading
 5回：Ch. 7 Reading in different languages
 Ch. 8 L1 and L2 reading relationships
 6回：Ch. 10 Motivation for reading
 Ch. 11 Vocabulary and reading comprehension
 7回：Ch. 12 Building main idea comprehension: Syntax and strategies
 Ch. 13 Becoming a strategic reader
 8回：Ch. 15 Reading to learn and reading-writing relationships
 Ch. 16 Reading in digital contexts
 9回：Ch. 17 Reading fluency, reading rate, and comprehension
 Ch. 18 Extensive reading
 10回：Ch. 19 Reading curriculum and instruction
 Ch. 20 Reading assessment
 11回：Discussion and Presentation on the reading instruction 1
 12回：Discussion and Presentation on the reading instruction 2
 13回：Discussion and Presentation on the reading instruction 3
 14回：Consolidation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- The presenter is required to thoroughly understand the assigned chapter, create presentation slides, and prepare to present them in English.
- Before the class, students are required to read the chapter that will be covered in the class and prepare for

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation:30% Discussion:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Digital files will be given.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.6.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC, Presentation software (PowerPoint, Keynote), Word.

Students must bring their laptop computer to the class.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.6.

Research Methods

Research Methods

ヴィタ, J. (VITTA JOSEPH PAUL)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV186

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC5131

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce research methods in second language research / applied linguistics (SLA/AL) for masters students. By the end of the course, the following objectives will be met:

- 1 - Students will be able to understand and explain the importance of research at both the academic and professional levels.
- 2 - Students will understand the basic philosophical underpinnings of quantitative inquiry.
- 3 - Students will be able to identify, explain, and evaluate key concepts of quantitative inquiry such as measurement theory, variable types, psychometrics, sampling, and inferential testing.
- 4 - Students will be able to achieve objectives 2 to 3 in relation to qualitative inquiry.
- 5 - Students will be able to draft and defend a mini-research proposal for a potential research project.
- 6 - Students will be able to use a pragmatic stance to defend approaches such as mixed-methods research to plan and conduct meaningful inquiries.

授業の内容 / Course Contents

Course contents have been placed into the schedule section below. In sum, students will first learn about the

importance and nature of research in SLA/AL. Then, the course will cover quantitative followed by qualitative approaches. The course will then consider how SLA/AL researchers tend to be pragmatic while using different methods for their specific purposes. Finally, students will prepare mini research proposals.

Given the broad nature of the course, technical processes will not be focused upon but the teacher will demonstrate some basic quantitative procedures when appropriate. Students should download JASP onto their computers. This is free statistical software.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：1. Overview of SLA/AL Research

2. Introduction to the Course

3. How Research Change Textbooks' Vocabulary Presentation: An Example (Waring, 1997; Vitta, 2023; Cambridge ELT Catalogue)

(before next class students will read Trochim's Positivism & Post-Posi

2 回：1. The philosophy of 'The Red Car on the Street is Real'

2. Theory's Place in Quantitative Research

3. Overview of Measurement/Variable Types and Descriptive Statistics

4. Brief Introduction to Psychometrics and Sampling

(Students will read Vitta et al.

3 回：1. Sampling

2. Validity and Reliability

3. Brief Introduction to Inferential Hypothesis Testing

(Students will read Kuhar 2010 and Vitta et al. 2023 before next class)

4 回：1. Inferential Testing - Part 1: Overview

(Students will read Shintani 2011; Peters et al. 2023 [Joe will provide notes] and Laufer 2023 before next class)

5 回：1. Inferential Testing - Part 2: Evaluating Quality, Rigor, and Type

2. The Quantitative Reform Movement in SLA/AL (review of Gass et al. 2021)

(Students will complete review sheet to prepare them for the first part of the final test given Week 6)

6 回：Final Test Part 1 -- Content from Weeks 1 to 5

(Students will read teacher-provided notes on interpretivism and constructivism before next class)

7 回：1. The Red Car on the Street is a Social Construction

2. Overview of Qualitative Research

3. Review of Khan et al 2020 in class

(Students will read Sullivan and Sargeant 2011 and reread Khan et al 2020 before next class)

8 回：1. Qualitative Research -- Principles and Design

2. Role of Theory

3. Types of Qualitative Inquiry

(Students will read Sargeant 2012 and Vitta et al. 2019 before next class)

9 回：1. Qualitative Research -- Participants, Analysis, and Quality Assurance

2. Review of Scopus/Web of Science Searching Techniques

(Students will locate 'good' and 'bad' examples of SLA/AL qualitative research reports and bring them to class)

10 回：Final Test Part 2: Content from Weeks 7 to 9

(Students will read Boers et al. 2021 and notes on mixed-methods research before next class)

11 回：1. A Case for Us to Be Pragmatic Researchers.

2. Mixed-Methods Overview

3. The Rise of Big Data and Research Synthesis in SLA/AL Research

(before class ends, Joe will go over the mini research proposal assignment. Students will complete a planning sheet)

12 回：1. Mini Research Proposal 1 - Drafting and Brainstorming

(rough draft due before next class)

13 回：1. Mini Research Proposal 2 -- Peer Feedback and Consultations

(submit 2nd draft to Joe 3 days after this class - feedback returned before next class)

14 回：1. Mini Research Proposal 3 -- Presentations (students prepare videos before class)

(final drafts are due 3 days after class)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be required to study materials before most classes. When this is expected, class will begin with an 'easy' quiz to check that the reading was completed. Students will also be required to prepare brief notes for class discussion.

With the ex

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Reading/Study Quizzes:30% Presentation of Mini Research Proposal:10% 最
終レポート割合：:30%最終テスト割合：:30%

In principle, work and quizzes cannot be made up with a university-approved excuse. Students will fail the course if they miss more than 3 classes with an excuse.

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Readings will be provided in digital form by Joe

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

A computer or large tablet is required for class. JASP should be downloaded as well.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

言語コミュニケーション研究特殊講義 A

Seminar in Language Communication Research A

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV201
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） オンライン授業は8回、14回を予定。
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6140
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

言語の、特に「意味」に関連するテーマで考察を行う上で必要な基礎知識を身に付け、様々な立場の意味論的観点を批判的に検討していくための思考力を養う。

Develop the basic knowledge required for studying language, specifically themes associated with meaning, and cultivate critical thinking skills for considering semantic perspectives from many different standpoints.

授業の内容 / Course Contents

意味論の基礎知識を紹介するための講義を交えつつ、設定したテーマに即して資料を読んだり討論を行う中で、意味論の持つ問題点について皆で考えてゆく。なお、言語学プロパーの意味論の具体的テーマとしては、語彙的意味論が中心となる。

While including lectures to introduce basic knowledge of semantics, we will read documents and conduct debates related to the themes treated in the class, to think about problems that exist within semantics. As themes of semantics in linguistics proper, lexical semantics will be treated mainly in this class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：意味とコミュニケーション

- 2回：意味と認識の社会的形成
 3回：近代言語学以前における意味に関する論考
 4回：記号論と意味論
 5回：構造主義言語学における語の意味の扱い
 6回：多義性の構造
 7回：語彙における意味関係
 8回：中間発表または提出物に基づく討論
 9回：意味論における要素還元主義の問題
 10回：多義性再考：基本的意味説
 11回：多義性再考：認知言語学の観点から
 12回：メタファー・メトニミーと転義的用法
 13回：意味論におけるメトニミーの重要性
 14回：最終提出物に向けての討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間レポート:30% 出席および授業参加度:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

特に指定せず、その都度プリント資料を配布する。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に指示する。

言語コミュニケーション研究特殊講義B

Seminar in Language Communication Research B

高橋 里美 (TAKAHASHI SATOMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV202
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6140
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

教室内での第二言語語用論の能力の習得に関する研究に焦点を当て、その理論的背景についての理解を深めるとともに、同分野での調査研究方法全般についての基礎的な知識を獲得する。

This course is designed to provide a clear understanding of the issue of instructed second language (L2) pragmatics. Students will gain fundamental and comprehensive knowledge of both related second language acquisition (SLA) theories and general research methods for instructional effects in L2 pragmatics.

授業の内容 / Course Contents

第二言語習得研究の一分野としての「第二言語語用論」では、教室内での指導をとおして第二言語語用論の能力の習得の可能性を探る試みが行われてきた。この講義では、同テーマを扱った研究に焦点を当てるが、複数の理論的枠組みにおいて考察する。対象とする理論的枠組みとは、第二言語習得研究の認知心理学的アプローチの中心的な理論である「気づき仮説」・「技能習得理論」・「用法基盤モデル」である。それぞれの理論的枠組みにおいて実践された実証研究の成果を検証する。

In second language pragmatics, one of the research areas in SLA, an attempt has been made to explore possibilities of learners acquiring their L2 pragmatic competence in classroom settings. In this course, we will

focus on teaching pragmatics, but from different theoretical perspectives. The target theories will include Noticing Hypothesis, Skill Acquisition Theory, and Usage-based Model, all of which are the major theories in the cognitive and psychological approaches to SLA. We will examine the findings of empirical studies undertaken within the framework of these theories.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：注意と気づき：理論的背景
- 3回：気づき仮説と語用論的能力の習得（1）
- 4回：気づき仮説と語用論的能力の習得（2）
- 5回：気づき仮説と語用論的能力の習得（3）
- 6回：気づき仮説と語用論的能力の習得（4）
- 7回：技能習得理論：理論的背景
- 8回：技能習得理論と語用論的能力の習得（1）
- 9回：技能習得理論と語用論的能力の習得（2）
- 10回：用法基盤モデル：理論的背景
- 11回：用法基盤モデルと語用論的能力の習得（1）
- 12回：用法基盤モデルと語用論的能力の習得（2）
- 13回：最終レポートについての発表
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:30% 課題提出および口頭発表:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

プリント配布

参考文献 / Readings

Martínez-Flor, A., Sánchez-Hernández, A., & Barón, J. L2 Pragmatics in Action John Benjamins Publishing Company 2023 9789027213655

Taguchi, N., & Roever, C. Second Language Pragmatics Oxford University Press 2017 9780194200585

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語論文の読解が中心となるので、高度な英文読解能力を要する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。

言語コミュニケーション研究特殊講義C

Seminar in Language Communication Research C

ことばと社会

谷口 ジョイ (TANIGUCHI JOY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV203

授業形態： オンライン（一部対面）

授業形態（補足事項） オンライン（一部対面）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本科目は、言語コミュニケーションの共通性や差異に焦点を当て、バイリンガリズム、言語習得、語用論など個別のテーマについて議論を深めることを目的としています。

【前期課程】 ことばに関わる諸問題や、興味深い言語現象を取り上げることにより、さまざまな言語（方言を含む）の特徴を考察し、自身の研究課題を見出すことを目標とします。

This course focuses on similarities and differences in language communication and aims to deepen discussions on topics such as pragmatics, bilingualism, and language acquisition.

Through discussion of various language-related issues and interesting linguistic phenomena, students will examine the characteristics of different languages (including dialects) and discover their research topics.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、社会言語学及び応用言語学の基本的な考え方について学びます。扱うテーマは、下記のように多岐にわたりますが、履修者の興味・関心に沿う形での変更もあり得ます。

なお、本科目は、グループワーク、プレゼンテーション等を実施する体験学習型科目です。

This course is designed to introduce students to the basic concepts of sociolinguistics and applied linguistics. The topics covered in this course include a wide range of topics as shown in the course schedule but may be modified according to the interests of the students.

This is an experiential learning course that includes group work and presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：【対面】 授業の到達目標、テーマ、概要、評価について説明する
自身が興味・関心をもつ言語現象について、グループで共有する
- 2 回：社会言語学とはどのような学問か、どのような研究課題が想定されるかについて理解する
- 3 回：ことばと社会の関わりについて、性差、社会階級、地域、年代といった観点から、グループで討議を行う
- 4 回：人と人との会話はどうにして成り立っているのかという語用論の基礎について理解する
- 5 回：会話分析の基礎について理解し、ポライトネスや発話行為についてグループで討議を行う
- 6 回：応用言語学とはどのような学問か、どのような研究課題が想定されるかについて理解する
人はどのようにして母語以外のことば（第二言語・外国語）を習得するのかについて、その基礎を理解する
- 7 回：第一言語（母語）習得と第二言語習得を比較し、その類似性や差異についてグループで討議を行う
- 8 回：第二言語習得におけるさまざまな個人要因について理解する
- 9 回：年齢や学習ストラテジー、動機付け、不安について、自身を振り返りながらグループで討議を行う
- 10 回：バイリンガルの定義やさまざまなバイリンガル教育の手法について理解する
- 11 回：ジェスチャー、アイコンタクトなどの非言語コミュニケーションについて理解する
- 12 回：フィールド言語学の基礎について理解する
- 13 回：消滅危機言語・方言についてグループで討議を行う
- 14 回：【対面】 最終プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前学習課題に 30 分、復習に 60 分程度を要します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間課題:20% 最終プレゼンテーション:30% 毎回の課題:20% 最終レポート
割合：:30%最終テスト割合：:0%

テキスト / Textbooks

指定しません。毎回、資料を配布します。

参考文献 / Readings

参考書籍、文献については、適宜、授業内で紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語で書かれた論文を講読することがありますので、相応の英語力が求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC/Smart Devices

その他/ Others

「ことばが社会の中でどのように使われ、学ばれ、教えられているのか」について考える科目です。
第二言語としての日本語教育や英語教育に関心のある方の履修を特に歓迎します。

言語コミュニケーション理論

Theories of Language Communication

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV204

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

言語学の基礎的知識を（再）確認し、大学院博士前期課程の授業で扱う内容の理解を深めるための基盤を（再）構築することを目的とする。

The goal of this seminar is to review the fundamental knowledge of linguistics, and to create and reinforce the foundation for furthering understanding of content introduced in master's program classes at this university.

授業の内容 / Course Contents

20 世紀初頭に萌芽的学問として記号論の枠組みの中に生まれ、それを包括するものとして定義された言語学はその後、どのように発達したのか。言語学の登場は、西洋世界が培ってきた伝統的な人間科学の知の体系にどのような修正を加え、あるいは加えなかったのか。さらには、今日の言語学は、現代の人間科学の知の体系の中にどのように位置づくのか。このような問題を提起しながら、言語学と密接なかわりを持つ人文社会科学の諸分野との関係を考察し、言語学のエピステモロジーを明らかにしていく。授業では主に学生によるテキストの輪読と報告をおこなう。

How has linguistics evolved from its origination as a budding field of study within the framework of semiotics in the early 20th century into the comprehensive study that defines that framework? How has the advent of

linguistics changed (or not changed) the system of knowledge of traditional human science cultivated in the Western world? In addition, how does linguistics currently fit into the system of knowledge of contemporary human science? Students will tackle problems of this nature as they consider the relationships between linguistics and various, closely related fields in the humanities and social sciences to gain a clearer view of the epistemology of linguistics. Classes are structured around students taking turns reading texts and giving reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：ことばの科学の見取り図（1）
- 3 回：ことばの科学の見取り図（2）
- 4 回：言語の研究
- 5 回：語の構造
- 6 回：文の構造
- 7 回：語の意味（1）
- 8 回：語の意味（2）
- 9 回：文の意味
- 10 回：言語の種類
- 11 回：言語の変化
- 12 回：音の構造（1）
- 13 回：音の構造（2）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回の授業で各回のための準備学習を指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

風間喜代三 ほか 『言語学』（第2版） 東京大学出版会 2004 9784130820097 ○

参考文献 / Readings

授業中に配付するプリントあるいはメールの添付ファイルなどによって随時紹介する。

その他 / Others

- * 上記の「授業計画」は、履修者数や指導の進捗状況にあわせて調整する可能性がある。
- * 学生の報告あるいは提出物について、口頭あるいは筆記によってコメントする。
- * やむを得ず休講となった場合、内容を繰り下げて補講日に補講をおこなうか、それに代わる課題を出す。

言語教育研究特殊講義 A

Seminar in Language Education Research A

渡辺 英雄 (WATANABE HIDEO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV205

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

このコースを完了すると、学生は次のことができるようになる。

- 言語教育の基本的なアプローチを理解する。
- 言語評価の重要な要素を理解する。
- 対象となる学習者グループに適した指導と言語評価を実施する。

As a result of successfully completing this course, students should be able to:

- understand the basic approaches in language teaching,
- comprehend the key elements of language assessment,
- perform teaching and language assessment appropriate for the target group of learners.

授業の内容 / Course Contents

この実践的なコースでは、学生はタスクベースの言語教育やジャンルベースの教育学などの基本的な言語教育アプローチを学ぶ。

学生はまた、言語評価における重要な問題、すなわち有益な結果、妥当性、現実性、実用性についても学ぶ。

最終的に、コースで学んだアプローチと知識を使用して指導と評価を実行できるようになることを目指す。

In this practical course, students will learn basic language teaching approaches such as task-based language teaching and genre-based pedagogy.

Students will also learn important issues in language assessment, namely, beneficial consequences, validity, reliability and practicality.

Finally, they will be able to perform teaching and assessment using the approaches and knowledge they learn in the course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Teaching and assessment
- 2 回：Understanding learners
- 3 回：Task-based language teaching
- 4 回：Focus on form
- 5 回：Genre-based literacy pedagogy
- 6 回：English for specific purposes
- 7 回：Student presentation
- 8 回：Student presentation
- 9 回：Language assessment
- 10 回：Performance test
- 11 回：Paper-based test
- 12 回：Assessing grammatical knowledge
- 13 回：Student presentation
- 14 回：Student presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read materials related to the course contents.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Mini teaching:50% Assessment presentation:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

言語教育研究特殊講義 B

Seminar in Language Education Research B

語学教育のためのスタンダード(Standard for Language Education)

金庭 久美子 (KANENIWA KUMIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV206

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、自身の外国語学習を振り返ると共に、言語教育の基盤となる語学教育のためのスタンダードを理解し、語学教育の現場に生かす能力を身につけることを目標とする。

The purpose of this course is to reflect on one's own foreign language learning, to understand the standards for language education referenced in language education and to acquire the ability to apply them to the field of language education.

授業の内容 / Course Contents

語学教育で参照されている語学教育のためのスタンダードのうち、「ACTFL 言語運用能力基準」、「実践日本語教育スタンダード」、「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」、「JF スタンダード」などについて学び、語学教育においてそれらをどのように生かすことができるかディスカッションや教材の検討を行う。

Study about "ACTFL-OPI", "Jissen Japanese Standard", "Common European Framework of Reference for Languages", and "JF Standard for Japanese-Language Education". Discussions and study of teaching materials

will be held on how they can be utilized in language education.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：語学教育のスタンダードとは/ What is the standard for language education?
- 2 回：ACTFL-OPI を知ろう/ Get to know ACTFL-OPI!
- 3 回：ACTFL-OPI の理論と実践を学ぶ/ Learn the theory and practice of ACTFL-OPI
- 4 回：ACTFL-OPI のインタビューを学ぶ/ Learn about ACTFL-OPI interviews
- 5 回：実践日本語教育スタンダード 言語活動・言語素材と話題/ "Jissen Japanese Standard": Language activities, language materials and topics
- 6 回：私的領域（場所）の言語活動と難易度/ Language activities and difficulty in the private sphere (location)
- 7 回：大学という場所における言語活動/ Language Activities at the University
- 8 回：中間課題/ Midterm Task
- 9 回：CEFR の基本的な考え方/ Basic Concept of CEFR
- 10 回：CEFR が生まれた背景・CEFR が目指す言語教育/ Background of the CEFR and the CEFR's Goals for Language Education
- 11 回：CEFR が考える言語能力・CEFR から教育実践/ CEFR's concept of linguistic competence and CEFR to educational practice
- 12 回：JF スタンダード知識編/ JF Standard Knowledge Section
- 13 回：JF スタンダード実践編/ JF Standard Practice Section
- 14 回：期末課題/ Final Task

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。/ Instructions on learning outside of class time will be given separately as necessary.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表・レポート(Presentation and Report) (中間 30%、期末 30%) :60% 平常点(Usual performance score) (授業内に指示した提出物 30%、ディスカッション 10%) :40%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。/ No credits can be earned for students who do not attend at least 2/3 of the classes.

テキスト / Textbooks

- 鎌田修他 『OPI による会話能力の評価』 凡人社 2020 9784893589705 -
 奥村三菜子他 『日本語教師のための CEFR』 くろしお出版 2016 9784874247013 -
 山内博之他 『実践日本語教育スタンダード』 ひつじ書房 2013 9784894764637 -

参考文献 / Readings

Council of Europe 『外国語教育 II 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』 朝日出版社 2004 9784255002934

国際交流基金 『JF 日本語教育スタンダード【新版】 利用者のためのガイドブック (web 版)』 国際交流基金 2017

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

自身の語学学習の経験や教授経験についてふり返り、発言できるようにしてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ネット上のツールを利用するため PC を持参してください。

その他/ Others

- ・資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。
- ・毎週の発表者を決め、全員でディスカッションを行いながら、テキストを読み進めていくことを予定している。
- ・中間、期末発表の課題については「Canvas LMS」上で告知する。
- ・中間課題、期末課題の内容をレポートにして提出すること。後日「Canvas LMS」にてフィードバックを行う。

言語教育研究特殊講義C

Seminar in Language Education Research C

バイリンガリズムとバイリンガル教育
(Bilingualism and Bilingual Education)

佐々木 美帆 (SASAKI MIHO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV207
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6143
使用言語： その他
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業ではバイリンガリズムおよびマルチリンガリズムとその教育について国内外の学術研究をベースに学びます。どのように子どもと大人が二つ以上の言語を習得しバイリンガル・マルチリンガル環境がその言語発達に影響するかについて理解を深めます。

This course provides students with an opportunity to learn about bilingualism/multilingualism and its education based on academic research in the world. Through readings and discussion, students will develop understanding on how children and adults acquire more than one language and how bilingual and multilingual environments affect their language development.

授業の内容 / Course Contents

このセミナーではバイリンガルやマルチリンガルといわれる子どもおよび大人がどのような環境で成育しどのように言語を習得・使用しているのかを、言語学、心理学、教育の分野のクラシックおよび最近のバイリンガル研究について英語および日本語で読み、ディスカッションを行います。セミナーで扱う広範囲にわたるバイ

リンガリズムおよびバイリンガル教育研究をもとに、各自興味のある分野について文献研究のショートプレゼンテーションを行い最終レポートにまとめます。

Students will learn how bilingual/multilingual children and adults grow up and how they acquire and learn their languages by reading the classic and recent bilingual studies in linguistics, psychology and education. The reading materials will be given either in English or Japanese and they will discuss in either language. Based on the readings covering the extensive areas of bilingualism and bilingual education research, students are required to give a presentation on the related area and write a short review paper as a final report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: Who is Bilingual?
- 2 回：Bilingualism and Multilingualism
- 3 回：The Measurement of Bilingualism
- 4 回：Bilingual Language Acquisition: The Early Development of Bilingualism
- 5 回：Bilingual Language Acquisition: The Later Development of Bilingualism
- 6 回：Reading Development and Writing Systems
- 7 回：Bilingualism Research Topics / Essay Writing Skills
- 8 回：Bilingual Cognition
- 9 回：Bilingual Brain
- 10 回：Types of Education for Bilingual Students / Translanguaging
- 11 回：Biliteracy
- 12 回：Bilingual Identity
- 13 回：Presentations & Discussion
- 14 回：Bilingualism in Japan

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する教科書の章や配布資料を読み、積極的な授業準備を期待します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度および出席(Class Participation):50% プレゼンテーション(Presentation):20% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

Baker, C. & Wright, W.E. Foundations of Bilingual Education and Bilingualism (7th edition) Multilingual Matters 2021 9781788929882 -

参考文献 / Readings

中島和子 『完全改訂版バイリンガル教育の方法：12歳までに親と教師ができること』 アルク 2016
 フランソワ・グロジャン 『バイリンガルの世界へようこそ：複数の言語を話すということ』 勁草書房 2018

Grosjean, F. The Mysteries of Bilingualism Wiley Blackwell 2022 9781119602378

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付，授業中の課題の提出などに「Canvas LMS」を使用するので，授業にPC・タブレットを持参してください。

言語教育理論 A

Theories of Language Education A

Formulaic Language: theories and practice

居村 啓子 (IMURA KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV208

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、フレーズロジーの研究に必要な基礎知識を習得し、様々な角度から Formulaic Language の性質について学ぶことを目標とします。まず FL の多様な定義に触れ、その種類や機能について学びます。また母語習得、第二言語習得それぞれに於ける役割について考察し、教育への応用について考えていきます。

The goal of this course is to acquire the foundational knowledge necessary for the study of Phraseology. We will begin by exploring various definitions of Formulaic Language, and delve into its taxonomy, characteristics, and functions. Additionally, we will contemplate the roles of Formulaic Language in both first and second language acquisition. While touching upon recent research in Formulaic Language, we will also consider its applications in education.

授業の内容 / Course Contents

この授業は基本的に講義とテキスト+オーラルプレゼンテーション+ディスカッションという形式で行います。まず Formulaic Language の性質の複雑さ、またそれに付随して存在する様々な定義について理解を深めます。また言語学の様々な分野（言語心理学、社会言語学、言語習得理論、コーパス言語学等）との関連につ

いて紹介していきます。FLとは何か、どのような現象で、どのような機能を持つのか考察し、全体像をつかみます。その上で、大人の母語話者にとってのFL、子供の母語獲得におけるFL、大人の第二言語話者にとってのFL、そして子供の第二言語習得におけるFLの役割等について解説していきます。また失語症とFLとの関連についても触れていきます。

This class will primarily follow a format of lectures along with text-based materials, oral presentations, and discussions. Initially, we will deepen our understanding of the complexity of the nature of Formulaic Language (FL) and explore various definitions associated with it. We will also introduce its connections with various fields of linguistics, such as psycholinguistics, sociolinguistics, language acquisition theory, corpus linguistics, and more. We will contemplate what FL is, what kind of phenomenon it represents, and what functions it serves, gaining an overall perspective. Following that, we will elaborate on the roles of FL in the native language of adults, and L1 / L2 acquisition. Additionally, we will touch upon the relationship between aphasia and FL.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction to Formulaic Sequences
- 2回：Detecting Formulaicity
- 3回：Patterns of Formulaicity in Adult Language
- 4回：Formulaic Sequences in First Language Acquisition
- 5回：Formulaic Sequences in Second Language Acquisition: an overview
- 6回：Formulaic Sequences in Children using a second language
- 7回：Patterns of Formulaicity in Adults and Teenagers Using a Second Language
- 8回：Measurement of Formulaic Sequences
- 9回：Formulaic Performance in Conventionalised Varieties of Speech
- 10回：Individual Differences in their Effects on Formulaic Sequence Acquisition
- 11回：Social-cultural Integration and the Development of Formulaic Sequences
- 12回：Corpus-derived Recurrent Clusters
- 13回：Formulaic Sequences and Language Loss
- 14回：Formulaic Sequences and English education

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to thoroughly review the assigned chapters in the course's designated text material, presenting their insights during class sessions. Additionally, students are encouraged to actively participate in discussion sessions by formulating

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation:30% Quiz:20% Discussion:20% Report:30%

テキスト/ Textbooks

Alison Wray Formulaic Language and the Lexicon Cambridge 2002 0521022126 ○

参考文献 / Readings

Norbert Schmitt Formulaic Sequences John Benjamins Publishing Company 2004 9027217084

言語教育理論B

Theories of Language Education B

教育工学、教師教育学の視点からの日本語教育学

池田 伸子 (IKEDA NOBUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV209

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育を Art ではなく Science としてとらえるというのはどういうことか、そこにどんなメリットがあるのかを、教育工学、主としてインストラクショナル・デザインの視点から理解する。さらに、態度変容の理論を軸に、実践力のある教師養成について理解を深める。

Understand methods of effectively using Japanese language teaching methods and educational media geared toward learner characteristics, and gain the ability to connect them to practice.

授業の内容 / Course Contents

前半は、教育工学の視点から日本語教育を考える。具体的には、教育をシステムとして考え、そのシステムを構成する諸要素について学び、教育カリキュラムや授業をデザインする方法について概観する。後半は、心理学等の理論を基礎として態度変容について学び、実践力のある教師を養成するために、それらの理論や方法がどのように適用可能かについて知見を深める。

Classes revolve around important aspects of actual classroom situations within Japanese language education: diversity of learners, classroom management, the importance of teachers' roles, course materials and teaching

methods. In particular, we will focus on learning and developmental disabilities that require special attention in classrooms in recent years, and understand and consider the theoretical backgrounds of teachers' attitudes and beliefs, effective teaching strategies, use of media, teaching methods and the like while considering how to help learners with those characteristics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：教育とは何か
- 3回：教育工学とは何か
- 4回：外国語教育、外国語教育工学
- 5回：21世紀型外国語教育とは、21世紀型日本語教育とは
- 6回：教育をデザインする①
- 7回：教育を、そして授業をデザインする②
- 8回：態度とは何か
- 9回：態度変容理論①
- 10回：態度変容理論②
- 11回：教師教育、教員養成とは
- 12回：外国語教員の養成、何が必要か
- 13回：21世紀に求められる日本語教員を養成する
- 14回：振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度 (討論, 質疑応答など) :50% 報告およびレポートなどの提出物, 各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

必要なものは授業で適宜紹介する。

その他 / Others

講義も行うが、参加者自身の授業デザインや教材開発なども積極的に取り入れるので、参加者は毎回きちんと準備して授業に臨むこと。

受講生の発表、提出した課題については、次回の授業でフィードバックを実施する。

教材の配布や必要な連絡は Canvas LMS を通して実施する。

Teaching and Learning Vocabulary

Teaching and Learning Vocabulary

濱田 彰 (HAMADA AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV254
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6141
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

MA students will be able to understand more about the way vocabulary works in learning English as a foreign language. Particularly, they are expected to acquire the empirical knowledge necessary to make informed choices about vocabulary teaching and testing.

授業の内容 / Course Contents

This course will offer a comprehensive introduction to vocabulary for English language teachers who would like to know the way vocabulary works. Using the assigned textbook, students are expected to make presentations about what vocabulary is, how it is taught, and how it is tested. They will also discuss a variety of topics about teaching vocabulary in a classroom.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction

-Coursework assignment

-Small discussion

2 回：Which words should be learned?

- Importance of learning vocabulary
- Relative value of words
- 3 回： Learning burden
- Defining the learning burden
- Factors affecting difficulty
- 4 回： Vocabulary size and growth
- L1 vocabulary growth
- L2 vocabulary growth
- 5 回： Conditions contributing to vocabulary learning
- Framework of vocabulary learning conditions
- 6 回： Analysing vocabulary learning activities
- Vocabulary learning activities 1-10
- 7 回： Analysing vocabulary learning activities
- Vocabulary learning activities 11-23
- 8 回： Learning vocabulary in different contexts
- Learning vocabulary in the EFL context
- Learning vocabulary in the ESL context
- 9 回： Developing autonomous learners of vocabulary
- Three principles for teaching vocabulary learning strategies
- 10 回： Developing autonomous learners of vocabulary
- Key strategies for autonomous vocabulary learning
- 11 回： Developing an effective vocabulary learning programme
- Defining the four strands
- Contributions of the four strands to vocabulary learning
- 12 回： Resources for vocabulary learning
- Traditional resources
- 13 回： Resources for vocabulary learning
- Advanced technologies
- 14 回： Key questions about vocabulary learning

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの指定された箇所を通読し発表資料を作成してください。

発表資料には Discussion Points を含めましょう。

Please read through the assigned sections of the text and prepare your presentation materials.

Include Discussion Points in your presentation.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション (Presentation) :40% ディスカッション (Discussion) :20%

最終レポート割合 :40%

テキスト/ Textbooks

Stuart Webb and Paul Nation How Vocabulary is Learned Oxford University Press 2017 -

参考文献 / Readings

Paul Nation Learning vocabulary in another language 3rd ed. Cambridge University Press 2022

中田達也 『英単語学習の科学』 研究社 2019

その他/ Others

<https://hamada-lab.jp/>

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Applied Linguistics B

Seminar in Applied Linguistics B

渡辺 英雄 (WATANABE HIDEO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV258

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

As a result of successfully completing this course, students should be able to:

1. understand the basic approaches in discourse analysis,
2. comprehend the notions of discourse analysis terminology,
3. apply notions developed in discourse analysis to other areas of study.

授業の内容 / Course Contents

This course leads you to the field of discourse analysis by covering the major areas of discourse analysis such as society, pragmatics, genre, critical discourse analysis and multimodality. Students will have the perspective to understand verbal and non-verbal communication.

This course also focuses on how discourse analysis can be applied to other fields such as language teaching and media studies.

Students in this course consider how they can analyze language and non-verbal features from the perspective of discourse analysis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：What is discourse analysis?
 2 回：Discourse and society
 3 回：Discourse and pragmatics
 4 回：Intercultural pragmatics
 5 回：Discourse and genre
 6 回：Genre in educational settings
 7 回：Discourse grammar
 8 回：Appraisal (evaluative language)
 9 回：Multimodal discourse analysis
 10 回：Discourse and digital media
 11 回：Critical discourse analysis
 12 回：Doing critical discourse analysis
 13 回：Student presentation
 14 回：Student presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read the textbook for each lecture.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reports:60% Presentation:40%

テキスト / Textbooks

Paltridge, Brian Discourse Analysis An introduction Bloomsbury 2022 9781350093638 ○

参考文献 / Readings

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Applied Linguistics C

Seminar in Applied Linguistics C

Teaching English and Bilingualism in Japan

日本における英語教育とバイリンガリズム

キアナン, P. (KIERNAN PATRICK J.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV259

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- To have an understanding of the main linguistic and cultural differences between Japanese and English that affect the teaching of English to Japanese learners
- To have an overall understanding of the suitable approaches and methods for teaching English in Japan
- To have an understanding of the range of issues impacting the teaching of English in Japanese classrooms today

授業の内容 / Course Contents

This course is primarily aimed at those with potential plans to teach English speaking to Japanese learners but should also be relevant to those concerned with cultural and linguistic differences between Japanese and English, as well as those interested in current approaches to language teaching. The first half of the course focuses on cultural and linguistic differences between Japanese and English with a particular focus on areas of common difficulty. It also explores the reasons behind these difficulties. The second half of the course focuses on practical

ways to address these issues through classroom activities designed to motivate, engage, and build listening and speaking skills. Course participants will also have opportunities to share their own areas of interest.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course introduction

2 回： Katakana English

The history of Japanese English and the impact of katakana English in global contexts

See Stanlaw, 2004

3 回： Discourse Intonation

An approach to teaching intonation as a system of meaning

See Coulthard, 1992

4 回： Politeness

Issues of politeness across culture

See Brown and Levinson, 1987

and Tanaka, 1998

5 回： Authenticity in Language Teaching in Japan

See Seargeant, 2005

6 回： Spoken Vocabulary

See Carter and McCarthy, 1997

7 回： Encounters with Students

The student from hell (Palmer, 2007)

I wouldn't want anyone to know (Bueno and Ceasar, 2003)

8 回： Harold Palmer and the Direct Method

The history of teaching English in Japan

(Howard, 2004)

9 回： Research interests presentations

(student presentations)

10 回： The JET Program, ALTs and JTEs

McConnell (2003)

Hiratsuka (2023)

11 回： English Immersion Schools in Japan

Nichiei Immersion School (2008)

12 回： Bilingual identities

Negotiating Bilingual and Bicultural Identities (Kanno, 2003)

Identity and language learning (Norton,2000)

13 回： English as Cultural Capital

Hybrid Identities (Kamada, 2020)

14 回： Review and final presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パ*ワ*等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- (1) Students will be given weekly readings to prepare in advance.
- (2) Students will be asked to write reflections to submit to Google Classroom on a weekly basis.
- (3) During the semester students will be asked to prepare two presentations, one related to

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Classwork:30% Reflection papers:30% Presentations:40%

テキスト / Textbooks

All readings will be posted on Google Scholar and distributed in class.

参考文献 / Readings

All supplementary materials will be linked or posted on Google Scholar.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

All course participants should be able to read English academic papers and participate in a course taught in English.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Writing materials to complete class worksheets and access to a computer for homework.

その他 / Others

You will be expected to speak actively and openly during class.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Psychology of the Language Learner

Psychology of the Language Learner

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV260
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6141
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students will understand and be able to explain the complexities of "who" a language learner is. To do so, students will explore the roles of socializers and the self on competency and value beliefs. Students will understand affect, motivation, and agency and be able to assess teaching practices in relation to each. It is expected that students will also be able to understand the complexities of "who" a teacher is, and thus, students should be able to assess a language learning classroom dynamic from multiple psychological perspectives.

授業の内容 / Course Contents

The course will cover the development of the self. In order to understand said development, the course will cover the influential roles of culture, socializers, education, and the self on beliefs, affect, motivation, and agency. The course will conclude with practical implications in the classroom.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Psychology in education

2 回： Theoretical approaches to understanding educational psychology

- 3回：Group dynamics
 4回：The self: Definition
 5回：Beliefs
 6回：Comptency beliefs & value beliefs
 7回：Affect
 8回：Motivation: Theory
 9回：Motivation: In the classroom
 10回：Agency
 11回：Willingness to Communicate & teaching practice
 12回：Academic article review 1
 13回：Academic article review 2
 14回：Prooject Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Study required outside of class will be determined in consultation with the instructor throughout the semester.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation:25% Reading summaries and homework:25% Reflection papers:20%
 Project and report:30%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

Readings will be provided by the instructor.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Language Curriculum A

Seminar in Language Curriculum A

Content and Language Integrated Learning (CLIL)

居村 啓子 (IMURA KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV261

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to deliver an overview of Content and Language Integrated Learning (CLIL) and facilitate students' understanding of CLIL-based approaches and pedagogies. Throughout the course, students will learn the principles and methodology of CLIL from a wide range of readings and extensive discussions.

授業の内容 / Course Contents

In this course, I will introduce Content and Language Integrated Learning (CLIL) as an educational approach in which a target language is used for the learning and teaching of both content and language. The course will cover the theoretical frameworks of CLIL and explicate the fundamental differences between the existing educational approaches as well as content-based language teaching and immersion programs. Students will not only learn the academic background of CLIL, but learn how it can be put into practice. They will be asked to conduct micro-teaching based on CLIL methodology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction: what is CLIL?

- 2回：A window on CLIL
 3回：Curricular variation in CLIL
 4回：CLIL as a theoretical concept
 5回：The CLIL Tool Kit: Transforming theory into practice
 6回：Evaluating and creating materials and tasks for CLIL classrooms
 7回：Assessment issues in CLIL
 8回：Evaluating the impact of CLIL programmes
 9回：Future directions
 10回：Micro teaching 1
 11回：Micro teaching 2
 12回：Micro teaching 3
 13回：Micro teaching 4
 14回：Wrap-up and feedback

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will read the assigned reading materials beforehand and prepare for review and discussion sessions in class. Three reaction papers will be required during the semester.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentations:30% Reaction papers:30% Micro teaching:20% 最終レポート
割合 :20%

テキスト / Textbooks

Do Coyle, Philip Hood, David Marsh Content and Language Integrated Learning Cambridge 2010
9780521130219 ○

Additional materials will be provided as necessary.

参考文献 / Readings

Fred Genesee and Else Hamayan CLIL in Context: Practical Guidance for Educators Cambridge 2016
9781316609453

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Language Curriculum B

Seminar in Language Curriculum B

ヴィタ, J. (VITTA JOSEPH PAUL)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV262
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6141
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is focused on the global aim of preparing students to design curricula and syllabi for language courses in professional and academic settings according to current best practices. To that end, the course is carried out in three sequential phases where each has a governing aim and sequent objectives.

Phase 1 (Weeks 1 and 2)

Aim: To introduce students to the background of second/foreign language curriculum and syllabus design while introducing the key concepts associated with this process.

Objective 1: Understand the social and economic realities of language teaching.

Objective 2: Identify how language curriculum and syllabus design intersects with functional linguistic theory.

Objective 3: Know and be able to differentiate key terms such as aim, objective, outcome, environment, and needs.

Phase 2 (Weeks 3 to 10)

Aim: To able to evaluate and create curricula and syllabi in an enhanced manner using Macalister and Nation (2017) as a defensible model.

Objective 1: Understand the design process is a system of interconnected parts.

Objective 2: Understand how to evaluate and design environment and needs analyses as the underpinnings of the design process.

Objective 3: Understand how principles, sequencing, and organization are the hallmarks of the design process. Develop both passive and active knowledge of this point.

Objective 4: Understand how evaluation and assessment need to fit into the design process.

Objective 5: Be able to identify learning and course materials for inclusion in curricula and syllabi design processes while being able to defend the choices of specific materials.

Phase 3 (Weeks 11 to 14)

Aim: To create an enhanced curriculum and syllabus (course design) for a mock job application applying concepts and knowledge developed during phase 2.

Objective 1: Design and write an enhanced course design for a course mentioned in a mock job application.

Objective 2: Be able to organize, present, and defend design choices within the writing of the enhanced curriculum/syllabus.

Objective 3: Be able to evaluate designs according to the principles and concepts taught during the course.

Objective 4: Be able to defend and explain one's enhanced curriculum/syllabus during a mock interview.

授業の内容 / Course Contents

Course contents have been placed into the schedule section below. In sum, phase 1, weeks 1 and 2, sets the background. Phase 2, weeks 3-10, teaches the relevant concepts. Phase 3, weeks 11-14, is when these concepts are applied.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：1. Introduction to the Course

2. Language Learning and Teaching as a Social and Economic Reality

3. Key Concepts in Curriculum and Syllabus Design

(Students will read Vitta & Al-Hoorie, 2023 and CEFR Assessment Standards - 2011 before next class)

2回：1. Functional Linguistic Theory and Modern Language Teaching

2. The Active Learning Approach

3. The Curriculum - Instruction - Assessment Triad

(Students will read chapters 1 and 14 from the textbook before next class)

3回：1. Overview of the Macalister and Nation Model

2. Issues with Curriculum and Syllabus Design in the Japanese EFL Context

(Students will read chapters 2 and 3 from the textbook before next class)

4回：1. Environment Analysis

2. Needs Analysis

(Students will read chapter 4 from the textbook, Byrnfonski & McKay 2019, Boers et al. 2021 before next class)

5回：1. Principals and Methodological Approaches in Course Design

2. How Research Informs Course Design

(Students will read chapters 5 and 6 from the textbook before next class)

6回：1. Sequencing, Organization, Formatting, and Presentation within Course Design

(Students will read chapters 7 and 8 from the textbook before next class)

7回：1. How assessment fits into course design.

2. How program/course evaluation fits into course design

(Students will read Vitta et al. 2019 and chapter 12 from the textbook before next class)

8回：1. Reforming existing plans

2. Teacher buy-in

3. The human aspect of curriculum design

(Students will read Vitta 2023 and chapter 11 from the textbook before next class)

9回：1. Reforming existing plans

2. Teacher buy-in

3. The human aspect of curriculum design

(Students will read Vitta 2013 and chapter 11 from the textbook before next class)

10回：Final Test - Content from weeks 1 to 9

11回：1. Overview of enhanced course (curriculum/syllabus) structure

2. Presentation of Final Project: Mock Curriculum/Syllabus Creation for Job Application

(Students complete first draft before next class)

12回：1. Peer Feedback and Consultations

(Students complete second draft before next class -- submit to Joe 3 days before)

13回：1. Teacher-provided Feedback and Consultations

2. Mock Interview Tips and Pointers

(Final draft sent to Joe 3 days after class)

14回：1. Mock Interviews -- These will be conducted using zoom and will take about 10-15 minutes per student.

Details to be provided in due course.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be required to study materials before most classes. When this is expected, class will begin with an 'easy' quiz to check that the reading was completed. Students will also be required to prepare brief notes for class discussion. Before week

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Reading/Study Quizzes:20% Post-class writing assignments/reflections:20% Mock Interview:20% 最終レポート割合：20%最終テスト割合：20%

In principle, work and quizzes cannot be made up with a university-approved excuse. Students will fail the course if they miss more than 3 classes with an excuse.

Students are encouraged to buy the e-book version of the textbook as it is cheaper and easier

テキスト / Textbooks

John Macalister and I.S.P. Nation Language curriculum design (2nd Edition) Routledge 2017
9780429203763 -

参考文献 / Readings

Readings will be provided in digital form by Joe

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

A laptop (or large tablet) is required for this course and students need to come to class with this.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Language Curriculum C

Seminar in Language Curriculum C

大森 愛 (OHMORI AI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション研究科
科目コード等：	VV263
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC6141
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

This course 1) offers an introduction to Japanese education system, and 2) helps students understand certain features of Japanese learners of English. By the end of the course, students will have basic understanding about the history and current situations of English language education in Japan, and specific features of Japanese learners of English and what it means to study English for the Japanese students. Furthermore, students will examine and consider teaching methodologies and culturally responsive teaching that are suitable to Japanese learners of English.

授業の内容 / Course Contents

The present course covers basic knowledge about Japanese education system and English language education, focusing specifically on Japanese contexts and learners. Students will examine and deepen their understanding through lectures and discussing issues related to English language education policies and Japanese learners of English. Opportunities to conduct lesson demonstrations will efficiently enhance students' practical and culturally responsive teaching skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
 2 回：History of English language education in Japan
 3 回：Course of study & Government policies
 4 回：English language education in Japanese classrooms (practices): primary and junior high schools
 5 回：English language education in Japanese classrooms (practices): senior high school and university
 6 回：Internationalization of higher education (EMI)
 7 回：Lesson plans, teaching methodologies, and team-teaching in Japanese schools
 8 回：Lesson demonstration 1
 9 回：Issues of English language education in Japan 1
 10 回：Issues of English language education in Japan 2
 11 回：Teacher education and teacher license,
 Team-teaching
 12 回：CLIL activities and planning CLIL
 13 回：Lesson demonstration 2
 14 回：Course review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance, class participation and homework:30% Lesson plans and demonstrations:35% Reflection papers, (and an interview and report):35%

テキスト / Textbooks

Necessary materials will be announced in the first class.

参考文献 / Readings

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Bilingualism and Language Contact

Bilingualism and Language Contact

Immigration, Multilingualism, and Language Change

谷口 ジョイ (TANIGUCHI JOY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV265

授業形態： オンライン（一部対面）

授業形態（補足事項） Online classes (partly face-to-face)

The 1st and 14th classes will be conducted in person, and the others will be online classes using a video conferencing system (Zoom).

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

When you finish this course, you will be able to

- (1) understand the fundamental concepts of language contact phenomena.
- (2) analyze the sociolinguistic contexts of language contact.
- (3) read and evaluate studies on language contact from a variety of approaches.

授業の内容 / Course Contents

In this course, we mainly focus on the linguistic varieties and linguistic practices that emerge from language contact. We pay attention to the social contexts of contact, as well as the linguistic outcomes of contact. It is also the goal of this course to understand the three major phenomena of language contact: maintenance, shift, and creation, including topics such as borrowing, multilingualism, code-switching, endangered languages, and pidgins and creoles.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：[face-to-face] Overview of the course
overview of language contact
- 2 回：An Emerging Multilingual Repertoire and Lexical Development
- 3 回：Social Multilingualism and Language Domains
- 4 回：Maintaining a Bilingual Repertoire (1)
Bilingualism as a First Language
- 5 回：Maintaining a Bilingual Repertoire (2)
Second Language Acquisition
- 6 回：Code Switching and Code Mixing in Conversation
- 7 回：Discourse Functions of Code Switching
- 8 回：Borrowing (1)
Lexical Borrowing
- 9 回：Borrowing (2)
Grammatical and Phonological Borrowing
- 10 回：Contact Languages (1)
Origins of Languages
- 11 回：Contact Languages (2)
Pidgins and Creoles
- 12 回：Multilingual Speakers as Agents of Language Change
- 13 回：Language Contact in Japanese Contexts
- 14 回：Final Presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

This course requires the students at least one hour each for preparation and review. Designated students will require several additional hours of preparation.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Mid-term Paper:20% Final Presentation:30% Weekly Assignment:20% 最終
レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

References and papers will be distributed online.

参考文献 / Readings

Anthony P. Grant The Oxford Handbook of Language Contact Oxford University Press 2020
9780199945092

Yaron Matras Language Contact (Cambridge Textbooks in Linguistics) Cambridge University Press 2020
9781108425117

Other books and references will be introduced in class.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Ability to read papers and discuss each topic in English

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC or Smart Devices

その他/ Others

I do not have office hours in Rikkyo. I am generally easiest to reach by email.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

通訳翻訳テクノロジー論

Technologies for Translators and Interpreters

Theoretical and Practical Foundation for Advanced Technologies in Translation and Interpretation

未定 (MITEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV306

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス（リアルタイム翻訳、文字起こし等）の実践と理論を学ぶために全授業回のうち2回はオンラインで実施する（7・8回目の授業）。

なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course aims at equipping students with basic knowledge and experiences of technologies utilized by linguists such as professional translators and project managers. The technologies to be covered in the course are Neural Machine Translation, including customization of it, post-editing and pre-editing tourniquets, orthodox CAT tools such as translation memory, terminology management tools, subtitling tools. Through the course, students are also expected to learn how to use technologies for research purposes, techniques such as corpus analysis, text mining, translation process research data collection methods.

授業の内容 / Course Contents

The course consists of a) understanding of the basic mechanism of AI-related NMT such as RNN, Transformer, word embedding, b) mastering CAT tools including translation memory, terminology management tools, including effective practice in post-editing and pre-editing, c) being familiar with customizing machine

translation, including domain adaptation and corpus data cleansing, d) being knowledgeable of project management and localization tool. The theme also covers post-editing, controlled language, speech recognition, data analyses, and privacy protection.

Throughout the course, students will be asked to read relevant articles, join a discussion, and complete assignments as specified. This course will be interactive and participative, in which students will be requested to study actively each subject and reflect what they learn onto their translation projects to be assigned in classes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：CAT tools 1
- 3 回：CAT tools 2
- 4 回：Post-editing 1
- 5 回：Post-editing 2
- 6 回：Machine translation 1: History
- 7 回：Machine translation 2 Theory
- 8 回：Machine translation 3: Domain adaptation
- 9 回：Terminology management and Project Management
- 10 回：Data cleansing, data mining, corpus analysis
- 11 回：Data-driven research and translation process research 1
- 12 回：Data-driven research and translation process research 2
- 13 回：Total workbench environment
- 14 回：Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Reading assignments will be given respectively. Students will be asked to join discussions on the assigned articles.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reflection paper:20% Homework assignments:30% Project-based assignments:50%

テキスト / Textbooks

Articles and handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

Minako O'Hagan The Routledge Handbook of Translation and Technology Routledge 2019
9781138232846

坂西優・山田優 『自動翻訳大全』 三才ブックス 2020 4866731931

ティエリー・ポイボー, 中澤 敏明 『機械翻訳:歴史・技術・産業』 森北出版 2020 4627851812

その他 / Others

https://researchmap.jp/yamada_trans

全授業回のうち3回のみオンライン実施（実施回については「Canvas LMS」で指示する）。

会議通訳入門

Introduction to Conference Interpreting

Introductory course of the Conference Interpreting Program

バギュリー (BAGULEY BLAKE MURCIA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV307

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC5243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This is an introductory course of the Conference Interpreting Program.

The objectives of this course are for students to:

- 1) understand the basic concepts and modes of interpreting;
- 2) develop basic skills that support all modes of interpreting, such as active listening and content analysis;
- 3) learn how to perform consecutive interpreting between Japanese and English in both directions on general (non-technical) topics;
- 4) acquire note-taking skills to support consecutive interpreting; and
- 5) build up vocabulary on a range of topics.

授業の内容 / Course Contents

The bulk of this course will be hands-on, practical exercises. Students will be asked to actively engage in exercises in each class, beginning with basic skills for interpreting such as active listening, then moving on to consecutive interpreting with and without notes. After each exercise, there will be time taken for constructive feedback and

discussion, with everyone participating.

Students will need to prepare for the topics to be covered in each class (by researching and building glossaries), record and reflect on their in-class performance, and also practice individually or in a group outside of class. The speeches/dialogues used will begin at entry level and progress to intermediate level, covering general (non-technical) topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course overview and introduction to modes of interpreting
 2 回： Introduction to active listening and memory
 3 回： Active listening and summarising exercises
 4 回： Interpreting without notes 1 (typical speeches)
 5 回： Interpreting without notes 2 (general topic)
 6 回： Interpreting without notes 3 (news, current events)
 7 回： Mid-term test (interpreting without notes in both directions)
 8 回： Review of mid-term test
 Introduction to note-taking
 9 回： Interpreting with notes 1 (general/personal topics)
 10 回： Interpreting with notes 2 (social issues)
 11 回： Interpreting with notes 3 (numbers)
 12 回： Interpreting with notes 4 (international affairs)
 13 回： Final test (interpreting with notes in both directions)
 14 回： Review of final test
 Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to research the topic prior to each class and build up their own bilingual glossaries. Students will need to record their performance in class, then listen back to it afterwards and write a report/reflection. In addition, students will

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Mid-term test:30% In-class performance:20% Report submission and in-class participation:10% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

Materials will be provided in class.

参考文献 / Readings

ベルジュロ・鶴田・内藤 『よくわかる逐次通訳』 東京外国語大学出版会 2009 4904575059

Robin Setton, Andrew Dawrant Conference Interpreting: A Complete Course (Benjamins Translation Library)

John Benjamins Publishing Company 2016 9789027258618

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Non-native speakers of English are required to have attained at least one of the following test scores: TOEFL iBT 100, IELTS 7.0, TOEIC 880, or Eiken 1.

Non-native speakers of Japanese are required to hold N1.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students should bring a recording device to class (smartphone or IC recorder).

Canvas LMS will be used to distribute some learning materials before/after class and for students to submit their reports and recordings.

その他/ Others

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

会議通訳 1

Conference Interpreting 1

Intermediate course of the Conference Interpreting Program

住本 時久 (SUMIMOTO TOKIHISA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV308

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）全授業のうち7回はオンラインで実施する（第2・4・6・8・10・12・14回）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

The following seven classes will be conducted online: The 2nd, 4th, 6th, 8th, 10th, 12th and 14th. Details and any changes will be announced in class or posted on Canvas LM

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC5243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：会議通訳入門

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

このコースは会議通訳プログラムの中級コースで、国際的に通用する通訳者の能力を開発することを目的とする。

このコースは、会議通訳入門コースで習得したスキルをさらに発展させることを目的としています。この授業の目的は、特に以下の通りである：

- 逐次通訳の戦略を立てるために、さまざまなスキルを統合する。
- 首尾一貫した「パッケージ」コミュニケーションを提供することを学ぶ。
- 同時通訳の基本的なコンセプトとスキルを学ぶ。
- 扱うトピックに関連する資料を見つけるスキルを身につける。
- 通訳者の職業行動と倫理

This is an intermediate course of the Conference Interpreting Program, which is designed to develop interpreter competencies identified by major international institutions.

This course is designed to further develop the skills students acquired in Introduction to Conference Interpreting course. The objectives of this class are, among others, the following:

- Converge the different skills to form a strategy for consecutive interpreting
- Learn to deliver a coherent 'package' of communication
- Learn the fundamental concepts and skills of simultaneous interpreting
- Become skillful in finding relevant material for the topic to be covered
- Learn about professional conduct and code of ethics of interpreters

By completing this course, they should be able to interpret the message of 2-3 minutes in length for consecutive, and up to 8 minutes of speech on a general topic for simultaneous interpreting.

授業の内容 / Course Contents

幅広い経験を積むために、幅広いトピックについて E to J と J to E の両方の通訳練習に触れる。その過程で、倫理規定など、より専門的な背景も学ぶ。スキル、知識、理解を組み合わせることで、メッセージを把握し、メモを取り、話し手の一貫した説得力のあるメッセージを伝えるための、確かな個人的戦略を徐々に身につけることができるはずです。

また、同時通訳にも触れる： また、同時通訳の基本的な概念とスキル、記憶のメカニズム、様々なテクニックについても学ぶ。

授業で使用するトピックについてリサーチを行い、授業中のパフォーマンスに反映することが求められる。

Students are exposed to interpreting exercises of both E to J and J to E on a wide range of topics in order to gain broad experiences. In the process, they also learn finer context of the profession, such as code of ethics. By combining the skills, knowledge and understanding, they should be able to gradually develop a solid personal strategy, for grasping the message, for note taking, and for delivering a coherent and convincing message of the speaker.

They are also exposed to simultaneous interpreting: Fundamental concepts and skills, mechanism for retention, and various techniques for delivery.

Students are expected to do a research on the topics to be used in class, and to submit reports on their in-class performances.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction

Review of the basic skills

2 回： Consecutive interpreting: Personal

3 回： Consecutive interpreting: Business

4 回： Consecutive interpreting: Technical, IT

5 回： Consecutive interpreting: Political, ideological

6 回： Consecutive interpreting: International

7 回： Mid-term test (consecutive)

8 回： Review of the mid-term test

General principles and strategies for simultaneous interpreting

9 回： Split attention, double tracking

Exercises

- 10 回：Simultaneous interpreting: Slow and personal
 11 回：Simultaneous interpreting: Moderately technical, IT
 12 回：Simultaneous interpreting: Political
 13 回：Simultaneous interpreting: International
 14 回：Final test

(Content and schedule subject to change depending on the class mix)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to do an extensive research on the theme prior to class, thereby building up bilingual glossary of various topics. They also need to be informed of current events. After class, they are to write and submit a report on their in-class

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Final test:20% Midterm test:20% In-class performance:50% Report submissions and class participation:10%

テキスト / Textbooks

ベルジュロ伊藤宏美・鶴田知桂子・内藤稔 『よくわかる逐次通訳』 東京外国語大学出版会 2009
 9784904575055 ○

Reading materials will be distributed in class when necessary.

参考文献 / Readings

小松達也 『通訳の技術』 研究社 2005 4327451916
 Jones, R. Conference Interpreting Explained St. Jerome 2002 1900650576
 水野的 『同時通訳の理論』 朝日出版社 2015 425500871

その他 / Others

Prerequisite: Students must have successfully completed Introduction to Conference Interpreting with grade B or above.

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Students who wish to enroll in this course must obtain permission from their supervisor

会議通訳 2

Conference Interpreting 2

Advanced course of the Conference Interpreting Program

住本 時久 (SUMIMOTO TOKIHISA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV309

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）全授業のうち7回はオンラインで実施する（第2・4・6・8・10・12・14回）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

The following seven classes will be conducted online: The 2nd, 4th, 6th, 8th, 10th, 12th and 14th. Details and any changes will be announced in class or posted on Canvas LM

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：会議通訳入門・会議通訳 1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

会議通訳者が日常的に扱うトピックについて、英語から日本語へ、または日本語から英語への連続通訳や同時通訳ができるようになるための言語的・内容的知識を身につける。

Students will gain linguistic and subject knowledge that will prepare them to interpret consecutively and simultaneously, from English to Japanese and vice versa, in the topics that conference interpreters regularly handle.

授業の内容 / Course Contents

各授業では、国際ビジネスに関連するトピックを1つ取り上げる。受講生は1週間を通して、授業中に行う通訳の準備をします。授業の前半では英語から日本語へ、後半では日本語から英語への通訳ができるように準備します。受講生は、自分自身やお互いのパフォーマンスを確認し、フィードバックを受け、次回に向けた改善

策を学ぶ機会を持つ。

Each class will focus on one topic related to international business. Students will prepare for the in-class interpreting task throughout the week. When they come to class, they will be ready to interpret the topic from English to Japanese in the first half and from Japanese to English in the second half of the class. Students will have the opportunity to review their own and each other's performance, get feedback, and learn how to improve for next time.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation
- 2 回：Consecutive Interpreting J<>E
- 3 回：Consecutive Interpreting J<>E
- 4 回：Consecutive Interpreting J<>E
- 5 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 6 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 7 回：Midterm Test
- 8 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 9 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 10 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 11 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 12 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 13 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 14 回：Final Test

Details are subject to change depending on class mix and other factors.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be required to plan for in-class interpreting activities as if they were getting ready to interpret professionally. This means preparing a glossary, reading articles on the topic, practicing interpreting, and evaluating your performance in p

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Midterm Test:20% In-class Participation:50% Out-of-class Preparation:10%

最終レポート割合：0%最終テスト割合：20%

テキスト / Textbooks

ベルジュロ伊藤宏美・鶴田知桂子・内藤稔 『よくわかる逐次通訳』 東京外国語大学出版会 2009
9784904575055 ○

参考文献 / Readings

To be provided

その他/ Others

Prerequisite: Students must have successfully completed Introduction to Conference Interpreting and Conference Interpreting I with Grade B or above.

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Students who wish to enroll in this course must obtain p

翻訳の原理と方法

Principles and Methods in Translation

Introductory course of the Professional Translation Program

未定 (MITEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV311

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス（リアルタイム翻訳、文字起こし等）の実践と理論を学ぶために全授業回のうち2回はオンラインで実施する（7・8回目の授業）。

なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC5243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This is the introductory module for the Translation Professional Training Program. Students are expected to develop basic translation competence and techniques while attempting to translate many different text types, and thus considering why they translate in a certain way and what translation strategies are effective in different contexts.

授業の内容 / Course Contents

This course is aimed at novice learners of English to Japanese Translation. Through practical seminars students are expected to read and thoroughly understand the English source texts and carefully select appropriate Japanese expressions. Along with acquiring basic translation skills, they also learn more professional skills such as terminology management and background survey techniques.

The use of computer-assisted-translation (CAT) tools, glossary preparation, self and peer review will also be

included in the course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Translation theory and practice: EMT
- 3 回：CAT tools and translation workbench
- 4 回：Translation practice 1: Selected topics
- 5 回：Translation practice 2: Selected topics
- 6 回：Translation practice 3: Selected topics
- 7 回：Localization 1
- 8 回：Localization 2
- 9 回：Subtitling 1
- 10 回：Subtitling 2
- 11 回：Technical documents 1
- 12 回：Technical documents 2
- 13 回：Review
- 14 回：Final report

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work on assignments every week and submit them before the next class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Assignemnts:40% Final report:30%

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

光藤 京子, 田辺 希久子 『英日日英 プロが教える基礎からの翻訳スキル』 三修社 2008 9784384055061

その他 / Others

英語の非母語話者は TOEFL iBT 100, TOEIC 880, IELTS 7.0, または英検 1 級を取得しておくこと。日本語の非母語話者は N1 を取得しておくこと。

初回の授業には必ず出席してください。授業内容は、クラスの構成等により変更する可能性があります。

全授業回のうち 3 回のみオンライン実施 (実施回については「Canvas LMS」で指示する)。

翻訳演習 1

Translation Seminar 1

Intermediate course of the Professional Translation Program

香取 芳和 (KATORI YOSHIKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV312

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC5243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：翻訳の原理と方法

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

上級レベルの翻訳スキルの習得を目指す。翻訳はどのくらい原文に近づけるか（翻訳の限界）を理解する。

This course is designed to help you acquire advanced-level translation skills. It also aims to bring you to a realization that there are limits to how closely a translated text can be made to resemble the original.

授業の内容 / Course Contents

上記目標を達成するため、

- 英語文と日本語文で結束性（テキストのまとまり感）の具現方法がどのように違うかを理解する。
- 等価を実現するためのさまざまな手法を検討する。
- モノ言語からコト言語へ変換テクニックを学ぶ。
- 英語から日本語、日本語から英語に訳された文章と、もともとそれぞれの言語で書かれた文章を分析し、翻訳で補足または省略されやすい情報のタイプを知る。
- いわゆる「翻訳調」に気づく。
- 翻訳にできる介入の限界を考える。

7. 受講生によるプレゼンテーションを課す。

In order to achieve the goals above, the course covers the following contents.

1. Understanding the difference in the way cohesion is achieved between English texts and Japanese texts.
2. Discussing various strategies to achieve equivalence.
3. Learning translation techniques in converting "mono (things)" language into "koto (event)" language.
4. Analysis of Japanese texts translated from English, English texts translated from Japanese and comparable texts originally written in each language, for types of information that tend to be added or omitted through translation.
5. Gaining awareness for what's called "translatese" or "translationese."
6. Realizing limits to what translators can do to produce "natural" texts.
7. Presentation by students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：「翻訳であることがわからない翻訳」はどこまで可能か（1）
- 3 回：「翻訳であることがわからない翻訳」はどこまで可能か（2）
- 4 回：翻訳課題1 前半
原文の解説と訳文の講評
- 5 回：翻訳課題1 後半
原文の解説と訳文の講評
- 6 回：モノ言語からコト言語への変換
- 7 回：英語テキストと日本語テキストの結束性の具現方法の違いについての考察（1）
- 8 回：翻訳課題2 前半
原文の解説と訳文の講評
- 9 回：翻訳課題2 後半
原文の解説と訳文の講評
- 10 回：英語テキストと日本語テキストの結束性の具現方法の違いについての考察（2）
- 11 回：「翻訳癖（翻訳調）」についての解説
プレゼンテーションの準備
- 12 回：翻訳課題3
- 13 回：受講生によるプレゼンテーション
- 14 回：今期の総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 翻訳課題:40% 翻訳練習問題:15% プレゼンテーション:15% プレゼンテーションの

リアクションペーパー:10% 最終レポート割合：:20%

テキスト/Textbooks

参考文献 / Readings

平子義雄 『翻訳の原理 異文化をどう訳すか』 大修館書店 1999 9784469212358

伊原紀子 『翻訳と話法 語りの声を聞く』 松籟社 2011 9784879842947

共同通信社 『記者ハンドブック第13版 新聞用字用語集』 共同通信社 2016 9784764106871

その他/ Others

司会者を決めて訳文講評を行う。

個人またはグループによるプレゼンテーションを予定している。

翻訳演習 2

Translation Seminar 2

字幕翻訳の理論と実践 (Advanced translation course of the Professional Translation Program)

篠原 有子 (SHINOHARA YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV313

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：翻訳の原理と方法・翻訳演習 1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

視聴覚翻訳の中心領域である字幕翻訳の特徴と制約を理解し、翻訳実践を通して様々な状況に対応した字幕を作成するための技能を養う。また、翻訳方略や字幕研究の流れなど理論的な知識を習得すると同時に、技術の進展とともに起きている字幕の新たな動きについて理解する。これらを通して、字幕翻訳の理論と実践のつながりについて考察する。

We will develop understanding of the characteristics and limitations of subtitle translation, which is the central component in audiovisual translation. Via translation practice we will develop skills for producing subtitles that correspond to various situations. Also, while acquiring theoretical knowledge through the study of areas such as translation strategies and subtitling research trends, we will gain understanding of new movements in subtitling that are occurring in line with the progress of information technology. Through this knowledge and understanding we will consider the connection between subtitle translation theory and practice.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、字幕翻訳理論の概説と、英語映画のための日本語字幕の作成を行う。はじめに、視聴覚翻訳と字

幕翻訳について概観したうえで、訳出のための準備として字幕翻訳のルールや制作プロセスを明らかにする。次に、字幕翻訳の特性について示してから、翻訳課題である映画の一部を素訳から字幕訳へと段階的に訳出する。また、翻訳方略の分類やその活用法などについて述べ、自らの訳出を理論的に説明する方法について解説する。さらに、映画字幕とは内容や形態が異なる字幕を取り上げ、テクノロジーやアクセシビリティなどの観点から、新形態の字幕について議論する。併せて、日本映画に付けられる英語字幕を取り上げ、その特性について検討する。

In this class, we will give an outline of subtitle translation theory and create Japanese subtitles for English movies. Firstly, having provided an overview of audiovisual translation and subtitle translation, as preparation for translating we will shed light on the rules and the process of creating subtitle translations. Next, after presenting the specific features of subtitle translation, we will gradually translate part of a movie, which forms our translation assignment, from the base translation into the subtitle translation. Also, we will discuss the classification of translation strategies and their use, along with describing ways of theoretically explaining one's own translations. Furthermore, we will cover subtitles with different content and style from movie subtitles. Also, we will discuss these new subtitle formats from technology and accessibility related points of view. In addition, we will cover English subtitles that are added to Japanese movies and consider characteristic traits that are specific to them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：はじめに：翻訳課題および翻訳ソフトの説明
- 2 回：視聴覚翻訳の理論、研究、実践
- 3 回：字幕翻訳のルールと技法
- 4 回：字幕翻訳の特性：時間と空間の制約
- 5 回：字幕翻訳の特性：批判されやすい翻訳
- 6 回：字幕翻訳の特性：マルチモード性
- 7 回：翻訳方略
- 8 回：ユーモアと異文化の訳出
- 9 回：協働作業としての字幕翻訳
- 10 回：字幕と吹き替え
- 11 回：新形態の字幕翻訳 (1)
- 12 回：新形態の字幕翻訳 (2)
- 13 回：字幕翻訳とアクセシビリティ
- 14 回：プレゼンテーション

(授業の進捗状況により、内容と順番が変更される場合がある)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

翻訳、論文講読などの指示された課題に取り組み、授業の前々日までに課題を提出すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題:40% 授業への主体的取り組みと議論への貢献:20%
合 :40%

最終レポート割

テキスト/Textbooks

参考文献 / Readings

Díaz-Cintas, J. & Remael, A. Subtitling: concepts and practices Routledge 2021 9781138940543

マンディ, J. 『翻訳学入門』 みすず書房 2009 9784622074557

Pérez-González, L. The Routledge handbook of audiovisual translation Routledge 2019 9781138859524

篠原有子 『映画字幕の翻訳学』 晃洋書房 2018 9784771031029

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

第1回の授業時に、翻訳素材の配付と翻訳ソフトの使用について説明するので、各自 PC と USB を持参すること。

その他/ Others

適宜、授業時に資料を配付する。

課題については次回授業開始時にフィードバックを行う。

先修規定：「翻訳演習 1」を履修し、その成績評価が B 以上であること。

通訳翻訳研究特殊講義

Seminar in Translation and Interpreting Studies

通訳通訳研究の新たな潮流/New Trends in Translation and Interpreting Studies

坪井 睦子 (TSUBOI MUTSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV315
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6243
使用言語： その他
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、近年における通訳通訳研究の新たな潮流について考察し、研究領域の現在の地平を明らかにするとともに、今後の課題とニーズの変化を探求することを目的とする。

This course aims to address new trends in translation and interpreting studies in recent years, to identify the current state of the research field, and to explore its future challenges and changing needs.

授業の内容 / Course Contents

このコースでは、通訳通訳研究の歴史を概観したうえで、メディア、テクノロジー、教育、紛争・戦争、多文化共生など、さまざまな切り口から通訳通訳研究の新たな潮流について考察する。授業活動を通し、通訳通訳研究の現状に対する理解を深めるとともに、将来の課題やニーズの変化について議論し、その知見を受講生自らの研究に反映させることを目指す。クラスの活動では、学生主導による発表と討論が行われる。受講生は指示された文献を熟読して授業にのぞむことが求められる。また、発表担当者は発表の準備を十全に行うとともに、クラスでの討論を活性化させる役割を担う。

尚、スケジュール、および扱うテーマはクラスの状況に応じ変更される場合がある。

Beginning with an overview of the history of Translation and Interpreting Studies (TIS), this course examines emerging trends in TIS through various thematic lenses: media, technology, education, conflict and war, and multiculturalism. The course will allow students to develop their understanding of the current state of TIS, discuss its future challenges and changing needs, and finally apply the knowledge gained to their research. Class activities will include student-led presentations and discussions. Students are expected to read all assigned materials thoroughly before coming to class and to prepare well for presentations so that they can play a role in facilitating class discussion.

*The above schedule and topics are subject to change based on class conditions and progress

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：初回ガイダンス
 - 2 回：翻訳通訳研究の歴史と近年の動向
 - 3 回：メディアと翻訳通訳 (1)
 - 4 回：メディアと翻訳通訳 (2)
 - 5 回：テクノロジーと翻訳通訳 (1)
 - 6 回：テクノロジーと翻訳通訳 (2)
 - 7 回：翻訳通訳と教育 (1)
 - 8 回：翻訳通訳と教育 (2)
 - 9 回：紛争／戦争と翻訳通訳 (1)
 - 10 回：紛争／戦争と翻訳通訳 (2)
 - 11 回：多文化共生と翻訳通訳 (1)
 - 12 回：多文化共生と翻訳通訳 (2)
 - 13 回：最終プレゼンテーション (1)
 - 14 回：最終プレゼンテーション (2)
- まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習・復習の具体的内容については、授業時に指示する。

基本的に、授業前には指定された文献を熟読することと必要に応じて調査を行うこと、授業後は復習を兼ねリアクションペーパーを提出することが求められる。発表担当者は発表の準備を十全に行うこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業活動への積極的参加と貢献:20% リアクションペーパー:20% 発表:20%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

随時、資料を配布、または提示する。

参考文献 / Readings

武田珂代子（編著） 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135

New Trends in Translation Studies シリーズ(Peter Lang)、New Perspectives in Translation Studies シリーズ (Routledge) 等、授業時に適宜紹介する。

通訳翻訳専門実習 A

Advanced Practicum in Translation and Interpreting A

Advanced course of the Professional Interpreting/Translation Program

武田 珂代子／未定 (TAKEDA KAYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV316

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス（リアルタイム翻訳、文字起こし等）の実践と理論を学ぶために全授業回のうち2回はオンラインで実施する（7・8回目の授業）。

なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目： 会議通訳入門・会議通訳・会議通訳2 または翻訳の原理と方法・翻訳演習1・翻訳演習2（会議通訳2・翻訳演習2については、通訳翻訳専門実習 A と同学期の履修を可とする。）

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course represents an advanced component of the Interpreting/Translation Professional Training Program, integrating key concepts from Interpreting/Translation Studies Theories. It is designed to enhance students' translation skills and methodologies as they work on various types of texts and settings. This process will encourage students to critically analyze their translation choices and the effectiveness of different strategies in diverse contexts. Students will become familiar with practical work, understand professional ethics, and acquire an awareness of being a professional interpreter/translator. They will also reflect the understanding gained through practice in their research. The ultimate aim of the course is to thoroughly prepare students for real-world interpreting and translation practice.

授業の内容 / Course Contents

Students will gain insight into the objectives of the practical training, acquiring both the skills and the professional mindset necessary for their development. They will also learn about the service learning project "RiCoLaS" at Rikkyo University, along with various internships and other practical training opportunities. With this knowledge, students will engage in discussions to set their own training goals.

Throughout the practical training period, students are required to document their (1) objectives, (2) tasks undertaken to achieve these goals, and (3) the actual outcomes of their training. In the concluding session, each student will present an oral summary of their entire training experience and submit a comprehensive report detailing their training experience.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Interpreting/Translation theory and practice revisited
- 3 回：Practicum 1
- 4 回：Practicum 1 cont'
- 5 回：Practicum 1 cont'
- 6 回：Practicum 1 cont'
- 7 回：Mid-Term Review
- 8 回：Project 2
- 9 回：Project 2 cont'
- 10 回：Project 2 cont'
- 11 回：Project 2 cont'
- 12 回：Project 2 cont'
- 13 回：Review
- 14 回：Final report and presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work on assignments every week and submit them before the next class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Assignemnts:40% Final report:30%

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

光藤 京子, 田辺 希久子 『英日日英 プロが教える基礎からの翻訳スキル』 三修社 2008 9784384055061

その他 / Others

履修条件

「会議通訳2」または「翻訳演習2」を履修中または修得済みであること

通訳翻訳専門実習 B

Advanced Practicum in Translation and Interpreting B

Advanced course of the Professional Interpreting/Translation Program

松下 佳世／未定 (MATSUSHITA KAYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV317

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス（リアルタイム翻訳、文字起こし等）の実践と理論を学ぶために全授業回のうち2回はオンラインで実施する（7・8回目の授業）。

なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：会議通訳入門・会議通訳・会議通訳2 または翻訳の原理と方法・翻訳演習1・翻訳演習2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course represents an advanced component of the Interpreting/Translation Professional Training Program, integrating key concepts from Interpreting/Translation Studies Theories. It is designed to enhance students' translation skills and methodologies as they work on various types of texts and settings. This process will encourage students to critically analyze their translation choices and the effectiveness of different strategies in diverse contexts. Students will become familiar with practical work, understand professional ethics, and acquire an awareness of being a professional interpreter/translator. They will also reflect the understanding gained through practice in their research. The ultimate aim of the course is to thoroughly prepare students for real-world interpreting and translation practice.

授業の内容 / Course Contents

Students will gain insight into the objectives of the practical training, acquiring both the skills and the professional mindset necessary for their development. They will also learn about the service learning project "RiCoLaS" at Rikkyo University, along with various internships and other practical training opportunities. With this knowledge, students will engage in discussions to set their own training goals.

Throughout the practical training period, students are required to document their (1) objectives, (2) tasks undertaken to achieve these goals, and (3) the actual outcomes of their training. In the concluding session, each student will present an oral summary of their entire training experience and submit a comprehensive report detailing their training experience.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Interpreting/Translation theory and practice revisited
- 3 回：Practicum 1
- 4 回：Practicum 1 cont'
- 5 回：Practicum 1 cont'
- 6 回：Practicum 1 cont'
- 7 回：Mid-Term Review
- 8 回：Project 2
- 9 回：Project 2 cont'
- 10 回：Project 2 cont'
- 11 回：Project 2 cont'
- 12 回：Project 2 cont'
- 13 回：Review
- 14 回：Final report and presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work on assignments every week and submit them before the next class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Assignemnts:40% Final report:30%

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

光藤 京子, 田辺 希久子 『英日日英 プロが教える基礎からの翻訳スキル』 三修社 2008 9784384055061

その他 / Others

履修条件

「会議通訳2」または「翻訳演習2」を修得済みであること

異文化コミュニケーション理論

Intercultural Communication Theory

異文化コミュニケーション研究への質的アプローチ

灘光 洋子 (NADAMITSU YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV404

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

質的アプローチによる異文化コミュニケーション研究の理論的枠組みを体系的に学ぶことで、研究に対する理解を深める。

To develop better understanding of qualitative research conventions in the field of Intercultural Communication through learning about different schools of thoughts.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション研究に深く関連する理論の系譜をたどることで、概念や理論的枠組み、視点の関連性に目を向けると同時に、それらに則った様々な実践を概観する。具体的には、様々な知の潮流（解釈的系譜、批判的系譜など）についての論考を読み、討議することで理解を深めたい。

Through a detailed overview of the major post-positivist traditions, we will deepen our understanding of qualitative orientations found in Intercultural Communication research and become familiar with working in them. Our reading will cover the interpretive, structuralist, critical, and "post" traditions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：ポスト実証主義の系譜と研究スタイル
- 2回：批判理論と研究例の紹介
- 3回：シンボリック相互作用論
- 4回：シンボリック相互作用論の研究例/関連文献
- 5回：ドラマツルギーとドラマティズム
- 6回：ドラマツルギーとドラマティズムの研究例/関連文献
- 7回：エスノメソドロジー
- 8回：エスノメソドロジーの研究例/関連文献
- 9回：エスノグラフィー
- 10回：エスノグラフィーの研究例/関連文献
- 11回：記号論と構造主義
- 12回：記号論と構造主義の研究例/関連文献
- 13回：ポスト構造主義 あるいは フェミニズム
- 14回：ポスト構造主義 あるいは フェミニズムの研究例/関連文献

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習範囲や課題は、授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表および討議への貢献度：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

Prasad, P. 著（箕浦康子 監訳） 『質的研究のための理論入門：ポスト実証主義の諸系譜』 ナカニシヤ出版 ○

原則、履修者の関心のある章を優先的に選び考察を深めることとする。また、関連する論考・研究論文(英語論文を含む)については適宜指示する。

参考文献 / Readings

Prasad, P. Crafting qualitative research: Beyond positivist traditions Routledge 2018 24408877

指導の中で適宜指示する。

その他 / Others

「異文化コミュニケーション研究基礎論」を既に履修していることが望ましい。

履修者の積極的な討議参加を求める。各自、十分に文献を読み込んでくることを前提に授業を進める。

授業内容のテーマや順番は進捗状況に応じて変更する可能性がある。

コミュニケーション研究特殊講義A

Seminar in Communication Studies A

組織コミュニケーション / ディスコース研究の視点から

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV405

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が組織における異文化コミュニケーション（ディスコース）について多面的に分析・考察し、理解を深めることである。受講生は、組織で生起する異文化コミュニケーションを分析するための概念を学び、それらの概念を適切に用い、具体的コミュニケーション場面を分析、考察できるようになることを目指す。

This course is designed for graduate students to understand ways in which they can analyze and critically examine intercultural discourses in organizations from multiple perspectives. The students will be able to learn how to use analytic concepts to look into concrete intercultural discourses in organizations.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、グローバル化を背景とし多様な文化が交錯する組織のコミュニケーションについて分析・考察するため、関連する諸研究を扱う。具体的には、組織ディスコース研究で扱われる諸知見（組織研究、コミュニケーション研究、記号論、談話分析、レトリック研究、語用論、ジェンダー研究、物語論等の概念）を学び、それらの知見を用いて組織コミュニケーション（ディスコース）を分析、考察する。本講義で扱う組織は企業が

中心となるが、学校、病院、介護施設、非営利団体、自治会などの様々な組織もその範疇に入り、そうした組織で生起する異文化コミュニケーションの分析も射程とする。

This course introduces to graduate students a wide range of related research projects on organizational communication (discourse) in which multiple cultures interact with one another due to globalization. The students will learn how to analyze and consider organizational communication (discourse) in light of organizational discourse research that is based on a variety of fields such as organizational studies, communication studies, semiotics, discourse analysis, rhetorical analysis, pragmatics, gender studies, and narrative studies. This course mainly deals with business organizations, but it also includes other organizations such as schools, hospitals, nursing homes, non-profit organizations, and residents' organizations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：本講義の哲学的前提と焦点（組織ディスコース研究）
- 2 回：組織と語り：ディスコースとは何か
- 3 回：組織ディスコースの基本的考え方
- 4 回：組織ディスコース研究の源流
- 5 回：組織ディスコースの研究方法
- 6 回：ナラティブとストーリーテリング：組織の語りと対話 ☆リサーチノート 1 の提出日
- 7 回：組織レトリック
- 8 回：批判的ディスコース研究
- 9 回：ポスト構造主義アプローチ（1）：フォーコー派
- 10 回：ポスト構造主義アプローチ（2）：ラクラウ派とラカン派 ☆リサーチノート 2 の提出日
- 11 回：組織のアイデンティティ
- 12 回：組織とジェンダー
- 13 回：組織とパワー 事例研究発表（1）
- 14 回：事例研究発表（2）と総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前は、あらかじめ資料が配布される場合、その資料を読んでおくこと。授業後は、組織コミュニケーションの理解を助けるキーワード、分析概念、理論を復習し、それらが当てはまる実際の事例を自分なりに探し、リサーチ・ノートにまとめておくこと。リサーチノートの提出は、☆のマークがついた回にそれ以前の授業で学んだ内容（キーワードなど）を使って事例を分析したものを A4 一枚程度で提出する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表（事例分析）:30% リサーチノート:30% 最終レポート割合 :40%

リサーチノートは 1 回の提出が 15 ポイントで、2 回の提出で 30 ポイント、つまり、成績の 30%となる。

テキスト / Textbooks

清宮徹 『組織のディスコースとコミュニケーション』 同文館出版 2019 9784495390242 -

テキストの購入は任意：パワーポイントで要点を示すが、購読を推奨します。

参考文献 / Readings

- グラント, D ほか (編)、高橋正泰ほか (編訳) 『ハンドブック 組織ディスコース研究』 同文館出版
2012 9784495381011
- Putnam, L., & Mumby, D. (Eds.) The SAGE handbook of organizational communication: Advances in theory, research, and methods (3rd. ed.) SAGE 2014 9781412987721
- Jablin, F., & Putnam, L. (Eds.) The new handbook of organizational communication SAGE 2001
9781412915252
- Aritz, J., & Walker, R. (Eds.) Discourse perspectives on organizational communication Fairleigh Dickinson University Press 2012 9781611474374
- Adler, N. International dimensions of organizational behavior (4th ed.) South-Western 2002
9780324057865
- 石黒武人 『多文化組織の日本人リーダー像：ライフストーリー・インタビューからのアプローチ』 春風社
2012 9784861103223
- プラサド, P. 『質的研究のための理論入門：ポスト実証主義の諸系譜』 ナカニシヤ出版 2018
9784779512230

その他授業にて関連文献を適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

組織を対象とする質的データ分析を行うさまざまな学域の知見に教科書を通じて触れていきます。はじめて触れる考え方もあると思いますので、毎回扱う教科書の該当箇所をしっかりと読み、議論ができる準備をしておく勤勉さが求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

とくにありません。

コミュニケーション研究特殊講義B

Seminar in Communication Studies B

レトリカル批評/Rhetorical Criticism

奥田 博子 (OKUDA HIROKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV406

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この科目では、レトリカル批評（Rhetorical Criticism）の基礎と方法論を学ぶ。

This course deals with fundamentals of rhetorical criticism.

授業の内容 / Course Contents

具体的には、言語テキスト及び映像テキストを読み解くためのファンタジーテーマ分析、物語分析、イデオロギー分析、ポストモダン批評、社会運動分析といった方法論について学習する。と同時に、なぜ批判的な分析(Critical Analysis)をするのか、メッセージの持つ意味とは何か、といった問題も考察する。

This course will focus specifically on such rhetorical criticism as fantasy theme analysis, narrative analysis, ideological analysis, postmodern criticism and social movement analysis. By doing so, the course will explore why critical analysis is needed and what consists of the text.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業紹介、コミュニケーションとは？コミュニケーション研究とは？レトリック研究とは？

2 回：クリティカル・アナリシスとは何か？

- 3回：テーマ設定とクリティカル・メソッド1
 4回：クリティカル・メソッド2
 5回：中間レポートのテーマ報告
 6回：分析の方法
 7回：中間レポート提出と討論
 8回：メディアとカルチュラル・スタディーズ1
 9回：メディアとカルチュラル・スタディーズ2
 10回：批判的カルチュラル・スタディーズ
 11回：イデオロギー分析
 12回：最終レポートのテーマ報告
 13回：レトリックへのコミュニケーション論的アプローチ
 14回：最終レポート提出と討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関して必要に応じて別途指示するが、毎回の予習と積極的な参加が要求される。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業への参加度：50% 中間レポート：20% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 鈴木健・岡部朗一（編）『説得コミュニケーション論を学ぶ人のために』 世界思想社 2008
 9784790714064
- チャンギージー、マーク 『ヒトの目、驚異の進化——視覚革命が文明を生んだ』 早川書房 2020
 9784150505554
- ウルフ、メアリアン 『プルーストとイカ：読書は脳をどのように変えるのか？』 インターシフト 2008
 9784772695138
- サンデル、マイケル 『実力も運のうち——能力主義は正義か？』 早川書房 2021 9784152100160
- Dehaene, S. Reading in the brain: The new science of how we read Penguin Books 2009
- Han, Byung-Chul The burnout society Stanford University Press 2015
- Sillars, M. O. & Gronbeck, B. E. Communication criticism: Rhetoric, social codes, cultural studies Waveland
 2001 9781577661719

コミュニケーション研究特殊講義C

Seminar in Communication Studies C

文化的記憶と異文化コミュニケーション

河合 優子 (KAWAI YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV407

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーション研究と記憶研究の関連性を理解し、人種主義とナショナリズムに密接に関わる歴史修正主義を文化的記憶という概念を使って考察する

Students will (1) understand the connection between intercultural communication studies and memory studies, and (2) examine the relationship between historical revisionism (or denial) and racism and nationalism by referring to the concept of cultural memory.

授業の内容 / Course Contents

文化、歴史、アイデンティティ、メディアなどが関わる社会的行為としての記憶は、異文化コミュニケーション研究にとっても非常に関連性の高い概念である。この授業ではまず異文化コミュニケーション研究と記憶研究の関連性を考えた後、記憶研究についての入門書を読み進めて記憶研究の全体像を把握する。そして、異文化コミュニケーションの重要な課題であるナショナリズムと人種主義と密接に関わる歴史修正（否定）主義を文化的記憶という概念を使って考察していく。

Memory as a social act, intertwined with culture, history, identity, and media, is a significantly relevant concept

to intercultural communication studies. This course will first examine the connection between intercultural communication studies and memory studies. Then we will gain an overview of memory studies by reading an introductory textbook of memory studies. Lastly, we will explore the relationship between historical revisionism (or denial) and racism and nationalism—critical issues of intercultural communication—by referring to the concept of cultural memory.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：異文化コミュニケーションと集合的記憶（1）
- 3回：異文化コミュニケーションと集合的記憶（2）
- 4回：集合的記憶
- 5回：多様な学問分野における記憶
- 6回：文化と記憶
- 7回：メディアと記憶
- 8回：想起と忘却
- 9回：歴史修正主義とは（1）
- 10回：歴史修正主義とは（2）
- 11回：歴史修正主義とは（3）
- 12回：日本の歴史修正主義（1）
- 13回：日本の歴史修正主義（2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必ず課題文献を読んだ上で授業に参加すること。毎週、課題文献についての小レポートを提出してもらう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加・貢献度:20% 文献発表:20% 小レポート:20% 最終レポート割合 :40%

毎回小レポートの提出があります

テキスト / Textbooks

エアール、アストリッド 『集合的記憶と想起文化』 水声社 2022 4801006620 -

武井彩佳 『歴史修正主義』 中公新書 2021 4121026640 -

教科書に加えて、英語文献を使用する

参考文献 / Readings

授業内で紹介する

その他 / Others

毎週の小レポートにはフィードバックを行う。

コミュニケーション理論

Communication Theory

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV408

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、言語研究と文化人類学の間位置し、人間の文化・社会やその環境という広範な問題に言語とコミュニケーションの視点から接近する分野である言語人類学について、その概要を学ぶことを通して、コミュニケーション理論についての理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to introduce linguistic anthropology, a discipline located between language studies and cultural anthropology that approaches the broad question of socioculture and its environment from the perspective of language and communication, and to strengthen the students' understandings of the theoretical aspects of communication through the comprehension of the linguistic-anthropological view of language and communication.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、まず、人類学全体の中で言語人類学が占める位置を確認したうえで、過去 200 年間の言語研究と人間学の歴史を俯瞰し、言語人類学とその隣接分野（言語学、言語教育、認知科学、語用論、会話分析、談話分析、社会学、文化人類学、カルチュラル・スタディーズなど）との関係の全体像を把握する。つぎに、20 世紀言語人類学の変遷を概観したのち、ヤコブソン、ハイムズ、ガンパーズ、そしてシルヴァスティンへと続く

現代言語人類学のコミュニケーション・モデルの概要を説明する。こうして現代言語人類学の基本的な位置づけ、歴史、理論的基礎を学んだうえで、つぎに具体的な事例へと移り、アメリカ中流社会の成員たちのインタラクションに見られる、文化的知識とコミュニケーションの相互作用、社会文化的アイデンティティの構築を扱ったシルヴァスティン論文（「知とコミュニケーション」）、および、日本のマス・メディアを通じたインタラクションに見られる、地理的アイデンティティ、ジェンダー、（近現代・伝統）文化表象を扱った小山論文を精読し、現代言語人類学の記号論的「言説分析」の理論と手法を学ぶ。

In this course, we begin with observing the status of linguistic anthropology in relation to anthropology as a whole as well as the neighboring disciplines such as linguistics, linguistic pedagogy, cognitive science, pragmatics, and so on. Then, we move to the history of linguistic anthropology in the 20th and 21st centuries, explicating the linguistic-anthropological theories of communication advanced by Jakobson, Hymes, Gumperz, and Silverstein. Afterwards, we proceed to discuss two linguistic-anthropological case studies, one dealing with face-to-face interactions among young members of the American middle class, involving the construction of sociocultural identities and the interactions between cultural knowledge and communication, and the other dealing with communicative practices mediated by print mass media in modern Japan, involving geographical identity, gender, and cultural representations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：言語と文化：言語人類学とは何か
- 2 回：人類学の構成と言語人類学の布置（一）
- 3 回：人類学の構成と言語人類学の布置（二）
- 4 回：言語人類学と隣接分野（一）：ドイツ・ロマン派以降の言語研究の系譜
- 5 回：言語人類学と隣接分野（二）：カント以降の人間学の系譜
- 6 回：20 世紀言語人類学の変遷：ボアスからシルヴァスティンまで
- 7 回：20 世紀文化人類学の変遷：解釈、構造、象徴、儀礼、日常行為
- 8 回：言語人類学のコミュニケーション・モデル（一）：ヤコブソンの記号論（六機能モデル、詩的機能とテキスト生成、スピーチ・イベントと転換子）
- 9 回：言語人類学のコミュニケーション・モデル（二）：ハイムズのコミュニケーションの民族誌（スピーチ・イベント、SPEAKING モデル、コミュニケーションの適切さと効果）
- 10 回：言語人類学のコミュニケーション・モデル（三）：ガンパーズの談話分析（状況的・隠喩的コード・スイッチング、コンテクスト化の合図）
- 11 回：言語人類学のコミュニケーション・モデル（四）：シルヴァスティン（現代の社会文化記号論）
- 12 回：事例研究（一）：アメリカ中流社会の成員たちのインタラクションに見られる、知とコミュニケーションの相互作用、および社会文化的アイデンティティの構築
- 13 回：現代言語人類学の記号論的「言説分析」：理論的枠組み
- 14 回：事例研究（二）：日本のマス・メディアを通じたインタラクションに見られる、地理的アイデンティティ、ジェンダー、（近現代・伝統）文化表象

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:10% 発表など:50% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

小山亘 『コミュニケーション論のまなざし』 三元社 2012 9784883033133 ○

Canvas LMS などでレジユメを配布し、それに沿って授業は進行する。

参考文献 / Readings

小山亘 『近代言語イデオロギー論』 三元社 2011 9784883032808

小山亘 『記号の思想』 三元社 2009 9784883032464

小山亘 『記号の系譜』 三元社 2008 9784883032198

小山亘 『翻訳とはなにか』 三元社 2022 9784883035533

コミュニケーション研究特殊講義D

Seminar in Communication Studies D

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション研究科
科目コード等：	VV409
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC6340
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、コミュニケーション研究の中心の一角を占める談話分析、特に言語人類学・記号論系の談話分析について、事例研究に基づいて理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to strengthen the students' understandings of one of the central areas of communication studies, namely, discourse analysis, as theorized and practiced in linguistic anthropology and sociocultural semiotics. The course focuses on several case studies of discourse analysis, so as to explore theoretical foundations and empirical details of the method.

授業の内容 / Course Contents

授業では主に以下のテーマを扱う：

- (1) コミュニケーションの二次元：言及指示機能と社会指標（相互行為）機能、(2) 呼称、人名、親族関係、(3) 方言と標準語、都市化、近代化、(4) 社会階層と言語、(5) コミュニケーション過程：コンテキスト化とテキスト生成、(6) 前提的指標と創出的指標、(7) 対照ペアと詩的機能、(8) コミュニケーション出来事とマクロ／メゾ／ミクロ・コンテキスト、(9) 近代人文主義・人文学のコスモロジー、(10) ローマン主義と方言学、オリエンタリズム、(11) 近代国民国家と言語、(12) 言語変化と文化変容、(13) 地名：場所と言語、

(14) 相互行為に現れる文化的概念と文化的価値づけ、(15) 社会集団／組織への帰属とレジスター、(16) 相互行為の儀礼と詩的機能、(17) 知識の構造とコミュニケーション行為、および社会文化的アイデンティティの相関、(18) 地理とアイデンティティ：アメリカ中西部と東海岸、(19) アコモデーション行為とオリゴの転移、(20) コミュニケーション行為と学習、など。

This course mainly deals with the following themes: (1) two dimensions of communication: referential and social-indexical (interactional) functions, (2) terms of address, proper names, kin terms, (3) dialectal and standard varieties, urbanization, modernization, (4) social stratification and language, (5) communicative process: contextualization and textualization, (6) presupposing vs. entailing indexicality, (7) contrastive pairs and poetic function, (8) communicative event and micro-to-macro-levels of context, (9) cosmology of modern humanism and human sciences, (10) Romanticism, dialectology, and Orientalism, (11) modern nation-state and language, (12) language change and cultural transformation, (13) toponym: place and language, (14) cultural concepts and valuation as manifested in sociocultural interaction, (15) social membership and register, (16) interaction ritual and poetic function, (17) correlations among the structure of knowledge, communicative act, and sociocultural identity, (18) geography and identity: the Midwest and the East Coast in the US, (19) accommodation and the deictic center, (20) communicative act and learning, and so on.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：近代文学（日本語）の談話分析：近代日本・備後の言語接触と文化変容についての社会言語学的考察 (1)
- 2 回：近代文学（日本語）の談話分析：近代日本・備後の言語接触と文化変容についての社会言語学的考察 (2)
- 3 回：近代文学（日本語）の談話分析：近代日本・備後の言語接触と文化変容についての社会言語学的考察 (3)
- 4 回：雑誌記事（日本語）の談話分析：近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察 (1)
- 5 回：雑誌記事（日本語）の談話分析：近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察 (2)
- 6 回：雑誌記事（日本語）の談話分析：近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察 (3)
- 7 回：雑誌記事（日本語）の談話分析：近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察 (4)
- 8 回：アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話（英語）の談話分析 I：男性／男性、中西部／東部、社会福祉研究科／ロー・スクール、ロヨラ大学／ジョージタウン大学、などといった対照ペアが喚起される相互行為におけるアイデンティティと権力関係の指標についての社会言語学的考察 (1)
- 9 回：アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話（英語）の談話分析 I：(2)
- 10 回：アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話（英語）の談話分析 I：(3)
- 11 回：アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話（英語）の談話分析 II：女性／男性、中西部（および東部）／東部、社会福祉研究科／ロー・スクール、ヴァルパライソ大学（およびコーネル大学）／ジョージタウン大学、などといった対照ペアが喚起される相互行為におけるアイデンティティと権力関係の指標についての社会言語学的考察 (1)
- 12 回：アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話（英語）の談話分析 II：(2)
- 13 回：アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話（英語）の談話分析 II：(3)

14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表など:50% 授業参加度:10% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Canvas LMS などでレジメを配布し、それに沿って授業は進行する。

参考文献 / Readings

- 小山亘 『コミュニケーション論のまなざし』 三元社 2012 9784883033133
 小山亘 『近代言語イデオロギー論』 三元社 2011 9784883032808
 小山亘 『記号の思想』 三元社 2009 9784883032464
 小山亘 『記号の系譜』 三元社 2008 9784883032198
 小山亘 『翻訳とはなにか』 三元社 2022 9784883035533

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

すでに言語学、談話分析、記号論、言語人類学などの基本を習得していることが望ましい。

人類学特論

Topics in Anthropology

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV502
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 対面（一部オンライン）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6440
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Daniel I. Wasserman-Soler の著作 *Truth in Many Tongues: Religious Conversion and the Languages of the Early Spanish Empire* を全編読み、近世スペインの言語イデオロギーとカトリック世界宣教に関する諸問題を議論する。

Read Daniel Wasserman-Soler's *Truth in Many Tongues: Religious Conversion and the Languages of the Early Spanish Empire*, and discuss various issues related to language ideologies and the global Catholic evangelization efforts in early modern Spain.

授業の内容 / Course Contents

- 近世スペインの言語イデオロギーとカトリック世界宣教に関する諸問題の構造を理解する。
 - キリスト教布教に伴う言語と翻訳についての論争史を把握する。
- To understand the structure of the issues surrounding language ideologies and the global Catholic evangelization efforts in early modern Spain.
- To understand the history of the controversy over the linguistic/cultural translation of Christian concepts and doctrines.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：講義（オンライン）
 3回：講読：Introduction
 4回：講読：Chap. 1
 5回：講読：Chap. 1
 6回：講読：Chap. 2
 7回：講読：Chap. 2
 8回：講読：Chap. 3
 9回：講読：Chap. 3
 10回：講読：Chap. 4
 11回：講読：Chap. 4
 12回：講読：Chap. 5
 13回：講読：Chap. 5
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読箇所のレジюмеとコメント作成

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レジюме作成と毎回のコメント:60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

Daniel Wasserman-Soler Truth in Many Tongues: Religious Conversion and the Languages of the Early Spanish Empire THE PENNSYLVANIA STATE UNIVERSITY PRESS 2020 9780190884109

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

スペイン語か英語で難解な文献を講読できること。関連分野に関する背景知識がないのであれば予習に時間と労力を割けること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし

人類学特殊講義A

Seminar in Anthropology A

ティム・インゴルドの『人類学とは何か』を読む

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV504

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

私たちは現在、貧富の格差、政治的な暴力、戦争や環境危機に直面している。万人にとっての、未来の世代にとっての居場所を私たちはいかにつくりだすことができるのだろうか？ティム・インゴルドは、こうした緊急の課題に応えることができるのは、人類学において他にないと唱える。インゴルドの『人類学とは何か』を読み、なぜ人類学が今日重要なのかを学ぶ。

We now face mounting inequality, escalating political violence, warring fundamentalisms and an environmental crisis. How can we fashion a world that has room for everyone, for generations to come? These are urgent questions, and Tim Ingold declares no other discipline is better placed to address them than anthropology. We learn why anthropology matters to us all, by reading Ingold's Anthropology.

授業の内容 / Course Contents

ティム・インゴルド著『人類学とは何か』（亜紀書房、2020年）を受講生で輪読する。

In this class, students will read the Japanese translation of Tim Ingold's Anthropology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：第1章 他者を真剣に受け取ること（1）
 3回：第1章 他者を真剣に受け取ること（2）
 4回：第1章 他者を真剣に受け取ること（3）
 5回：第2章 類似と差異（1）
 6回：第2章 類似と差異（2）
 7回：第3章 ある分断された学（1）
 8回：第3章 ある分断された学（2）
 9回：第4章 社会的なるものを再考する（1）
 10回：第4章 社会的なるものを再考する（2）
 11回：第5章 未来に向けた人類学（1）
 12回：第5章 未来に向けた人類学（2）
 13回：第5章 未来に向けた人類学（3）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業に備えて予習をすること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加態度:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

ティム・インゴルド 『人類学とは何か』 亜紀書房 2020 9784750515953 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし。

グローバル文化研究特論A

Topics in Global Cultural Studies A

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV506

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化に伴う文化や言語の接触、混淆状況から生み出される、文学作品、映画作品などの文化表象を、世界史との関連において、文化研究の立場から理論的に論じ、考察することができるようになる。

The globalized world evidences many cultural products such as literature or film made through inter-cultural contact or cultural hybridity. This course aims to help students analyze these cultural products theoretically from the cultural studies perspective.

授業の内容 / Course Contents

人や資本の境界を越えた移動に伴う文化の変容や文化接触から生じる文化表象、たとえば異文化、他者表象について、オリエンタリズム、エスニシティ、ジェンダー、セクシュアリティなどの理論を踏まえて、解釈し、議論を行う。

Based on theories such as orientalism, ethnicity, gender, and sexuality, this course will interpret and discuss the transformation of culture, which is influenced by the transfer of people and capital across borders. It will also contemplate cultural representation generated by cultural contact, such as the representation of the "Other."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション1：グローバルゼーションとその理論について
 2回：イントロダクション2：「文化表象」と世界史の関連について
 3回：作品1：言語接触から生まれる文学作品
 4回：作品1：言語接触から生まれる文学作品
 5回：作品1：言語接触から生まれる文学作品
 6回：作品2：映像作品におけるマイノリティ表象
 7回：作品2：映像作品におけるマイノリティ表象
 8回：作品2：映像作品におけるマイノリティ表象
 9回：中間まとめ
 10回：作品3：文学作品におけるマイノリティ表象
 11回：作品3：文学作品におけるマイノリティ表象
 12回：作品3：文学作品におけるマイノリティ表象
 13回：文化分析の実践と理論
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への積極的な参加:30% 授業内での口頭発表:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

初回授業で配付。

参考文献 / Readings

- E.W.サイード 『文化と帝国主義1』 みすず書房 1998 4622031973
 E.W.サイード 『文化と帝国主義2』 みすず書房 2001 462203204
 中井亜佐子 『他者の自伝—ポストコロニアル文学を読む』 研究社 2007 9784327481513
 岡真理 『彼女の「正しい」名前とは何か』 青土社 2000 4791758412
 浜崎桂子 『ドイツの「移民文学」』 彩流社 2017 9784779123139
 上記文献には目を通しておくこと。その他文献は授業内でテーマごとに指示。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

文献を批判的に読み、討論する力。

人類学特殊講義B

Seminar in Anthropology B

はじめての人類学

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV507

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、『はじめての人類学』をテキストとして、20世紀初頭に確立された人類学の百年を、マリノフスキ、レヴィ=ストロース、ボアズ、インゴルドという4人の人類学者の足跡を追います。この授業では、「人間の生」を探究する人類学の全貌が浮かび上がるでしょう。

Using 'First Steps in Anthropology' as a text, this class will follow in the tracks of four anthropologists - Malinowski, Levi-Strauss, Boaz and Ingold - through a hundred years of anthropology as it was established at the beginning of the 20th century. The course will give a full view of anthropology's exploration of 'human life'.

授業の内容 / Course Contents

『はじめての人類学』の各章を読み、人類学に関する理解を深めていきます。

Reading chapters from 'First Steps in Anthropology' will deepen our understanding of anthropology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション

2回：はじめに 人類学とは何か、1章 近代人類学が誕生するまで

- 3回：2章 マリノフスキ（1）
 4回：2章 マリノフスキ（2）
 5回：3章 レヴィ=ストロース（1）
 6回：3章 レヴィ=ストロース（2）
 7回：3章 レヴィ=ストロース（3）
 8回：4章 ボアズ（1）
 9回：4章 ボアズ（2）
 10回：5章 インゴルド（1）
 11回：5章 インゴルド（2）
 12回：5章 インゴルド（3）
 13回：終章
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習をして、毎回の授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加態度:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

奥野克巳 『はじめての人類学』 講談社 2023 9784065328576 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし。

グローバル文化研究特論B

Topics in Global Cultural Studies B

映像からみる植民地/帝国とエスニシティ

梁 仁實 (YANG INSIL)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV508

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン（全回）。発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6443

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業は東アジアの映画史を振り返り、そのなかからみえてくる帝国主義とポストコロニアリズムとエスニシティに注目し、そこから生まれてくるナショナリズム、ジェンダーなどをキーワードにして、様々な立場のアイデンティティを理解していくことを目的とする。とりわけ、理論や分析方法を用いて、多様なジャンルや地域で作られた映画を読み解いていく。

This class will focus on postcolonialism and ethnicity, imperialism in East Asian film history, and will use nationalism and gender as keywords to understand the identities of various cultural positions. In particular, this seminar will use theories and analytical methods to read and understand films made in a variety of genres and locations.

授業の内容 / Course Contents

本授業では戦前から戦後にかけての 100 年間にわたる東アジアの映画を題材とする。日本、韓国（植民地朝鮮も含む）で作られた映画の同時代的・トランスナショナル側面に注目することで、この地域のポストコロニアリズムとは何かという問題により近づくことができる。

This seminar will focus on East Asian cinema over the past 100 years from pre-war to post war period. By focusing on the contemporaneous and transnational aspects of films made in Japan, Taiwan, and Korea (including colonial Korea), we can get closer to the question of what postcolonialism means in this area.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス&イントロダクション（シラバスの紹介及び説明）
- 2 回：論文構想発表（学生発表）
- 3 回：帝国日本映画のなかの植民地朝鮮（1920 年代、1930 年代）
- 4 回：帝国日本映画のなかの植民地朝鮮（1940 年代）
- 5 回：帝国日本映画のなかの植民地朝鮮（1950 年代、1960 年代）
- 6 回：日本映画のなかの在日コリアン（1970 年代、1980 年代）
- 7 回：日本映画のなかの在日コリアン（1990 年代、2000 年代）
- 8 回：中間まとめー帝国主義、エスニシティ、映画
- 9 回：台湾映画のなかの植民地時代 I
- 10 回：台湾映画のなかの植民地時代 II
- 11 回：学生発表及びまとめ I
- 12 回：学生発表及びまとめ II
- 13 回：学生発表及びまとめ III
- 14 回：学生発表及びまとめ IV

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講の際は積極的に討論に参加することが求められます。加えて、授業で提示される映画と参考文献には必ず目を通してください。

Students are required to attend all classes and drive class discussions with their peers. Students must actively participate in class activities that include the submission of notes on the assign

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業態度:30% 発表:30% 最終レポート割合 : :40%最終テスト割合 : :0%

テキスト / Textbooks

梁 仁實 『朝鮮映画の時代』 法政大学出版局 2022 9784588603662 ○

参考文献 / Readings

権 学俊 『朝鮮人特攻隊員の表象』 法政大学出版局 2022 9784588603679

エラ・ショハットほか 『支配と抵抗の映像文化: 西洋中心主義と他者を考える』 法政大学出版局 2019 9784588603570

文化研究特論

Topics in Cultural Studies

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション研究科
科目コード等：	VV509
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC6440
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化に伴う文化や言語の接触、混淆の現象、また異文化表象について、文化研究の立場から論じるために重要な理論の抜粋を読み考察する。各理論の背景などに留意しながら批判的に理論を考察する力をつけ、各自の研究テーマに応用する可能性を検討する。

In this course, students will read and reflect on excerpts from important theories and will subsequently utilize the viewpoint of cultural studies to discuss the interactions between cultures and languages, the phenomenon of intermixing, and intercultural expression brought about by globalization. Additionally, the module will help students develop the ability to critically consider various theories while accounting for their backgrounds and other factors, and to investigate the possibilities of applying this skill to individual research themes.

授業の内容 / Course Contents

人や資本の境界を越えた移動に伴う文化の変容や文化接触、異文化表象について、オリエンタリズム、ネーション、植民地主義、帝国主義、ジェンダー、エスニシティなどの問題点に着目した論文を読み、議論を行う。

This course aims to help students to read and discuss academic papers that focus on orientalism, nations, colonialism, imperialism, gender, ethnicity, and other issues in the cultural transformation, interaction, and

intercultural expression brought about by movements that exceed the limits of human beings and capital.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション1：グローバルゼーションについて
- 2回：イントロダクション2：「文化」概念について
- 3回：オリエンタリズム1
- 4回：オリエンタリズム2
- 5回：ネイション
- 6回：植民地主義・帝国主義
- 7回：議論、問題点の整理1
- 8回：議論、問題点の整理2
- 9回：マイノリティー
- 10回：ジェンダーおよびエスニシティ
- 11回：異文化表象
- 12回：文化分析の実践と理論について1
- 13回：文化分析の実践と理論について2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および議論への積極的な参加:30% 授業内での口頭発表:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

初回授業で配付。

参考文献 / Readings

- 本橋哲也 『カルチュラル・スタディーズへの招待』 大修館書店 2002 9784469212809
 ピーター・バーク（河野真太郎訳） 『文化のハイブリディティ』 法政大学出版局 2012 9784588603266
 吉見俊哉 『アフター・カルチュラル・スタディーズ』 青土社 2019 9784791771844
 上記文献には目を通しておくこと。その他文献は授業内でテーマごとに指示。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

分析対象の文学や映画、および関連する文献について批判的に考察する力。

国際協力特殊講義 A

Seminar in International Cooperation A

紛争・平和研究

カプリオ, M. (CAPRIO MARK E.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV510

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アジアの平和を考えるには、まず平和の失敗—戦争の起源—を検討することから始まる。この演習は戦争を思想的や歴史的に考慮して、現代の紛争を平和的な解決する方法を検討する。

This class will consider how peace can be attained in Asia. To do this we have to understand why peace has failed over the centuries. We have to understand various facets of war.

授業の内容 / Course Contents

この授業は戦争に関して色々な分野を検討する、たとえば戦争の定義、戦争の哲学、平和の定義、核兵器、と戦争に対しての平和運動。それから平和の失敗として朝鮮戦争を分析して、戦争の可能性があるケース、現代北朝鮮の状況も考慮する。

This class will look at a number of areas related to war in general, such as the definition of war and the philosophy of war. It will also consider nuclear politics. Finally it will analyze the origins of the Korean War as a situation where peace failed and the North Korean situation where peaceful resolution is still possible.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講義の紹介
- 2回：戦争論と平和論
- 3回：正しい戦争論
- 4回：戦争の記憶・記念
- 5回：戦争と経済
- 6回：核兵器と戦争抑止
- 7回：戦争とプロパガンダ
- 8回：反戦争と平和主義の文化
- 9回：戦争体験
- 10回：朝鮮戦争 I (起源)
- 11回：ケース・スタディ：朝鮮戦争 II (日本の関係)
- 12回：戦争の防止：北朝鮮問題
- 13回：日本の「平和憲法」と現代日本政治・社会
- 14回：最終レポート提出と討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎週の論文を読むこと (Canvas LMS で)

学生は指導する短いオーラルレポート

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% オーラルレポート (2回) :30% 授業活発的な参加:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

テーマの興味と意見

国際協力特殊講義 B

Seminar in International Cooperation B

地域研究から考える社会開発

(Considering Social Development)

日下部 尚徳 (KUSAKABE NAONORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV511

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 社会開発の概念を説明できる
- 途上国と呼ばれる国々における社会開発の課題を自らのテーマに沿って具体的に論じられるようになる
- 参加型学習を通じて、自身が社会開発にどのようにかかわるべきかを考えられるようになる

The aims of this course are:

- To be able to explain the concept of social development;
- To be able to discuss issues of social development in so-called developing countries concretely;
- To understand how to get involved with social development through participatory learning.

授業の内容 / Course Contents

近年、経済成長が地域の貧困削減に必ずしも結びつかないことが明らかとなり、経済開発の対概念としての社会開発への関心が高まっています。社会開発がカバーする領域は、教育や医療、保健衛生、防災、環境など多岐にわたります。また同時に、「開発への住民参加」、「開発における性差」、「社会的弱者」といった開発イシュー

一とも密接な関連を有しています。

授業では、社会開発の概念を概観した上で、途上国と呼ばれる国々における社会開発の課題を、受講生とともに考えていきたいと思っています。

It has been revealed in recent years that economic growth does not necessarily bring poverty reduction in the region, and as a counter-concept, social development has attracted more attention. Social development covers various fields such as education, medical care, health and hygiene, disaster prevention, and the environment. At the same time, it is closely linked to development issues such as “residents’ participation in development,” the “gender gap in development,” and “socially vulnerable people.”

In this course, we will provide an overview of the concept of social development and discuss its issues in the so-called developing countries.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：「社会開発」とは何か
- 2 回：開発の主体とプロセス：誰が開発の担い手となるのか
- 3 回：貧困の概念
- 4 回：貧困の背景
- 5 回：保健・衛生：プライマリー・ヘルス・ケアの普及と課題
- 6 回：教育開発：初等教育の普及と課題
- 7 回：社会開発と児童労働①
- 8 回：社会開発と児童労働②
- 9 回：社会開発と NGO：NGO の世代論
- 10 回：世界の難民
- 11 回：難民問題と開発
- 12 回：難民キャンプと国際援助
- 13 回：日本の難民
- 14 回：社会開発の今後

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

01. 授業内で指示した文献や映像資料を事前に読んでおくこと
02. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
03. 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること
04. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 担当報告の内容およびアクティブ・ラーニングの成果:60%
合：:40%

最終レポート割

テキスト / Textbooks

日下部尚徳 『わたし8歳、職業、家事使用人。：世界の児童労働者1億5200万人の1人』 合同出版
2018 9784772613620 -

日下部尚徳 『ロヒンギャ問題とは何か』 明石書店 2019 9784750348698 -

日下部 尚徳 アジアからみるコロナと世界 我々は分断されたのか 毎日新聞出版 2022 9784620550039 -

参考文献 / Readings

国際協力特論

Topics in International Cooperation

武力紛争研究

石井 正子 (ISHII MASAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV512

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

武力紛争を地域研究、人類学の視点から考察できるようになる。

国際社会の人道・平和構築支援を武力紛争地域の人びとの視点から批判的に考察できるようになる。

To be able to examine armed conflicts from the perspective of area studies and anthropology.

To be able to examine the humanitarian and peacebuilding assistance of the international society from the perspectives of people in conflict affected areas.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、武力紛争地域の人びとの視点から当該社会を考察した地域研究、人類学の先行研究を講読することにより、その調査、分析方法を学びます。国際社会の人道・平和構築支援についても武力紛争地域の人びとの視点から考察することにより、それらの支援について批判的に考察する力を養います。講読文献につきましては、参加者の関心を鑑みながら決定いたします。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

- 2回：文献講読・ディスカッション
 3回：文献講読・ディスカッション
 4回：文献講読・ディスカッション
 5回：文献講読・ディスカッション
 6回：文献講読・ディスカッション
 7回：文献講読・ディスカッション
 8回：文献講読・ディスカッション
 9回：文献講読・ディスカッション
 10回：文献講読・ディスカッション
 11回：文献講読・ディスカッション
 12回：文献講読・ディスカッション
 13回：文献講読・ディスカッション
 14回：振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読を行い、発表とディスカッションの準備を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業内での発表:80% 最終レポート割合：:20%

テキスト / Textbooks

授業内で紹介します。

参考文献 / Readings

授業内で紹介します。

その他 / Others

初回のイントロダクションの授業で講読する文献を決めますので、履修に関心がある学生は必ず出席するようにしてください。

文化研究特殊講義 A

Seminar in Cultural Studies A

Monism, dualism and the problems of personal identity

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： VV521

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC6440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

哲学における一元論と二元論がいかなる立場であるかを学び、我々が世界や自分自身というものを捉える際、一元論的な立場、二元論的な立場は、それぞれどのようなことを意味するか、また、人格の同一性における一元論的な議論は妥当か、などの問題を考察する。

Students will learn and discuss what philosophical monism and dualism mean and what they imply for our understanding of the world and ourselves, and consider the plausibility of some monist approaches to personal identity.

授業の内容 / Course Contents

このクラスでは、まず一元論・二元論それぞれの立場を取る哲学者のテキストを読みながら、一元論・二元論がそれぞれどのようなものか、どのようなことを含意するかを議論・考察する。

一元論・二元論の立場が如何なるものであるかを捉えた後、一元論的な立場（特に唯物論的な立場）から「人格の同一性」の問題を論じるテキストを読み、その妥当性について議論・考察する。

In this class, after reading articles by monist and dualist thinkers and discussing what monism and dualism mean

and imply respectively, we will read some works on the monist approach to personal identity and discuss and consider its plausibility.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション（一元論・二元論・人格の同一性に関する議論について）
- 2 回：一元論について（1）
- 3 回：一元論について（2）
- 4 回：一元論について（3）
- 5 回：一元論について（4）
- 6 回：二元論について（1）
- 7 回：二元論について（2）
- 8 回：二元論について（3）
- 9 回：二元論について（4）
- 10 回：人格の同一性に関する議論（1）
- 11 回：人格の同一性に関する議論（2）
- 12 回：人格の同一性に関する議論（3）
- 13 回：人格の同一性に関する議論（4）
- 14 回：人格の同一性に関する議論（5）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で指示する。

論理学を学んだことがない場合、例えば野矢茂樹著（2006）『新装 論理トレーニング』（産業図書）や同著者（2020）『まったくゼロからの論理学』（岩波書店）などを用いた独習を勧める（質問も歓迎する）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

使用するテキスト（英語）は授業で配布する。

参考文献 / Readings

参考文献は授業で紹介する。

また、上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

議論における論理性を重視する。また、授業内で扱う文献はすべて英語であるため、英語で哲学論文を読む能力が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内で電子情報機器は不要。

文化研究特殊講義 C

Seminar in Cultural Studies C

イメージをめぐる理論と思想

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV523
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6440
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、各種のイメージ論の講読をもとに、イメージの捉え方や考え方について理解を深めることを目標とする。また、履修生が応用的に新たなイメージ論を構築できることをめざす。

Through reading principal texts on image and image theory, students will not only acquire a new way of thinking about the image but also be able to construct his/her critical framework on the image.

授業の内容 / Course Contents

イメージについて書かれた、ロラン・バルト『明るい部屋』（原書 1980 年・和訳 1997 年）、W.J.T.ミッチェル What Do Pictures Want?:The Lives and Loves of Images（2005 年）、H.ベルティング An Anthropology of Images: Picture, Medium, Body(原書 2001 年・英訳 2011 年) より抜粋を講読する。講読箇所は、授業計画に記載の予定だが、履修生の要望によっては、別の箇所を講読箇所として採用する可能性もある。

講読を踏まえ、応用的に新たなイメージ研究の方向性を構築することを目指し、討論や発表を定期的に行う。

In this course, students will read excerpts of R. Barthes, La chambre claire: note sur la photographie (Japanese

edition 1997), W.T.J. Mitchell, What Do Pictures Want? (2005), and H. Belting, An Anthropology of Images(English edition 2011). Along with in-depth readings of these texts, students will participate in discussions and presentations to hone their critical thinking on the image and construct a new framework to study the image.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：講読：バルト『明るい部屋』①・ディスカッション
- 3回：講読：バルト『明るい部屋』②・ディスカッション
- 4回：講読：バルト『明るい部屋』③・ディスカッション
- 5回：討論：バルトの論法について考える
- 6回：講読：ミッチェル What Do Pictures Want?①・ディスカッション
- 7回：講読：ミッチェル What Do Pictures Want?②・ディスカッション
- 8回：ミッチェル What Do Pictures Want?③・ディスカッション
- 9回：討論：ミッチェルの論法について考える
- 10回：講読：ベルティング An Anthropology of Images 講読①・ディスカッション
- 11回：講読：ベルティング An Anthropology of Images 講読②・ディスカッション
- 12回：講読：ベルティング An Anthropology of Images 講読③・ディスカッション
- 13回：討論：ベルティングの論法について考える
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読テキストを予め通読することは前提である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% テキスト講読:30% ディスカッション・討論:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

ロラン・バルト 『明るい部屋—写真についての覚書（新装）』 みすず書房 1997 4622049058 -
 W.J.T. Mitchell What do pictures want University of Chicago Press 2005 0226532453 -
 H. Belting An anthropology of images Princeton University Press 2011 9780691145006 -
 いずれも入手が困難なため、抜粋部分はコピーを配布予定。

参考文献 / Readings

随時授業時に紹介する。

文化研究特殊講義D

Seminar in Cultural Studies D

歴史的音楽学

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： VV524
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC6440
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

西洋音楽史研究の基盤である批判的校訂楽譜を読み解き、作曲家作品研究の方法論を理解する。過去の音楽作品がいかに成立し、当時いかに受けとめられたのか、こんにちに至るまでいかに伝承され、いかに変遷してきたのか（変遷しない要素はあるのか）、資料を用いたアプローチを学ぶ。

In this course, students are expected to learn the methods of historical musicology thorough reading the critical editions of musical works. They will study the interpretation and analysis of the original sources and the genesis, reception and transmission of musical works.

授業の内容 / Course Contents

ライプツィヒ版メンデルスゾーン作品集（いわゆる新メンデルスゾーン全集）ないしそれに準ずる校訂譜のいずれかを取り上げる。序文と校訂報告の講読と作品分析を交える。原語はドイツ語。

This course aims to help students interpret the preface and the critical commentary on one of the volumes of Leipziger Ausgabe der Werke von Felix Mendelssohn Bartholdy. The original text is in German.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：作品総目録
- 3回：旧全集、新全集
- 4回：校訂版と実用版
- 5回：音源探索
- 6回：文献探索
- 7回：作品成立の背景
- 8回：作品の受容
- 9回：原典資料の種類と性格
- 10回：資料間の異同とその解釈
- 11回：作曲・改訂プロセスの解明
- 12回：演奏習慣の問題
- 13回：楽譜以外の原典資料：書簡、回想、批評など
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指導の中で適宜指示する。図書館所蔵の各種作曲家作品全集を活用されたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と参加:50% 毎週の課題と成果物:50%

テキスト / Textbooks

コピーを配布する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

言語教育研究基礎論（後期課程科目）

Introduction to Language Education Research

細田 雅也 (HOSODA MASAYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV151

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7130

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- テキスト理解の理論、実証的証拠、研究手法を理解している。
- テキスト理解研究の未解明点を踏まえ、どのような研究が必要かを考察できる。
- テキスト理解の理論と実証的証拠に基づき効果的な読解指導や学習を考察できる。

- Students understand theories, empirical findings, and research methodologies of text comprehension.
- Students can identify the gaps in the current text comprehension research and consider research that could address these flaws.
- Students can devise effective second-language learning and instruction based on theoretical and empirical findings of text comprehension research.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、外国語による文章理解に関する理論と実証的知見を学び、効果的な英文読解指導について考える。

具体的には、受講生はテキスト理解や第二言語読解の研究論文を読み込み、その内容を授業でプレゼンテーションする。そして研究の手法、結果、考察、理論的、教育的意義についてディスカッションを行う。

これらの活動を通して、外国語における読解を効果的に指導したり、学習したりできる方法について考察する。

In this course, students will learn theories and empirical findings of text comprehension and consider effective reading instruction in a foreign language.

Students will read research papers on text comprehension and second language (L2) reading, and make presentation in class. They will then discuss the methods, results, and its theoretical and educational implications.

Through these activities, students will explore methods for effectively instructing and learning reading in a foreign language.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：テキスト理解とは
- 3回：テキスト理解の理論モデル 1
- 4回：テキスト理解の理論モデル 2
- 5回：外国語と母語でのテキスト理解の違い 1
- 6回：外国語と母語でのテキスト理解の違い 2
- 7回：Standards of coherence 1
- 8回：Standards of coherence 2
- 9回：母語話者を対象とした読解教示 1
- 10回：母語話者を対象とした読解教示 2
- 11回：外国語学習者を対象とした読解教示 1
- 12回：外国語学習者を対象とした読解教示 2
- 13回：理論と実証的知見に基づく読解指導のあり方の検討 1 & フィードバック
- 14回：理論と実証的知見に基づく読解指導のあり方の検討 2 & フィードバック

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自担当する文献をしっかりと読み込み、そのプレゼンテーションを準備を確実に行うことが求められる。また、毎回の授業の後に授業で扱われた文献を自分で読み直し、自分のことばでまとめ直すことが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% プレゼンテーション:30% ディスカッション:30% 最終レポート割合：40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

授業で関連論文、書籍を紹介する。

参考文献 / Readings

授業で関連論文，書籍を紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

英語リーディングや文章理解に興味があること。

20～40 ページの英語の関連文献を数日で読み込み，その内容を理解できること（英検準1級程度の英語力が望ましい）。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC を毎回持参すること。

通訳翻訳研究基礎論（後期課程科目）

Introduction to Translation and Interpreting Research

通訳翻訳研究へのアプローチ

(Approaches to translation and interpreting research)

武田 珂代子／未定 (TAKEDA KAYOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV152

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7233

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

翻訳通訳研究の起源と展開について理解を深めるとともに、翻訳通訳研究におけるさまざまなアプローチや研究方法について十分な知識を得る。特に、履修生の博士論文研究に関連するものに焦点を当てる。

To deepen understanding of the origins and evolution of Translation and Interpreting Studies and to gain full knowledge of different approaches to and methods in translation and interpreting research, with focus on those relevant to students' doctoral research.

授業の内容 / Course Contents

翻訳とは何か、通訳とは何かについての議論から始まり、翻訳通訳研究の起源と展開、鍵となる概念や理論を含む通訳翻訳研究の概要について理解を深める。次に、翻訳通訳研究におけるさまざまなアプローチや研究方法、また、その適用例に焦点を当てる。履修者は研究方法に関するプレゼンテーションを行い、最終レポートを提出する。

Starting with discussion on what translation is and what interpreting is, this course reinforces the students'

understanding of the origins and evolution of Translation and Interpreting Studies, and of key concepts and theories used in translation and interpreting research. Then it focuses on applications of different approaches to and methods in translation and interpreting research. Students are required to give a presentation on research methods and submit a final report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Key concepts and theories in Translation and Interpreting Studies
- 2 回：Product-oriented research
- 3 回：Process-oriented research
- 4 回：Sociocultural approaches
- 5 回：Historical research
- 6 回：Research questions and hypotheses
- 7 回：New trends in Translation and Interpreting Studies
- 8 回：Quantitative and qualitative analysis
- 9 回：Data-driven research (1)
- 10 回：Data-driven research (2)
- 11 回：Fallibility and science
- 12 回：Designing a research
- 13 回：Student presentations
- 14 回：Student presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to complete a reading assignment every week. At the end of the course, students are required to give a presentation on research methods and submit a final report.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Active participation in class:30% In-class presentation:30% 最終レポート割合：40%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

Saldanha, G., & O'Brien, S. Research Methodologies in Translation Studies Routledge 2014
9781909485006 ○

参考文献 / Readings

Williams, J., & Chesterman, A. The Map: A Beginner's Guide to Doing Research in Translation Studies St. Jerome 2002 9781900650540

その他 / Others

TI@Rikkyo <https://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/index.html>

コミュニケーション研究基礎論（後期課程科目）

Introduction to Communication Studies

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： WV153
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC7330
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、コミュニケーション研究に関する様々な知見に触れながら、コミュニケーションを研究する上で必要となる基礎的な知識を身につけることを目的とする。さらに、実際にコミュニケーション研究に関するテーマを取り上げ、独自の調査を行い、学会発表や論文執筆に結びつけることができる。

The aim is to acquire the basic knowledge and perspectives required for conducting communication research by reading a wide range of literature in Communication Studies and related fields.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション学とその他の関連分野におけるコミュニケーション研究を取り上げながら、コミュニケーションを学術的に分析する際に求められる視点、概念ならびに理論・モデルを学んでいく。併せて、コミュニケーション研究の歴史や最近の研究動向についても取り上げる。

By focusing primarily on communication research in the areas of Communication Studies and some related fields, students will learn major perspectives, concepts, and theories/models needed to conduct communication research. We will also learn the historical development of Communication Studies as a field of research and familiarize ourselves with recent trends in the field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業概要、コミュニケーション研究のテーマとアプローチ
- 2 回：コミュニケーション研究の歴史と系譜
- 3 回：コミュニケーション研究とは何か？
- 4 回：記号としての言語：意味生成のプロセス
- 5 回：コミュニケーションの非言語的要素
- 6 回：アイデンティティと対人コミュニケーション
- 7 回：集団・組織とコミュニケーション
- 8 回：コミュニケーション教育 (communication education)：コミュニケーション能力を再考する
- 9 回：パワーとコミュニケーション
- 10 回：メディアとコミュニケーション
- 11 回：異文化コミュニケーション
- 12 回：日本における異文化コミュニケーション教育の今日的課題
- 13 回：環境とコミュニケーション
- 14 回：期末レポート発表会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

大学院科目ということもあり、授業外での受講者の積極的かつ自発的な取り組みが求められます。博士後期課程の院生の皆さんは、授業で扱うさまざまな論文で提示される視点、概念、理論的・方法論的枠組み、調査結果、考察、結論、ならびに限界に触れながら、自身の研究との比較のうえで、自身の研究に取り入れられる内容を探したり、自身の研究を位置付けたりしてください。そのため、課題論文を読んで授業に参加してください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加・貢献度 (レポートを除く各種提出物を含む) :30% 口頭発表:20% 小レポート:20% 最終レポート割合 :30%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

なし。適宜資料を配布もしくは紹介する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

課題論文の内容を理解するのみならず、その内容について批判的に考察し、自身の意見を述べる能力が求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

とくにありません。

異文化コミュニケーション研究基礎論（後期課程科目）

Introduction to Intercultural Communication Research

灘光 洋子 (NADAMITSU YOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： WV154
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC7330
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーションに関わる様々な課題や中心となる概念および理論を理解し、研究テーマの分析・考察に応用することができる。

To develop deeper understanding of perspectives and theories in the field of Intercultural Communication.

授業の内容 / Course Contents

異文化コミュニケーション領域の研究における理論入門コース。異文化コミュニケーション領域における概念や理論に関する主要文献を精読し、「彼ら」と「我々」の間に生じる相互作用について考察する。「異文化」を感じるコミュニケーションの場で、何が起きているのか、それがどのように現れているのか、背後にはどのような要素が絡んでいるのかについて考えていきたい。事前に配付資料（テーマに関連した文献）を読んでもらうこと。クラスは、講義、発表、質疑応答を中心に進める。

This is an introductory course to the theories of Intercultural Communication. We will read the key literature and articles associated with central concepts and issues in the field of Intercultural Communication. The main objective is to deepen our understanding of aspects and mechanisms of interactions between and among people from different cultures and explore the realities behind the scene.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：コミュニケーションについて
- 3回：異文化コミュニケーションについて
- 4回：言語メッセージの力(1)
- 5回：言語メッセージの力(2)
- 6回：非言語メッセージの力 (1)
- 7回：非言語メッセージの力 (2)
- 8回：コミュニケーション、シンボル、解釈について
- 9回：コミュニケーションとアイデンティティ (1)
- 10回：コミュニケーションとアイデンティティ (2)
- 11回：カルチャー・ショックと異文化適応
- 12回：多文化共生と多文化主義
- 13回：日常生活に見られる異文化コミュニケーション
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習範囲や課題は、授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表および討議への貢献度:60% 最終レポート割合 :40%

後期課程においては、全ての評価方法において高度な達成基準を要求する。

テキスト/ Textbooks

毎回、関連文献を Canvas LMS に掲載する。

参考文献 / Readings

Chen, L. Intercultural communication Walter de Gruyter

Griffin. A first look at communication theory Mcgraw Hill

Gudykunst. Theorizing about intercultural communication Sage

池田理知子 『よくわかる異文化コミュニケーション』 ミネルヴァ書房

八島智子・久保田真弓 『異文化コミュニケーション論』 松柏社

その他/ Others

履修者の積極的な討議参加を求める。各自、十分に文献を読み込んでくることを前提に授業を進める。

授業内容のテーマや順番は進捗状況に応じて変更する可能性がある。

グローバル文化研究基礎論（後期課程科目）

Introduction to Global Cultural Studies

Introduction to Film Theories

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV155

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 対面（一部オンライン）

全授業回のうち2回はオンラインで実施する（5・7回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7430

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化に伴う文化や言語の接触、混淆の現象、また異文化表象について、映像研究の立場から論じるために重要な理論の抜粋を読み考察する。各理論の背景などに留意しながら批判的に理論を考察する力をつけ、各自の研究テーマに応用する可能性を検討する。更に、学会発表や論文執筆に結びつけることができる。

In this course, students will read and reflect on excerpts from important theories and will subsequently utilize the viewpoint of film studies to discuss the interactions between cultures and languages, the phenomenon of intermixing, and intercultural expression brought about by globalization. Additionally, the module will help students develop the ability to critically consider film theories while accounting for their backgrounds and other factors, and to investigate the possibilities of applying this skill to individual research themes. Furthermore, the course aims to develop into academic presentations and thesis writing.

授業の内容 / Course Contents

人や資本の境界を越えた移動に伴う文化の変容や文化接触、異文化表象について、オリエンタリズム、ネーション、植民地主義、帝国主義、ジェンダー、エスニシティなどの問題点に着目した映像研究論文を読み、議論を行う。

This course aims to help students to read and discuss academic papers informed by film studies that focus on orientalism, nations, colonialism, imperialism, gender and sexuality, ethnicity, and other issues in the cultural transformation, interaction, and intercultural expression brought about by movements that exceed the limits of human beings and capital.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：グローバル化と映像文化について
- 2回：理論とケーススタディ1：作家主義とジャンル論
- 3回：理論とケーススタディ2：形式主義、構造主義とポスト構造主義
- 4回：理論とケーススタディ3：マルクス主義とリアリズム
- 5回：理論とケーススタディ4：ポストモダニズムとサイコアナリシス
- 6回：理論とケーススタディ5：フェミニズムと男性らしさ
- 7回：理論とケーススタディ6：クィア理論
- 8回：映像文化分析の実践1：オリエンタリズム
- 9回：映像文化分析の実践2：ネーション
- 10回：映像文化分析の実践3：エスニシティ
- 11回：映像文化分析の実践4：ジェンダーとセクシュアリティ
- 12回：映像文化分析の実践5：植民地主義・帝国主義
- 13回：映像文化分析の実践6：ポストコロニアルとトランスナショナル映画
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参加者の発表と議論を中心に授業をすすめる。フィードバックは随時授業内で行う。

基本的に対面授業だが必要に応じて、履修者と相談する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および議論への積極的な参加:30% 授業内での口頭発表:30% 最終レポート割合：40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

Ruth Doughty and Christine Etherington-Wright Understanding Film Theory Bloomsbury 2022
9781137587947 -

D・ボードウェル・K・トンプソン Film Art - Introduction to Movie Art 名古屋大学出版会 2007
9784622086642 -

参考文献 / Readings

本橋哲也 『カルチュラル・スタディーズへの招待』 大修館書店 2002 9784255556345

ピーター・バーク（河野真太郎訳） 『文化のハイブリディティ』 法政大学出版局 2012 9784588603266

国際協力・人類学基礎論（後期課程科目）

Foundations of International Cooperation and Anthropology

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： WV156
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 対面（一部オンライン）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC7330
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ラテンアメリカにおけるキリスト教宣教を主題とし、メキシコを舞台に言語と文化の翻訳の問題を扱った Nancy Fariss のモノグラフ *Lenguas de fuego en la evangelización de México (Siglos XVI-XVIII)* を全編読み、キリスト教宣教をめぐる諸問題の構造を既存の理論との関係で議論できるようになる。スペイン語を読める学生がいない場合は英語版の *Tongues of Fire: Language and Evangelization in Colonial Mexico* を読む。
Read the entire monograph *Lenguas de fuego en la evangelización de México (Siglos XVI-XVIII)* by Nancy Fariss on the subject of Christian evangelization in Latin America and issues of linguistic/cultural translation of Christian doctrines in Mexico. If no students can read Spanish, we use the English version *Tongues of Fire: Language and Evangelization in Colonial Mexico (2018)*.

授業の内容 / Course Contents

- ・スペイン領アメリカ植民地のキリスト教宣教をめぐる諸問題の構造を理解する。
 - ・キリスト教宣教に伴う言語と翻訳についての論争史を既存の理論的潮流との関連で論じる。
- To understand the structure of the issues surrounding Christian evangelization in the colonial Spanish Americas.

- To understand the history of the controversy over the linguistic/cultural translation of Christian concepts and doctrines.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（オンライン）
 2回：講義
 3回：講読：Chap. 1
 4回：講読：Chap. 2（オンライン）
 5回：講読：Chap. 3
 6回：講読：Chap. 4（オンライン）
 7回：講読：Chap. 5
 8回：講読：Chap. 6（オンライン）
 9回：講読：Chap. 7
 10回：講読：Chap. 8（オンライン）
 11回：講読：Chap. 9
 12回：講読：Chap. 10（オンライン）
 13回：講読：Chap. 11
 14回：まとめ（オンライン）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読箇所のレジюмеとコメント作成

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レジюме作成と毎回のコメント:60% 最終レポート割合：40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Nancy Fariss Tongues of Fire: Language and Evangelization in Colonial Mexico Oxford University Press
 2018 9780190884109

Nancy Fariss Lenguas de fuego en la evangelización de México (Siglos XVI-XVIII) El Colegio de Michoacán,
 El Colegio de México y University of Pennsylvania 2020 9786075441023

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

スペイン語が英語で難解な文献を講読できること。関連分野に関する背景知識がないのであれば予習に時間と労力を割けること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし

調査研究方法論 A（後期課程科目）

Research Methods A

質的研究法

Qualitative research method

時津 倫子 (TOKITSU TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV157

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 講義した内容に関わる課題がほぼ毎回あります。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7530

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

質的研究の研究計画から論文執筆に至るプロセスに必要な知識と技術を習得すること。APA マニュアルに示された投稿論文の条件に沿った質的研究論文を書けるようになること。

To acquire the knowledge and skills needed during the process of planning and writing an academic report for a qualitative research project. To be able to write qualitative research papers in accordance with the requirements for submissions as outlined in the APA Manual.

授業の内容 / Course Contents

質的研究を適用するにふさわしいリサーチクエスション，研究対象の選定と倫理的問題，質的研究のためのデータの集め方，質的研究の種類，質的データの分析法，質的研究のための論文作法についての講義と演習。

Students will learn about how to conduct qualitative research. This course will consider topics such as types of qualitative research, suitable research questions, data collection and analysis, ethical issues, and report writing for qualitative research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：質的研究とは。質的研究と量的研究の比較。質的研究に合うテーマ，合わないテーマ（講義）

2回：質的研究を始める前に考えておくこと。

あなたは質的研究に向いている？向いていない？

倫理的問題について。あなたの研究は、人を傷つけていませんか？

3回：質的研究の始め方

先行研究を読んでまとめてみる。誰を対象に、どんな方法でデータを集めている？

あなたの研究は、誰を対象に、どんな方法でデータを集めますか？

4回：質的研究の計画

考えておくべき8つのポイント

5回：フィールドに入る前に：コンタクトの取り方・「参加」しながら「研究」すること

あなたのフィールドとあなたの立ち位置

6回：データの取り方

データとは？データをとる方法（インタビュー、観察、文書資料や動画、自己省察）

7回：記録のとり方

何を記録するのか。フィールドメモ。メモからフィールドノーツ。録画。

8回：データの整理：分析のための準備

データ分析の進め方。集めて、整理して、バラバラにして、また集める。

データのコーディング。

9回：データの分析：データを解釈する

記述、説明、解釈、結論

10回：データの見せ方 並べ方

ナラティブデータの配置

図表の示し方

写真、イラストなどの使い方

プレゼンテーションのためのスライドの作り方

11回：質的研究論文を書く

誰に向けて書く？ 何のために書く？誰の声を書く？

12回：質的研究論文の評価基準：APAスタンダードでの評価の観点

13回：社会科学としての質的研究 アートとしての質的研究

14回：あなたはどんな研究がしたいですか？ 何を知りたいですか？

あなたの博論には質的研究を含める必要がありますか？どんなデータでどんな論文を書きますか？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:			:			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：授業中に指示された教科書の箇所や、配付された資料を読む。（資料はCanvasからPDF配布）

復習：授業中に指示された課題を遂行する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の課題提出:60% 最終レポート割合 :40%

全ての課題について、前期課程よりも高度なレベルを要求します。

テキスト / Textbooks

プリント配布

参考文献 / Readings

Yin,R Qualitative research from start to finish Guilford 2016 1462517978

佐藤郁哉 『フィールドワークの技法：問いを育てる仮説をきたえる』 新曜社 2002 4788507889

Corbin,J,Strauss,A/ 操華子・森岡崇訳 『質的研究の基礎：グラウンデッドセオリーの技法と手順（第3版）』 医学書院 2012 4260012010

箕浦康子 『フィールドワークの技法と実際II』 ミネルヴァ書房 2009 9784623053551

プラサド／箕浦監訳 『質的研究のための理論入門』 ナカニシヤ出版 2018 9784779512230

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

あなたのリサーチクエスションは何ですか？ 何を知りたいですか？ 誰のことを知りたいですか？それにふさわしい方法は何ですか？

講義を受けながら、課題をこなしながら、上記のような質問についてくりかえし自問自答することになります。考え続けることは苦しいですが、それに耐えられるだけの研究関心を持ち続けていただきたいと思っています。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料配布，課題提出には Canvas を利用します。レポートは原則として PDF ファイルで提出してください。

その他 / Others

研究は知への旅です。苦しいことも楽しいこともたくさんあります。一緒に旅を楽しみましょう。

調査研究方法論B（後期課程科目）

Research Methods B

統計学・量的研究

萱 忠義 (KAYA TADAYOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV158

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）全授業回のうち7回はオンラインで実施する（2・4・6・8・10・12・14回目の授業）。オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7530

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

調査や実験で得られたデータの処理方法や分析方法について学び、統計学的な知識と実践的調査技能を身につける。さらに、研究のデータ収集を実施し、学会発表や論文執筆のためのデータ分析を行う。

To learn how to process and analyze data obtained from surveys and experiments, and acquire statistical knowledge and practical research skills.

授業の内容 / Course Contents

リサーチデザインおよび量的データを扱う上で必要となる基本的な統計知識を学ぶ。また、統計分析結果を解釈し、結論を導く手法を学習する。毎回の授業では、前半を講義形式または発表形式で行い、後半を討論形式で行う。教室内活動や討論では、学生は積極的に自分の意見を述べるのが求められる。なお、授業や文献講読では英語および日本語を使用する。また、統計に関するビデオの閲覧も行う。

Students will learn research design and basic statistical knowledge necessary for quantitative data analyses, so that they can interpret the results of their projects and draw their conclusions. In each class, the first half will be

conducted in a lecture or presentation format, and the second half in a discussion format. Students are required to be proactive in order to express their opinions, and the instructor will act as a facilitator for classroom activities and discussions. The lectures will be conducted both in English and in Japanese.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：研究デザイン：どう研究計画を立てるのか？
- 3回：妥当性と信頼性：テストはどう作るのか？
- 4回：比率尺度，間隔尺度，順序尺度，名義尺度：テストのデータには何種類あるのか？
- 5回：平均値，中央値，最頻値：データはどう解釈するのか？
- 6回：分散，標準偏差，標準得点，偏差値：データはどう解釈するのか？
- 7回：t検定：2つのグループの差はどう示すのか？
- 8回：有意差と効果量：検定結果をどう解釈するのか？
- 9回：分散分析：多数のグループ間の差はどう示すのか？
- 10回：ノンパラメトリック検定：データ量が少ないときどうするのか？
- 11回：相関分析：データの関係性ってどう示すのか？
- 12回：回帰分析：欠損データはどう扱うのか？
- 13回：カイ二乗検定：アンケートはどう処理するのか？
- 14回：総括および学習度合いの確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ガイダンス時に配る詳細シラバスを参照のこと

Refer to the detailed syllabus provided in the guidance session.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度：10% デジタルノート提出：20% 授業内小テスト：30% 最終テスト割合：40%

すべての評価基準において、前期課程の学生より高度な水準を設定する。

テキスト / Textbooks

竹内理・水本篤 『外国語教育研究ハンドブック【増補版】— 研究手法のより良い理解のために』 大修館書店 2023 9784775402948 ○

参考文献 / Readings

Paul Richardson・Allen Goodwin・Emma Vine Research Methods and Design in Psychology (Critical Thinking in Psychology Series) Learning Matters 2011 9780857254696

Mark Saunders Dealing With Statistics: What You Need To Know: What you need to know Open University Press 2007 9780335227242

三浦省五・前田啓朗・山森光陽・磯田貴道・廣森友人 『英語教師のための教育データ分析入門—授業が変わ

るテスト・評価・研究』 大修館書店 2004 9784469244939

浦野研・亙理陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹 『はじめての英語教育研究 ― 押さえておきたいコツとポイント』 研究社 2016 9784327421977

平井 明代【編著】 『教育・心理系研究のためのデータ分析入門 ― 理論と実践から学ぶSPSS活用法 (第2版)』 東京図書 2017 9784489022623

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

高等学校の学習する基本的な数学 (数学 I、数学 A、数学 B)の知識が必要。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Windows 10 または Windows 11 搭載のノートパソコン。Canvas LMS を利用。

言語コミュニケーション研究基礎論（後期課程科目）

Introduction to Language and Communication Research

濱田 彰 (HAMADA AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： WV159
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC7130
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

博士課程レベルの言語コミュニケーション研究を行う上で必要な知識を習得し、自立した研究者としての基盤を確立することを目指す。具体的には、先行研究を批判的に考察した上で研究テーマを設定し、データを収集、研究成果を論文として発表する能力を養う。

The purpose of this course is to prepare PhD students to conduct independent research in language and communication studies. Specifically, students will learn to (a) critically evaluate extant literature, (b) formulate research questions, (c) collect data, and (d) publish their findings in the form of academic papers.

授業の内容 / Course Contents

博士課程レベルの言語コミュニケーション研究を行う上で必要な知識を、講義および演習を通して学ぶ。具体的には、研究計画の立て方、妥当性と信頼性、様々な尺度（比例尺度・間隔尺度・順序尺度・名義尺度）、記述統計（平均、分散、標準偏差、歪度、尖度）、正規分布、偏差値、推測統計、効果量、文献管理と引用等について扱う。

授業は受講生による発表およびディスカッションを中心に進める。発表担当者は担当箇所（各回 20 ページ程度）の要点をまとめ、発表することが求められる。

Through lectures and hands-on sessions, students will learn basic knowledge and skills required for conducting PhD research in the field of language and communication studies. Topics covered will include validity and reliability, different kinds of scales (ratio, interval, ordinal, and nominal), descriptive statistics (means, variances, standard deviations, kurtosis, and skewness), normal distribution, deviation values, inferential statistics, effect sizes, and reference management and citations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

-Coursework assignment

2 回：研究計画の立て方

-Choosing a topic

3 回：妥当性と信頼性

-Research design

-Data collection methods

4 回：記述統計

5 回：推測統計

6 回：Reviewing the literature

7 回：Methodological approach

-Types of research design

-Sampling

-Ethics

8 回：The dissertation proposal

-Purpose of the study

-Research questions

9 回：Data collection

-Modes of data collection

10 回：General writing guidelines

-Organization of a dissertation

-General requirements of a dissertation

11 回：Writing the literature review

-The purpose of the literature review

-Organization of the literature review

12 回：Writing the literature review

-Sources to include in the review

-Critical reading and writing

-Referring to the gap in knowledge

13 回：Writing the methodology chapter

-The purpose of the methodology chapter

-Organization of the methodology chapter

14 回：Summary and conclusions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション (Presentation) :40% ディスカッション (Discussion) :20%

最終レポート割合 :40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

Lindy Woodrow Doing a Master's Dissertation in TESOL and Applied Linguistics Routledge 2019

9781138587298 -

参考文献 / Readings**その他 / Others**

毎週 20 ページ程度の英語で書かれた専門的な文献を読むことが求められるため、参加者には一定の英語力が必要となる。

Intercultural Communication in Language Teaching (後期課程科目)

Intercultural Communication in Language Teaching

三浦 愛香 (MIURA AIKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション研究科
科目コード等：	WV184
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC7131
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

The main aim of the course is to provide students with opportunities to enhance their understanding of how culture and thought patterns influence the performance and behaviours of second language learners, with a specific focus on Japanese learners of English. Various concepts and issues unique to the Japanese language and communication are introduced through empirical studies, and the course facilitates the exchange and proposal of ideas for effectively instructing Japanese learners of English to improve their intercultural competence.

For those who have already completed their master's degrees, the course aims to provide opportunities to conduct and present empirical studies, as well as exchange critical opinions with others.

授業の内容 / Course Contents

In this course, various topics related to intercultural communication, such as Japanese politeness, Uchi and Soto, rhetorical structure, and interactional features, are covered. Students are required to read provided materials and orally summarize them in class, followed by discussions. Additionally, students have opportunities to apply their acquired knowledge to the development and/or revision of English Language Teaching materials. They are also tasked with completing a mini-project based on their observations, experiences, and experiments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Course orientation & Introduction: High-context cultures and low-context cultures
In-Class Project for Language Teaching
- 2 回：Relationality: Amai, Uchi/Soto and Omote/Ura
In-Class Project for Language Teaching
- 3 回：Empirical studies on the concepts of Uchi and Soto in relation to Brown & Levinson's politeness theory
In-Class Project for Language Teaching
- 4 回：Politeness: Wakimae
In-Class Project for Language Teaching
- 5 回：Topic-comment structure: Topic-marker wa
In-Class Project for Language Teaching
- 6 回：Topic prominence & Rhetorical structure Ki-Shoo-Ten-Ketsu
In-Class Project for Language Teaching
- 7 回：Backchanneling: Aizuchi and cross-cultural interactions
In-Class Project for Language Teaching
- 8 回：Backchanneling: Silence and intercultural communication
In-Class Project for Language Teaching
- 9 回：Interactional features and competence
In-Class Project for Language Teaching
- 10 回：Rhetorical structure: Thought patterns in US and Japan
In-Class Project for Language Teaching
- 11 回：Rhetorical structure: Coherence in L1 and L2 writings
Agent vs. Patient
In-Class Project for Language Teaching
- 12 回：Do-language vs. Become-language
Requests made by Japanese learners of English
In-Class Project for Language Teaching
- 13 回：Presenting a final mini-project
- 14 回：Presenting a final mini-project

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read given materials and make oral reports in class. Contribution to discussion in class is very much welcomed. Students are also required to be prepared for a presentation on final mini-project based on their research at the end

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Oral report of chapter summary:40% Participation: Contribution to discussion in class:20% Final mini project: Essay and oral presentation:40%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

Senko K. Maynard Japanese Communication: Language and Thought in Context University of Hawai'i Press
1997 9780824818784 ○

参考文献 / Readings

Supplementary readings will be given in class.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Having a basic knowledge of Japanese is preferable.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

Seminar in Applied Linguistics A（後期課程科目）

Seminar in Applied Linguistics A

細田 雅也 (HOSODA MASAYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV185

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7131

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- Students have a comprehensive understanding of theories of text comprehension.
- Students have a comprehensive understanding of empirical findings in text comprehension research.
- Students can identify the gaps in the current text comprehension research and consider research that could address these flaws.
- Students can devise effective reading instruction based on the theories and empirical findings of text comprehension.

授業の内容 / Course Contents

Students learn theories and empirical findings related to second/foreign language reading through presentations and discussions.

Specifically, students will make presentations on assigned chapters from "Reading in a Second Language: Moving from Theory to Practice (Grabe and Yamashita, 2022)". Following these presentations, there will be discussions focusing on the theoretical and pedagogical significance of the presented research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Guidance & Assigning presentation chapters and dates
 2回：Ch. 1 The nature of reading: Defining reading
 3回：Ch. 3 How reading works: Comprehension Processes
 Ch. 4 Cognitive issues in reading
 4回：Ch. 6 Explaining reading comprehension: Models of reading
 5回：Ch. 7 Reading in different languages
 Ch. 8 L1 and L2 reading relationships
 6回：Ch. 10 Motivation for reading
 Ch. 11 Vocabulary and reading comprehension
 7回：Ch. 12 Building main idea comprehension: Syntax and strategies
 Ch. 13 Becoming a strategic reader
 8回：Ch. 15 Reading to learn and reading-writing relationships
 Ch. 16 Reading in digital contexts
 9回：Ch. 17 Reading fluency, reading rate, and comprehension
 Ch. 18 Extensive reading
 10回：Ch. 19 Reading curriculum and instruction
 Ch. 20 Reading assessment
 11回：Discussion and Presentation on the reading instruction 1
 12回：Discussion and Presentation on the reading instruction 2
 13回：Discussion and Presentation on the reading instruction 3
 14回：Consolidation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- The presenter is required to thoroughly understand the assigned chapter, create presentation slides, and prepare to present them in English.
- Before the class, students are required to read the chapter that will be covered in the class and prepare for

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation:30% Discussion:30% 最終レポート割合 :40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

Digital files will be given.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.6.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC, Presentation software (PowerPoint, Keynote), Word.

Students must bring their laptop computer to the class.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

Research Methods（後期課程科目）

Research Methods

ヴィタ, J. (VITTA JOSEPH PAUL)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： WV186
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC7131
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course will introduce research methods in second language research / applied linguistics (SLA/AL) for masters students. By the end of the course, the following objectives will be met:

- 1 - Students will be able to understand and explain the importance of research at both the academic and professional levels.
- 2 - Students will understand the basic philosophical underpinnings of quantitative inquiry.
- 3 - Students will be able to identify, explain, and evaluate key concepts of quantitative inquiry such as measurement theory, variable types, psychometrics, sampling, and inferential testing.
- 4 - Students will be able to achieve objectives 2 to 3 in relation to qualitative inquiry.
- 5 - Students will be able to draft and defend a mini-research proposal for a potential research project.
- 6 - Students will be able to use a pragmatic stance to defend approaches such as mixed-methods research to plan and conduct meaningful inquiries.

In addition to these objectives, doctoral students taking this class will be expected to engage with additional assignments. These assignments are designed to develop the students' ability to independently locate existing

academic reports and sources on L2 research methods, as well as to summarize and synthesize their main findings.

授業の内容 / Course Contents

Course contents have been placed into the schedule section below. In sum, students will first learn about the important and nature of research in SLA/AL. Then, the course will cover quantitative followed by qualitative approaches. The course will then consider how SLA/AL researchers tend to be pragmatic while using different methods for their specific purposes. Finally, students will prepare mini research proposals.

Given the broad nature of the course, technical processes will not be focused upon but the teacher will demonstrate some basic quantitative procedures when appropriate. Students should download JASP onto their computers. This is free statistical software.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：1. Overview of SLA/AL Research

2. Introduction to the Course

3. How Research Change Textbooks' Vocabulary Presentation: An Example (Waring, 1997; Vitta, 2023; Cambridge ELT Catalogue)

(before next class students will read Trochim's Positivism & Post-Posi

2 回：1. The philosophy of 'The Red Car on the Street is Real'

2. Theory's Place in Quantitative Research

3. Overview of Measurement/Variable Types and Descriptive Statistics

4. Brief Introduction to Psychometrics and Sampling

(Students will read Vitta et al.

3 回：1. Sampling

2. Validity and Reliability

3. Brief Introduction to Inferential Hypothesis Testing

(Students will read Kuhar 2010 and Vitta et al. 2023 before next class)

4 回：1. Inferential Testing - Part 1: Overview

(Students will read Shintani 2011; Peters et al. 2023 [Joe will provide notes] and Laufer 2023 before next class)

5 回：1. Inferential Testing - Part 2: Evaluating Quality, Rigor, and Type

2. The Quantitative Reform Movement in SLA/AL (review of Gass et al. 2021)

(Students will complete review sheet to prepare them for the first part of the final test given Week 6)

6 回：Final Test Part 1 -- Content from Weeks 1 to 5

(Students will read teacher-provided notes on interpretivism and constructivism before next class)

7 回：1. The Red Car on the Street is a Social Construction

2. Overview of Qualitative Research

3. Review of Khan et al 2020 in class

(Students will read Sullivan and Sargeant 2011 and reread Khan et al 2020 before next class)

8 回：1. Qualitative Research -- Principles and Design

2. Role of Theory

3. Types of Qualitative Inquiry

(Students will read Sargeant 2012 and Vitta et al. 2019 before next class)

9 回：1. Qualitative Research -- Participants, Analysis, and Quality Assurance

2. Review of Scopus/Web of Science Searching Techniques

(Students will locate 'good' and 'bad' examples of SLA/AL qualitative research reports and bring them to class)

10 回：Final Test Part 2: Content from Weeks 7 to 9

(Students will read Boers et al. 2021 and notes on mixed-methods research before next class)

11 回：1. A Case for Us to Be Pragmatic Researchers.

2. Mixed-Methods Overview

3. The Rise of Big Data and Research Synthesis in SLA/AL Research

(before class ends, Joe will go over the mini research proposal assignment. Students will complete a planning sheet)

12 回：1. Mini Research Proposal 1 - Drafting and Brainstorming

(rough draft due before next class)

13 回：1. Mini Research Proposal 2 -- Peer Feedback and Consultations

(submit 2nd draft to Joe 3 days after this class - feedback returned before next class)

14 回：1. Mini Research Proposal 3 -- Presentations (students prepare videos before class)

(final drafts are due 3 days after class)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be required to study materials before most classes. When this is expected, class will begin with an 'easy' quiz to check that the reading was completed. Students will also be required to prepare brief notes for class discussion.

With the ex

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Reading/Study Quizzes:30% Presentation of Mini Research Proposal:10% 最終レポート割合：:30%最終テスト割合：:30%

In principle, work and quizzes cannot be made up with a university-approved excuse. Students will fail the course if they miss more than 3 classes with an excuse.

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Readings will be provided in digital form by Joe

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

A computer or large tablet is required for class. JASP should be downloaded as well.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

言語コミュニケーション研究特殊講義 A（後期課程科目）

Seminar in Language Communication Research A

佐藤 邦彦 (SATO KUNIHICO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： WV201
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） オンライン授業は8回、14回を予定。
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC7140
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

意味論に関する様々な立場を批判的に検討していくための思考力を養い、それを学生自身の研究テーマに応用することを目指す。

Cultivate critical thinking skills for considering semantic perspectives from many different standpoints, and aim to apply them to the student's own theme of study.

授業の内容 / Course Contents

意味論の基礎知識を紹介するための講義を交えつつ、設定したテーマに即して資料を読んだり討論を行う中で、意味論の持つ問題点について皆で考えてゆく。なお、言語学プロパーの意味論の具体的テーマとしては、語彙的意味論が中心となる。

While including lectures to introduce basic knowledge of semantics, we will read documents and conduct debates related to the themes treated in the class, to think about problems that exist within semantics. As themes of semantics in linguistics proper, lexical semantics will be treated mainly in this class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：意味とコミュニケーション

- 2回：意味と認識の社会的形成
 3回：近代言語学以前における意味に関する論考
 4回：記号論と意味論
 5回：構造主義言語学における語の意味の扱い
 6回：多義性の構造
 7回：語彙における意味関係
 8回：中間発表または提出物に基づく討論
 9回：意味論における要素還元主義の問題
 10回：多義性再考：基本的意味説
 11回：多義性再考：認知言語学の観点から
 12回：メタファー・メトニミーと転義
 13回：意味論におけるメトニミーの重要性
 14回：最終提出物に向けての討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間発表:30% 出席および授業参加度:30% 最終レポート割合：:40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

プリント等を配布。

参考文献 / Readings

言語コミュニケーション研究特殊講義B（後期課程科目）

Seminar in Language Communication Research B

高橋 里美 (TAKAHASHI SATOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV202

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

教室内での第二言語語用論の能力の習得に関する研究に焦点を当て、その理論的背景についての理解を深めるとともに、特定の理論的枠組みにおいて適切な実証研究を実践できる能力を身につける。

This course is designed to provide a clear understanding of the issue of instructed second language (L2) pragmatics. Students will gain fundamental and comprehensive knowledge of both related second language acquisition (SLA) theories and empirical research methods that are pertinent to explore instructional effects in L2 pragmatics in the specific theoretical frameworks.

授業の内容 / Course Contents

第二言語習得研究の一分野としての「第二言語語用論」では、教室内での指導をとおして第二言語語用論の能力の習得の可能性を探る試みが行われてきた。この講義では、同テーマを扱った研究に焦点を当てるが、複数の理論的枠組みにおいて考察する。対象とする理論的枠組みとは、第二言語習得研究の認知心理学的アプローチの中心的な理論である「気づき仮説」・「技能習得理論」・「用法基盤モデル」である。それぞれの理論的枠組みにおいて実践された実証研究の成果を検証する。

In second language pragmatics, one of the research areas in SLA, an attempt has been made to explore

possibilities of learners acquiring their L2 pragmatic competence in classroom settings. In this course, we will focus on teaching pragmatics, but from different theoretical perspectives. The target theories will include Noticing Hypothesis, Skill Acquisition Theory, and Usage-based Model, all of which are the major theories in the cognitive and psychological approaches to SLA. We will examine the findings of empirical studies undertaken within the framework of these theories.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：注意と気づき：理論的背景
- 3 回：気づき仮説と語用論的能力の習得（1）
- 4 回：気づき仮説と語用論的能力の習得（2）
- 5 回：気づき仮説と語用論的能力の習得（3）
- 6 回：気づき仮説と語用論的能力の習得（4）
- 7 回：技能習得理論：理論的背景
- 8 回：技能習得理論と語用論的能力の習得（1）
- 9 回：技能習得理論と語用論的能力の習得（2）
- 10 回：用法基盤モデル：理論的背景
- 11 回：用法基盤モデルと語用論的能力の習得（1）
- 12 回：用法基盤モデルと語用論的能力の習得（2）
- 13 回：最終レポートについての発表
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度:30% 課題提出および口頭発表:30% 最終レポート割合：40%

全ての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

プリント配布

参考文献 / Readings

Martínez-Flor, A., Sánchez-Hernández, A., & Barón, J. L2 Pragmatics in Action. John Benjamins Publishing Company 2023 9789027213655

Taguchi, N., & Roever, C. Second Language Pragmatics Oxford University Press 2017 9780194200585

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

英語論文の読解が中心となるので、高度な英文読解能力を要する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付，課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。

言語コミュニケーション研究特殊講義C（後期課程科目）

Seminar in Language Communication Research C

ことばと社会

谷口 ジョイ (TANIGUCHI JOY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV203

授業形態： オンライン（一部対面）

授業形態（補足事項） オンライン（一部対面）

第1回、第14回目の授業は対面で実施、その他はビデオ会議システム（Zoom）を用いたオンライン授業になります。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本科目は、言語コミュニケーションの共通性や差異に焦点を当て、語用論、バイリンガリズム、言語習得など個別のテーマについて議論を深めることを目的としています。

【後期課程】 ことばに関わる諸問題や、興味深い言語現象を取り上げることにより、さまざまな言語（方言を含む）の特徴を考察し、自身の研究課題を見出すことを目標とします。その上で、後期課程の学生は、関連した先行研究についての論考をまとめることを目指します。

This course focuses on similarities and differences in language communication and aims to deepen discussions on topics such as pragmatics, bilingualism, and language acquisition.

Through discussion of various language-related issues and interesting linguistic phenomena, students will examine the characteristics of different languages (including dialects) and discover their research topics.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、社会言語学及び応用言語学の基本的な考え方について学びます。扱うテーマは、下記のように多岐にわたりますが、履修者の興味・関心に沿う形での変更もあり得ます。

なお、本科目は、グループワーク、プレゼンテーション等を実施する体験学習型科目です。

This course is designed to introduce students to the basic concepts of sociolinguistics and applied linguistics. The topics covered in this course include a wide range of topics as shown in the course schedule but may be modified according to the interests of the students.

This is an experiential learning course that includes group work and presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：【対面】授業の到達目標、テーマ、概要、評価について説明する
自身が興味・関心をもつ言語現象について、グループで共有する
- 2 回：社会言語学とはどのような学問か、どのような研究課題が想定されるかについて理解する
- 3 回：ことばと社会の関わりについて、性差、社会階級、地域、年代といった観点から、グループで討議を行う
- 4 回：人と人との会話はどうにして成り立っているのかという語用論の基礎について理解する
- 5 回：会話分析の基礎について理解し、ポライトネスや発話行為についてグループで討議を行う
- 6 回：応用言語学とはどのような学問か、どのような研究課題が想定されるかについて理解する
人はどのようにして母語以外のことば（第二言語・外国語）を習得するのかについて、その基礎を理解する
- 7 回：第一言語（母語）習得と第二言語習得を比較し、その類似性や差異についてグループで討議を行う
- 8 回：第二言語習得におけるさまざまな個人要因について理解する
- 9 回：年齢や学習ストラテジー、動機付け、不安について、自身を振り返りながらグループで討議を行う
- 10 回：バイリンガルの定義やさまざまなバイリンガル教育の手法について理解する
- 11 回：ジェスチャー、アイコンタクトなどの非言語コミュニケーションについて理解する
- 12 回：フィールド言語学の基礎について理解する
- 13 回：消滅危機言語・方言についてグループで討議を行う
- 14 回：【対面】最終プレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前学習課題に 30 分、復習に 60 分程度を要します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間課題:20% 最終プレゼンテーション:30% 毎回の課題:20% 最終レポート割合：:30%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められます。

テキスト / Textbooks

指定しません。毎回、資料を配布します。

参考文献 / Readings

参考書籍、文献については、適宜、授業内で紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

英語で書かれた論文を講読することがありますので、相応の英語力が求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC/Smart Devices

その他/ Others

「ことばが社会の中でどのように使われ、学ばれ、教えられているのか」について考える科目です。

第二言語としての日本語教育や英語教育に関心のある方の履修を特に歓迎します。

言語コミュニケーション理論（後期課程科目）

Theories of Language Communication

石川 文也 (ISHIKAWA FUMIYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV204

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

言語学の基礎的知識を改めて（再）確認し、大学院博士後期課程の授業で扱う内容の理解を深めるための基盤をさらに発展させることを目的とする。

The goal of this seminar is to review the fundamental knowledge of linguistics, and to create and reinforce the foundation for furthering understanding of content introduced in master's program classes at this university.

授業の内容 / Course Contents

20 世紀初頭に萌芽的学問として記号論の枠組みの中に生まれ、それを包括するものとして定義された言語学はその後、どのように発達したのか。言語学の登場は、西洋世界が培ってきた伝統的な人間科学の知の体系にどのような修正を加え、あるいは加えなかったのか。さらには、今日の言語学は、現代の人間科学の知の体系の中にどのように位置づくのか。このような問題を提起しながら、言語学と密接なかわりを持つ人文社会科学の諸分野との関係を考察し、言語学のエピステモロジーを明らかにしていく。授業では主に学生によるテキストの輪読と報告をおこなう。

How has linguistics evolved from its origination as a budding field of study within the framework of semiotics in the early 20th century into the comprehensive study that defines that framework? How has the advent of

linguistics changed (or not changed) the system of knowledge of traditional human science cultivated in the Western world? In addition, how does linguistics currently fit into the system of knowledge of contemporary human science? Students will tackle problems of this nature as they consider the relationships between linguistics and various, closely related fields in the humanities and social sciences to gain a clearer view of the epistemology of linguistics. Classes are structured around students taking turns reading texts and giving reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ことばの科学の見取り図（1）
- 3回：ことばの科学の見取り図（2）
- 4回：言語の研究
- 5回：語の構造
- 6回：文の構造
- 7回：語の意味（1）
- 8回：語の意味（2）
- 9回：文の意味
- 10回：言語の種類
- 11回：言語の変化
- 12回：音の構造（1）
- 13回：音の構造（2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回の授業で各回のための準備学習を指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論、質疑応答など）：50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト：50%

なお、すべての評価項目において、博士前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

風間喜代三 ほか 『言語学』（第2版） 東京大学出版会 2004 9784130820097 ○

参考文献 / Readings

授業中に配付するプリントあるいはメールの添付ファイルなどによって随時紹介する。

その他 / Others

*上記の「授業計画」は、履修者数や指導の進捗状況にあわせて調整する可能性がある。

*学生の報告あるいは提出物について、口頭あるいは筆記によってコメントする。

*やむを得ず休講となった場合、内容を繰り下げて補講日に補講をおこなうか、それに代わる課題を出す。

言語教育研究特殊講義 A（後期課程科目）

Seminar in Language Education Research A

渡辺 英雄 (WATANABE HIDEO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV205

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

As a result of successfully completing this course, students should be able to:

1. understand the basic approaches in language teaching,
2. comprehend the key elements of language assessment,
3. perform teaching and language assessment appropriate for the target group of learners,
4. identify issues in language teaching and assessment and provide solutions.

授業の内容 / Course Contents

In this practical course, students will learn basic d language teaching approaches such as task-based language teaching and genre-based pedagogy.

Students will also learn important issues in d language assessment, namely, beneficial consequences, validity, reliability and practicality.

Finally, they will be able to perform teaching and assessment using the approaches and knowledge they learn in the course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Teaching and assessment
- 2回：Understanding learners
- 3回：Task-based language teaching
- 4回：Focus on form
- 5回：Genre-based literacy pedagogy
- 6回：English for specific purposes
- 7回：Student presentation
- 8回：Student presentation
- 9回：Language assessment
- 10回：Performance test
- 11回：Paper-based test
- 12回：Assessing grammatical knowledge
- 13回：Student presentation
- 14回：Student presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read materials related to the course contents.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Mini teaching:50% Assessment presentation:50%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

言語教育研究特殊講義B（後期課程科目）

Seminar in Language Education Research B

語学教育のためのスタンダード(Standard for Language Education)

金庭 久美子 (KANENIWA KUMIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV206

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本科目では、自身の外国語学習を振り返ると共に、言語教育の基盤となる語学教育のためのスタンダードを理解し、語学教育の現場に生かす能力を身につけるとともに、各スタンダードの比較を行い、言語教育への応用を検討することを目標とする。

The purpose of this course is to reflect on one's own foreign language learning, to understand the standards for language education referenced in language education and to acquire the ability to apply them to the field of language education. And a comparison of each standard will be made and its application to language education will be considered.

授業の内容 / Course Contents

語学教育で参照されている語学教育のためのスタンダードのうち、「ACTFL 言語運用能力基準」、「実践日本語教育スタンダード」、「外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠」、「JF スタンダード」などについて学び、語学教育においてそれらをどのように生かすことができるかディスカッションや教材の検討を行う。また、各スタンダードに沿った教材の開発を行う。

Study about "ACTFL-OPI", "Jissen Japanese Standard", "Common European Framework of Reference for Languages", and "JF Standard for Japanese-Language Education". Discussions and study of teaching materials will be held on how they can be utilized in language education. And develop teaching materials in line with each standard.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：語学教育のスタンダードとは/ What is the standard for language education?
- 2 回：ACTFL-OPI を知ろう/ Get to know ACTFL-OPI!
- 3 回：ACTFL-OPI の理論と実践を学ぶ/ Learn the theory and practice of ACTFL-OPI
- 4 回：ACTFL-OPI のインタビューを学ぶ/ Learn about ACTFL-OPI interviews
- 5 回：実践日本語教育スタンダード 言語活動・言語素材と話題/ Jissen Japanese Standard: Language activities, language materials and topics
- 6 回：私的領域（場所）の言語活動と難易度/ Language activities and difficulty in the private sphere (location)
- 7 回：大学という場所における言語活動/ Language Activities at the University
- 8 回：中間課題/ Midterm Task
- 9 回：CEFR の基本的な考え方/ Basic Concept of CEFR
- 10 回：CEFR が生まれた背景・CEFR が目指す言語教育/ Background of the CEFR and the CEFR's Goals for Language Education
- 11 回：CEFR が考える言語能力・CEFR から教育実践/ CEFR's concept of linguistic competence and CEFR to educational practice
- 12 回：JF スタンダード知識編/ JF Standard Knowledge Section
- 13 回：JF スタンダード実践編/ JF Standard Practice Section
- 14 回：期末課題/ Final Task

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。/ Instructions on learning outside of class time will be given separately as necessary.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表・レポート(Presentation and Report) (中間 30%、期末 30%) :60% 平常点(Usual performance score) (授業内に指示した提出物 30%、ディスカッション 10%) :40%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。/ No credits can be earned for students who do not attend at least 2/3 of the classes.

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト/ Textbooks

鎌田修他 『OPI による会話能力の評価』 凡人社 2020 9784893589705 -

奥村三菜子他 『日本語教師のための CEFR』 くろしお出版 2016 9784874247013 -

山内博之他 『実践日本語教育スタンダード』 ひつじ書房 2013 9784894764637 -

参考文献 / Readings

Council of Europe 『外国語教育II 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』 朝日出版社 2004 9784255002934

国際交流基金 『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック (web 版)』 国際交流基金 2017

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

自身の語学学習の経験や教授経験についてふり返り、発言できるようにしてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ネット上のツールを利用するため PC を持参してください。

その他/ Others

- ・資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。
- ・毎週の発表者を決め、全員でディスカッションを行いながら、テキストを読み進めていくことを予定している。
- ・中間、期末発表の課題については「Canvas LMS」上で告知する。
- ・中間課題、期末課題の内容をレポートにして提出すること。後日「Canvas LMS」にてフィードバックを行う。

言語教育研究特殊講義C（後期課程科目）

Seminar in Language Education Research C

バイリンガリズムとバイリンガル教育

(Bilingualism and Bilingual Education)

佐々木 美帆 (SASAKI MIHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV207

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7143

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業ではバイリンガリズムおよびマルチリンガリズムとその教育について国内外の学術研究をベースに学びます。どのように子どもと大人が二つ以上の言語を習得しバイリンガル・マルチリンガル環境がその言語発達に影響するかについて理解を深めます。理論やデータについて議論・分析を行います。

This course provides students with an opportunity to learn about bilingualism/multilingualism and its education based on academic research in the world. Through readings and discussion, students will develop understanding on how children and adults acquire more than one language and how bilingual and multilingual environments affect their language development. Students discuss the theories and data critically.

授業の内容 / Course Contents

このセミナーではバイリンガルやマルチリンガルといわれる子どもおよび大人がどのような環境で成育しどのように言語を習得・使用しているのかを、言語学、心理学、教育の分野のクラシックおよび最近のバイリンガル研究について英語および日本語で読み、ディスカッションを行います。セミナーで扱う広範囲にわたるバイ

リンガリズムおよびバイリンガル教育研究をもとに、各自興味のある分野について文献研究のショートプレゼンテーションを行い最終レポートにまとめます。

Students will learn how bilingual/multilingual children and adults grow up and how they acquire and learn their languages by reading the classic and recent bilingual studies in linguistics, psychology and education. The reading materials will be given either in English or Japanese and they will discuss in either language. Based on the readings covering the extensive areas of bilingualism and bilingual education research, students are required to give a presentation on the related area and write a short review paper as a final report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: Who is Bilingual?
- 2 回：Bilingualism and Multilingualism
- 3 回：The Measurement of Bilingualism
- 4 回：Bilingual Language Acquisition: The Early Development of Bilingualism
- 5 回：Bilingual Language Acquisition: The Later Development of Bilingualism
- 6 回：Reading Development and Writing Systems
- 7 回：Bilingualism Research Topics / Essay Writing Skills
- 8 回：Bilingual Cognition
- 9 回：Bilingual Brain
- 10 回：Types of Education for Bilingual Students / Translanguaging
- 11 回：Biliteracy
- 12 回：Bilingual Identity
- 13 回：Presentations & Discussion
- 14 回：Bilingualism in Japan

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する教科書の章や配布資料を読み、積極的な授業準備を期待します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度および出席(Class Participation):50% プレゼンテーション(Presentation):20% 最終レポート割合：:30%

全ての評価方法において前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

Baker, C. & Wright, W.E. Foundations of Bilingual Education and Bilingualism (7th edition) Multilingual Matters 2021 9781788929882 -

参考文献 / Readings

中島和子 『完全改訂版バイリンガル教育の方法：12歳までに親と教師ができること』 アルク 2016
 フランソワ・グロジャン 『バイリンガルの世界へようこそ：複数の言語を話すということ』 勁草書房

2018

Grosjean, F. The Mysteries of Bilingualism Wiley Blackwell 2022 9781119602378

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付，授業中の課題の提出などに「Canvas LMS」を使用するので，授業に PC・タブレットを持参してください。

言語教育理論 A（後期課程科目）

Theories of Language Education A

Formulaic Language: theories and practice

居村 啓子 (IMURA KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV208

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、フレーズロジーの研究に必要な基礎知識を習得し、様々な角度から Formulaic Language の性質について学ぶことを目標とします。まず FL の多様な定義に触れ、その種類や機能について学びます。また母語習得、第二言語習得それぞれに於ける役割について考察し、教育への応用について考えていきます。さらに、この授業で得た知見を研究テーマの分析・考察に応用することができるようにします。

The goal of this course is to acquire the foundational knowledge necessary for the study of Phraseology. We will begin by exploring various definitions of Formulaic Language, and delve into its taxonomy, characteristics, and functions. Additionally, we will contemplate the roles of Formulaic Language in both first and second language acquisition. While touching upon recent research in Formulaic Language, we will also consider its applications in education. Furthermore, students will be guided that the insights gained in this class can be applied to the analysis and examination of their research themes.

授業の内容 / Course Contents

この授業は基本的に講義とテキスト+オーラルプレゼンテーション+ディスカッションという形式で行いま

す。まず Formulaic Language の性質の複雑さ、またそれに付随して存在する様々な定義について理解を深めます。また言語学の様々な分野（言語心理学、社会言語学、言語習得理論、コーパス言語学等）との関連について紹介していきます。FL とは何か、どのような現象で、どのような機能を持つのか考察し、全体像をつかみます。その上で、大人の母語話者にとっての FL、子供の母語獲得における FL、大人の第二言語話者にとっての FL、そして子供の第二言語習得における FL の役割等について解説していきます。また失語症と FL との関連についても触れていきます。

This class will primarily follow a format of lectures along with text-based materials, oral presentations, and discussions. Initially, we will deepen our understanding of the complexity of the nature of Formulaic Language (FL) and explore various definitions associated with it. We will also introduce its connections with various fields of linguistics, such as psycholinguistics, sociolinguistics, language acquisition theory, corpus linguistics, and more. We will contemplate what FL is, what kind of phenomenon it represents, and what functions it serves, gaining an overall perspective. Following that, we will elaborate on the roles of FL in the native language of adults, and L1 / L2 acquisition. Additionally, we will touch upon the relationship between aphasia and FL.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction to Formulaic Sequences
- 2 回：Detecting Formulaicity
- 3 回：Patterns of Formulaicity in Adult Language
- 4 回：Formulaic Sequences in First Language Acquisition
- 5 回：Formulaic Sequences in Second Language Acquisition: an overview
- 6 回：Formulaic Sequences in Children using a second language
- 7 回：Patterns of Formulaicity in Adults and Teenagers Using a Second Language
- 8 回：Measurement of Formulaic Sequences
- 9 回：Formulaic Performance in Conventionalised Varieties of Speech
- 10 回：Individual Differences in their Effects on Formulaic Sequence Acquisition
- 11 回：Social-cultural Integration and the Development of Formulaic Sequences
- 12 回：Corpus-derived Recurrent Clusters
- 13 回：Formulaic Sequences and Language Loss
- 14 回：Formulaic Sequences and English education

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to thoroughly review the assigned chapters in the course's designated text material, presenting their insights during class sessions. Additionally, students are encouraged to actively participate in discussion sessions by formulating

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation:30% Quiz:20% Discussion:20% Report:30%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

Alison Wray Formulaic Language and the Lexicon Cambridge 2002 0521022126 ○

参考文献 / Readings

Norbert Schmitt Formulaic Sequences John Benjamins Publishing Company 2004 9027217084

Anna Siyanova-Chanturia and Ana Pellicer-Sanchez Understanding Formulaic Language: A second language acquisition perspective Routledge 2019 9781138634978

言語教育理論B（後期課程科目）

Theories of Language Education B

教育工学、教師教育学の視点からの日本語教育学

池田 伸子 (IKEDA NOBUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV209

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7140

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

教育を Art ではなく Science としてとらえるというのはいったいどういうことか、そこにどんなメリットがあるのかを、教育工学、主としてインストラクショナル・デザインの視点から理解する。さらに、態度変容の理論を軸に、実践力のある教師養成について理解を深める。さらに、態度変容の理論をインストラクショナル・デザインに落とし込み、その実践方法についても提示することができる。

授業の内容 / Course Contents

前半は、教育工学の視点から日本語教育を考える。具体的には、教育をシステムとして考え、そのシステムを構成する諸要素について学び、教育カリキュラムや授業をデザインする方法について概観する。後半は、心理学等の理論を基礎として態度変容について学び、実践力のある教師を養成するために、それらの理論や方法がどのように適用可能かについて知見を深める。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：教育とは何か

- 3回：教育工学とは何か
 4回：外国語教育、外国語教育工学
 5回：21世紀型外国語教育とは、21世紀型日本語教育とは
 6回：教育をデザインする①
 7回：教育を、そして授業をデザインする②
 8回：態度とは何か
 9回：態度変容理論①
 10回：態度変容理論②
 11回：教師教育、教員養成とは
 12回：外国語教員の養成、何が必要か
 13回：21世紀に求められる日本語教員を養成する
 14回：振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度 (討論, 質疑応答など) :30% レポート (2回) :70%

2回のレポートについては、提出とともに内容のプレゼンテーションも実施しなければならない。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

必要なものは授業で適宜紹介する。

その他 / Others

講義も行うが、参加者自身の授業デザインや教材開発なども積極的に取り入れるので、参加者は毎回きちんと準備して授業に臨むこと。

受講生の発表、提出した課題については、次回の授業でフィードバックを実施する。

教材の配布や必要な連絡は Canvas LMS を通して実施する。

なお、すべての評価方法について、後期課程においては前期課程より高度な達成基準を設定する。

Teaching and Learning Vocabulary (後期課程科目)

Teaching and Learning Vocabulary

濱田 彰 (HAMADA AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： WV254
授業形態： オンライン (全回オンライン)
授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC7141
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

PhD students will be able to conduct the original studies that can contribute to understanding the way vocabulary works in learning English as a foreign language. Particularly, they are expected to investigate vocabulary teaching and testing for the empirical knowledge necessary to make informed choices in a classroom.

授業の内容 / Course Contents

This course will offer a comprehensive introduction to vocabulary for English language teachers who would like to know the way vocabulary works. Using the assigned textbook, students are expected to make presentations about what vocabulary is, how it is taught, and how it is tested. They will also discuss a variety of topics about teaching vocabulary in a classroom.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction

-Coursework assignment

-Small discussion

2 回：Which words should be learned?

- Importance of learning vocabulary
- Relative value of words
- 3 回：Learning burden
- Defining the learning burden
- Factors affecting difficulty
- 4 回：Vocabulary size and growth
- L1 vocabulary growth
- L2 vocabulary growth
- 5 回：Conditions contributing to vocabulary learning
- Framework of vocabulary learning conditions
- 6 回：Analysing vocabulary learning activities
- Vocabulary learning activities 1-10
- 7 回：Analysing vocabulary learning activities
- Vocabulary learning activities 11-23
- 8 回：Learning vocabulary in different contexts
- Learning vocabulary in the EFL context
- Learning vocabulary in the ESL context
- 9 回：Developing autonomous learners of vocabulary
- Three principles for teaching vocabulary learning strategies
- 10 回：Developing autonomous learners of vocabulary
- Key strategies for autonomous vocabulary learning
- 11 回：Developing an effective vocabulary learning programme
- Defining the four strands
- Contributions of the four strands to vocabulary learning
- 12 回：Resources for vocabulary learning
- Traditional resources
- 13 回：Resources for vocabulary learning
- Advanced technologies
- 14 回：Key questions about vocabulary learning

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの指定された箇所を通読し発表資料を作成してください。

発表資料には Discussion Points を含めましょう。

Please read through the assigned sections of the text and prepare your presentation materials.

Include Discussion Points in your presentation.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション (Presentation) :40% ディスカッション (Discussion) :20%

最終レポート割合 :40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト/ Textbooks

Stuart Webb and Paul Nation How Vocabulary is Learned Oxford University Press 2017 -

参考文献 / Readings

Paul Nation Learning vocabulary in another language 3rd ed. Cambridge University Press 2022

中田達也 『英単語学習の科学』 研究社 2019

その他/ Others

<https://hamada-lab.jp/>

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Applied Linguistics B（後期課程科目）

Seminar in Applied Linguistics B

渡辺 英雄 (WATANABE HIDEO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV258

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

As a result of successfully completing this course, students should be able to:

1. understand the basic approaches in discourse analysis,
2. comprehend the notions of discourse analysis terminology,
3. apply notions developed in discourse analysis to other areas of study,
4. choose an appropriate discourse analysis tool for a specific purpose of analysis.

授業の内容 / Course Contents

This course leads you to the field of discourse analysis by covering the major areas of discourse analysis such as society, pragmatics, genre, critical discourse analysis and multimodality. Students will have the perspective to understand verbal and non-verbal communication.

This course also focuses on how discourse analysis can be applied to other fields such as language teaching and media studies.

Students in this course will be able to analyze language and non-verbal features from the perspective of discourse analysis. They will also be able to choose an appropriate discourse analysis tool depending the purpose of

discourse analysis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：What is discourse analysis?
- 2 回：Discourse and society
- 3 回：Discourse and pragmatics
- 4 回：Intercultural pragmatics
- 5 回：Discourse and genre
- 6 回：Genre in educational settings
- 7 回：Discourse grammar
- 8 回：Appraisal (evaluative language)
- 9 回：Multimodal discourse analysis
- 10 回：Discourse and digital media
- 11 回：Critical discourse analysis
- 12 回：Doing critical discourse analysis
- 13 回：Student presentation
- 14 回：Student presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read the textbook for each lecture.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reports:60% Presentation:40%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

Paltridge, Brian Discourse Analysis An introduction Bloomsbury 2022 9781350093638 ○

参考文献 / Readings

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

Seminar in Applied Linguistics C（後期課程科目）

Seminar in Applied Linguistics C

Teaching English and Bilingualism in Japan

日本における英語教育とバイリンガリズム

キアナン, P. (KIERNAN PATRICK J.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV259

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- To have a clear and detailed understanding of the main linguistic and cultural differences between Japanese and English that affect the teaching of English to Japanese learners and to be able to critically evaluate the ideal features to focus on with a given group of learners
- To have a broad understanding of the suitable approaches and methods for teaching English in Japan and the ability to identify suitable ones to apply for specific contexts
- To be able to coherently explain a wide range of the range of issues impacting the teaching of English in Japanese classrooms today and be able to propose meaningful ways to address them

授業の内容 / Course Contents

This course is primarily aimed at those with potential plans to teach English speaking to Japanese learners but should also be relevant to those concerned with cultural and linguistic differences between Japanese and English, as well as those interested in current approaches to language teaching. The first half of the course focuses on

cultural and linguistic differences between Japanese and English with a particular focus on areas of common difficulty. It also explores the reasons behind these difficulties. The second half of the course focuses on practical ways to address these issues through classroom activities designed to motivate, engage, and build listening and speaking skills. Course participants will also have opportunities to share their own areas of interest.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Course introduction

2回：Katakana English

The history of Japanese English and the impact of katakana English in global contexts See Stanlaw, 2004

3回：Discourse Intonation

An approach to teaching intonation as a system of meaning See Coulthard, 1992

4回：Politeness

Issues of politeness across culture

See Brown and Levinson, 1987 and Tanaka, 1998

5回：Authenticity in Language Teaching in Japan

See Seargeant, 2005

6回：Spoken Vocabulary

See Carter and McCarthy, 1997

7回：Encounters with Students

The student from hell (Palmer, 2007)

I wouldn't want anyone to know (Buono and Ceasar, 2003)

8回：Harold Palmer and the Direct Method

The history of teaching English in Japan (Howard, 2004)

9回：Research interests presentations

(student presentations)

10回：The JET Program, ALTs and JTEs

McConnell (2003)

Hiratsuka (2023)

11回：English Immersion Schools in Japan

Nichiei Immersion School (Kanno, 2008)

12回：Bilingual identities

Negotiating Bilingual and Bicultural Identities (Kanno, 2003)

Identity and language learning (Norton, 2000)

13回：English as Cultural Capital

Hybrid Identities (Kamada, 2020)

14回：Review and final presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- (1) Students will be given weekly required readings to prepare in advance. There will also be "optional" further reading which doctoral level students taking this course should aim to read as far as possible.
- (2) Students will be asked to write reflection

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Classwork:30% Reflection papers:30% Presentations:40%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected. Doctoral students are expected to produce a work at a higher standard across all assignments and to read a most, if not all, of the "optional" read

テキスト / Textbooks

All readings will be posted on Google Scholar and distributed in class.

参考文献 / Readings

All supplementary materials will be linked or posted on Google Scholar.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

All course participants should be able to read English academic papers and participate in a course taught in English.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Writing materials to complete class worksheets and access to a computer for homework.

その他 / Others

You will be expected to speak actively and openly during class. It is also expected that doctoral students will be able to contribute to the course based on your research and experience of language learning and/or teaching to date.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

Psychology of the Language Learner (後期課程科目)

Psychology of the Language Learner

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV260

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students will understand and be able to explain the complexities of "who" a language learner is. To do so, students will explore the roles of socializers and the self on competency and value beliefs. Students will understand affect, motivation, and agency and be able to assess teaching practices in relation to each. It is expected that students will also be able to understand the complexities of "who" a teacher is, and thus, students should be able to assess a language learning classroom dynamic from multiple psychological perspectives. Students are also expected to implement a research design in order to collect and analyze data regarding learner identity for presentation or publication.

授業の内容 / Course Contents

The course will cover the development of the self. In order to understand said development, the course will cover the influential roles of culture, socializers, education, and the self on beliefs, affect, motivation, and agency. The course will conclude with practical implications in the classroom.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Psychology in education

- 2回：Theoretical approaches to understanding educational psychology
 3回：Group dynamics
 4回：The self: Definition
 5回：Beliefs
 6回：Competency beliefs & value beliefs
 7回：Affect
 8回：Motivation: Theory
 9回：Motivation: In the classroom
 10回：Agency
 11回：Willingness to Communicate and teaching practice
 12回：Academic Article Review 1
 13回：Academic Article Review 2
 14回：Project Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Study required outside of class will be determined in consultation with the instructor throughout the semester.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation:25% Reading outlines and homework:25% Reflection papers:20%
 Project and report:30%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

Readings will be provided by the instructor.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Language Curriculum A（後期課程科目）

Seminar in Language Curriculum A

Content and Language Integrated Learning (CLIL)

居村 啓子 (IMURA KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV261

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to deliver an overview of Content and Language Integrated Learning (CLIL) and facilitate students' understanding of CLIL-based approaches and pedagogies. Throughout the course, students will learn the principles and methodology of CLIL from a wide range of readings and extensive discussions. Furthermore, students will be guided that the insights gained in this class can be applied to the analysis and examination of their research themes.

授業の内容 / Course Contents

In this course, I will introduce Content and Language Integrated Learning (CLIL) as an educational approach in which a target language is used for the learning and teaching of both content and language. The course will cover the theoretical frameworks of CLIL and explicate the fundamental differences between the existing educational approaches as well as content-based language teaching and immersion programs. Students will not only learn the academic background of CLIL, but learn how it can be put into practice. They will be asked to conduct micro-teaching based on CLIL methodology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: what is CLIL?
 2 回：A window on CLIL
 3 回：Curricular variation in CLIL
 4 回：CLIL as a theoretical concept
 5 回：The CLIL Tool Kit: Transforming theory into practice
 6 回：Evaluating and creating materials and tasks for CLIL classrooms
 7 回：Assessment issues in CLIL
 8 回：Evaluating the impact of CLIL programmes
 9 回：Future directions
 10 回：Micro teaching 1
 11 回：Micro teaching 2
 12 回：Micro teaching 3
 13 回：Micro teaching 4
 14 回：Wrap-up and feedback

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will read the assigned reading materials beforehand and prepare for review and discussion sessions in class. Three reaction papers will be required during the semester.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Presentations:30% Reaction papers:30% Micro teaching:20% 最終レポート
割合：20%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

Do Coyle, Philip Hood, David Marsh Content and Language Integrated Learning Cambridge 2010
9780521130219 ○

Additional materials will be provided as necessary.

参考文献 / Readings

Fred Genesee and Else Hamayan CLIL in Context: Practical Guidance for Educators Cambridge 2016
9781316609453

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Language Curriculum B（後期課程科目）

Seminar in Language Curriculum B

ヴィタ, J. (VITTA JOSEPH PAUL)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： WV262
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC7141
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is focused on the global aim of preparing students to design curricula and syllabi for language courses in professional and academic settings according to current best practices. To that end, the course is carried out in three sequential phases where each has a governing aim and sequent objectives.

Phase 1 (Weeks 1 and 2)

Aim: To introduce students to the background of second/foreign language curriculum and syllabus design while introducing the key concepts associated with this process.

Objective 1: Understand the social and economic realities of language teaching.

Objective 2: Identify how language curriculum and syllabus design intersects with functional linguistic theory.

Objective 3: Know and be able to differentiate key terms such as aim, objective, outcome, environment, and needs.

Phase 2 (Weeks 3 to 10)

Aim: To able to evaluate and create curricula and syllabi in an enhanced manner using Macalister and Nation (2017) as a defensible model.

Objective 1: Understand the design process is a system of interconnected parts.

Objective 2: Understand how to evaluate and design environment and needs analyses as the underpinnings of the design process.

Objective 3: Understand how principles, sequencing, and organization are the hallmarks of the design process. Develop both passive and active knowledge of this point.

Objective 4: Understand how evaluation and assessment need to fit into the design process.

Objective 5: Be able to identify learning and course materials for inclusion in curricula and syllabi design processes while being able to defend the choices of specific materials.

Phase 3 (Weeks 11 to 14)

Aim: To create an enhanced curriculum and syllabus (course design) for a mock job application applying concepts and knowledge developed during phase 2.

Objective 1: Design and write an enhanced course design for a course mentioned in a mock job application.

Objective 2: Be able to organize, present, and defend design choices within the writing of the enhanced curriculum/syllabus.

Objective 3: Be able to evaluate designs according to the principles and concepts taught during the course.

Objective 4: Be able to defend and explain one's enhanced curriculum/syllabus during a mock interview.

In addition to these objectives, doctoral students taking this class will be expected to engage with additional assignments. These assignments are designed to develop the students' ability to independently locate existing academic reports and sources on L2 curriculum design, as well as to summarize and synthesize their main findings.

授業の内容 / Course Contents

Course contents have been placed into the schedule section below. In sum, phase 1, weeks 1 and 2, sets the background. Phase 2, weeks 3-10, teaches the relevant concepts. Phase 3, weeks 11-14, is when these concepts are applied.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：1. Introduction to the Course

2. Language Learning and Teaching as a Social and Economic Reality

3. Key Concepts in Curriculum and Syllabus Design

(Students will read Vitta & Al-Hoorie, 2023 and CEFR Assessment Standards - 2011 before next class)

2回：1. Functional Linguistic Theory and Modern Language Teaching

2. The Active Learning Approach

3. The Curriculum - Instruction - Assessment Triad

(Students will read chapters 1 and 14 from the textbook before next class)

3回：1. Overview of the Macalister and Nation Model

2. Issues with Curriculum and Syllabus Design in the Japanese EFL Context

(Students will read chapters 2 and 3 from the textbook before next class)

4回：1. Environment Analysis

2. Needs Analysis

(Students will read chapter 4 from the textbook, Byrnfonski & McKay 2019, Boers et al. 2021 before next class)

5回：1. Principals and Methodological Approaches in Course Design

2. How Research Informs Course Design

(Students will read chapters 5 and 6 from the textbook before next class)

6回：1. Sequencing, Organization, Formatting, and Presentation within Course Design

(Students will read chapters 7 and 8 from the textbook before next class)

7回：1. How assessment fits into course design.

2. How program/course evaluation fits into course design

(Students will read Vitta et al. 2019 and chapter 12 from the textbook before next class)

8回：1. Reforming existing plans

2. Teacher buy-in

3. The human aspect of curriculum design

(Students will read Vitta 2023 and chapter 11 from the textbook before next class)

9回：1. Reforming existing plans

2. Teacher buy-in

3. The human aspect of curriculum design

(Students will read Vitta 2013 and chapter 11 from the textbook before next class)

10回：Final Test - Content from weeks 1 to 9

11回：1. Overview of enhanced course (curriculum/syllabus) structure

2. Presentation of Final Project: Mock Curriculum/Syllabus Creation for Job Application

(Students complete first draft before next class)

12回：1. Peer Feedback and Consultations

(Students complete second draft before next class -- submit to Joe 3 days before)

13回：1. Teacher-provided Feedback and Consultations

2. Mock Interview Tips and Pointers

(Final draft sent to Joe 3 days after class)

14回：1. Mock Interviews -- These will be conducted using zoom and will take about 10-15 minutes per student.

Details to be provided in due course.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be required to study materials before most classes. When this is expected, class will begin with an 'easy' quiz to check that the reading was completed. Students will also be required to prepare brief notes for class discussion. Before week

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Reading/Study Quizzes:20% Post-class writing assignments/reflections:20% Mock Interview:20% 最終レポート割合：20%最終テスト割合：20%

In principle, work and quizzes cannot be made up with a university-approved excuse. Students will fail the course if they miss more than 3 classes with an excuse.

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work

テキスト / Textbooks

John Macalister and I.S.P. Nation Language curriculum design (2nd Edition) Routledge 2017
9780429203763 -

参考文献 / Readings

Readings will be provided in digital form by Joe

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

A laptop (or large tablet) is required for this course and students need to come to class with this.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.5.

Seminar in Language Curriculum C（後期課程科目）

Seminar in Language Curriculum C

大森 愛 (OHMORI AI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV263

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course 1) offers an introduction to Japanese education system, and 2) helps students understand the features of Japanese learners of English. By the end of the course, students will have basic understanding about the history and current situations of English language education in Japan, and specific features of Japanese learners of English and what it means to study English for the Japanese students. The goal is to consider teaching methods suitable for Japanese English learners and approaches that are more culturally responsive, and to apply them to the analysis and examination of students' own research topics.

授業の内容 / Course Contents

The present course covers basic knowledge about Japanese education system and English language education, focusing specifically on Japanese contexts and learners. Students will examine and deepen their understanding through lectures and discussing issues related to English language education policies and Japanese learners of English. Opportunities to conduct lesson demonstrations will efficiently enhance students' practical and culturally responsive teaching skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
 2 回：History of English language education in Japan
 3 回：Course of study & Government policies
 4 回：English language education in Japanese classrooms (practices): primary and junior high schools
 5 回：English language education in Japanese classrooms (practices): senior high school and university
 6 回：Internationalization of higher education (EMI)
 7 回：Lesson plans, teaching methodologies, and team-teaching in Japanese schools
 8 回：Lesson demonstration 1
 9 回：Issues of English language education in Japan 1
 10 回：Issues of English language education in Japan 2
 11 回：Teacher education and teacher license,
 Team-teaching
 12 回：CLIL activities and planning CLIL
 13 回：Lesson demonstration 2
 14 回：Course review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

To be announced in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance, class participation and homework:30% Lesson plans and demonstrations:35% Reflection papers, (and an interview and report):35%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

Necessary materials will be announced in the first class.

参考文献 / Readings

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

Bilingualism and Language Contact (後期課程科目)

Bilingualism and Language Contact

Immigration, Multilingualism, and Language Change

谷口 ジョイ (TANIGUCHI JOY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV265

授業形態： オンライン (一部対面)

授業形態 (補足事項) オンライン (一部対面)

The 1st and 14th classes will be conducted in person, and the others will be online classes using a video conferencing system(Zoom).

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7141

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

When you finish this course, you will be able to

- (1) understand the fundamental concept of language contact phenomena.
- (2) analyze the sociolinguistic contexts of language contact.
- (3) read and evaluate studies on language contact from a variety of approaches.

Ph.D. candidates will also be able to

- (4) carry out original research on language contact using own linguistic data.

授業の内容 / Course Contents

In this course, we focus on the linguistic varieties and linguistic practices that emerge from language contact. We pay attention to the social contexts of contact, as well as the linguistic outcomes of contact. It is also the goal of this course to understand the three major phenomena of language contact: maintenance, shift, and creation,

including topics such as borrowing, multilingualism, code-switching, endangered languages, and pidgins and creoles.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：[face-to-face] Overview of the course
Overview of language contact
- 2 回：An Emerging Multilingual Repertoire and Lexical Development
- 3 回：Social Multilingualism and Language Domains
- 4 回：Maintaining a Bilingual Repertoire (1)
Bilingualism as a First Language
- 5 回：Maintaining a Bilingual Repertoire (2)
Second Language Acquisition
- 6 回：Code Switching and Code Mixing in Conversation
- 7 回：Discourse Functions of Code Switching
- 8 回：Borrowing (1)
Lexical Borrowing
- 9 回：Borrowing (2)
Grammatical and Phonological Borrowing
- 10 回：Contact Languages (1)
Origins of Languages
- 11 回：Contact Languages (2)
Pidgins and Creoles
- 12 回：Multilingual Speakers as Agents of Language Change
- 13 回：Language Contact in Japanese Contexts
- 14 回：[face-to-face] Final Presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

This course requires the students at least one hour each for preparation and review. Designated students will require several additional hours of preparation.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Mid-term Paper:20% Final Presentation:30% Weekly Assignment:20% 最終
レポート割合 :30%

In all areas, Ph.D. students are expected to meet a higher standard than M.A. students.

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Anthony P. Grant The Oxford Handbook of Language Contact Oxford University Press 2020

9780199945092

Yaron Matras Language Contact (Cambridge Textbooks in Linguistics) Cambridge University Press 2020

9781108425117

Other books and references will be introduced in class.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Ability to read papers and discuss each topic in English

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC or Smart Devices

その他/ Others

I do not have office hours in Rikkyo. I am generally easiest to reach by email.

注意事項

The following minimum level of English Language Proficiency is expected at the time of registration: TOEFL (iBT) 90 and/or IELTS 6.7.

通訳翻訳テクノロジー論（後期課程科目）

Technologies for Translators and Interpreters

Theoretical and Practical Foundation for Advanced Technologies in Translation and Interpretation

未定 (MITEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV306

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス（リアルタイム翻訳、文字起こし等）の実践と理論を学ぶために全授業回のうち2回はオンラインで実施する（7・8回目の授業）。

なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course aims at equipping students with basic knowledge and experiences of technologies utilized by linguists such as professional translators and project managers. The technologies to be covered in the course are Neural Machine Translation, including customization of it, post-editing and pre-editing tourniquets, orthodox CAT tools such as translation memory, terminology management tools, subtitling tools. Through the course, students are also expected to learn how to use technologies for research purposes, techniques such as corpus analysis, text mining, translation process research data collection methods. Additionally, Ph.D. students must conduct a thorough analysis of the aforementioned content, focusing on issues and efficiency as they pertain to practical application.

授業の内容 / Course Contents

The course consists of a) understanding of the basic mechanism of AI-related NMT such as RNN, Transformer,

word embedding, b) mastering CAT tools including translation memory, terminology management tools, including effective practice in post-editing and pre-editing, c) being familiar with customizing machine translation, including domain adaptation and corpus data cleansing, d) being knowledgeable of project management and localization tool. The theme also covers post-editing, controlled language, speech recognition, data analyses, and privacy protection.

Throughout the course, students will be asked to read relevant articles, join a discussion, and complete assignments as specified. This course will be interactive and participative, in which students will be requested to study actively each subject and reflect what they learn onto their translation projects to be assigned in classes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：CAT tools 1
- 3 回：CAT tools 2
- 4 回：Post-editing 1
- 5 回：Post-editing 2
- 6 回：Machine translation 1: History
- 7 回：Machine translation 2 Theory
- 8 回：Machine translation 3: Domain adaptation
- 9 回：Terminology management and Project Management
- 10 回：Data cleansing, data mining, corpus analysis
- 11 回：Data-driven research and translation process research 1
- 12 回：Data-driven research and translation process research 2
- 13 回：Total workbench environment
- 14 回：Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Reading assignments will be given respectively. Students will be asked to join discussions on the assigned articles.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reflection paper:20% Homework assignments:30% Project-based assignments:50%

The scope and complexity of presentations by Ph.D. students should be approximately double that of master's students, and evaluations will be conducted accordingly.

テキスト / Textbooks

Articles and handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

Minako O'Hagan The Routledge Handbook of Translation and Technology Routledge 2019
9781138232846

坂西優・山田優 『自動翻訳大全』 三才ブックス 2020 4866731931

ティエリー・ポイボー, 中澤 敏明 『機械翻訳:歴史・技術・産業』 森北出版 2020 4627851812

その他/ Others

https://researchmap.jp/yamada_trans

全授業回のうち3回のみオンライン実施（実施回については「Canvas LMS」で指示する）。

会議通訳入門（後期課程科目）

Introduction to Conference Interpreting

Introductory course of the Conference Interpreting Program

バギュリー（BAGULEY BLAKE MURCIA）

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV307

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This is an introductory course of the Conference Interpreting Program.

The objectives of this course are for students to:

- 1) understand the basic concepts and modes of interpreting;
- 2) develop basic skills that support all modes of interpreting, such as a

授業の内容 / Course Contents

The bulk of this course will be hands-on, practical exercises. Students will be asked to actively engage in exercises in each class, beginning with basic skills for interpreting such as active listening, then moving on to consecutive interpreting with and without notes. After each exercise, there will be time taken for constructive feedback and discussion, with everyone participating.

Students will need to prepare for the topics to be covered in each class (by researching and building glossaries), record and reflect on their in-class performance, and also practice individually or in a group outside of class. The speeches/dialogues used will begin at entry level and progress to intermediate level, covering general (non-

technical) topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course overview and introduction to modes of interpreting
 2 回： Introduction to active listening and memory
 3 回： Active listening and summarising exercises
 4 回： Interpreting without notes 1 (typical speeches)
 5 回： Interpreting without notes 2 (general topic)
 6 回： Interpreting without notes 3 (news, current events)
 7 回： Mid-term test (interpreting without notes in both directions)
 8 回： Review of mid-term test
 Introduction to note-taking
 9 回： Interpreting with notes 1 (general/personal topics)
 10 回： Interpreting with notes 2 (social issues)
 11 回： Interpreting with notes 3 (numbers)
 12 回： Interpreting with notes 4 (international affairs)
 13 回： Final test (interpreting with notes in both directions)
 14 回： Review of final test
 Wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to research the topic prior to each class and build up their own bilingual glossaries. Students will need to record their performance in class, then listen back to it afterwards and write a report/reflection. In addition, students wi

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Mid-term test:30% In-class performance:20% Report submission and in-class participation:10% 最終テスト割合 :40%

Doctoral students will be expected to meet the evaluation criteria at a higher level than MA students.

テキスト / Textbooks

Materials will be provided in class.

参考文献 / Readings

ベルジュロ・鶴田・内藤 『よくわかる逐次通訳』 東京外国語大学出版会 2009 4904575059

Robin Setton, Andrew Dawrant Conference Interpreting: A Complete Course (Benjamins Translation Library)

John Benjamins Publishing Company 2016 9789027258618

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Non-native speakers of English are required to have attained at least one of the following test scores: TOEFL iBT

100,

IELTS 7.0, TOEIC 880, or Eiken 1.

Non-native speakers of Japanese are required to hold N1.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students should bring a recording device to class (smartphone or IC recorder).

Canvas LMS will be used to distribute some learning materials before/after class and for students to submit their reports and recordings.

その他/ Others

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

会議通訳 1（後期課程科目）

Conference Interpreting 1

Intermediate course of the Conference Interpreting Program

住本 時久 (SUMIMOTO TOKIHISA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV308

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）全授業のうち7回はオンラインで実施する（第2・4・6・8・10・12・14回）オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

The following seven classes will be conducted online: The 2nd, 4th, 6th, 8th, 10th, 12th and 14th. Details and any changes will be announced in class or posted on Canvas LMS

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：会議通訳入門

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

会議通訳者が日常的に扱うトピックについて、英語から日本語へ、または日本語から英語への逐次通訳や同時通訳ができるようになるための言語的・内容的知識を身につける。

Students will acquire the linguistic and professional skills to interpret from English into Japanese and vice versa, consecutively and simultaneously, in the fields regularly handled by conference interpreters.

授業の内容 / Course Contents

幅広い経験を積むために、幅広いトピックについて E to J と J to E の両方の通訳練習に触れる。その過程で、倫理規定など、より専門的な背景も学ぶ。スキル、知識、理解を組み合わせることで、メッセージを把握し、メモを取り、話し手の一貫した説得力のあるメッセージを伝えるための、確かな個人的戦略を徐々に身につけることができるはずです。

また、同時通訳にも触れる： また、同時通訳の基本的な概念とスキル、記憶のメカニズム、様々なテクニックについても学ぶ。

授業で使用するトピックについてリサーチを行い、授業中のパフォーマンスに反映することが求められる。Students are exposed to interpreting exercises of both E to J and J to E on a wide range of topics in order to gain broad experiences. In the process, they also learn finer context of the profession, such as code of ethics. By combining the skills, knowledge and understanding, they should be able to gradually develop a solid personal strategy, for grasping the message, for note taking, and for delivering a coherent and convincing message of the speaker.

They are also exposed to simultaneous interpreting: Fundamental concepts and skills, mechanism for retention, and various techniques for delivery.

Students are expected to do a research on the topics to be used in class, and to submit reports on their in-class performances.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction

Review of the basic skills

2回：Consecutive interpreting: Personal

3回：Consecutive interpreting: Business

4回：Consecutive interpreting: Technical, IT

5回：Consecutive interpreting: Political, ideological

6回：Consecutive interpreting: International

7回：Mid-term test (consecutive)

8回：Review of the mid-term test

General principles and strategies for simultaneous interpreting

9回：Split attention, double tracking

Exercises

10回：Simultaneous interpreting: Slow and personal

11回：Simultaneous interpreting: Moderately technical, IT

12回：Simultaneous interpreting: Political

13回：Simultaneous interpreting: International

14回：Final test

(Content and schedule subject to change depending on the class mix, students' aptitude and the progress of learning)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to do an extensive research on the theme prior to class, thereby building up bilingual glossary of various topics. They also need to be informed of current events. After class, they are to write and

submit a report on their in-class

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final test:20% Midterm test:20% In-class performance:50% Report submissions and class participation:10%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

ベルジュロ伊藤宏美・鶴田知桂子・内藤稔 『よくわかる逐次通訳』 東京外国語大学出版会 2009
9784904575055 ○

Reading materials will be distributed in class when necessary.

参考文献 / Readings

小松達也 『通訳の技術』 研究社 2005 4327451916

Jones, R. Conference Interpreting Explained St. Jerome 2002 1900650576

水野的 『同時通訳の理論』 朝日出版社 2015 425500871

その他 / Others

Prerequisite: Students must have successfully completed Introduction to Conference Interpreting with grade B or above.

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Students who wish to enroll in this course must obtain permission from their superviso

会議通訳 2（後期課程科目）

Conference Interpreting 2

Advanced course of the Conference Interpreting Program

住本 時久 (SUMIMOTO TOKIHISA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV309

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）全授業のうち7回はオンラインで実施する（第2・4・6・8・10・12・14回）オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

The following seven classes will be conducted online: The 2nd, 4th, 6th, 8th, 10th, 12th and 14th. Details and any changes will be announced in class or posted on Canvas LMS

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：会議通訳入門・会議通訳 1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

会議通訳者が日常的に扱うトピックについて、英語から日本語へ、または日本語から英語へのプロフェッショナルな逐次通訳や同時通訳ができるようになるための高度な言語的・内容的知識を身につける。

Students will acquire advanced linguistic and subject matter knowledge that will prepare them to provide professional consecutive and simultaneous interpretation from English into Japanese and vice versa in the subject areas regularly handled by conference interpreters.

授業の内容 / Course Contents

各授業では、国際ビジネスに関連するトピックを1つ取り上げる。受講生は1週間を通して、授業中に行う通訳の準備をします。授業の前半では英語から日本語へ、後半では日本語から英語への通訳ができるように準備します。受講生は、自分自身やお互いのパフォーマンスを確認し、フィードバックを受け、次回に向けた改善

策を学ぶ機会を持つ。

Each class will focus on one topic related to international business. Students will prepare for the in-class interpreting task throughout the week. When they come to class, they will be ready to interpret the topic from English to Japanese in the first half and from Japanese to English in the second half of the class. Students will have the opportunity to review their own and each other's performance, get feedback, and learn how to improve for next time.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation
- 2 回：Consecutive Interpreting J<>E
- 3 回：Consecutive Interpreting J<>E
- 4 回：Consecutive Interpreting J<>E
- 5 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 6 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 7 回：Midterm Test
- 8 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 9 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 10 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 11 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 12 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 13 回：Simultaneous Interpreting J<>E
- 14 回：Final Test

Details are subject to change depending on class mix and other factors.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be required to plan for in-class interpreting activities as if they were getting ready to interpret professionally. This means preparing a glossary, reading articles on the topic, practicing interpreting, and evaluating your performance in p

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Midterm Test:20% In-class Participation:50% Out-of-class Preparation:10%

最終レポート割合 :0%最終テスト割合 :20%

A greater expectation of task fulfillment beyond the Master's level across all assigned work is expected.

テキスト / Textbooks

ベルジュロ伊藤宏美・鶴田知桂子・内藤稔 『よくわかる逐次通訳』 東京外国語大学出版会 2009
9784904575055 ○

参考文献 / Readings

To be provided

その他/ Others

Prerequisite: Students must have successfully completed Introduction to Conference Interpreting and Conference Interpreting I with Grade B or above.

TI@Rikkyo <http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ti-rikkyo/>

Students who wish to enroll in this course must obtain p

翻訳の原理と方法（後期課程科目）

Principles and Methods in Translation

Introductory course of the Professional Translation Program

未定 (MITEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV311

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス（リアルタイム翻訳、文字起こし等）の実践と理論を学ぶために全授業回のうち2回はオンラインで実施する（7・8回目の授業）。

なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This is the introductory module for the Translation Professional Training Program. Students are expected to develop basic translation competence and techniques while attempting to translate many different text types, and thus considering why they translate in a certain way and what translation strategies are effective in different contexts. In addition, Ph.D. students are expected to acquire the skills and competencies necessary for managing translation projects and leading linguists.

授業の内容 / Course Contents

This course is aimed at novice learners of English to Japanese Translation. Through practical seminars students are expected to read and thoroughly understand the English source texts and carefully select appropriate Japanese expressions. Along with acquiring basic translation skills, they also learn more professional skills such as terminology management and background survey techniques.

The use of computer-assisted-translation (CAT) tools, glossary preparation, self and peer review will also be included in the course.

In addition to the aforementioned requirements, Ph.D. students are mandated to compose an additional report. This supplementary report will demand a deeper level of analysis and reflection, aligning with the advanced academic standards expected at the doctoral level.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Translation theory and practice: EMT
- 3 回：CAT tools and translation workbench
- 4 回：Translation practice 1: Selected topics
- 5 回：Translation practice 2: Selected topics
- 6 回：Translation practice 3: Selected topics
- 7 回：Localization 1
- 8 回：Localization 2
- 9 回：Subtitling 1
- 10 回：Subtitling 2
- 11 回：Technical documents 1
- 12 回：Technical documents 2
- 13 回：Review
- 14 回：Final report

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work on assignments every week and submit them before the next class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Assignemnts:40% Final report:30%

The scope and complexity of presentations and reports by Ph.D. students should be approximately double that of master's students, and evaluations will be conducted accordingly.

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

光藤 京子, 田辺 希久子 『英日日英 プロが教える基礎からの翻訳スキル』 三修社 2008 9784384055061

その他 / Others

英語の非母語話者は TOEFL iBT 100, TOEIC 880, IELTS 7.0, または英検 1 級を取得しておくこと。日本語の非母語話者は N1 を取得しておくこと。

初回の授業には必ず出席してください。授業内容は、クラスの構成等により変更する可能性があります。

全授業回のうち3回のみオンライン実施（実施回については「Canvas LMS」で指示する）。

翻訳演習 1（後期課程科目）

Translation Seminar 1

Intermediate course of the Professional Translation Program

香取 芳和 (KATORI YOSHIKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV312

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：翻訳の原理と方法

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

プロとして通用するレベルの翻訳スキルの習得を目指す。翻訳はどのくらい原文に近づけるか（翻訳の限界）を理解する。

This course is designed to help you acquire advanced-level translation skills. It also aims to bring you to a realization that there are limits to how closely a translated text can be made to resemble the original.

授業の内容 / Course Contents

上記目標を達成するため、

- 英語文と日本語文で結束性（テキストのまとまり感）の具現方法がどのように違うかを理解する。
- 等価を実現するためのさまざまな手法を検討する。
- モノ言語からコト言語へ変換テクニックを学ぶ。
- 英語から日本語、日本語から英語に訳された文章と、もともとそれぞれの言語で書かれた文章を分析し、翻訳で補足または省略されやすい情報のタイプを知る。
- いわゆる「翻訳調」に気づく。

6. 翻訳にできる介入の限界を考える。
7. 受講生によるプレゼンテーションを課す。

In order to achieve the goals above, the course covers the following contents.

1. Understanding the difference in the way cohesion is achieved between English texts and Japanese texts.
2. Discussing various strategies to achieve equivalence.
3. Learning translation techniques in converting "mono (things)" language into "koto (event)" language.
4. Analysis of Japanese texts translated from English, English texts translated from Japanese and comparable texts originally written in each language, for types of information that tend to be added or omitted through translation.
5. Gaining awareness for what's called "translatese" or "translationese."
6. Realizing limits to what translators can do to produce "natural" texts.
7. Presentations by students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：「翻訳であることがわからない翻訳」はどこまで可能か（1）
- 3 回：「翻訳であることがわからない翻訳」はどこまで可能か（2）
- 4 回：翻訳課題 1 前半
原文の解説と訳文の講評
- 5 回：翻訳課題 1 後半
原文の解説と訳文の講評
- 6 回：モノ言語からコト言語への変換
- 7 回：英語テキストと日本語テキストの結束性の具現方法の違いについての考察（1）
- 8 回：翻訳課題 2 前半
原文の解説と訳文の講評
- 9 回：翻訳課題 2 後半
原文の解説と訳文の講評
- 10 回：英語テキストと日本語テキストの結束性の具現方法の違いについての考察（2）
- 11 回：「翻訳癖（翻訳調）」についての解説
プレゼンテーションの準備
- 12 回：翻訳課題 3
- 13 回：受講生によるプレゼンテーション
- 14 回：今期の総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 翻訳課題:40% 翻訳練習問題:15% プレゼンテーション:15% プレゼンテーションの
リアクションペーパー:10% 最終レポート割合 :20%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

平子義雄 『翻訳の原理 異文化をどう訳すか』 大修館書店 1999 9784469212358

伊原紀子 『翻訳と話法 語りの声を聞く』 松籟社 2011 9784879842947

共同通信社 『記者ハンドブック第13版 新聞用字用語集』 共同通信社 2016 9784764106871

その他/ Others

司会者を決めて訳文講評を行う。

個人またはグループによるプレゼンテーションを予定している。

翻訳演習 2（後期課程科目）

Translation Seminar 2

字幕翻訳の理論と実践（Advanced translation course of the Professional Translation Program）

篠原 有子（SHINOHARA YUKO）

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV313

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：翻訳の原理と方法・翻訳演習 1

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

視聴覚翻訳の中心領域である字幕翻訳の特徴と制約を理解し、翻訳実践を通して様々な状況に対応した字幕を作成するための技能を養う。また、翻訳方略や字幕研究の流れなど理論的な知識を習得すると同時に、技術の進展とともに起きている字幕の新たな動きについて理解する。これらを通して、字幕翻訳の理論と実践のつながりについて考察できる。さらに、研究テーマに沿ってデータ収集を行い、その分析や考察を学会発表や論文執筆に結びつけることができる。

授業の内容 / Course Contents

本授業では、字幕翻訳理論の概説と、英語映画のための日本語字幕の作成を行う。はじめに、視聴覚翻訳と字幕翻訳について概観したうえで、訳出のための準備として字幕翻訳のルールや制作プロセスを明らかにする。次に、字幕翻訳の特性について示してから、翻訳課題である映画の一部を素訳から字幕訳へと段階的に訳出する。また、翻訳方略の分類やその活用法などについて述べ、自らの訳出を理論的に説明する方法について解説する。さらに、映画字幕とは内容や形態が異なる字幕を取り上げ、テクノロジーやアクセシビリティなどの観点から、新形態の字幕について議論する。併せて、日本映画に付けられる英語字幕を取り上げ、その特性につ

いて検討する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに：翻訳課題および翻訳ソフトの説明
 - 2回：視聴覚翻訳の理論、研究、実践
 - 3回：字幕翻訳のルールと技法
 - 4回：字幕翻訳の特性：時間と空間の制約
 - 5回：字幕翻訳の特性：批判されやすい翻訳
 - 6回：字幕翻訳の特性：マルチモード性
 - 7回：翻訳方略
 - 8回：ユーモアと異文化の訳出
 - 9回：協働作業としての字幕翻訳
 - 10回：字幕と吹き替え
 - 11回：新形態の字幕翻訳（1）
 - 12回：新形態の字幕翻訳（2）
 - 13回：字幕翻訳とアクセシビリティ
 - 14回：プレゼンテーション
- （授業の進捗状況により、内容と順番が変更される場合がある）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

翻訳、論文講読などの指示された課題に取り組み、授業の前々日までに課題を提出すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題:40% 授業への主体的取り組みと議論への貢献:20% 最終レポート割合：40%

全ての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- Díaz-Cintas, J. & Remael, A. Subtitling: concepts and practices Routledge 2021 9781138940543
 マンディ, J. 『翻訳学入門』 みすず書房 2009 9784622074557
 Pérez-González, L. The Routledge handbook of audiovisual translation Routledge 2019 9781138859524
 篠原有子 『映画字幕の翻訳学』 晃洋書房 2018 9784771031029

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

第1回の授業時に、翻訳素材の配付と翻訳ソフトの使用について説明するので、各自 PC と USB を持参すること。

その他 / Others

適宜、授業時に資料を配付する。

課題については次回授業開始時にフィードバックを行う。

先修規定：「翻訳演習 1」

通訳翻訳研究特殊講義（後期課程科目）

Seminar in Translation and Interpreting Studies

翻訳通訳研究の新しい潮流/New Trends in Translation and Interpreting Studies

坪井 睦子 (TSUBOI MUTSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV315

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7243

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、近年における翻訳通訳研究の新たな潮流について考察し、研究領域の現在の地平を明らかにするとともに、今後の課題とニーズの変化を探求することを目的とする。さらに、本講義を通して身に付けた知見と新たな視座を研究テーマの分析・考察に応用することを目指す。

This course aims to address new trends in translation and interpreting studies in recent years, to identify the current state of the research field, and to explore its future challenges and changing needs. In addition, the course will enable students to apply the acquired knowledge and new perspectives in analyzing and discussing research issues.

授業の内容 / Course Contents

このコースでは、翻訳通訳研究の歴史を概観したうえで、メディア、テクノロジー、教育、紛争・戦争、多文化主義など、さまざまな切り口から翻訳通訳研究の新たな潮流について考察する。授業活動を通し、翻訳通訳研究の現状に対する理解を深めるとともに、将来の課題やニーズの変化について議論し、その知見を受講生自らの研究に反映させることを目指す。クラスの活動では、学生主導による発表と討論が行われる。受講生には

指示された文献を熟読して授業にのぞむことが求められる。また、発表担当者は発表の準備を十全に行うとともに、クラスでの討論を活性化させる役割を担う。

Beginning with an overview of the history of Translation and Interpreting Studies (TIS), this course examines emerging trends in TIS through various thematic lenses: media, technology, education, conflict and war, and multiculturalism. The course will allow students to develop their understanding of the current state of TIS, discuss its future challenges and changing needs, and finally apply the knowledge gained to their research. Class activities will include student-led presentations and discussions. Students are expected to read all assigned materials thoroughly before coming to class and to prepare well for presentations so that they can play a role in facilitating class discussion.

*The above schedule and topics are subject to change based on class conditions and progress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：初回ガイダンス
 - 2 回：翻訳通訳研究の歴史と近年の動向
 - 3 回：メディアと翻訳通訳 (1)
 - 4 回：メディアと翻訳通訳 (2)
 - 5 回：テクノロジーと翻訳通訳 (1)
 - 6 回：テクノロジーと翻訳通訳 (2)
 - 7 回：翻訳通訳と教育 (1)
 - 8 回：翻訳通訳と教育 (2)
 - 9 回：紛争／戦争と翻訳通訳 (1)
 - 10 回：紛争／戦争と翻訳通訳 (2)
 - 11 回：多文化共生と翻訳通訳 (1)
 - 12 回：多文化共生と翻訳通訳 (2)
 - 13 回：最終プレゼンテーション
 - 14 回：最終プレゼンテーション
- まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習・復習の具体的内容については、授業時に指示する。

基本的に、授業前には指定された文献を熟読することと必要に応じて調査を行うこと、授業後は復習を兼ねりアクションペーパーを提出することが求められる。発表担当者は発表の準備を十全に行うこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業活動への積極的参加と貢献:20% リアクションペーパー:20% 発表:20%

最終レポート割合 :40%

全ての評価方法において前期課程よりも高度な達成水準が求められる。

テキスト / Textbooks

随時、資料を配布、または提示する。

参考文献 / Readings

武田珂代子（編著） 『翻訳通訳研究の新地平』 晃洋書房 2017 9784771028135

New Trends in Translation Studies シリーズ(Peter Lang)、New Perspectives in Translation and Interpreting Studies シリーズ (Routledge) 等、授業時に適宜紹介する。

通訳翻訳専門実習 A（後期課程科目）

Advanced Practicum in Translation and Interpreting A

Advanced course of the Professional Interpreting/Translation Program

武田 珂代子／未定（TAKEDA KAYOKO）

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV316

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス（リアルタイム翻訳、文字起こし等）の実践と理論を学ぶために全授業回のうち2回はオンラインで実施する（7・8回目の授業）。

なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目：会議通訳入門・会議通訳1・会議通訳2または翻訳の原理と方法・翻訳演習1・翻訳演習2（会議通訳2・翻訳演習2については、通訳翻訳専門実習Aと同学期の履修を可とする。）

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course represents an advanced component of the Interpreting/Translation Professional Training Program, integrating key concepts from Interpreting/Translation Studies Theories. It is designed to enhance students' translation skills and methodologies as they work on various types of texts and settings. This process will encourage students to critically analyze their translation choices and the effectiveness of different strategies in diverse contexts. Students will become familiar with practical work, understand professional ethics, and acquire an awareness of being a professional interpreter/translator. They will also reflect the understanding gained through practice in their research. The ultimate aim of the course is to thoroughly prepare students for real-world interpreting and translation practice. In addition, Ph.D. students are expected to acquire the skills and competencies necessary for managing translation projects and leading linguists.

授業の内容 / Course Contents

Students will gain insight into the objectives of the practical training, acquiring both the skills and the professional mindset necessary for their development. They will also learn about the service learning project "RiCoLaS" at Rikkyo University, along with various internships and other practical training opportunities. With this knowledge, students will engage in discussions to set their own training goals.

Throughout the practical training period, students are required to document their (1) objectives, (2) tasks undertaken to achieve these goals, and (3) the actual outcomes of their training. In the concluding session, each student will present an oral summary of their entire training experience and submit a comprehensive report detailing their training experience. In addition to the aforementioned requirements, Ph.D. students are mandated to compose an additional report. This supplementary report will demand a deeper level of analysis and reflection, aligning with the advanced academic standards expected at the doctoral level.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction
- 2 回： Interpreting/Translation theory and practice revisited
- 3 回： Practicum 1
- 4 回： Practicum 1 cont'
- 5 回： Practicum 1 cont'
- 6 回： Practicum 1 cont'
- 7 回： Mid-Term Review
- 8 回： Project 2
- 9 回： Project 2 cont'
- 10 回： Project 2 cont'
- 11 回： Project 2 cont'
- 12 回： Project 2 cont'
- 13 回： Review
- 14 回： Final report and presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work on assignments every week and submit them before the next class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Assignemnts:40% Final report:30%

The scope and complexity of presentations and reports by Ph.D. students should be approximately double that of master's students, and evaluations will be conducted accordingly.

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

光藤 京子, 田辺 希久子 『英日日英 プロが教える基礎からの翻訳スキル』 三修社 2008 9784384055061

その他/ Others

履修条件

「会議通訳2」または「翻訳演習2」を履修中または修得済みであること

通訳翻訳専門実習 B（後期課程科目）

Advanced Practicum in Translation and Interpreting B

Advanced course of the Professional Interpreting/Translation Program

松下 佳世／未定（MATSUSHITA KAYO）

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV317

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン会議の機能を通してしか得られないサービス（リアルタイム翻訳、文字起こし等）の実践と理論を学ぶために全授業回のうち2回はオンラインで実施する（7・8回目の授業）。

なお、オンライン実施回に変更が生じる場合は、授業内または Canvas LMS 等で周知する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7243

使用言語： その他

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： 先修科目： 会議通訳入門・会議通訳・会議通訳2 または翻訳の原理と方法・翻訳演習1・翻訳演習2

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course represents an advanced component of the Interpreting/Translation Professional Training Program, integrating key concepts from Interpreting/Translation Studies Theories. It is designed to enhance students' translation skills and methodologies as they work on various types of texts and settings. This process will encourage students to critically analyze their translation choices and the effectiveness of different strategies in diverse contexts. Students will become familiar with practical work, understand professional ethics, and acquire an awareness of being a professional interpreter/translator. They will also reflect the understanding gained through practice in their research. The ultimate aim of the course is to thoroughly prepare students for real-world interpreting and translation practice. In addition, Ph.D. students are expected to acquire the skills and competencies necessary for managing translation projects and leading linguists.

授業の内容 / Course Contents

Students will gain insight into the objectives of the practical training, acquiring both the skills and the professional mindset necessary for their development. They will also learn about the service learning project "RiCoLaS" at Rikkyo University, along with various internships and other practical training opportunities. With this knowledge, students will engage in discussions to set their own training goals.

Throughout the practical training period, students are required to document their (1) objectives, (2) tasks undertaken to achieve these goals, and (3) the actual outcomes of their training. In the concluding session, each student will present an oral summary of their entire training experience and submit a comprehensive report detailing their training experience. In addition to the aforementioned requirements, Ph.D. students are mandated to compose an additional report. This supplementary report will demand a deeper level of analysis and reflection, aligning with the advanced academic standards expected at the doctoral level.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction
- 2 回： Interpreting/Translation theory and practice revisited
- 3 回： Practicum 1
- 4 回： Practicum 1 cont'
- 5 回： Practicum 1 cont'
- 6 回： Practicum 1 cont'
- 7 回： Mid-Term Review
- 8 回： Project 2
- 9 回： Project 2 cont'
- 10 回： Project 2 cont'
- 11 回： Project 2 cont'
- 12 回： Project 2 cont'
- 13 回： Review
- 14 回： Final report and presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to work on assignments every week and submit them before the next class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Assignemnts:40% Final report:30%

The scope and complexity of presentations and reports by Ph.D. students should be approximately double that of master's students, and evaluations will be conducted accordingly.

テキスト / Textbooks

Handouts will be provided in class.

参考文献 / Readings

光藤 京子, 田辺 希久子 『英日日英 プロが教える基礎からの翻訳スキル』 三修社 2008 9784384055061

その他/ Others

履修条件

「会議通訳2」または「翻訳演習2」を修得済みであること

異文化コミュニケーション理論（後期課程科目）

Intercultural Communication Theory

異文化コミュニケーション研究への質的アプローチ

灘光 洋子 (NADAMITSU YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV404

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

質的アプローチによる異文化コミュニケーション研究の理論的枠組みを体系的に理解することで、研究テーマに取り組むにあたり、分析や考察において自分の視座・立ち位置により自覚的になる。

To develop better understanding of qualitative research conventions in the field of Intercultural Communication through learning about different schools of thoughts.

授業の内容 / Course Contents

コミュニケーション研究に深く関連する理論の系譜をたどることで、概念や理論的枠組み、視点の関連性に目を向けると同時に、それらに則った様々な実践を概観する。具体的には、様々な知の潮流（解釈的系譜、批判的系譜など）についての論考を読み、討議することで理解を深めたい。

Through a detailed overview of the major post-positivist traditions, we will deepen our understanding of qualitative orientations found in Intercultural Communication research and become familiar with working in them. Our reading will cover the interpretive, structuralist, critical, and "post" traditions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：ポスト実証主義の系譜と研究スタイル
- 2回：批判理論と研究例の紹介
- 3回：シンボリック相互作用論
- 4回：シンボリック相互作用論の研究例/関連文献
- 5回：ドラマツルギーとドラマティズム
- 6回：ドラマツルギーとドラマティズムの研究例/関連文献
- 7回：エスノメソドロジー
- 8回：エスノメソドロジーの研究例/関連文献
- 9回：エスノグラフィー
- 10回：エスノグラフィーの研究例/関連文献
- 11回：記号論と構造主義
- 12回：記号論と構造主義の研究例/関連文献
- 13回：ポスト構造主義 あるいは フェミニズム
- 14回：ポスト構造主義 あるいは フェミニズムの研究例/関連文献

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の予習範囲や課題は、授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表および討議への貢献度：60% 最終レポート割合：40%

後期課程においては、全ての評価方法において高度な達成基準を要求する。

テキスト / Textbooks

Prasad, P. 著（箕浦康子 監訳） 『質的研究のための理論入門：ポスト実証主義の諸系譜』 ナカニシヤ出版 ○

原則、履修者の関心のある章を優先的に選び考察を深めることとする。また、関連する論考・研究論文（英語論文を含む）については適宜指示する。

参考文献 / Readings

Prasad, P. Crafting qualitative research: beyond positivist traditions Routledge 2018 24408877

指導の中で適宜指示する。

その他 / Others

「異文化コミュニケーション研究基礎論」を既に履修していることが望ましい。

履修者の積極的な討議参加を求める。各自、十分に文献を読み込んでくることを前提に授業を進める。

授業内容のテーマや順番は進捗状況に応じて変更する可能性がある。

コミュニケーション研究特殊講義A（後期課程科目）

Seminar in Communication Studies A

組織コミュニケーション / ディスコース研究の視点から

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV405

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が組織における異文化コミュニケーション（ディスコース）について多面的に分析・考察し、理解を深めることである。受講生は、組織で生起する異文化コミュニケーションを分析するための概念を学び、それらの概念を適切に用い、具体的コミュニケーション場面を分析、考察できるようになることを目指す。博士後期課程の履修生は、自身の研究に関わるデータを分析するなどして、研究発表や論文執筆に結びつけ、データ分析を前期課程の履修生より高度な水準で実践できることを目指す。

This course is designed for graduate students to understand ways in which they can analyze and critically examine intercultural discourses in organizations from multiple perspectives. The students will be able to learn how to use analytic concepts to look into concrete intercultural discourses in organizations.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、グローバル化を背景とし多様な文化が交錯する組織のコミュニケーションについて分析・考察するため、関連する諸研究を扱う。具体的には、組織ディスコース研究で扱われる諸知見（組織研究、コミュニケーション研究、記号論、談話分析、レトリック研究、語用論、ジェンダー研究、物語論等の概念）を学び、そ

これらの知見を用いて組織コミュニケーション（ディスコース）を分析、考察する。本講義で扱う組織は企業が中心となるが、学校、病院、介護施設、非営利団体、自治会などの様々な組織もその範疇に入り、そうした組織で生起する異文化コミュニケーションの分析も射程とする。

This course introduces to graduate students a wide range of related research projects on organizational communication (discourse) in which multiple cultures interact with one another due to globalization. The students will learn how to analyze and consider organizational communication (discourse) in light of organizational discourse research that is based on a variety of fields such as organizational studies, communication studies, semiotics, discourse analysis, rhetorical analysis, pragmatics, gender studies, and narrative studies. This course mainly deals with business organizations, but it also includes other organizations such as schools, hospitals, nursing homes, non-profit organizations, and residents' organizations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：本講義の哲学的前提と焦点（組織ディスコース研究）
- 2 回：組織と語り：ディスコースとは何か
- 3 回：組織ディスコースの基本的考え方
- 4 回：組織ディスコース研究の源流
- 5 回：組織ディスコースの研究方法
- 6 回：ナラティブとストーリーテリング：組織の語りと対話 ☆リサーチノート 1 の提出日
- 7 回：組織レトリック
- 8 回：批判的ディスコース研究
- 9 回：ポスト構造主義アプローチ（1）：フーコー派
- 10 回：ポスト構造主義アプローチ（2）：ラクラウ派とラカン派 ☆リサーチノート 2 の提出日
- 11 回：組織のアイデンティティ（教科書第 10 章）
- 12 回：組織とジェンダー（教科書第 11 章）
- 13 回：組織とパワー（教科書第 12 章） 事例研究発表（1）
- 14 回：事例研究発表（2）と総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前は、該当する教科書の章とあらかじめ配布される論文等の資料を読んでおくこと。教科書は各章を担当する受講生がそのポイントをまとめて発表する形式をとるため、発表者は、パワーポイントもしくはワードの発表レジュメを作成する。授業後は、組織コミュニケーションの理解を助けるキーワード、分析概念、理論を復習し、それらが当てはまる実際の事例を自分なりに探し、リサーチ・ノートにまとめておくこと。リサーチノートの提出は、☆のマークがついた回にそれ以前の授業で学んだ内容（キーワードなど）を使って事例を分析したものを A4 一枚

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表（事例分析）:30% リサーチノート:30%

最終レポート割合 :40%

リサーチノートは1回の提出が15ポイントで、2回の提出で30ポイント、つまり、成績の30%となる。なお、すべての評価方法において前期課程より高度な達成水準を要求する。

テキスト/ Textbooks

清宮徹 『組織のディスコースとコミュニケーション』 同文館出版 2019 9784495390242 -
教科書の購入は任意：パワーポイントで要点を示すが、購読を推奨します。

参考文献 / Readings

グラント, D.・ハーディー, C.・オズウィック, C.・パットナム, L. (編) 『組織ディスコース研究』 同文館出版 2012 9784495381011

Putnam, L., & Mumby, D. (Eds.) The SAGE handbook of organizational communication: Advances in theory, research, and methods (3rd. ed.) SAGE 2014 9781412987721

Jablin, F., & Putnam, L. (Eds.) The new handbook of organizational communication SAGE 2001 9781412915252

Aritz, J., & Walker, R. (Eds.) Discourse perspectives on organizational communication Fairleigh Dickinson University Press 2012 9781611474374

Adler, N. International dimensions of organizational behavior (4th ed.) South-Western 2002 9780324057865

石黒武人 『多文化組織の日本人リーダー像：ライフストーリー・インタビューからのアプローチ』 春風社 2012 9784861103223

プラサド, P. 『質的研究のための理論入門：ポスト実証主義の諸系譜』 ナカニシヤ出版 2018 9784779512230

その他授業にて関連文献を適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

さまざまな領域で行われている組織ディスコースのアプローチを扱うため、新しい知見にオープンな姿勢が求められます。また、自身の個人研究と関連づけて、授業で扱う内容を理解し、個人の研究を発展させることが期待されています。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

とくにありません。

コミュニケーション研究特殊講義B（後期課程科目）

Seminar in Communication Studies B

レトリカル批評/Rhetorical Criticism

奥田 博子 (OKUDA HIROKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV406

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この科目では、レトリカル批評（Rhetorical Criticism）の方法論を用いた事例研究を通して、クリティカルな「言語力」の向上を図る。

This course aims to promote the theoretical understanding about rhetorical criticism in practice.

授業の内容 / Course Contents

実証的な事例研究を行うことを通して、言語テキスト及び映像テキストを読み解くためのファンタジーテーマ分析、物語分析、イデオロギー分析、ポストモダン批評、社会運動分析といった方法論を身につける。また、イデオロギー等に関する問題を批判的に検証する。

This course will explore a critical approach to rhetorical perspectives, rhetorical acts, and visual rhetoric. While learning the methodology of fantasy theme analysis, narrative analysis, ideological analysis, postmodern criticism and social movement analysis, the course will examine the ideological issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業紹介、コミュニケーションとは？コミュニケーション研究とは？レトリック研究とは？

- 2回：クリティカル・アナリシスとは何か？
 3回：テーマ設定とクリティカル・メソッド1
 4回：クリティカル・メソッド2
 5回：中間レポートのテーマ報告
 6回：分析の方法
 7回：中間レポート提出と討論
 8回：メディアとカルチュラル・スタディーズ1
 9回：メディアとカルチュラル・スタディーズ2
 10回：批判的カルチュラル・スタディーズ
 11回：批判的カルチュラル・スタディーズ
 12回：最終レポートのテーマ報告
 13回：レトリックへのコミュニケーション論的アプローチ
 14回：最終レポート提出と討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関して必要に応じて別途指示するが、毎回の予習と積極的な参加が要求される。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業への参加度：40% 中間レポート：30% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 鈴木健・岡部朗一（編） 『説得コミュニケーション論を学ぶ人のために』 世界思想社 2008
 9784790714064
 チャンギージー、マーク 『ヒトの目、驚異の進化——視覚革命が文明を生んだ』 早川書房 2020
 9784150505554
 ウルフ、メアリアン 『プルーストとイカ：読書は脳をどのように変えるのか？』 インターシフト 2008
 9784772695138
 サンデル、マイケル 『実力も運のうち——能力主義は正義か？』 早川書房 2021 9784152100160
 Dehaene, S. Reading in the brain: The new science of how we read Penguin Books 2009
 Han, Byung-Chul The burnout society Stanford University Press 2015
 Sillars, M. O. & Gronbeck, B. E. Communication criticism: Rhetoric, social codes, cultural studies Waveland
 2001 9781577661719

コミュニケーション研究特殊講義C（後期課程科目）

Seminar in Communication Studies C

文化的記憶と異文化コミュニケーション

河合 優子 (KAWAI YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV407

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7340

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーション研究と記憶研究の関連性を理解し、人種主義とナショナリズムの密接に関わる歴史修正（否定）主義を文化的記憶という概念を使って考察し、各自の博士論文テーマに結びつけていく。

Students will (1) understand the connection between intercultural communication studies and memory studies, and (2) examine the relationship between historical revisionism (or denial) and racism and nationalism by referring to the concept of cultural memory, and (3) relate these issues to their dissertation topic.

授業の内容 / Course Contents

文化、歴史、アイデンティティ、メディアなどが関わる社会的行為としての記憶は、異文化コミュニケーション研究にとっても非常に関連性の高い概念である。この授業ではまず異文化コミュニケーション研究と記憶研究の関連性を考えた後、記憶研究についての入門書を読み進めて記憶研究の全体像を把握する。そして、異文化コミュニケーションの重要な課題であるナショナリズムと人種主義と密接に関わる歴史修正（否定）主義を文化的記憶という概念を使って考察していく。

Memory as a social act, intertwined with culture, history, identity, and media, is a significantly relevant concept

to intercultural communication studies. This course will first examine the connection between intercultural communication studies and memory studies. Then we will gain an overview of memory studies by reading an introductory textbook of memory studies. Lastly, we will explore the relationship between historical revisionism (or denial) and racism and nationalism—critical issues of intercultural communication—by referring to the concept of cultural memory.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：異文化コミュニケーションと集合的記憶（1）
- 3 回：異文化コミュニケーションと集合的記憶（2）
- 4 回：集合的記憶
- 5 回：多様な学問分野における記憶
- 6 回：文化と記憶
- 7 回：メディアと記憶
- 8 回：想起と忘却
- 9 回：歴史修正主義とは（1）
- 10 回：歴史修正主義とは（2）
- 11 回：歴史修正主義とは（3）
- 12 回：日本の歴史修正主義（1）
- 13 回：日本の歴史修正主義（2）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必ず課題文献を読んだ上で授業に参加すること。毎週、課題文献についての小レポートを提出してもらう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加・貢献度:20% 文献発表:20% 小レポート:20% 最終レポート割合:40%

毎回小レポートの提出があります。すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められます。

テキスト / Textbooks

エアル、アストリッド 『集合的記憶と想起文化』 水声社 2022 4801006620 -

武井彩佳 『歴史修正主義』 中公新書 2021 4121026640 -

教科書に加えて、英語文献を使用する

参考文献 / Readings

授業内で紹介する

その他 / Others

毎週の小レポートにはフィードバックを行う。

コミュニケーション理論（後期課程科目）

Communication Theory

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： WV408
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC7340
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、言語研究と文化人類学の間位置し、人間の文化・社会やその環境という広範な問題に言語とコミュニケーションの視点から接近する分野である言語人類学について、その全体像を深く学ぶことを通して、コミュニケーション理論について十全たる理解に達することを目的とする。

The purpose of this course is to master the general framework of linguistic anthropology, a discipline located between language studies and cultural anthropology that approaches the broad question of socioculture and its environment from the perspective of language and communication, and to further strengthen the students' understandings of the theoretical aspects of communication through the comprehension of the linguistic-anthropological view of language and communication.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、まず、人類学全体の中で言語人類学が占める位置を確認したうえで、過去 200 年間の言語研究と人間学の歴史を俯瞰し、言語人類学とその隣接分野（言語学、言語教育、認知科学、語用論、会話分析、談話分析、社会学、文化人類学、カルチュラル・スタディーズなど）との関係の全体像を把握する。つぎに、20 世紀言語人類学の変遷を概観したのち、ヤコブソン、ハイムズ、ガンパーズ、そしてシルヴァスティンへと続く

現代言語人類学のコミュニケーション・モデルの概要を説明する。こうして現代言語人類学の基本的な位置づけ、歴史、理論的基礎を学んだうえで、つぎに具体的な事例へと移り、アメリカ中流社会の成員たちのインタラクションに見られる、文化的知識とコミュニケーションの相互作用、社会文化的アイデンティティの構築を扱ったシルヴァスティン論文（「知とコミュニケーション」）、および、日本のマス・メディアを通じたインタラクションに見られる、地理的アイデンティティ、ジェンダー、（近現代・伝統）文化表象を扱った小山論文を精読し、現代言語人類学の記号論的「言説分析」の理論と手法を深く学ぶ。

In this course, we begin with observing the status of linguistic anthropology in relation to anthropology as a whole as well as the neighboring disciplines such as linguistics, linguistic pedagogy, cognitive science, pragmatics, and so on. Then, we move to the history of linguistic anthropology in the 20th and 21st centuries, explicating, in detail, the linguistic-anthropological theories of communication advanced by Jakobson, Hymes, Gumperz, and Silverstein. Afterwards, we proceed to have detailed discussion on two linguistic-anthropological case studies, one dealing with face-to-face interactions among young members of the American middle class, involving the construction of sociocultural identities and the interactions between cultural knowledge and communication, and the other dealing with communicative practices mediated by print mass media in modern Japan, involving geographical identity, gender, and cultural representations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：言語と文化：言語人類学とは何か
- 2 回：人類学の構成と言語人類学の布置（一）
- 3 回：人類学の構成と言語人類学の布置（二）
- 4 回：言語人類学と隣接分野（一）：ドイツ・ロマン派以降の言語研究の系譜
- 5 回：言語人類学と隣接分野（二）：カント以降の人間学の系譜
- 6 回：20 世紀言語人類学の変遷：ボアスからシルヴァスティンまで
- 7 回：20 世紀文化人類学の変遷：解釈、構造、象徴、儀礼、日常行為
- 8 回：言語人類学のコミュニケーション・モデル（一）：ヤコブソンの記号論（六機能モデル、詩的機能とテキスト生成、スピーチ・イベントと転換子）
- 9 回：言語人類学のコミュニケーション・モデル（二）：ハイムズのコミュニケーションの民族誌（スピーチ・イベント、SPEAKING モデル、コミュニケーションの適切さと効果）
- 10 回：言語人類学のコミュニケーション・モデル（三）：ガンパーズの談話分析（状況的・隠喩的コード・スイッチング、コンテクスト化の合図）
- 11 回：言語人類学のコミュニケーション・モデル（四）：シルヴァスティン（現代の社会文化記号論）
- 12 回：事例研究（一）：アメリカ中流社会の成員たちのインタラクションに見られる、知とコミュニケーションの相互作用、および社会文化的アイデンティティの構築
- 13 回：現代言語人類学の記号論的「言説分析」：理論的枠組み
- 14 回：事例研究（二）：日本のマス・メディアを通じたインタラクションに見られる、地理的アイデンティティ、ジェンダー、（近現代・伝統）文化表象

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加:10% 発表など:50% 最終レポート割合 :40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

小山亘 『コミュニケーション論のまなざし』 三元社 2012 9784883033133 ○

Canvas LMS などでレジュメを配布し、それに沿って授業は進行する。

参考文献 / Readings

小山亘 『近代言語イデオロギー論』 三元社 2011 9784883032808

小山亘 『記号の思想』 三元社 2009 9784883032464

小山亘 『記号の系譜』 三元社 2008 9784883032198

小山亘 『翻訳とはなにか』 三元社 2022 9784883035533

コミュニケーション研究特殊講義D（後期課程科目）

Seminar in Communication Studies D

小山 亘 (KOYAMA WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： WV409
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC7340
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、コミュニケーション研究の中心の一角を占める談話分析、特に言語人類学・記号論系の談話分析について、事例研究に基づいて十全たる理解に達することを目的とする。

The purpose of this course is to master one of the central areas of communication studies, namely, discourse analysis, as theorized and practiced in linguistic anthropology and sociocultural semiotics. The course focuses on several case studies of discourse analysis, so as to explore theoretical foundations and empirical details of the method.

授業の内容 / Course Contents

授業では主に以下のテーマを扱う：

- (1) コミュニケーションの二次元：言及指示機能と社会指標（相互行為）機能、(2) 呼称、人名、親族関係、(3) 方言と標準語、都市化、近代化、(4) 社会階層と言語、(5) コミュニケーション過程：コンテキスト化とテキスト生成、(6) 前提的指標と創出的指標、(7) 対照ペアと詩的機能、(8) コミュニケーション出来事とマクロ／メゾ／ミクロ・コンテキスト、(9) 近代人文主義・人文学のコスモロジー、(10) ローマン主義と方言学、オリエンタリズム、(11) 近代国民国家と言語、(12) 言語変化と文化変容、(13) 地名：場所と言語、

(14) 相互行為に現れる文化的概念と文化的価値づけ、(15) 社会集団／組織への帰属とレジスター、(16) 相互行為の儀礼と詩的機能、(17) 知識の構造とコミュニケーション行為、および社会文化的アイデンティティの相関、(18) 地理とアイデンティティ：アメリカ中西部と東海岸、(19) アコモデーション行為とオリゴの転移、(20) コミュニケーション行為と学習、など。

This course mainly deals with the following themes: (1) two dimensions of communication: referential and social-indexical (interactional) functions, (2) terms of address, proper names, kin terms, (3) dialectal and standard varieties, urbanization, modernization, (4) social stratification and language, (5) communicative process: contextualization and textualization, (6) presupposing vs. entailing indexicality, (7) contrastive pairs and poetic function, (8) communicative event and micro-to-macro-levels of context, (9) cosmology of modern humanism and human sciences, (10) Romanticism, dialectology, and Orientalism, (11) modern nation-state and language, (12) language change and cultural transformation, (13) toponym: place and language, (14) cultural concepts and valuation as manifested in sociocultural interaction, (15) social membership and register, (16) interaction ritual and poetic function, (17) correlations among the structure of knowledge, communicative act, and sociocultural identity, (18) geography and identity: the Midwest and the East Coast in the US, (19) accommodation and the deictic center, (20) communicative act and learning, and so on.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：近代文学（日本語）の談話分析：近代日本・備後の言語接触と文化変容についての社会言語学的考察 (1)
- 2 回：近代文学（日本語）の談話分析：近代日本・備後の言語接触と文化変容についての社会言語学的考察 (2)
- 3 回：近代文学（日本語）の談話分析：近代日本・備後の言語接触と文化変容についての社会言語学的考察 (3)
- 4 回：雑誌記事（日本語）の談話分析：近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察 (1)
- 5 回：雑誌記事（日本語）の談話分析：近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察 (2)
- 6 回：雑誌記事（日本語）の談話分析：近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察 (3)
- 7 回：雑誌記事（日本語）の談話分析：近現代日本・京都の言語変化と文化イデオロギーについての社会言語学的考察 (4)
- 8 回：アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話（英語）の談話分析 I：男性／男性、中西部／東部、社会福祉研究科／ロー・スクール、ロヨラ大学／ジョージタウン大学、などといった対照ペアが喚起される相互行為におけるアイデンティティと権力関係の指標についての社会言語学的考察 (1)
- 9 回：アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話（英語）の談話分析 I：(2)
- 10 回：アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話（英語）の談話分析 I：(3)
- 11 回：アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話（英語）の談話分析 II：女性／男性、中西部（および東部）／東部、社会福祉研究科／ロー・スクール、ヴァルパライソ大学（およびコーネル大学）／ジョージタウン大学、などといった対照ペアが喚起される相互行為におけるアイデンティティと権力関係の指標についての社会言語学的考察 (1)
- 12 回：アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話（英語）の談話分析 II：(2)
- 13 回：アメリカ・シカゴ大学大学院生の日常会話（英語）の談話分析 II：(3)

14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表など:50% 授業参加度:10% 最終レポート割合 :40%

後期課程においては、全ての評価方法において高度な達成基準を要求する。

テキスト / Textbooks

Canvas LMSなどでレジュメを配布し、それに沿って授業は進行する。

参考文献 / Readings

- 小山亘 『コミュニケーション論のまなざし』 三元社 2012 9784883033133
 小山亘 『近代言語イデオロギー論』 三元社 2011 9784883032808
 小山亘 『記号の思想』 三元社 2009 9784883032464
 小山亘 『記号の系譜』 三元社 2008 9784883032198
 小山亘 『翻訳とはなにか』 三元社 2022 9784883035533

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

すでに言語学、談話分析、記号論、言語人類学などの基本を習得していることが望ましい。

人類学特論（後期課程科目）

Topics in Anthropology

金子 亜美 (KANEKO AMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科
科目コード等： WV502
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 対面（一部オンライン）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： ICC7440
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Daniel I. Wasserman-Soler の著作 *Truth in Many Tongues: Religious Conversion and the Languages of the Early Spanish Empire* を全編読み、近世スペインの言語イデオロギーとカトリック世界宣教に関する諸問題を、既存の理論との関連において議論する。

Read Daniel Wasserman-Soler's *Truth in Many Tongues: Religious Conversion and the Languages of the Early Spanish Empire*, and discuss various issues related to language ideologies and the global Catholic evangelization efforts in early modern Spain.

授業の内容 / Course Contents

- 近世スペインの言語イデオロギーとカトリック世界宣教に関する諸問題の構造を理解する。
 - キリスト教布教に伴う言語と翻訳についての論争史を把握し、既存の理論との関連において論じる。
- To understand the structure of the issues surrounding language ideologies and the global Catholic evangelization efforts in early modern Spain.
- To understand the history of the controversy over the linguistic/cultural translation of Christian concepts and doctrines.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：講義（オンライン）
 3回：講読：Introduction
 4回：講読：Chap. 1
 5回：講読：Chap. 1
 6回：講読：Chap. 2
 7回：講読：Chap. 2
 8回：講読：Chap. 3
 9回：講読：Chap. 3
 10回：講読：Chap. 4
 11回：講読：Chap. 4
 12回：講読：Chap. 5
 13回：講読：Chap. 5
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読箇所のレジюмеとコメント作成

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% レジюме作成と毎回のコメント:60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

Daniel Wasserman-Soler Truth in Many Tongues: Religious Conversion and the Languages of the Early Spanish Empire THE PENNSYLVANIA STATE UNIVERSITY PRESS 2020 9780190884109

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

スペイン語か英語で難解な文献を講読できること。関連分野に関する背景知識がないのであれば予習に時間と労力を割けること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし

人類学特殊講義 A（後期課程科目）

Seminar in Anthropology A

インゴルドの人類学

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV504

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

私たちは現在、貧富の格差、政治的な暴力、戦争や環境危機に直面している。万人にとっての、未来の世代にとっての居場所を私たちはいかにつくりだすことができるのだろうか？ティム・インゴルドは、こうした緊急の課題に応えることができるのは、人類学をおいて他にないと唱える。インゴルドの『人類学とは何か』を読み、なぜ人類学が今日重要なのかを学ぶ。

* 前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

We now face mounting inequality, escalating political violence, warring fundamentalisms and an environmental crisis. How can we fashion a world that has room for everyone, for generations to come? These are urgent questions, and Tim Ingold declares no other discipline is better placed to address them than anthropology. We learn why anthropology matters to us all, by reading Ingold's Anthropology.

授業の内容 / Course Contents

ティム・インゴルド著『人類学とは何か』（亜紀書房、2020年）を受講生で輪読する。

In this class, students will read the Japanese translation of Tim Ingold's Anthropology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：第1章 他者を真剣に受け取ること（1）
 3回：第1章 他者を真剣に受け取ること（2）
 4回：第1章 他者を真剣に受け取ること（3）
 5回：第2章 類似と差異（1）
 6回：第2章 類似と差異（2）
 7回：第3章 ある分断された学（1）
 8回：第3章 ある分断された学（2）
 9回：第4章 社会的なるものを再考する（1）
 10回：第4章 社会的なるものを再考する（2）
 11回：第5章 未来に向けた人類学（1）
 12回：第5章 未来に向けた人類学（2）
 13回：第5章 未来に向けた人類学（3）
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業に備えて予習をすること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加態度、議論の総括:60% 最終レポート割合 :40%

全ての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

ティム・インゴルド 『人類学とは何か』 亜紀書房 2020 9784750515953 ○

参考文献 / Readings

グローバル文化研究特論A（後期課程科目）

Topics in Global Cultural Studies A

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV506

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化に伴う文化や言語の接触、混淆状況から生み出される、文学作品、映画作品などの文化表象を、世界史との関連において、文化研究の立場から理論的に論じ、考察するとともに、研究テーマの考察・分析との関連で応用することができるようになる。

The globalized world evidences many cultural products such as literature or film made through inter-cultural contact or cultural hybridity. This course aims to help students analyze these cultural products theoretically from the cultural studies perspective.

授業の内容 / Course Contents

人や資本の境界を越えた移動に伴う文化の変容や文化接触から生じる文化表象、たとえば異文化、他者表象について、オリエンタリズム、エスニシティ、ジェンダー、セクシュアリティなどの理論を踏まえて、解釈し、議論を行う。

Based on theories such as orientalism, ethnicity, gender, and sexuality, this course will interpret and discuss the transformation of culture, which is influenced by the transfer of people and capital across borders. It will also contemplate cultural representation generated by cultural contact, such as the representation of the "Other."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション1：グローバル化とその理論について
 2回：イントロダクション2：「文化表象」と世界史の関連について
 3回：作品1：言語接触から生まれる文学作品
 4回：作品1：言語接触から生まれる文学作品
 5回：作品1：言語接触から生まれる文学作品
 6回：作品2：映像作品におけるマイノリティ表象
 7回：作品2：映像作品におけるマイノリティ表象
 8回：作品2：映像作品におけるマイノリティ表象
 9回：中間まとめ
 10回：作品3：文学作品におけるマイノリティ表象
 11回：作品3：文学作品におけるマイノリティ表象
 12回：作品3：文学作品におけるマイノリティ表象
 13回：文化分析の実践と理論
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への積極的な参加:30% 授業内での口頭発表:30% 最終レポート割合 :40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

初回授業で配付。

参考文献 / Readings

- E.W.サイード 『文化と帝国主義1』 みすず書房 1998 4622031973
 E.W.サイード 『文化と帝国主義2』 みすず書房 2001 462203204
 中井亜佐子 『他者の自伝—ポストコロニアル文学を読む』 研究社 2007 9784327481513
 岡真理 『彼女の「正しい」名前とは何か』 青土社 2000 4791758412
 浜崎桂子 『ドイツの「移民文学」』 彩流社 2017 9784779123139
 上記文献には目を通しておくこと。その他文献は授業内でテーマごとに指示。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

文献を批判的に読み、討論する力。

人類学特殊講義B（後期課程科目）

Seminar in Anthropology B

はじめての人類学

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV507

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、『はじめての人類学』をテキストとして、20世紀初頭に確立された人類学の百年を、マリノフスキ、レヴィ=ストロース、ボアズ、インゴルドという4人の人類学者の足跡を追います。この授業では、「人間の生」を探究する人類学の全貌が浮かび上がるでしょう。

*前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

Using 'First Steps in Anthropology' as a text, this class will follow in the tracks of four anthropologists - Malinowski, Levi-Strauss, Boaz and Ingold - through a hundred years of anthropology as it was established at the beginning of the 20th century. The course will give a full view of anthropology's exploration of 'human life'.

授業の内容 / Course Contents

『はじめての人類学』の各章を読み、人類学に関する理解を深めていきます。

Reading chapters from 'First Steps in Anthropology' will deepen our understanding of anthropology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション

- 2回：はじめに 人類学とは何か、1章 近代人類学が誕生するまで
 3回：2章 マリノフスキ（1）
 4回：2章 マリノフスキ（2）
 5回：3章 レヴィ=ストロース（1）
 6回：3章 レヴィ=ストロース（2）
 7回：3章 レヴィ=ストロース（3）
 8回：4章 ボアズ（1）
 9回：4章 ボアズ（2）
 10回：5章 インゴルド（1）
 11回：5章 インゴルド（2）
 12回：5章 インゴルド（3）
 13回：終章
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習して、授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加態度:60% 最終レポート割合 :40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

奥野克巳 『はじめての人類学』 講談社 2023 9784065328576 ○

参考文献 / Readings

グローバル文化研究特論B（後期課程科目）

Topics in Global Cultural Studies B

映像からみる植民地/帝国とエスニシティ

梁 仁實 (YANG INSIL)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV508

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン（全回）。発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7443

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業は東アジアの映画史を振り返り、そのなかからみえてくる帝国主義とポストコロニアリズムとエスニシティに注目し、そこから生まれてくるナショナリズム、ジェンダーなどをキーワードにして、様々な立場のアイデンティティを理解していくことを目的とする。とりわけ、理論や分析方法を用いて、多様なジャンルや地域で作られた映画を読み解いていく。さらに、映像にアクセスする際の概念および理論を理解し、研究テーマの分析・考察に応用することができる。

This class will focus on postcolonialism and ethnicity, imperialism in East Asian film history, and will use nationalism and gender as keywords to understand the identities of various cultural positions. In particular, this seminar will use theories and analytical methods to read and understand films made in a variety of genres and locations.

授業の内容 / Course Contents

本授業では戦前から戦後にかけての 100 年間にわたる東アジアの映画を題材とする。日本、韓国（植民地朝鮮も含む）で作られた映画の同時代的・トランスナショナル側面に注目することで、この地域のポストコロニアリ

ズムとは何かという問題により近づくことができる。

This seminar will focus on East Asian cinema over the past 100 years from pre-war to post war period. By focusing on the contemporaneous and transnational aspects of films made in Japan, Taiwan, and Korea (including colonial Korea), we can get closer to the question of what postcolonialism means in this area.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス&イントロダクション（シラバスの紹介及び説明）
- 2 回：論文構想発表（学生発表）
- 3 回：帝国日本映画のなかの植民地朝鮮（1920年代、1930年代）
- 4 回：帝国日本映画のなかの植民地朝鮮（1940年代）
- 5 回：帝国日本映画のなかの植民地朝鮮（1950年代、1960年代）
- 6 回：日本映画のなかの在日コリアン（1970年代、1980年代）
- 7 回：日本映画のなかの在日コリアン（1990年代、2000年代）
- 8 回：中間まとめー帝国主義、エスニシティ、映画
- 9 回：台湾映画のなかの植民地時代 I
- 10 回：台湾映画のなかの植民地時代 II
- 11 回：学生発表及びまとめ I
- 12 回：学生発表及びまとめ II
- 13 回：学生発表及びまとめ III
- 14 回：学生発表及びまとめ IV

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講の際は積極的に討論に参加することが求められます。加えて、授業で提示される映画と参考文献には必ず目を通してください。

Students are required to attend all classes and drive class discussions with their peers. Students must actively participate in class activities that include the submission of notes on the assign

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業態度:30% 発表:30% 最終レポート割合 : :40%最終テスト割合 : :0%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

梁 仁實 『朝鮮映画の時代』 法政大学出版社 2022 9784588603662 ○

参考文献 / Readings

権 学俊 『朝鮮人特攻隊員の表象』 法政大学出版社 2022 9784588603679

エラ・ショハットほか 『支配と抵抗の映像文化: 西洋中心主義と他者を考える』 法政大学出版社 2019 9784588603570

文化研究特論（後期課程科目）

Topics in Cultural Studies

浜崎 桂子 (HAMAZAKI KEIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	異文化コミュニケーション研究科
科目コード等：	WV509
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	ICC7440
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化に伴う文化や言語の接触、混淆の現象、また異文化表象について、文化研究の立場から論じるために重要な理論の抜粋を読み考察する。各理論の背景などに留意しながら批判的に理論を考察する力をつけ、研究テーマの考察・分析をさらに深めるために応用することができるようになる。

In this course, students will read and reflect on excerpts from important theories and will subsequently utilize the viewpoint of cultural studies to discuss the interactions between cultures and languages, the phenomenon of intermixing, and intercultural expression brought about by globalization. Additionally, the module will help students develop the ability to critically consider various theories while accounting for their backgrounds and other factors, and to investigate the possibilities of applying this skill to individual research themes.

授業の内容 / Course Contents

人や資本の境界を越えた移動に伴う文化の変容や文化接触、異文化表象について、オリエンタリズム、ネーション、植民地主義、帝国主義、ジェンダー、エスニシティなどの問題点に着目した論文を読み、議論を行う。

This course aims to help students to read and discuss academic papers that focus on orientalism, nations, colonialism, imperialism, gender, ethnicity, and other issues in the cultural transformation, interaction, and

intercultural expression brought about by movements that exceed the limits of human beings and capital.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション1：グローバルゼーションについて
- 2回：イントロダクション2：「文化」概念について
- 3回：オリエンタリズム1
- 4回：オリエンタリズム2
- 5回：ネイション
- 6回：植民地主義・帝国主義
- 7回：議論、問題点の整理1
- 8回：議論、問題点の整理2
- 9回：マイノリティー
- 10回：ジェンダーおよびエスニシティ
- 11回：異文化表象
- 12回：文化分析の実践と理論について1
- 13回：文化分析の実践と理論について2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および議論への積極的な参加:30% 授業内での口頭発表:30% 最終レポート割合：40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

初回授業で配付。

参考文献 / Readings

- 本橋哲也 『カルチュラル・スタディーズへの招待』 大修館書店 2002 9784469212809
 ピーター・バーク（河野真太郎訳） 『文化のハイブリディティ』 法政大学出版局 2012 9784588603266
 吉見俊哉 『アフター・カルチュラル・スタディーズ』 青土社 2019 9784791771844
 上記文献には目を通しておくこと。その他文献は授業内でテーマごとに指示。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

分析対象の文学や映画、および関連する文献について批判的に考察する力。

国際協力特殊講義 A（後期課程科目）

Seminar in International Cooperation A

カプリオ, M. (CAPRIO MARK E.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV510

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アジアの平和を考えるには、まず平和の失敗—戦争の起源—を検討することから始まる。この演習は戦争を思想的や歴史的に考慮して、現代の紛争を平和的な解決する方法を検討する。学生はこの授業と自分の研究をリンクするために本を選んで、発表をして、それからその本に関して 10 ページ前後のレポートを作成して提出する。

This class will consider how peace can be attained in Asia. To do this we have to understand why peace has failed over the centuries. We have to understand various facets of war

授業の内容 / Course Contents

この授業は戦争に関して色々な分野を検討する、たとえば戦争の定義、戦争の哲学、平和の定義、核兵器、と戦争に対しての平和運動。それから平和の失敗として朝鮮戦争を分析して、戦争の可能性があるケース、現代北朝鮮の状況も考慮する。

This class will look at a number of areas related to war in general, such as the definition of war and the philosophy of

war. It will also consider nuclear politics. Finally it will analyze the origins of the Korean War as a situation where

peace failed and the North Korean situation where peaceful resolution is still possible

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義の紹介
- 2 回：戦争論と平和論
- 3 回：正しい戦争論
- 4 回：戦争の記憶・記念
- 5 回：戦争と経済
- 6 回：核兵器と戦争抑止
- 7 回：戦争とプロパガンダ
- 8 回：反戦争と平和主義の文化戦争体験
- 9 回：戦争体験
- 10 回：朝鮮戦争 I (起源)
- 11 回：ケース・スタディ：朝鮮戦争 II (日本の関係)
- 12 回：戦争の防止：北朝鮮問題
- 13 回：日本の「平和憲法」と現代日本政治・社会
- 14 回：最終レポート提出と討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎週の論文を読むこと (Canvas LMS で)

学生は指導する短いオーラルレポート

戦争と自分の研究に関連してある本を選んで読むこと

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% オーラルレポート (3 回) :30% 授業活発的な参加:30% 最終レポート (Final Report) :40%

学生はやや長いレポート (やく 10 ページ) を提出する。このレポートは選んだ本に関してのレポート。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

テーマの興味と意見

国際協力特殊講義 B（後期課程科目）

Seminar in International Cooperation B

地域研究から考える社会開発

(Considering Social Development)

日下部 尚徳 (KUSAKABE NAONORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV511

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 社会開発の概念を研究テーマの分析・考察に応用することができる。
- 途上国と呼ばれる国々における社会開発の課題を自らのテーマに沿って具体的に論じ、分析できるようになる。
- 参加型学習を通じて、自身が社会開発にどのようにかかわるべきかを考え、理論にもとづいて実践できるようになる。

The aims of this course are:

- To be able to explain the concept of social development;
- To be able to discuss issues of social development in so-called developing countries concretely;
- To understand how to get involved with social development through participatory learning.

授業の内容 / Course Contents

近年、経済成長が地域の貧困削減に必ずしも結びつかないことが明らかとなり、経済開発の対概念としての社

会開発への関心が高まっています。社会開発がカバーする領域は、教育や医療、保健衛生、防災、環境など多岐にわたります。また同時に、「開発への住民参加」、「開発における性差」、「社会的弱者」といった開発イシューとも密接な関連を有しています。

授業では、社会開発の概念を概観した上で、途上国と呼ばれる国々における社会開発の課題を、受講生とともに考えていきたいと思っています。

It has been revealed in recent years that economic growth does not necessarily bring poverty reduction in the region, and as a counter-concept, social development has attracted more attention. Social development covers various fields such as education, medical care, health and hygiene, disaster prevention, and the environment. At the same time, it is closely linked to development issues such as “residents’ participation in development,” the “gender gap in development,” and “socially vulnerable people.”

In this course, we will provide an overview of the concept of social development and discuss its issues in the so-called developing countries.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：「社会開発」とは何か
- 2 回：開発の主体とプロセス：誰が開発の担い手となるのか
- 3 回：貧困の概念
- 4 回：貧困の背景
- 5 回：保健・衛生：プライマリー・ヘルス・ケアの普及と課題
- 6 回：教育開発：初等教育の普及と課題
- 7 回：社会開発と児童労働①
- 8 回：社会開発と児童労働②
- 9 回：社会開発と NGO：NGO の世代論
- 10 回：世界の難民
- 11 回：難民問題と開発
- 12 回：難民キャンプと国際援助
- 13 回：日本の難民
- 14 回：社会開発の今後

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

01. 授業内で指示した文献や映像資料を事前に読んでおくこと
02. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
03. 授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること
04. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 担当報告の内容およびアクティブ・ラーニングの成果:60%

最終レポート割

合：:40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト/Textbooks

日下部尚徳 『わたし8歳、職業、家事使用人。：世界の児童労働者1億5200万人の1人』 合同出版
2018 9784772613620 -

日下部尚徳 『ロヒンギャ問題とは何か』 明石書店 2019 9784750348698 -

日下部 尚徳 アジアからみるコロナと世界 我々は分断されたのか 毎日新聞出版 2022 9784620550039 -

参考文献 / Readings

国際協力特論（後期課程科目）

Topics in International Cooperation

武力紛争研究

石井 正子 (ISHII MASAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV512

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

武力紛争を地域研究、人類学の視点から考察できるようになる。

国際社会の人道・平和構築支援を武力紛争地域の人びとの視点から批判的に考察できるようになる。

上記を踏まえて、研究テーマの分析・考察に応用することができる。

To be able to examine armed conflicts from the perspective of area studies and anthropology.

To be able to examine the humanitarian and peacebuilding assistance of the international society from the perspectives of people in conflict affected areas.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、武力紛争地域の人びとの視点から当該社会を考察した地域研究、人類学の先行研究を講読することにより、その調査、分析方法を学びます。国際社会の人道・平和構築支援についても武力紛争地域の人びとの視点から考察することにより、それらの支援について批判的に考察する力を養います。講読文献につきましては、参加者の関心を鑑みながら決定いたします。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：文献講読・ディスカッション
- 3回：文献講読・ディスカッション
- 4回：文献講読・ディスカッション
- 5回：文献講読・ディスカッション
- 6回：文献講読・ディスカッション
- 7回：文献講読・ディスカッション
- 8回：文献講読・ディスカッション
- 9回：文献講読・ディスカッション
- 10回：文献講読・ディスカッション
- 11回：文献講読・ディスカッション
- 12回：文献講読・ディスカッション
- 13回：文献講読・ディスカッション
- 14回：振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

文献講読を行い、発表とディスカッションの準備を行うこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業内での発表:80% 最終レポート割合 :20%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

授業内で紹介します。

参考文献 / Readings

授業内で紹介します。

その他 / Others

初回のイントロダクションの授業で講読する文献を決めますので、履修に関心がある学生は必ず出席するようにしてください。

文化研究特殊講義 A（後期課程科目）

Seminar in Cultural Studies A

Monism, dualism and the problems of personal identity

山口 まり子 (YAMAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV521

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

哲学における一元論と二元論がいかなる立場であるかを学び、我々が世界や自分自身というものを捉える際、一元論的な立場、二元論的な立場は、それぞれどのようなことを意味するか、また、人格の同一性における一元論的な議論は妥当か、などの問題を考察する。

後期課程の学生には、この授業で議論する内容が学位論文とどのように関連するかについて、更なる考察が求められる。

Students will learn and discuss what philosophical monism and dualism mean and what they imply for our understanding of the world and ourselves, and consider the plausibility of some monist approaches to personal identity.

授業の内容 / Course Contents

このクラスでは、まず一元論・二元論それぞれの立場を取る哲学者のテキストを読みながら、一元論・二元論がそれぞれどのようなものか、どのようなことを含意するかを議論・考察する。

一元論・二元論の立場が如何なるものであるかを捉えた後、一元論的な立場（特に唯物論的な立場）から

「人格の同一性」の問題を論じるテキストを読み、その妥当性について議論・考察する。

In this class, after reading articles by monist and dualist thinkers and discussing what monism and dualism mean and imply respectively, we will read some works on the monist approach to personal identity and discuss and consider its plausibility.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（一元論・二元論・人格の同一性に関する議論について）
- 2回：一元論について（1）
- 3回：一元論について（2）
- 4回：一元論について（3）
- 5回：一元論について（4）
- 6回：二元論について（1）
- 7回：二元論について（2）
- 8回：二元論について（3）
- 9回：二元論について（4）
- 10回：人格の同一性に関する議論（1）
- 11回：人格の同一性に関する議論（2）
- 12回：人格の同一性に関する議論（3）
- 13回：人格の同一性に関する議論（4）
- 14回：人格の同一性に関する議論（5）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で指示する。

論理学を学んだことがない場合、例えば野矢茂樹著（2006）『新装 論理トレーニング』（産業図書）や同著者（2020）『まったくゼロからの論理学』（岩波書店）などを用いた独習を勧める（質問も歓迎する）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度：60% 最終レポート割合：40%

全ての評価方法において 前期課程 より高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

使用するテキスト（英語）は授業で配布する。

参考文献 / Readings

参考文献は授業で紹介する。

また、上記「授業時間外の学習」欄参照のこと。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

議論における論理性を重視する。また、授業内で扱う文献はすべて英語であるため、英語で哲学論文を読める能力が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内で電子情報機器は不要。

文化研究特殊講義 C（後期課程科目）

Seminar in Cultural Studies C

イメージをめぐる理論と思想

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV523

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、各種のイメージ論の講読をもとに、イメージの捉え方や考え方について理解を深めることを目標とする。履修生は、講読を通じて、自ら新たなイメージ論を展開できるようになる。

Through reading principal texts on image and image theory, students will not only acquire a new way of thinking about the image but also be able to construct his/her critical framework on the image.

授業の内容 / Course Contents

イメージについて書かれた、ロラン・バルト『明るい部屋』（原書 1980 年・和訳 1997 年）、W.J.T.ミッチェル What Do Pictures Want?:The Lives and Loves of Images（2005 年）、H.ベルティング An Anthropology of Images: Picture, Medium, Body（原書 2001 年・英訳 2011 年）より抜粋を講読する。講読箇所は、授業計画に記載の予定だが、履修生の要望によっては、別の箇所を講読箇所として採用する可能性もある。

講読を踏まえ、応用的に新たなイメージ研究の方向性を構築することを目指し、討論や発表を定期的に行う。講読テキストの構造を批判的に分析し、取り扱われている多様なイメージの実例に関して、各種の先行研究と比較しながら、講読テキスト著者の独自な点を明確に批評する。そのうえで、自分のイメージ論を多角的

に構築し、発表を通じて提示する。

In this course, students will read excerpts of R. Barthes, *La chambre claire: note sur la photographie* (Japanese edition 1997), W.T.J. Mitchell, *What Do Pictures Want?* (2005), and H. Belting, *An Anthropology of Images* (English edition 2011). Along with in-depth readings of these texts, students will participate in discussions and presentations to hone their critical thinking on the image and construct a new framework to study the image.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
 2回：講読：バルト『明るい部屋』①・ディスカッション
 3回：講読：バルト『明るい部屋』②・ディスカッション
 4回：講読：バルト『明るい部屋』③・ディスカッション
 5回：討論：バルトの論法について考える
 発表：バルトを踏まえた自分のイメージ論とは？
 6回：講読：ミッチェル *What Do Pictures Want?*①・ディスカッション
 7回：講読：ミッチェル *What Do Pictures Want?*②・ディスカッション
 8回：ミッチェル *What Do Pictures Want?*③・ディスカッション
 9回：討論：ミッチェルの論法について考える
 発表：ミッチェルを踏まえた自分のイメージ論とは？
 10回：講読：ベルティン *An Anthropology of Images* 講読①・ディスカッション
 11回：講読：ベルティン *An Anthropology of Images* 講読②・ディスカッション
 12回：講読：ベルティン *An Anthropology of Images* 講読③・ディスカッション
 13回：討論：ベルティンの論法について考える
 発表：ベルティンを踏まえた自分のイメージ論とは？
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講読テキストを予め通読することは前提である。

テキストの論理的な構造を整理し、その意義やなお残されている問題点について具体的に指摘できるよう、予習をする。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% テキスト講読:30% ディスカッション・討論・発表:30% 最終レポート割合：40%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

ロラン・バルト 『明るい部屋—写真についての覚書（新装）』 みすず書房 1997 4622049058 -

W.J.T. Mitchell What do pictures want University of Chicago Press 2005 0226532453 -

H. Belting An anthropology of images Princeton University Press 2011 9780691145006 -

いずれも入手が困難なため、抜粋部分はコピーを配布予定。

参考文献 / Readings

随時授業時に紹介する。

文化研究特殊講義D（後期課程科目）

Seminar in Cultural Studies D

歴史的音楽学

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 異文化コミュニケーション研究科

科目コード等： WV524

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： ICC7440

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

西洋音楽史研究の基盤である批判的校訂楽譜を読み解き、作曲家作品研究の方法論を理解する。過去の音楽作品がいかに成立し、当時いかに受けとめられたのか、こんにちに至るまでいかに伝承され、いかに変遷してきたのか（変遷しない要素はあるのか）、資料を用いたアプローチを学び、研究テーマの分析・考察に応用する。

In this course, students are expected to learn the methods of historical musicology thorough reading the critical editions of musical works. They will study the interpretation and analysis of the original sources and the genesis, reception and transmission of musical works.

授業の内容 / Course Contents

ライプツィヒ版メンデルスゾーン作品集（いわゆる新メンデルスゾーン全集）ないしそれに準ずる校訂譜のいずれかを取り上げる。序文と校訂報告の講読と作品分析を交える。原語はドイツ語。

This course aims to help students interpret the preface and the critical commentary on one of the volumes of Leipziger Ausgabe der Werke von Felix Mendelssohn Bartholdy. The original text is in German.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入
- 2回：作品総目録
- 3回：旧全集、新全集
- 4回：校訂版と実用版
- 5回：音源探索
- 6回：文献探索
- 7回：作品成立の背景
- 8回：作品の受容
- 9回：原典資料の種類と性格
- 10回：資料間の異同とその解釈
- 11回：作曲・改訂プロセスの解明
- 12回：演奏習慣の問題
- 13回：楽譜以外の原典資料：書簡、回想、批評など
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指導の中で適宜指示する。図書館所蔵の各種作曲家作品全集を活用されたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と参加:50% 毎週の課題と成果物:50%

すべての評価方法において、前期課程より高度な水準を満たすことが求められる。

テキスト / Textbooks

コピーを配布する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。